

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2040年12月>

2010.1.20

金融市場局

金融調節の運営実績

1. 無担 O/N レートの動向と金融調節

金融調節については、12月17～18日の会合で決定された方針（「無担保コールレート（オーバーナイト物）を、0.1%前後で推移するよう促す。」）に従って運営した。無担 O/N レートは、誘導目標水準近傍で推移した。

すなわち、12月末にかけて、一段と積極的な資金供給を行ったことから、準備預金の積みが前倒しで進捗する中、年末最終営業日（12月30日）を含め、無担 O/N レートは、0.092%～0.104%の狭いレンジで推移した。

金融調節運営面では、年末越えの資金供給を一段と積み重ねたほか、国債買現先オペ、CP現先オペの積極的活用を図る等、引き続き、金融市場の安定にも配慮しつつ、市場におけるレート形成状況等を踏まえた機動的な運営を行った。また、固定金利方式の共通担保オペ、企業金融支援特別オペ、米ドル資金供給オペによる資金供給を引き続き実施した。

2. 当座預金・準備預金の動向

前回会合以降の準備預金残高（除くゆうちょ銀行）は、年末越えの資金供給を一段と積み重ねたことから、12月30日には まで増加した（12月積み期の所要準備額<除くゆうちょ銀行>： ）が、年明け後は、 に減少して推移した（12月21日： →12月30日： →1月20日： ）。

この間、当座預金残高は、14～20兆円台で推移した（12月21日：17.4兆円→12月30日：20.3兆円→1月20日：15.0兆円）。

以 上

(図表1)

金融調節の実績の推移

(億円、%)

	無担 コール レート (O/N) 加重 平均値	日銀当座預金残高(実績値)						補完 貸付 残高	<参考> 日銀当座預金残高見込み		
		日銀当座預金残高(実績値)	準備預金残高(含むゆうちょ銀行)				非準備先 残高		朝方 即日オペ前	9:20 定例調節後	全即日オペ 実施後
			準備預金残高(実績値)	準備預金残高(除くゆうちょ銀行)		非準備先 残高					
				超過 準備	残り所要額 (1日平均)						
12月14日(月)	0.092	133,800	117,400		67,900	23,300	16,400	59.0	134,000	-	-
12月15日(火)	0.098	156,100	129,800		73,600	-	26,300	59.0	156,000	-	-
12月16日(水)	0.113	144,200	123,700		22,700	50,000	20,500	49.0	144,000	-	-
12月17日(木)	0.106	151,200	130,800		36,000	49,600	20,400	49.0	152,000	-	-
12月18日(金)	0.105	157,700	127,400		39,200	48,700	30,300	48.0	159,000	-	-
12月21日(月)	0.096	174,300	159,700		54,600	47,900	14,600	48.0	175,000	-	-
12月22日(火)	0.104	155,600	145,800		54,400	47,100	9,800	48.0	155,000	-	-
12月24日(木)	0.102	155,100	144,900		51,200	46,500	10,200	44.0	157,000	-	-
12月25日(金)	0.098	154,500	138,900		52,500	45,700	15,600	43.0	155,000	-	-
12月28日(月)	0.097	155,400	141,000		57,900	45,200	14,400	48.0	156,000	-	-
12月29日(火)	0.097	160,900	133,900		60,200	44,900	27,000	48.0	162,000	-	-
12月30日(水)	0.094	203,400	182,600		82,600	32,400	20,800	48.0	203,000	-	-
1月4日(月)	0.100	171,200	150,700		71,400	30,200	20,500	48.0	171,000	-	-
1月5日(火)	0.095	163,200	147,300		67,600	27,300	15,900	48.0	164,000	-	-
1月6日(水)	0.092	151,300	135,800		66,700	24,900	15,500	48.0	151,000	-	-
1月7日(木)	0.092	149,400	130,800		81,500	23,700	18,600	48.0	149,000	-	-
1月8日(金)	0.092	149,100	126,600		82,900	20,300	22,500	48.0	149,000	-	-
1月12日(火)	0.095	150,200	133,900		93,400	19,400	16,300	48.0	151,000	-	-
1月13日(水)	0.095	150,300	129,300		94,900	19,700	21,000	38.0	150,000	-	-
1月14日(木)	0.094	151,600	125,800		91,100	18,400	25,800	48.0	151,000	-	-
1月15日(金)	0.094	148,900	131,900		93,100	-	17,000	47.0	149,000	-	-
1月18日(月)	0.098	150,500	135,600		44,500	48,800	14,900	45.0	151,000	-	-
1月19日(火)	0.102	152,900	135,800		45,200	48,400	17,100	46.0	153,000	-	-
1月20日(水)	0.101	150,200	133,200		42,700	47,900	17,000	49.0	150,000	-	-

(注1)準備預金残高(除くゆうちょ銀行)は、対外非公表。

(注2)1月20日分は、5時同時処理終了時点。

日銀当座預金の保有状況

対外非公表

(単位:億円)

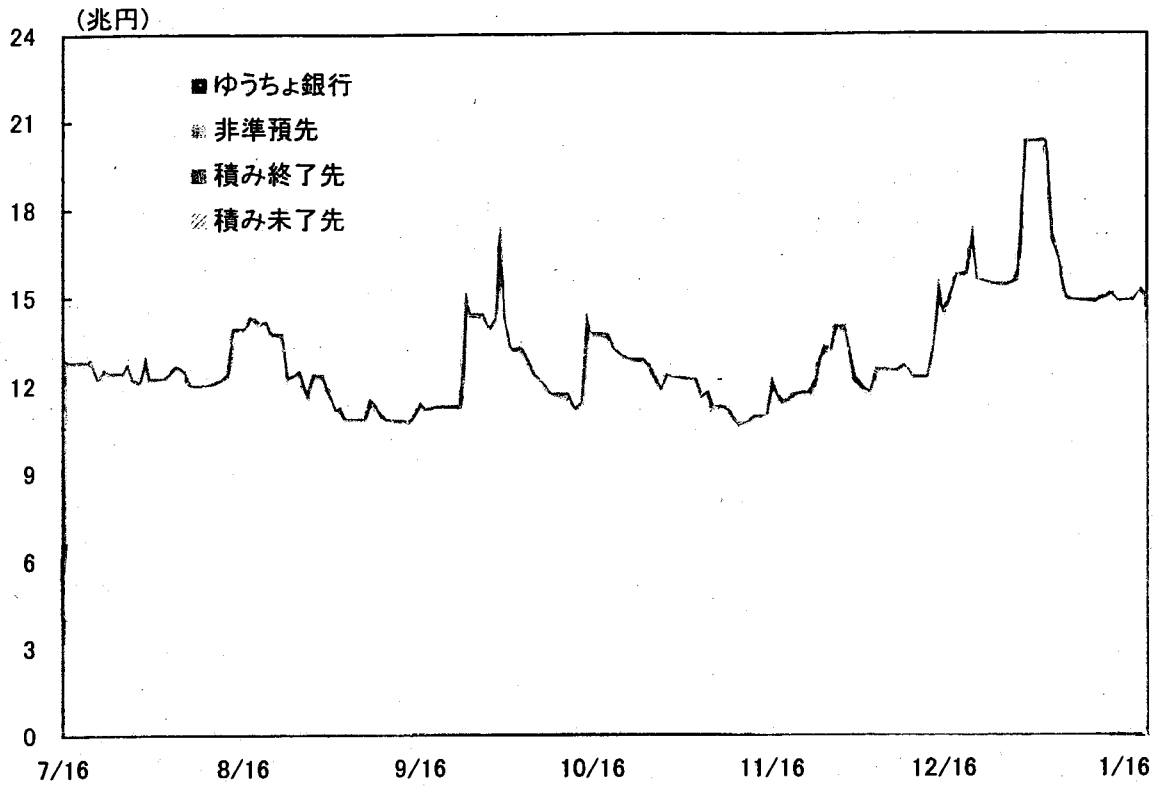
	10月積み期	11月積み期	12月積み期	1月積み期	1月積み期	1月積み期 所要準備額
					1/20日	
準預先	111,044	112,132	142,884	133,694	133,225	<72,643>
除くゆうちょ銀行						< >
都銀	31,910	31,599	36,094	32,500	31,009	<31,188>
地銀	15,828	16,083	18,497	18,564	20,147	<11,883>
地銀Ⅱ	3,502	3,418	4,928	3,550	4,001	<1,513>
外銀	22,576	22,010	31,670	25,716	21,833	<264>
ゆうちょ銀行						< >
非準預先	10,591	13,784	19,654	16,580	16,943	
短資	4,506	5,288	6,327	6,293	6,782	
一部系統	251	980	1,581	303	74	
政府系	351	407	426	335	270	
証券会社等	5,483	7,109	11,320	9,649	9,817	
当預残高	121,635	125,916	162,538	150,273	150,168	

(注1)「証券会社」は、金融商品取引法上の有価証券関連業を行う第一種金融商品取引業者。

(注2)1月積み期の計数は、1/16~1/20日の平均。1/20日は、5時同時処理終了時点。

09/7月積み期以降の当座預金残高

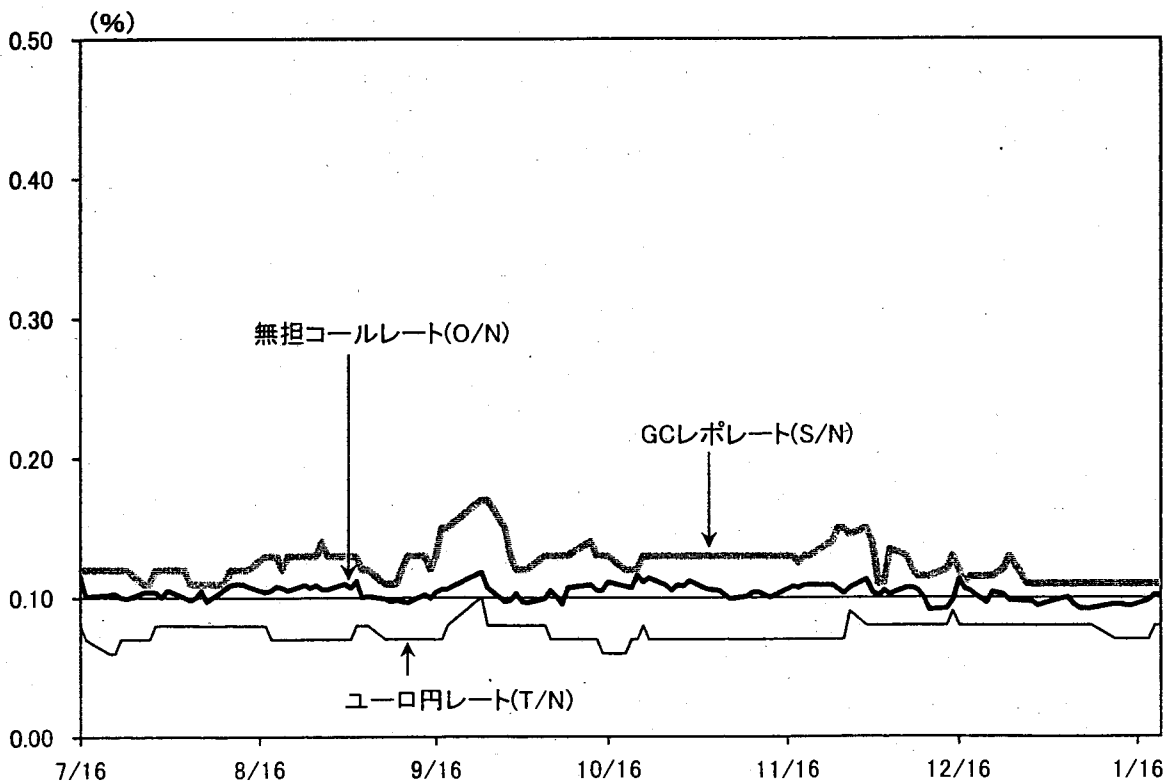
対外非公表



(注) 積み終了先、積み未了先及び一日当たり残り所要(前日終了時点)には、ゆうちょ銀行の計数を含まない。

09/7月積み期以降の短期金利

対外非公表



12月末の短期金融市場

1. 最近の期末日と今回との比較

対外非公表

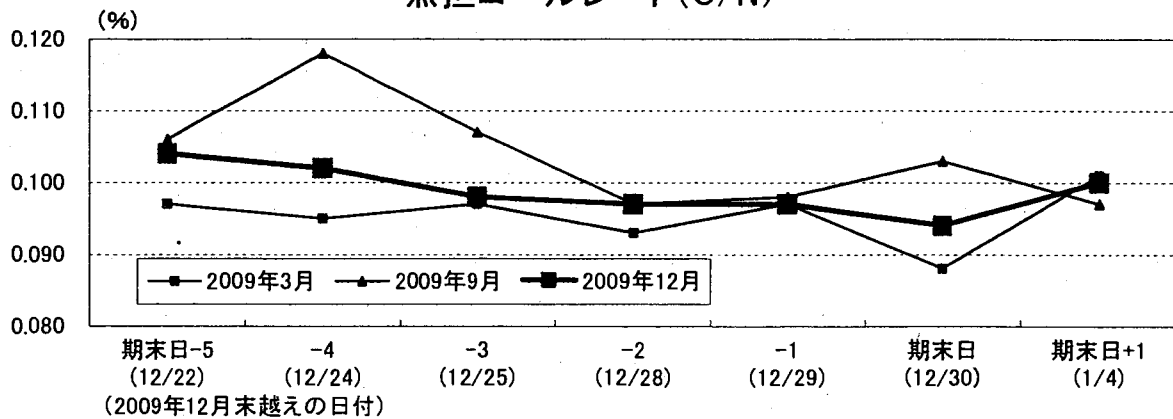
	2009/3月末	2009/6月末	2009/9月末	2009/12月末
無担O/Nレート	0.088%	0.110%	0.103%	0.094%
レポS/Nレート <2営業日前取引>	0.18%	0.17%	0.15%	0.110%
即日オペ	▲0.03兆円	なし	なし	なし
補完貸付実行額	592億円	24億円	33億円	48億円
準預残高 (前日比増減)	()	()	()	()
当預残高 (前日比増減)	22.2兆円 (+5.0兆円)	15.7兆円 (+1.0兆円)	17.6兆円 (+3.3兆円)	20.3兆円 (+4.2兆円)

(注1) 準預残高は、ゆうちょ銀行を除くベース。

(注2) 2009/3月末の即日オペは、国債補完供給。

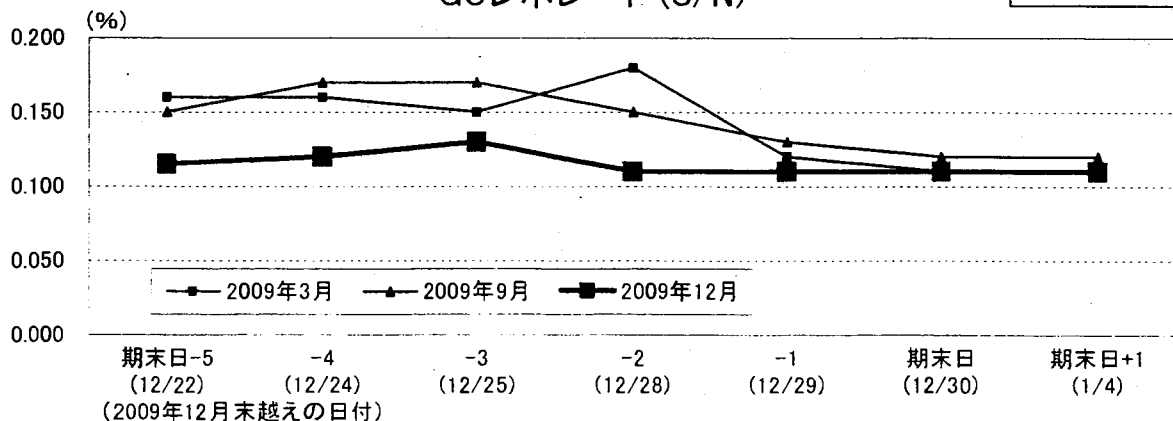
2. 短期レートの推移

無担コールレート(O/N)



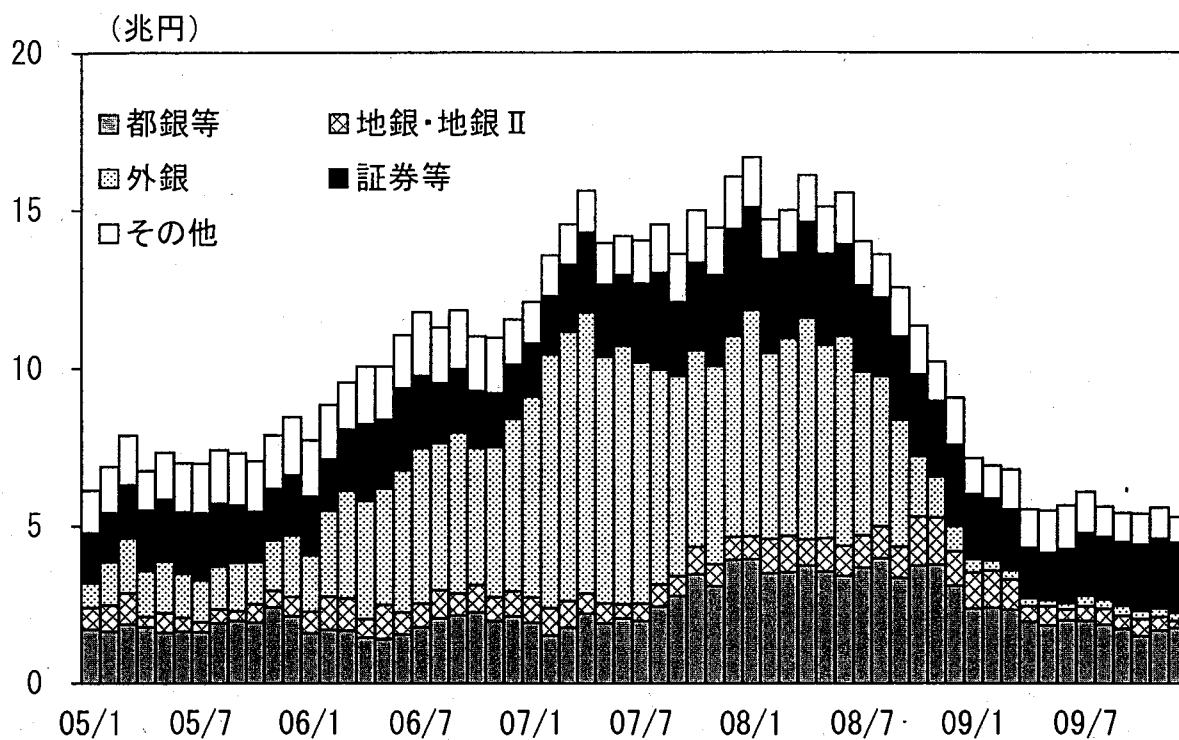
GCLレポレート(S/N)

対外非公表

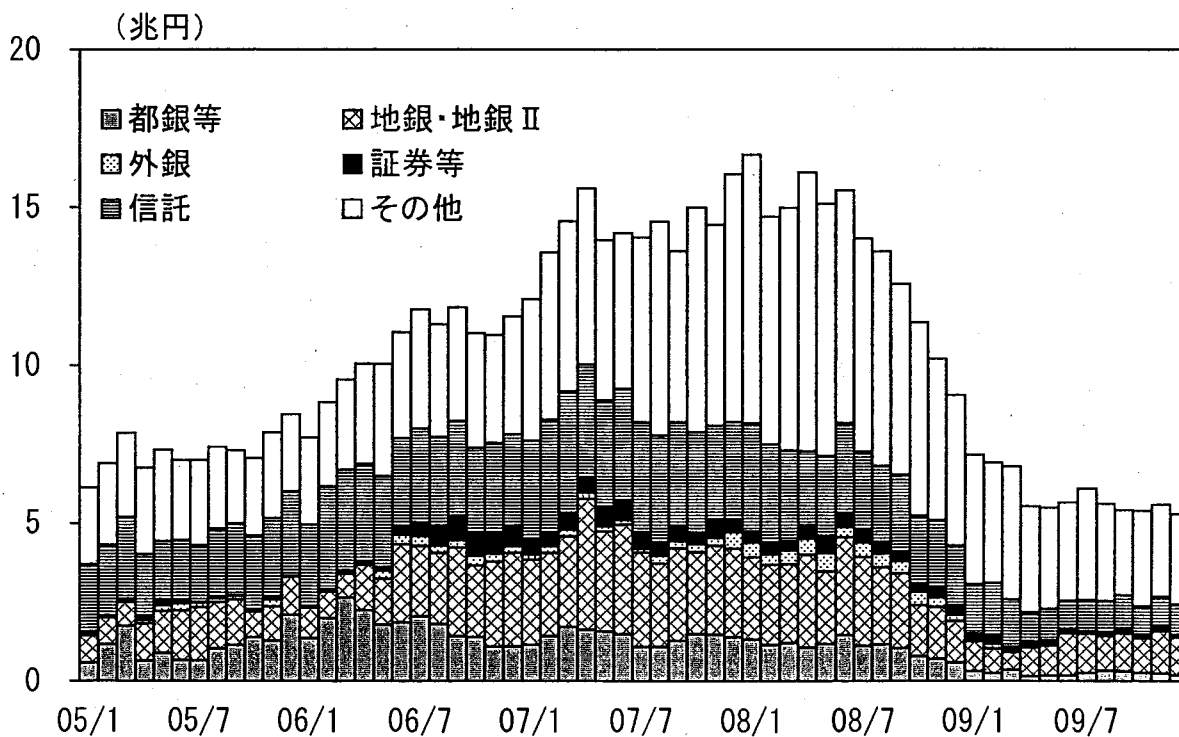


無担コール市場残高

<取り手別>



<出し手別>



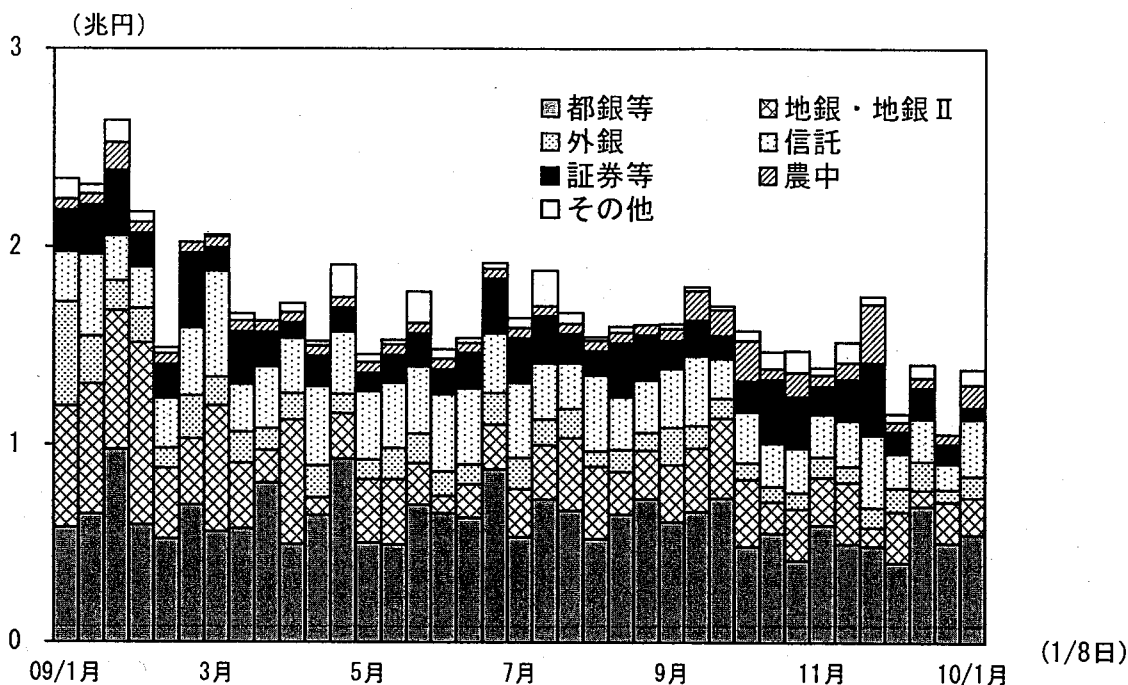
(注1) 月中平残。

(注2) 無担コール市場残高における「都銀等」は都銀、新生銀行、あおぞら銀行。「証券等」は金融商品取引業者（他の区分に属するものを除く）および証券金融会社。

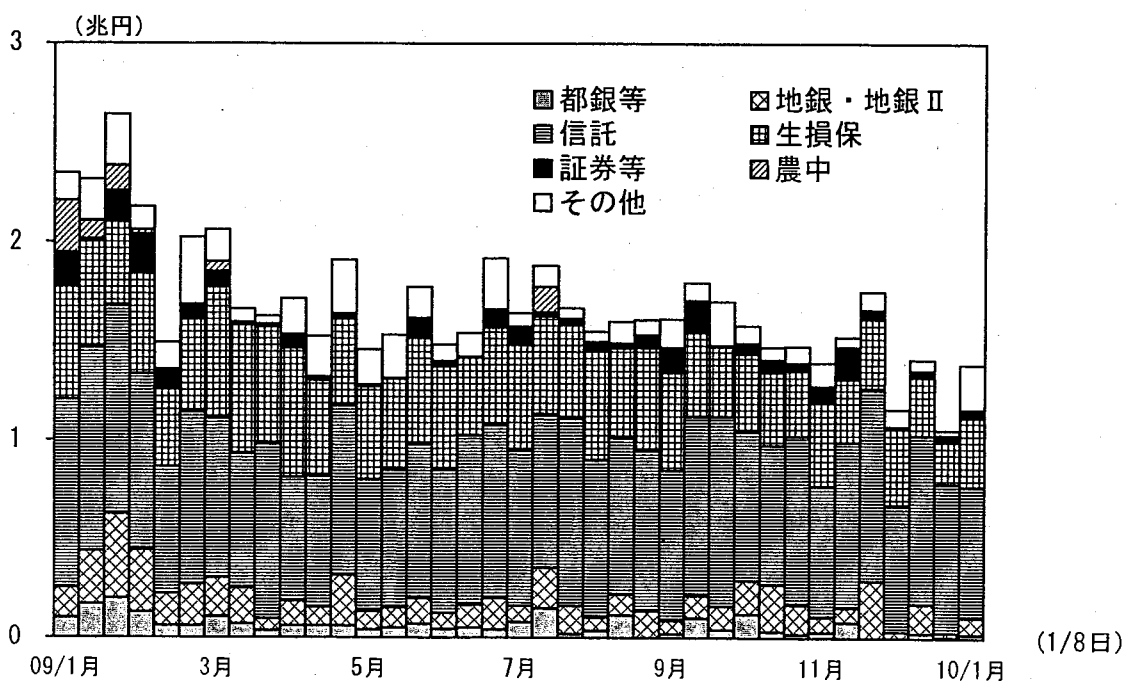
無担コール市場残高 (O/N、T/N、S/N計)

<取り手別>

対外非公表



<出し手別>



(注) 各旬末残高。

最近のオペ結果の推移(1)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート	期間	オファー額	(億円、%)		
						応札倍率	平均落札レート	落札決定レート
共通担保・金利入札 (全店)	94,090	12/17	T+2	3M	8,000	4.97	0.110	0.11
		12/21	T+6	5D	10,000	3.57	0.115	0.11
		12/28	T+1	1W	8,000	1.97	0.110	0.10
		1/8	T+1	1W	10,000	2.29	0.105	0.10
		1/14	T+1	2W	8,000	2.85	0.102	0.10
		1/14	T+2	4M	10,000	4.01	0.110	0.10
共通担保・金利入札 (本店)	102,077	12/21	T+1	1W	4,000	3.40	0.110	0.11
		12/22	T+1	5D	8,000	2.91	0.106	0.10
		12/22	T+1	2W	10,000	3.42	0.111	0.11
		12/24	T+1	2W	6,000	3.13	0.115	0.11
		12/25	T+1	1W	8,000	2.82	0.130	0.13
		12/25	T+1	1W	6,000	3.15	0.122	0.12
		1/5	T+1	1W	6,000	3.18	0.108	0.10
		1/6	T+1	1W	8,000	3.52	0.110	0.11
		1/7	T+1	1W	12,000	2.34	0.101	0.10
		1/7	T+2	2M	8,000	3.94	0.110	0.11
		1/12	T+1	1W	4,000	3.30	0.109	0.10
		1/13	T+1	1W	8,000	2.30	0.100	0.10
		1/13	T+1	2W	8,000	3.25	0.107	0.10
		1/15	T+1	1W	4,000	2.95	0.103	0.10
		1/18	T+1	1W	4,000	2.30	0.100	0.10
		1/19	T+1	1W	6,000	1.63	0.100	0.10
		1/19	T+1	1W	8,000	2.39	0.100	0.10
		1/20	T+1	1W	10,000	2.04	0.100	0.10
1/20	T+2	2M	8,000	3.51	0.102	0.10		
共通担保・固定金利 (全店)	56,104	12/24	T+2	3M	8,000	8.37	0.100	0.10
		12/28	T+2	3M	8,000	7.32	0.100	0.10
		1/4	T+2	3M	8,000	8.05	0.100	0.10
		1/13	T+2	3M	8,000	8.92	0.100	0.10
		1/18	T+2	3M	8,000	8.26	0.100	0.10
CP等買現先	27,760	12/17	T+2	1M	4,000	1.63	0.106	0.10
		12/21	T+2	1M	4,000	1.83	0.109	0.10
		12/24	T+2	2W	4,000	2.28	0.115	0.11
		12/28	T+2	2W	4,000	1.91	0.118	0.11
		12/30	T+2	1M	4,000	1.46	0.107	0.10
		1/5	T+2	1M	4,000	1.69	0.106	0.10
		1/7	T+2	2W	4,000	1.63	0.107	0.10
		1/12	T+2	2W	4,000	1.54	0.104	0.10
		1/14	T+2	1M	4,000	1.00	0.100	0.10
		1/19	T+2	1M	4,000	0.92	0.103	0.10
国債買現先	37,916	12/17	T+2	1D	35,000	1.60	0.112	0.10
		12/17	T+2	1W	6,000	4.05	0.119	0.11
		12/18	T+2	2D	25,000	2.40	0.111	0.11
		12/18	T+2	1W	6,000	2.14	0.114	0.11
		12/21	T+2	1D	20,000	2.54	0.110	0.10
		12/21	T+2	2W	6,000	3.43	0.120	0.12
		12/22	T+2	3D	18,000	2.47	0.110	0.10
		12/22	T+2	2W	6,000	3.10	0.117	0.11
		12/24	T+2	1D	20,000	2.73	0.110	0.11
		12/24	T+2	1W	6,000	3.79	0.118	0.11
		12/25	T+2	1D	25,000	2.60	0.127	0.12
		12/25	T+2	1W	6,000	3.69	0.125	0.12
		12/28	T+2	5D	40,000	1.28	0.119	0.10
		12/28	T+2	1W	6,000	3.01	0.120	0.12
		12/29	T+2	1D	25,000	1.97	0.111	0.10
		12/29	T+2	1W	6,000	3.77	0.112	0.11
		12/30	T+2	1D	20,000	2.31	0.104	0.10
		12/30	T+2	1W	6,000	3.79	0.110	0.11
		1/4	T+2	1D	15,000	3.51	0.109	0.10
		1/4	T+2	1W	6,000	4.00	0.111	0.11
		1/5	T+2	1D	12,000	3.10	0.109	0.10
		1/5	T+2	1W	6,000	3.43	0.110	0.11
		1/6	T+2	4D	10,000	3.27	0.110	0.11
		1/6	T+2	1W	6,000	3.59	0.111	0.11
		1/7	T+2	1D	20,000	2.38	0.110	0.11
		1/7	T+2	1W	6,000	3.64	0.110	0.11
		1/8	T+2	1D	18,000	2.14	0.108	0.10
		1/8	T+2	1W	6,000	3.55	0.110	0.11
		1/12	T+2	1D	15,000	2.00	0.107	0.10
		1/12	T+2	1W	6,000	3.15	0.112	0.11
		1/13	T+2	3D	12,000	3.21	0.110	0.11
		1/13	T+2	1W	6,000	3.38	0.111	0.11
		1/14	T+2	1D	12,000	2.89	0.110	0.11
		1/14	T+2	1W	6,000	3.26	0.111	0.11
1/15	T+2	1D	10,000	2.96	0.108	0.10		
1/15	T+2	1W	6,000	2.65	0.108	0.10		
1/18	T+2	1D	8,000	3.96	0.109	0.10		
1/18	T+2	1W	6,000	3.26	0.106	0.10		
1/19	T+2	1D	6,000	3.28	0.110	0.11		
1/19	T+2	1W	6,000	3.44	0.102	0.10		
1/20	T+2	3D	4,000	2.59	0.108	0.10		
1/20	T+2	1W	6,000	3.02	0.101	0.10		

(注1) オペ直近残高は2010/1/20日現在(実行日ベース)。

(注2) 国債買現先オペによる買入国債・受入担保国債のうち、変動利付債は6,113億円、物価連動債は1,572億円、30年債は925億円(2010/1/20日現在<実行日ベース>、対外非公表)。

(注3) 共通担保・固定金利の平均落札レート及び落札決定レートは、貸付利率(固定金利)。

最近のオペ結果の推移(2)

(資金供給オペ)

(億円、%)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート	期間	オファー額		平均落札レート	落札決定レート
						応札倍率		
国庫短期証券買入	97,480	12/18	T+3	-	4,000	3.49	0.001	-0.002
		12/25	T+3	-	4,000	3.62	0.006	0.006
		1/8	T+3	-	4,000	4.46	0.000	-0.002
		1/14	T+3	-	4,000	4.30	-0.002	-0.003
CP等買入	0	12/18	T+3	-	3,000	0.00	-	-
国債買入	-	12/24	T+3	-	2,500	3.19	0.014	0.013
		12/24	T+3	-	1,200	2.02	-0.073	0.040
		1/7	T+3	-	3,100	1.65	0.000	-0.002
		1/7	T+3	-	2,500	2.71	0.005	0.005
		1/15	T+3	-	2,500	2.99	0.001	0.000
		1/15	T+3	-	1,000	3.25	-0.012	-0.013
		1/20	T+3	-	3,100	1.15	-0.044	-0.129
		1/20	T+3	-	2,500	3.05	0.012	0.011

(国債補完供給)

(億円、%)

発動日	供給額	対象銘柄	平均落札レート	落札決定レート
12/22	5	物価連動国債10年6回	0.400	0.40
1/12	5	変動利付国債15年33回	0.400	0.40

(米ドル資金供給オペ)

(百万ドル、%)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート日 (米国東部 時間)	期間	落札額		貸出利率 (固定金利)
						応札倍率	
米ドル資金供給	100	1/12	1/14	29D	100	-	1.150

(企業金融支援特別オペ)

(億円、%)

オペ手段	直近残高	オファー日	スタート日	期間	落札額		当初貸付利率
						応札倍率	
企業金融支援特別	66,846	12/21	12/25	3M	9,771	-	0.100
		12/29	1/5	3M	6,574	-	0.100
		1/7	1/13	3M	3,350	-	0.100
		1/14	1/19	3M	3,376	-	0.100
		1/20	1/25	3M	5,345	-	0.100

(注1) オペ直近残高は2010/1/20日現在(実行日ベース)。

(注2) 国庫短期証券買入・CP等買入・国債買入の平均落札レート及び落札決定レートは、利回り較差(変動利付債・物価連動債については、価格較差)。

(注3) 国庫短期証券買入の直近残高は、繰上償還等を控除していない。

(注4) シャドーは即日スタート分。

(図表 8)

資金需給の推移

(単位：兆円)

	資金需給 (国庫短期証券調整済)			金融調節 (国庫短期証券調整済)	当預残高 (末残)	
		銀行券	財政等 (国庫短期証券調整済)			
09/7月	▲9.8	+0.3	▲10.2	+6.3	12.3	
8月	▲5.1	+0.2	▲5.4	+4.8	11.9	
9月	+2.5	+0.3	+2.2	+3.2	17.6	
10月	+1.3	▲0.3	+1.7	▲6.6	12.3	
11月	▲5.0	▲0.0	▲5.0	+5.7	13.0	
12月	▲0.8	▲4.7	+3.9	+8.1	20.3	
10/ 1月	(-20日)	▲1.8	+4.4	▲6.2	▲3.5	15.0
	(21日-)	▲3.2	▲0.3	▲3.0	▲9.7	N.A.

(注1) ここでの資金需給は、各月の表面上の計数に、本行が買入れた国庫短期証券の償還額を加えたもので、実カベースの資金需給。金融調節は、国庫短期証券の償還分も含めた計数で、短期オペ残高の増減に国債買入額を加えたものに一致する。

(注2) 1月(21日-)の資金需給は、現時点での予想。金融調節は、1/20日までにオファーしたオペのスタート・期落ち分に国債買入(0.3兆円)を加えたもの。

(注3) 四捨五入の関係で、資金需給の内訳と合計は必ずしも一致しない。

日銀バランスシート(12月末)

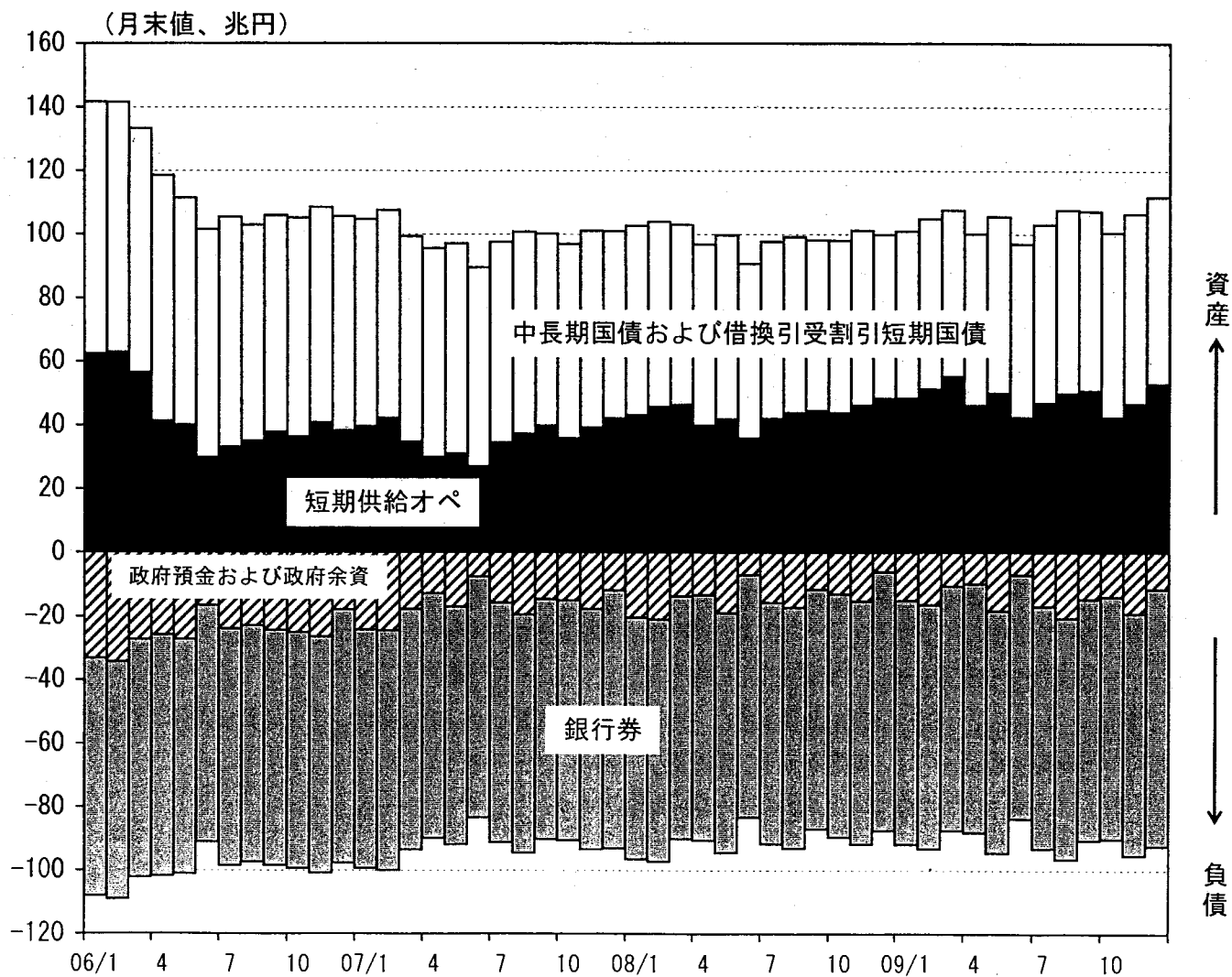
短期供給オペ	52.9	(+4.4)	銀行券	81.0	(▲0.5)
中長期国債	48.2	(+6.9)	当座預金	20.3	(+5.1)
引受国庫短期証券	13.4	(+0.4)	政府預金および 政府余資	11.5	(+5.5)
信託財産株式	1.3	(+0.1)	短期吸収オペ	0.0	(0.0)

(注1) 主要項目のみ抜粋。単位：兆円。()内は前年差。

(注2) 短期供給オペにおける国庫短期証券買入オペ、CP等買入オペおよび社債買入オペは、買入累計額からその償還分(繰上償還を含む)等を控除したもの。

(注3) 引受国庫短期証券は、引受政府短期証券(FB)および借換引受割引短期国債(TB)のうち償還分等を控除したもの。

(参考) 日銀バランスシート主要項目の推移



(*)は対外非公表

本行受入担保残高の推移

末残、単位：表内=兆円、括弧内=億円

担保種類	2009/7月	8月	9月	10月	11月	12月
総計	105.9	110.4	105.3	100.9	106.1	106.7
国債	70.6	74.1	67.9	64.8	69.5	69.2
利付国債等(注1)	50.4	52.4	48.8	47.0	48.4	(注2) 49.2
変動利付国債(*)	11.9	11.4	10.3	10.0	10.1	10.3
物価連動国債(*)	2.1	1.9	2.1	1.8	2.0	1.8
国庫短期証券	20.1	21.7	19.0	17.8	21.1	20.0
社債等(注3)	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
短期社債等(注4)	3.3	3.2	3.0	2.7	2.8	3.3
その他債券(注5)	6.0	5.8	5.8	5.7	5.9	5.8
手形(注6)	1.3	1.4	0.9	1.3	1.1	0.9
証貸	23.0	24.1	25.9	24.7	25.0	25.7
企業向け等(注7)	5.1	5.3	5.3	5.6	5.7	5.5
政府向け等(注8)	17.9	18.8	20.6	19.1	19.2	20.2
うち民間債務分	11.4	11.5	10.9	11.3	11.3	11.4

ABS	424	426	427	428	431	432
ABCP(注9)	2,780	2,835	2,844	2,793	2,322	2,337
(うち特則分)(*)	(9)	(55)	(47)	(0)	(8)	(19)
社債特則分(*)	554	525	552	524	537	502
企業向け証貸特則分(*)	4,433	5,071	4,791	4,951	4,945	4,930
不動産投資法人債	46	40	40	46	40	43
不動産投資法人CP(注10)	0	0	0	0	0	0
不動産投資法人向け証貸	0	0	0	0	0	0
政府保証付短期債券	0	0	0	0	0	0
政府(特別会計含む)向け証貸	165,103	174,825	192,210	175,688	176,693	187,232
政府保証付証貸	14,257	13,479	13,977	15,313	15,441	14,425
地方公共団体向け証貸	116	177	162	277	352	352
外貨建外国債券	0	39	0	0	0	0

(参考) 現先オペでの買入残高

末残、単位：表内=兆円、括弧内=億円

オペ種類	2009/7月	8月	9月	10月	11月	12月
国債買現先オペでの国債買入残高	4.9	4.1	7.0	3.7	3.8	6.9
CP等買現先オペでのCP買入残高	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7

ABCP買入残高	5,621	4,839	4,394	4,928	4,290	4,521
(うち特則分)(*)	(4,893)	(4,152)	(3,772)	(4,227)	(3,515)	(3,937)
不動産投資法人CP買入残高	0	0	0	0	0	20
政府保証付短期債券買入残高	400	290	0	0	0	0

(注1) 利付国債、割引国債、承継国債および分離国債。

(注2) 分離国債は、186億円。(*)

(注3) 不動産投資法人債を含む。

(注4) 短期社債、保証付短期外債、資産担保短期債券、短期不動産投資法人債および政府保証付短期債券。

(注5) 外貨建外国債券を含む。

(注6) CPを含む。

(注7) 不動産投資法人向け証貸を含む。

(注8) 政府(特別会計含む)向け証貸、政府保証付証貸および地方公共団体向け証貸。

(注9) 資産担保短期債券を含む(以下同じ)。

(注10) 短期不動産投資法人債を含む(以下同じ)。

対外非公表

共通担保使用状況

単位：兆円

	2009/7月	8月	9月	10月	11月	12月
共通担保使用額合計 ^(注1)	31.5	34.0	31.2	26.3	30.5	33.3
うち 共通担保オペ使用額 ^(注1)	29.7	32.9	30.1	25.3	29.5	32.4
当座貸越残高 日中ピーク ^(注2)	5.3	5.6	5.8	6.2	5.7	5.1

(注1) 末残。企業金融支援特別オペを含む。

(注2) 平残（ITC口を除く）。

(*)は対外非公表

担保適格ABC等・信用判定の状況

1. 担保適格ABC、J-REITの状況

	件数	発行枠	受入残高 ^(注1)
担保適格ABC (特則分) (*)	14件	9兆5,500億円	3,956億円
担保適格ABC (本則分) (*)	5件	1兆550億円	2,902億円
市中ABC計 ^(注2)	39件	16兆2,533億円	—
担保適格J-REIT	10件 (*)	—	63億円

(注1) 「受入残高」は2009年12月末時点（共通担保受入額とCP等買現先オペでの買入残高の合計）。

(注2) 「市中ABC計」は2009年9月末の計数。

2. 信用判定の状況

	2009/7月	8月	9月	10月	11月	12月	2010/1月 ^(注)
新規適格化先数 (*)	3	0	0	0	1	0	0 (2)
取下げ・抹消先数 (*)	3	0	1	1	3	2	0
信用判定適格先数	369	369	368	367	365	363	363

(注) 1/20日時点。かっこ内は審査中の件数。

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2040年12月>

2010.1.20

金融市場局

最近の金融・為替市場の動向

1. 概況

前回の政策決定会合以降の市場動向をみると、短期金融市場では、日本銀行による金融緩和の強化策が浸透するなか、やや長めの金利を含め、一段と金利が低下して推移している。ただし、一方では、引き続き取引の薄い市場もみられている。すなわち、無担保コールレート（O/N）は、誘導目標水準前後で推移している。レポレートは、日本銀行による機動的かつ潤沢な資金供給の継続などを背景に、0.1%台前半で安定的に推移している。短国レートは、レポレートが低位安定推移するなか、短期ゾーンのイールドカーブのフラット化が進み、1年物まで含めて0.1%台前半で推移している。一方、長めのタームの銀行間取引金利は、低下基調にあるが、取引の薄い状況が続いており、金利水準も、短国レートやOISレートに比べ、やや高めとなっている。

国内資本市場をみると、わが国の長期金利（10年新発債流通利回り）は、株価が堅調に推移するなか、幾分上昇し、1.3%台前半で推移している。株価（日経平均株価）は、円相場が一頃に比べて軟化した水準で推移するなか、米欧の株価が堅調に推移していることもあって、やや大きく上昇し、足もとは、10千円台後半で推移している。また、一般債流通利回りの対国債スプレッドは、高格付け銘柄については、引き続き投資家の旺盛な需要がみられるなか、安定的に推移している。また、低格付け銘柄についても、緩やかな低下傾向が続いている。この間、特定業種については、幾分スプレッドが縮小しているが、なお、高めの水準となっており、投資家の選別姿勢は根強くみられている。

為替市場をみると、円の対ドル相場は、昨年11月までの急速な円高化の巻き戻しの流れのなかで、一旦は93円台まで円安化したのが、その後、幾分戻し、足もとは91円前後で推移している。

2. 市場別の動向

(1) 短期金融市場

わが国の短期金融市場をみると、日本銀行による金融緩和の強化策が浸透するなか、やや長めの金利を含め、一段と金利が低下して推移している（図表1）。ただし、一方では、引き続き取引の薄い市場もみられている。翌日物金利については、無担保コールレート（O/N）が、誘導目標水準（0.1%）前後で推移している。GCレポレート（S/N）は、日本銀行による機動的かつ潤沢な資金供給の継続などを背景に、0.1%台前半で安定的に推移している。ターム物金利については、短国レートは、レポレートが低位安定推移するなか、短期ゾーンのイールドカーブのフラット化が進み、1年物まで含めて0.1%台前半で推移している。一方、銀行間取引金利（ユーロ円レート）は、低下基調にあるが、取引の薄い状況が続いており、金利水準も、短国レートやOISレートに比べ、やや高めとなっている。

	前回決定会合 直前（12/16日）	期間中ピーク （終値ベース）	期間中ボトム （終値ベース）	直近終値 （1/20日）
無担コールレート （O/N、加重平均）	0.113%	0.113% （12/16日）	0.092% （1/6-8日）	0.101%
GCレポレート （出合い、S/N）	0.120%	0.130% （12/25日）	0.110% （12/28-1/20日等）	0.110%
短国レート （3M）	0.125%	0.125% （12/22-1/12日等）	0.115% （1/20日）	0.115%
短国レート （6M）	0.130%	0.130% （1/5-18日等）	0.120% （1/20日）	0.120%
短国レート （1Y）	0.140%	0.140% （12/16-17日）	0.125% （1/20日）	0.125%
ユーロ円金先レート （2010/9月限）	0.335%	0.380% （1/15日）	0.300% （12/21日）	0.370%

—— 銀行間取引における年度末越えの資金に対するプレミアムについて、TIBOR-OISスプレッド（1か月物フォワードレート）をみると、2か月先スタート物の上昇幅が極めて限定的となるなど、年度末越えに対する警戒感はみられない（図表2）。

—— CP発行レートは、ドバイ・ショックの影響を受けた建設等の一部銘柄では幾分高めとなっているが、総じてみれば、低位で安定的に推移している（図表2）。

—— 主要通貨の調達環境に関して、LIBOR-OISスプレッドをみると、パリバ・ショック前と遜色ないか（ドル）、あるいはこれを幾分上回る水準で（ユーロ）、概ね横ばい圏内で推移している（図表3）。

ユーロ円金利先物レートをみると、先行き1年程度は、緩やかにTIBORが低下していくことが見込まれている（図表4）。

—— OISレートから、日本銀行の政策運営に対する市場参加者の見方を窺うと、政策金利は当面据え置かれることが予想されている（図表4）。

（2）債券市場

債券市場をみると、わが国の長期金利（10年新発債流通利回り）は、株価が堅調に推移するなか、幾分上昇し、1.3%台前半で推移している（図表5）。

	前回決定会合 直前（12/16日）	期間中ピーク （終値ベース）	期間中ボトム （終値ベース）	直近終値 （1/20日）
2年新発債 利回り	0.165%	0.165% （1/8・12日等）	0.140% （12/30日）	0.155%
5年新発債 利回り	0.475%	0.515% （1/14・18日等）	0.430% （12/21日）	0.510%
10年新発債 利回り	1.255%	1.355% （1/8日）	1.215% （12/21日）	1.330%
20年新発債 利回り	2.120%	2.155% （1/8日）	2.045% （12/21日）	2.140%

—— イールドカーブは、前回会合以降、長期ゾーンを中心に幾分スティーピング化している（図表6）。

—— 債券利回りの変動要因をみると、利回り上昇要因としての「債券需給」への注目度が低下する一方で、日本銀行による金融緩和の強化策が決定されたことなどを受け、利回り低下要因として「短期金利・金融政策」への注目度が幾分高まっている（図表6）。

国債の市場流動性は、リーマン・ブラザーズ破綻前の水準までは回復していないものの、基調としては、緩やかな回復傾向が続いている。

—— インプライド・ボラティリティは、概ね横ばい圏内の推移となっている（図表7）。

（3）クレジット・スプレッド等

わが国のクレジット市場をみると、一般債流通利回りの対国債スプレッドは、高格付け銘柄（地方債、銀行社債、電力債など）については、引き続き投資家の旺盛な需要がみられるなか、安定的に推移している（図表8）。また、低格付け銘柄についても、緩やかな低下傾向が続いている。この間、特定業種については、個別企業の経営再建問題で一定の進展がみられたことなどを

背景に、幾分スプレッドが縮小しているが、なお、高めの水準となっており、投資家の選別姿勢は根強くみられている。

CDSプレミアムは、株価が堅調に推移するなか、低下している（図表9）。

	前回決定会合 直前（12/16日）	期間中ピーク （終値ベース）	期間中ボトム （終値ベース）	直近終値 （1/19日）
A格社債の対国債 スプレッド（5年）	0.848%	0.848% （12/16日）	0.760% （1/14-15日）	0.768%
BBB格社債の対国債 スプレッド（同）	2.402%	2.402% （12/16日）	2.035% （1/15日）	2.108%
CDSプレミアム （iTraxx Japan 5年）	140.9bps	140.9bps （12/16日）	117.2bps （1/12日）	129.9bps

クレジット市場については、消費者金融、空輸などの個別企業の経営再建問題で一定の進展がみられるなかで、落ち着いた市場環境が維持されていることもあって、昨秋にみられたような警戒感は窺われない。

（4）株式市場

株式市場をみると、わが国の株価（日経平均株価）は、円相場が一頃に比べて軟化した水準で推移するなか、米欧の株価が堅調に推移していることもあって、やや大きく上昇し、足もとは、10千円台後半で推移している（図表10）。

	前回決定会合 直前（12/16日）	期間中ピーク （終値ベース）	期間中ボトム （終値ベース）	直近終値
日経平均株価	10,177円	10,982円 （1/15日）	10,142円 （12/18日）	10,737円 （1/20日）
TOPIX	898pts	966pts （1/15日）	891pts （12/21日）	944pts （1/20日）
NYダウ平均	10,441ドル	10,725ドル （1/19日）	10,308ドル （12/17日）	10,725ドル （1/19日）
NASDAQ 総合指数	2,206pts	2,320pts （1/19日）	2,180pts （12/17日）	2,320pts （1/19日）

—— わが国株式の主体別売買動向をみると、株価が上昇する過程で、外国人が大きく買い越す一方、個人が売り越すかたちとなっている（図表11）。

—— 株価のインプライド・ボラティリティは、振れを伴いながらも、幾分低下して推移している（図表11）。

(5) 為替市場

為替市場をみると、円の対ドル相場（NY市場16時時点ベース<以下同じ>）は、昨年11月までの急速な円高化の巻き戻しの流れのなかで、一旦は93円台まで円安化したか、その後、幾分戻し、足もとは91円前後で推移している（図表12）。

	前回決定会合 直前（12/16日）	期間中ピーク （終値ベース）	期間中ボトム （終値ベース）	直近終値 （1/19日）
円の対ドル相場	89.80円	89.80円 （12/16日）	93.23円 （1/7日）	91.14円
円の対ユーロ相場	130.51円	129.00円 （12/17日）	133.74円 （1/11日）	130.34円
ユーロの対ドル相場	1.4533ドル	1.4533ドル （12/16日）	1.4252ドル （12/22日）	1.4301ドル

- ユーロの対ドル相場は、ギリシャ等のソブリン・リスクが注目されているなかで、弱含んで推移しており、足もとは、1.42ドル前後となっている。
- この間、クロス円相場は、幾分円が弱含む展開となっている（図表14）。
- 昨年末にかけて対円、対ユーロでのドル安傾向に巻き戻しの動きがみられるなか、IMM先物取引ポジションは、ドル/円、ユーロ/ドルともに、ドルのロング・ポジションに転化している（図表13）。一方、豪ドル、加ドル、メキシコ・ペソ等の資源国通貨についてみると、米ドルのショート・ポジションは引き続き高水準で推移している。
- リスクリバーサル（1M）については、ドル/円はドルプット超幅が縮小している一方、ユーロ/ドルは、ドルコール超幅が幾分縮小している（図表13）。一方、外為証拠金取引では、ドル安傾向の巻き戻しの過程でドルのショート幅の大幅な拡大がみられるなど、相場に対して逆張りのようなポジションの造成やその巻き戻しといった動きを続けている（図表14）。
- ドル/円オプションのインプライド・ボラティリティ（1M）は、前回会合以降、概ね横ばい圏内で推移している（図表13）。

以 上

2010.1.20

金融市場局

「最近の金融・為替市場の動向」参考計表

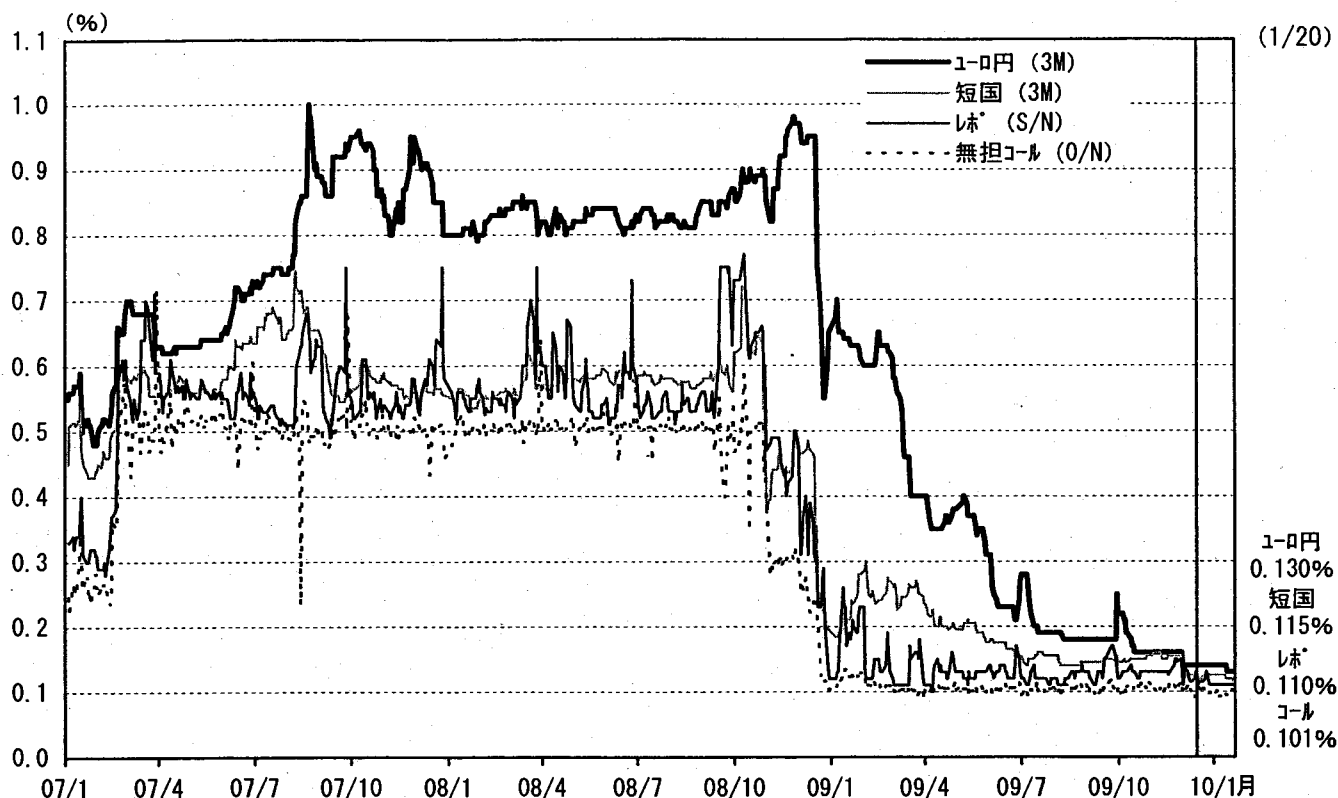
- (図表 1) 短期金利の推移
- (図表 2) ターム物レートの推移 (1)
- (図表 3) ターム物レートの推移 (2)
- (図表 4) フォワードレートの動向
- (図表 5) 長期金利の推移
- (図表 6) イールド・カーブの動向
市場参加者が注目する債券利回り変動要因
- (図表 7) インプライド・ボラティリティの推移
長国先物の値幅・出来高比率の推移
- (図表 8) 社債流通利回りの対国債スプレッドの推移
- (図表 9) CDS プレミアムの推移
- (図表 10) 株式相場の推移
- (図表 11) 主体別売買動向等
- (図表 12) 主要為替相場の推移
- (図表 13) 通貨オプション、先物市場の動向
- (図表 14) クロス円取引の動向
- (図表 15) エマージング、コモディティ市場の動向

(注) 図表中の縦線は、特に断りのない限り前回会合の前営業日 (12/16 日) を表す。

(図表 1)

短期金利の推移

(1) 短期金利の推移



(2) ターム物レート等の推移

(%)

	無担コール	レポ	TIBOR	ユーロ円			短国		
	0/N	S/N	3M	1M	3M	6M	3M	6M	1Y
09/12/16	0.113	0.120	0.464	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/17	0.106	0.110	0.464	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/18	0.105	0.115	0.464	0.130	0.140	0.230	0.120	0.125	0.135
12/21	0.096	0.115	0.463	0.130	0.140	0.230	0.120	0.125	0.130
12/22	0.104	0.115	0.463	0.130	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
12/24	0.102	0.120	0.463	0.130	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
12/25	0.098	0.130	0.463	0.130	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
12/28	0.097	0.110	0.463	0.120	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
12/29	0.097	0.110	0.465	0.120	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
12/30	0.094	0.110	0.464	0.120	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
10/ 1/4	0.100	0.110	0.462	0.120	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
1/5	0.095	0.110	0.460	0.120	0.140	0.230	0.125	0.130	0.130
1/6	0.092	0.110	0.458	0.120	0.140	0.230	0.125	0.130	0.130
1/7	0.092	0.110	0.456	0.120	0.140	0.230	0.125	0.130	0.130
1/8	0.092	0.110	0.456	0.120	0.140	0.230	0.125	0.130	0.130
1/12	0.095	0.110	0.456	0.120	0.140	0.230	0.125	0.130	0.130
1/13	0.095	0.110	0.456	0.120	0.140	0.230	0.120	0.130	0.130
1/14	0.094	0.110	0.456	0.110	0.130	0.230	0.120	0.130	0.130
1/15	0.094	0.110	0.456	0.110	0.130	0.230	0.120	0.130	0.130
1/18	0.098	0.110	0.456	0.110	0.130	0.230	0.120	0.130	0.130
1/19	0.102	0.110	0.455	0.110	0.130	0.230	0.120	0.125	0.130
1/20	*0.101	0.110	0.455	0.110	0.130	0.230	0.115	0.120	0.125
1/21									
1/22									

* 速報値

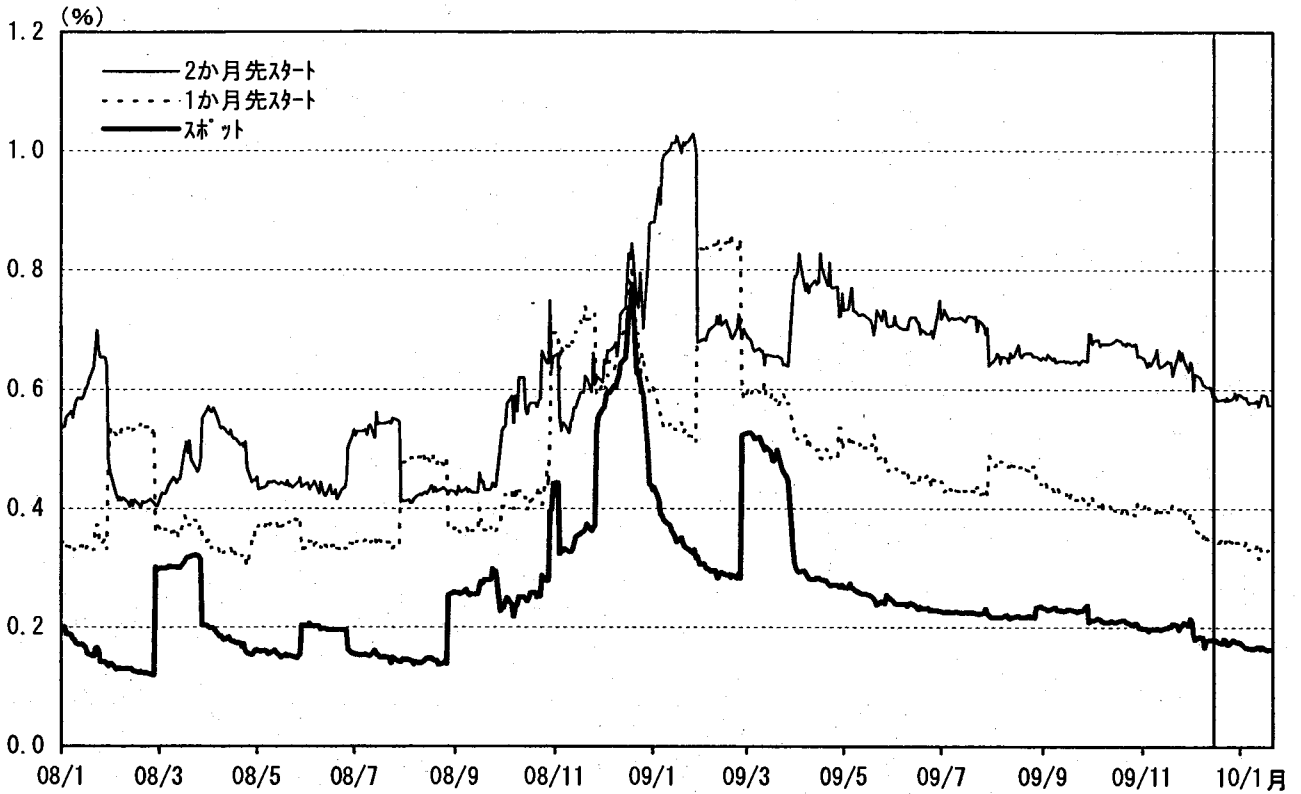
(注) 1. レポレート、ユーロ円レートはヒアリングベース (対外非公表)。

2. 短国レートはT-Bill利回り。ただし、09/2月の統合発行以前はFB/TB利回り。

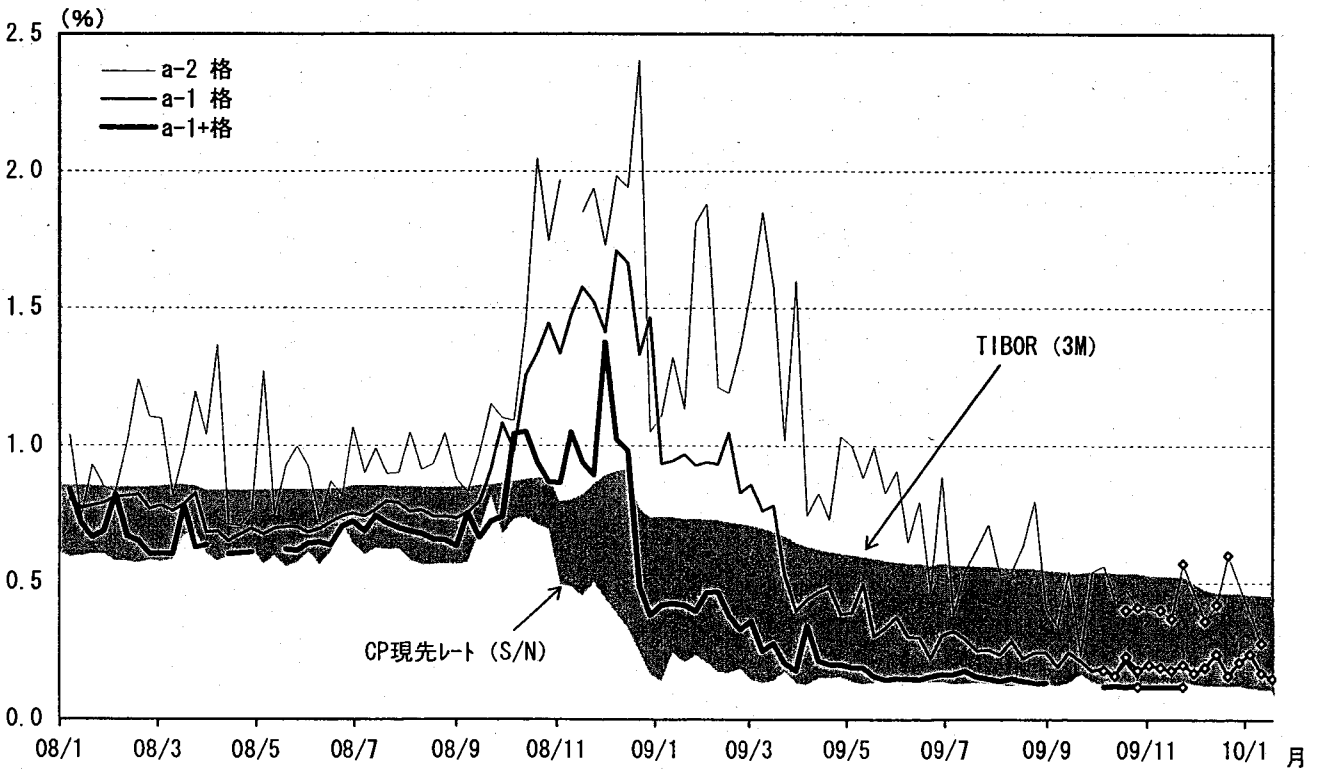
(出所) 全国銀行協会、日本相互証券、日本銀行

ターム物レートの推移 (1)

(1) TIBOR-OISスプレッド (1か月物フォワードレート) の推移



(2) CP発行レート (3か月物) の推移



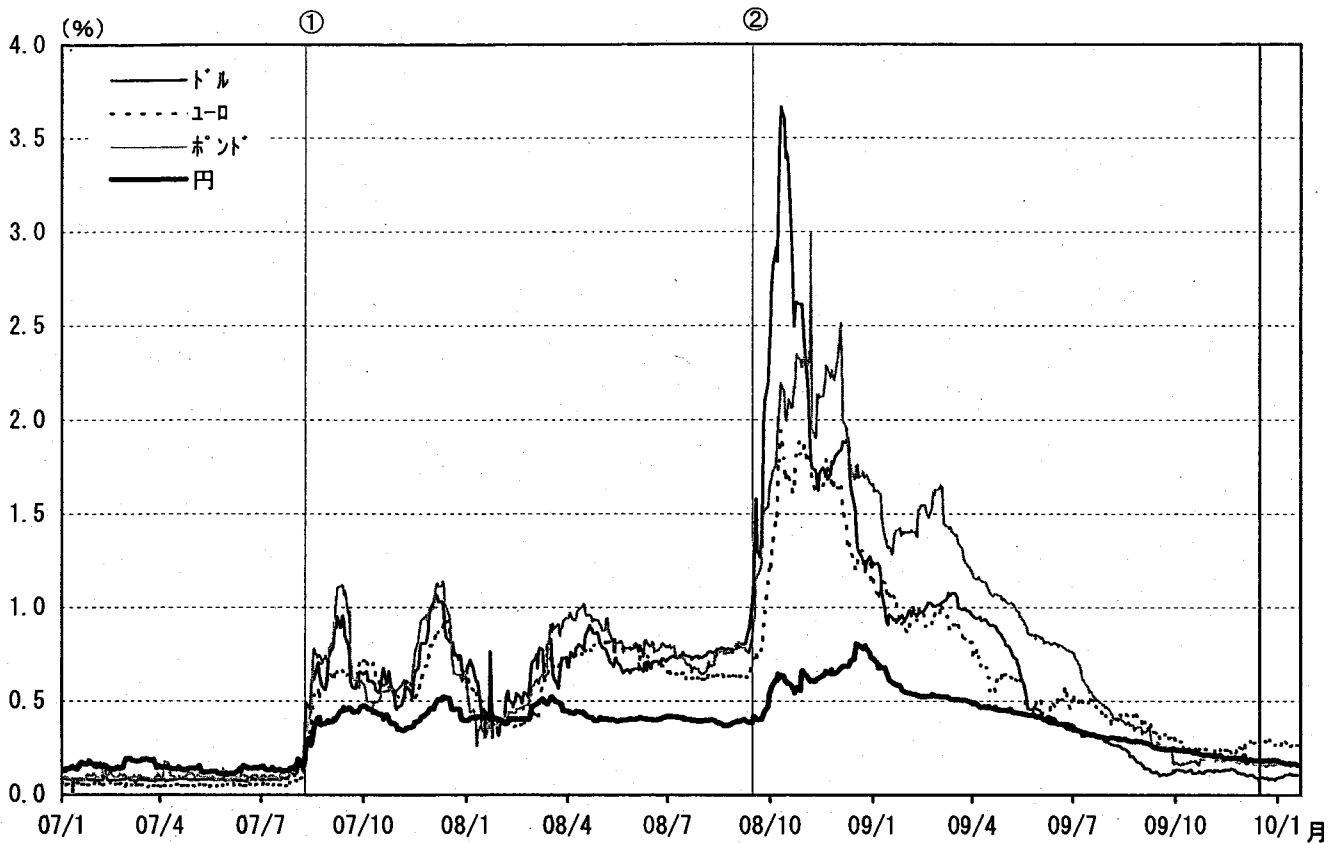
(注) 1. (2)のCP発行レートは、週次平均レート (証券保管振替機構公表計数: ◇印)。ただし、09/10月以前はCP等買現先オペの対象先による引受分 (対外非公表)。発行額による加重平均で、格付けは基本的にR&Iによる。金融機関発行分およびABCPは除く。

2. 直近は、(1)は1/20日、(2)は1/18日週 (19日までの日次計数の平均)。

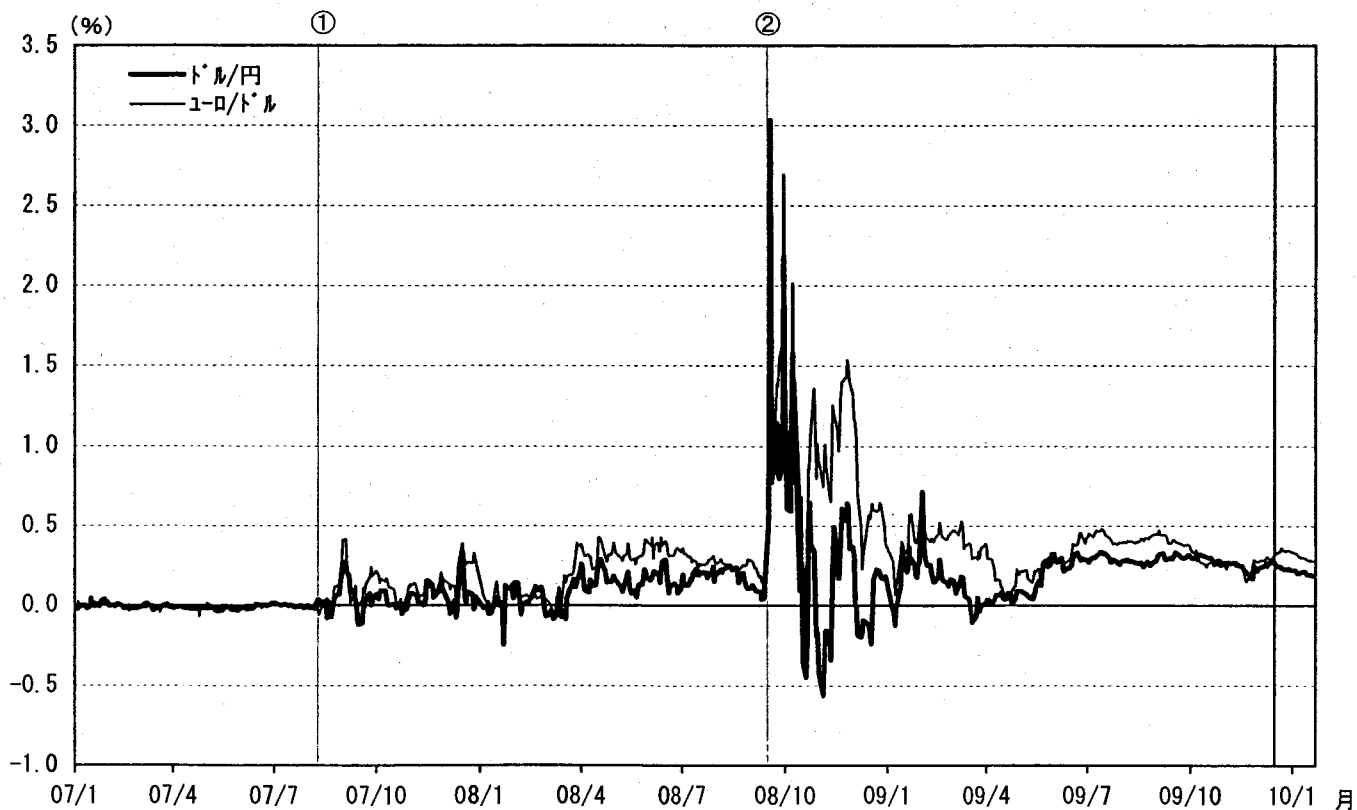
(出所) Bloomberg、証券保管振替機構、全国銀行協会、日本銀行

ターム物レートの推移 (2)

(1) LIBOR-OISスプレッド (3か月物) の推移



(2) ドル転コスト対ドルLIBORスプレッド (3か月物) の推移



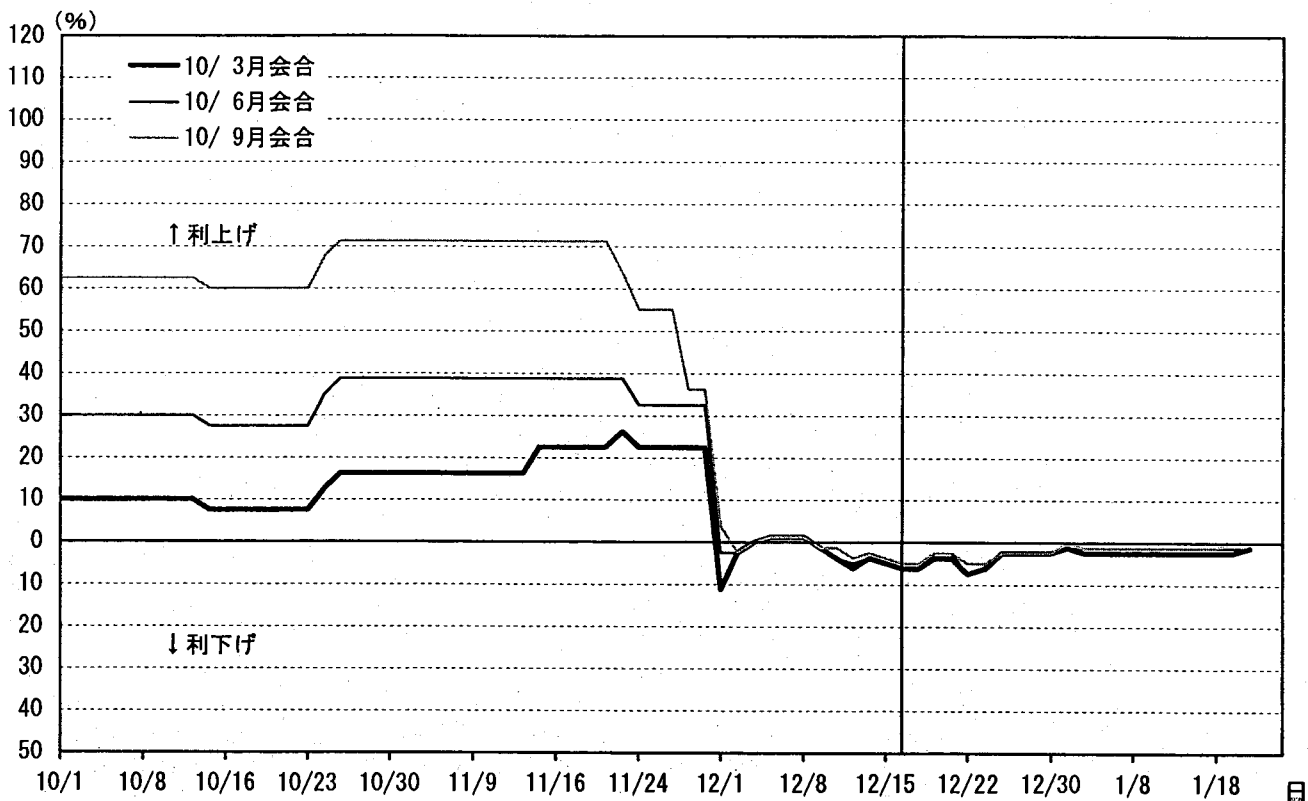
(注) 1. ①はパリバ・ショック (07/8/9日) 時点、②はリーマン破綻 (08/9/15日) 時点。

2. 直近は1/19日。

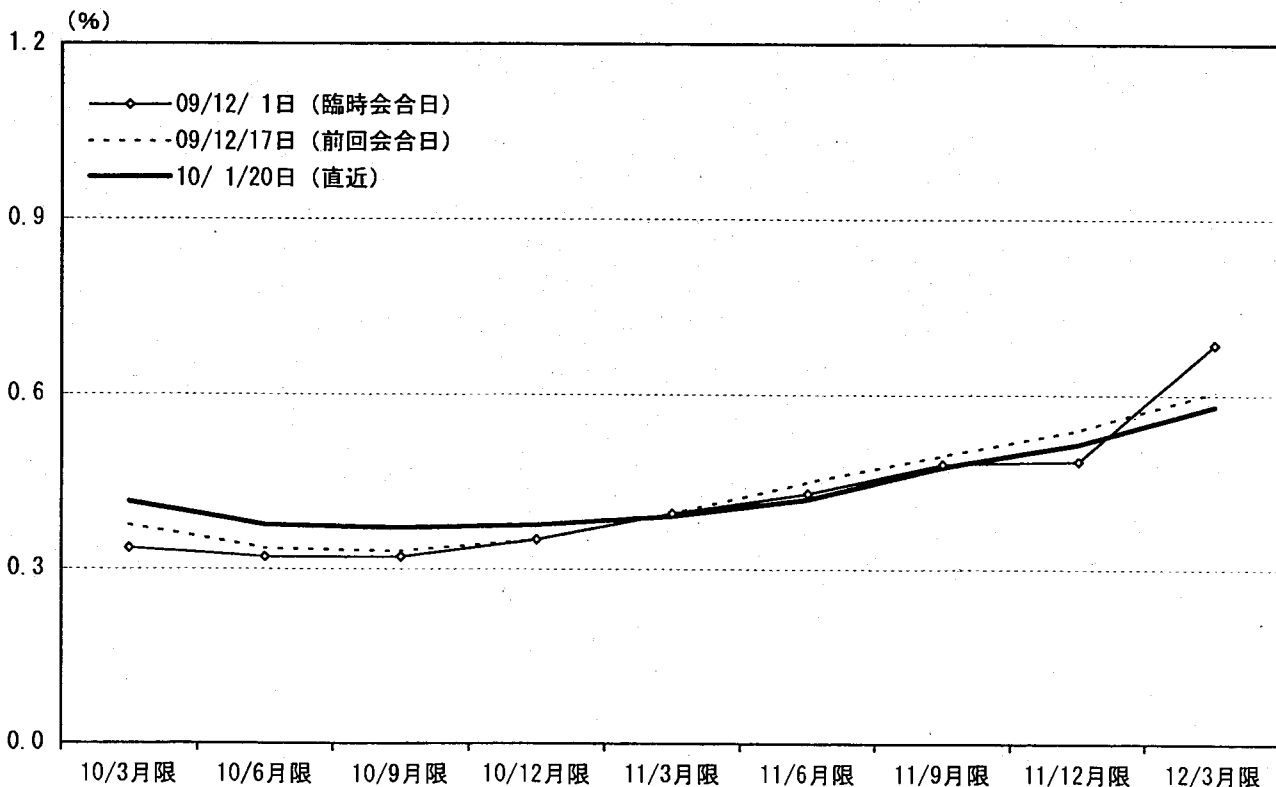
(出所) Bloomberg

フォワードレートの動向

(1) OISレートからみた政策変更 (±10bps) の織り込み度合い



(2) ユーロ円金利先物からみたフォワードレート・カーブ



(注) (1)は会合間取引レートの仲値から算出。直近は1/20日。

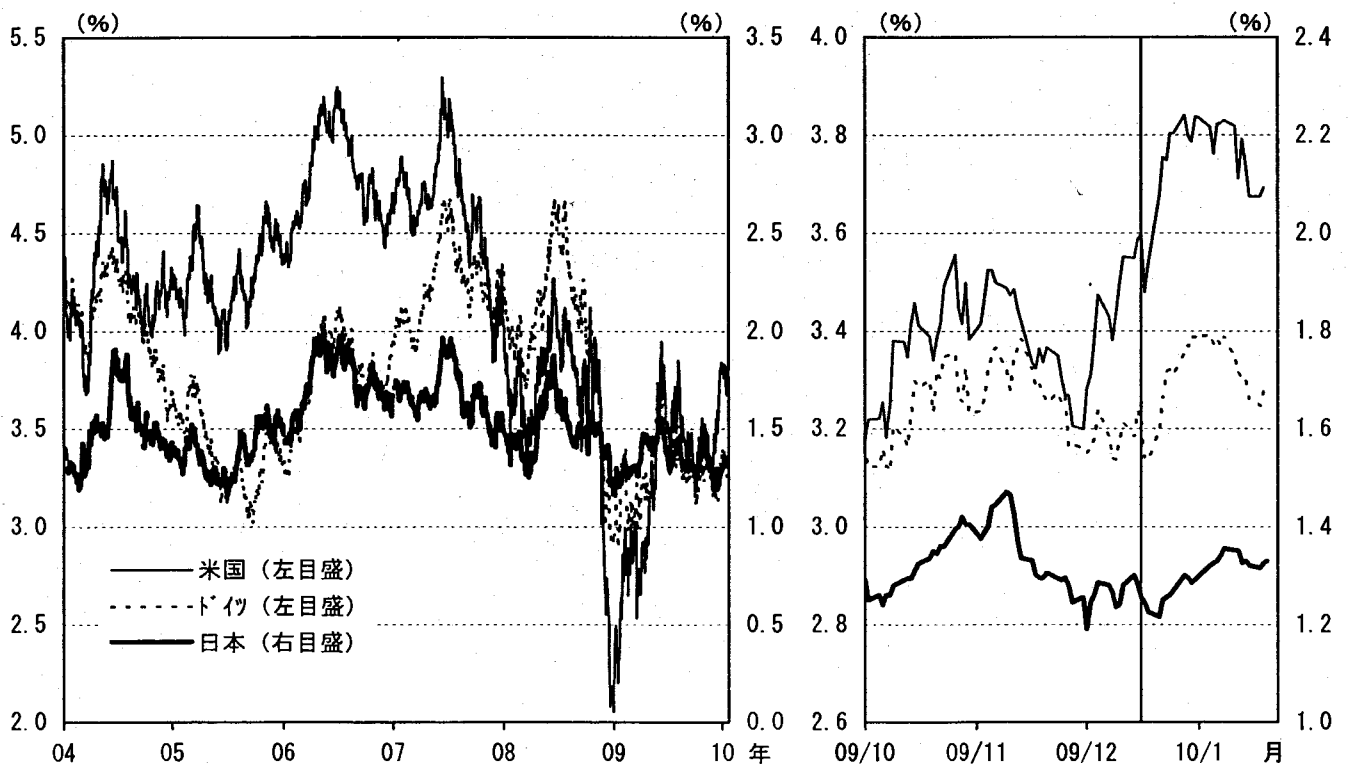
(出所) トムソン・ロイター、メイタン・トラディション、東京金融取引所

長期金利の推移

(1) 国内年限別の推移



(2) 10年国債利回りの推移

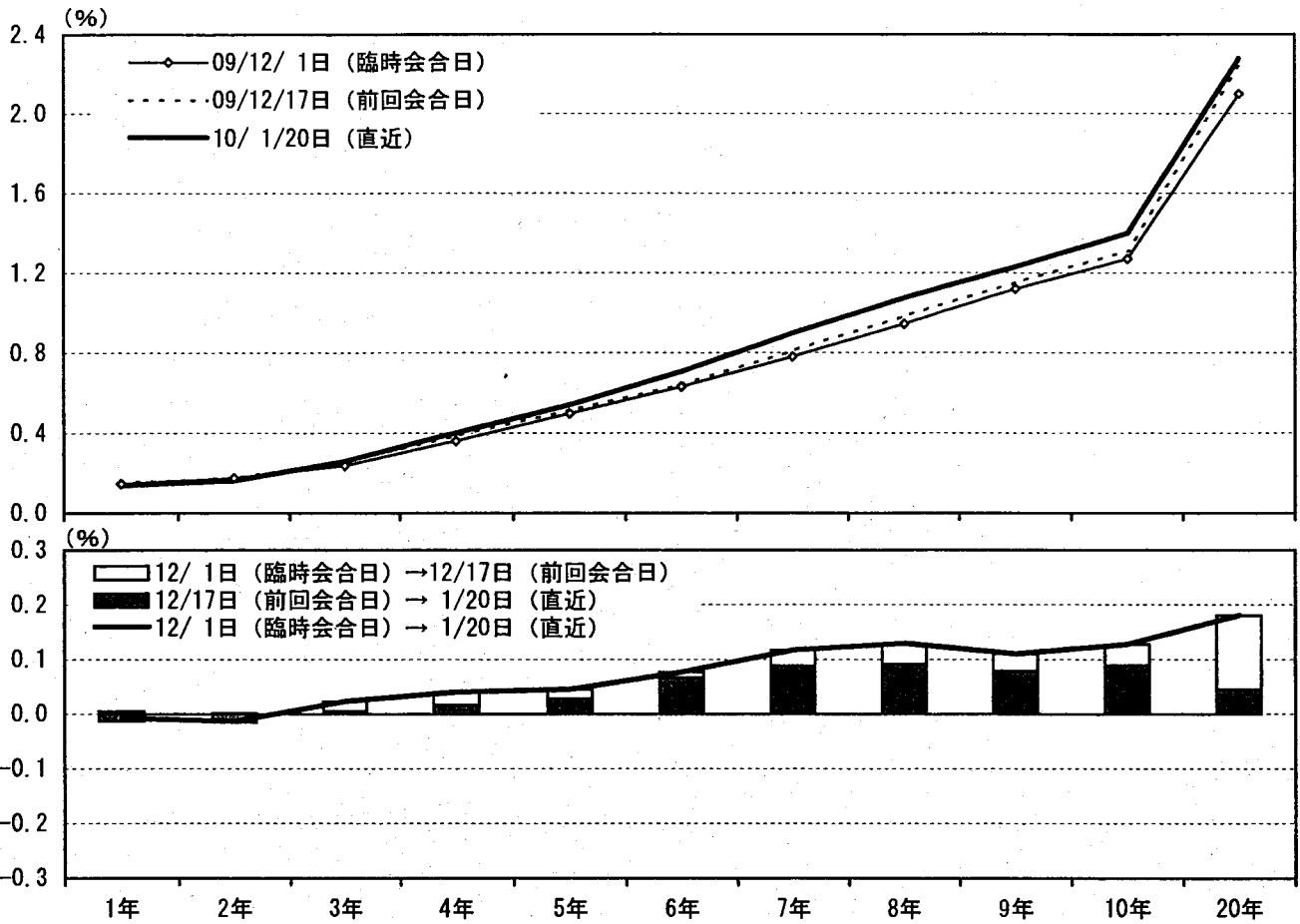


(注) 直近は、日本は1/20日、その他は1/19日。

(出所) Bloomberg、日本相互証券

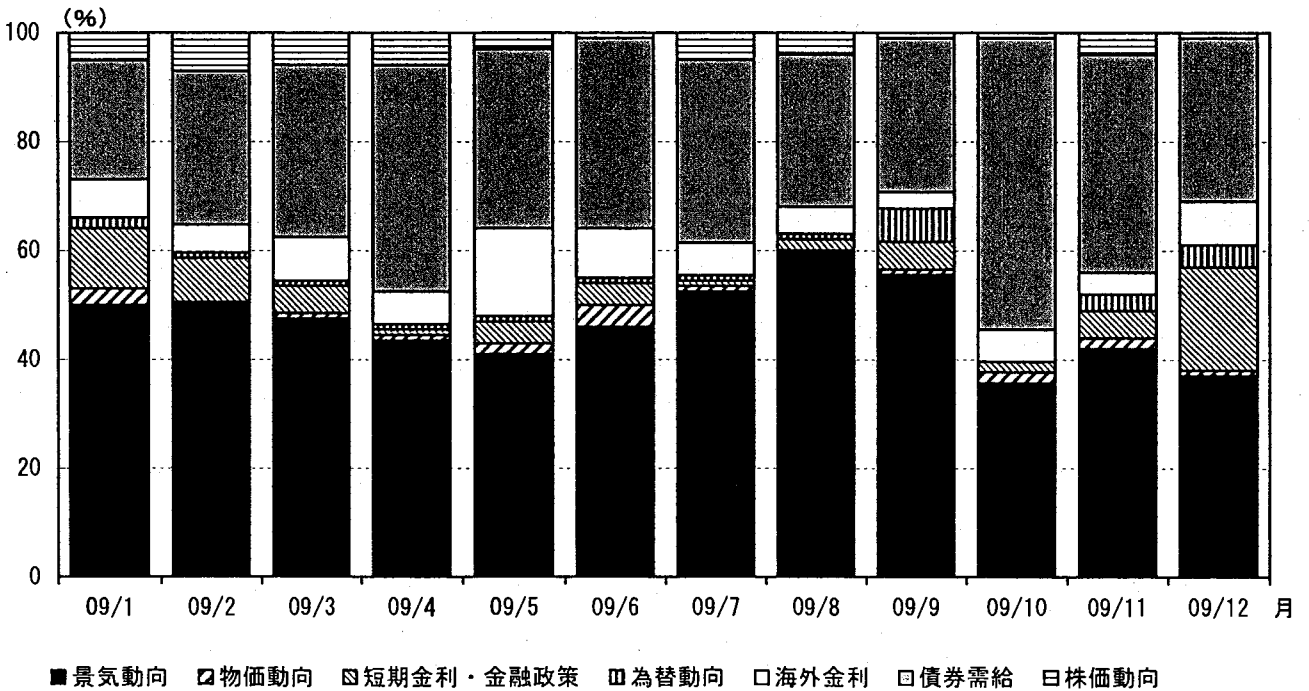
(図表6)

イールド・カーブの動向



(出所) 日本証券業協会、日本銀行

市場参加者が注目する債券利回り変動要因

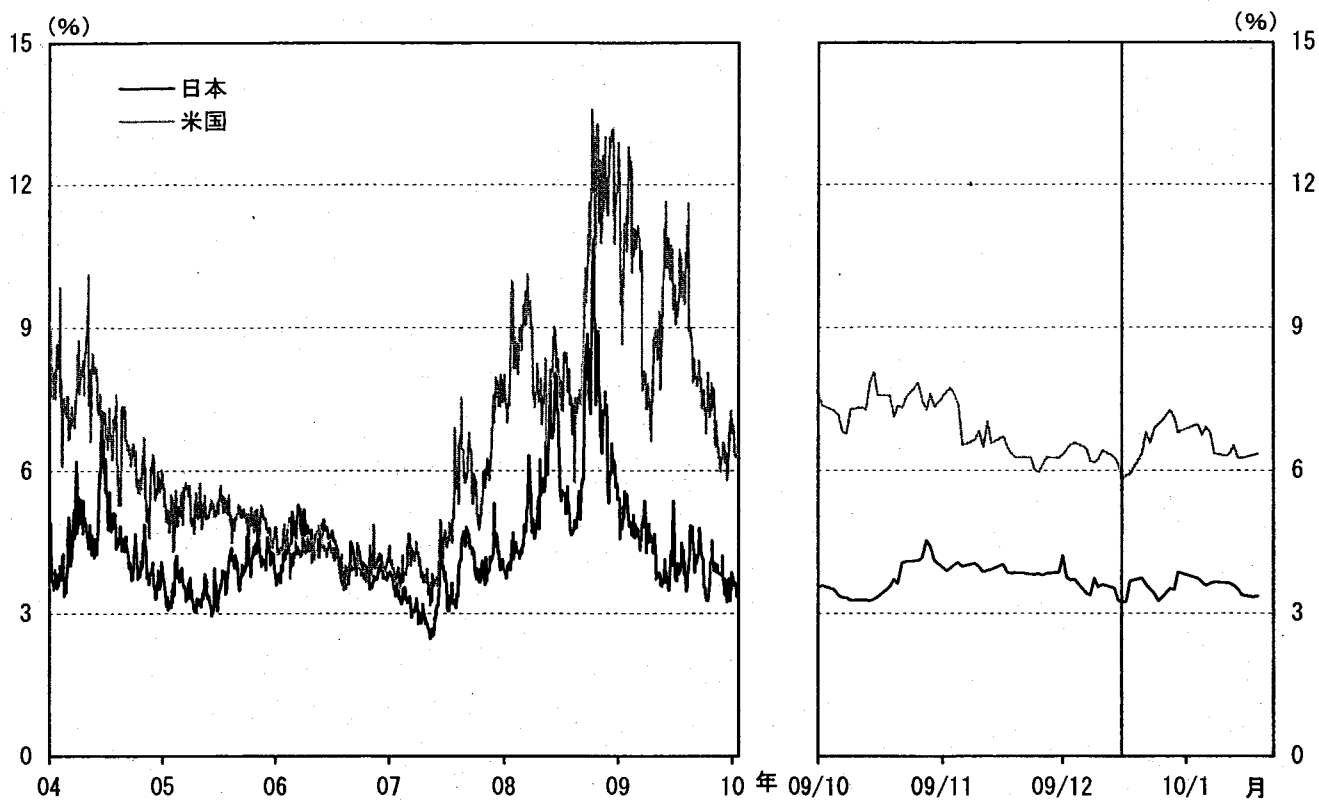


(注) 調査期間は09/12/21日～09/12/24日。期間中の10年新発債利回りは1.220～1.255%。

(出所) 「QSS債券月次調査」

(図表7)

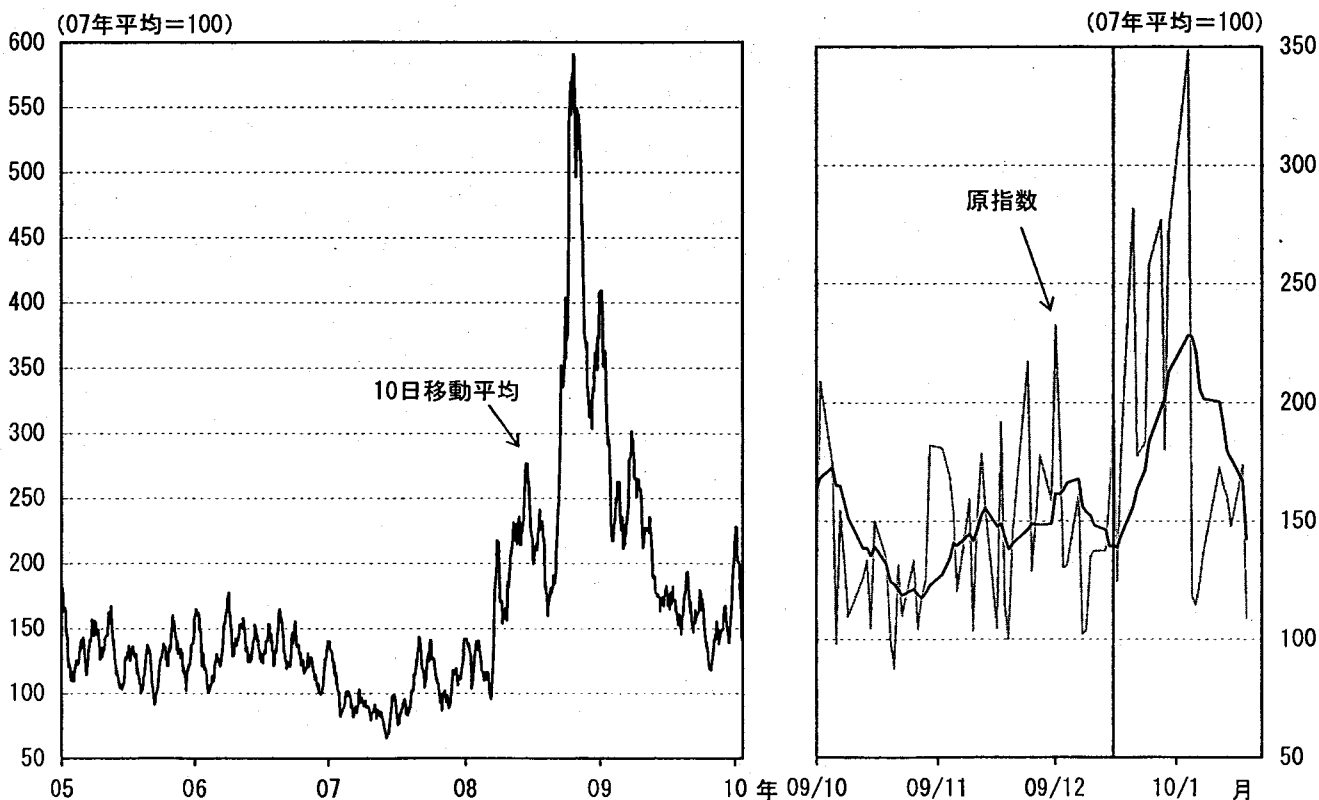
インプライド・ボラティリティの推移



(注) 直近は1/19日。

(出所) Bloomberg、三菱UFJ証券

長国先物の値幅・出来高比率の推移

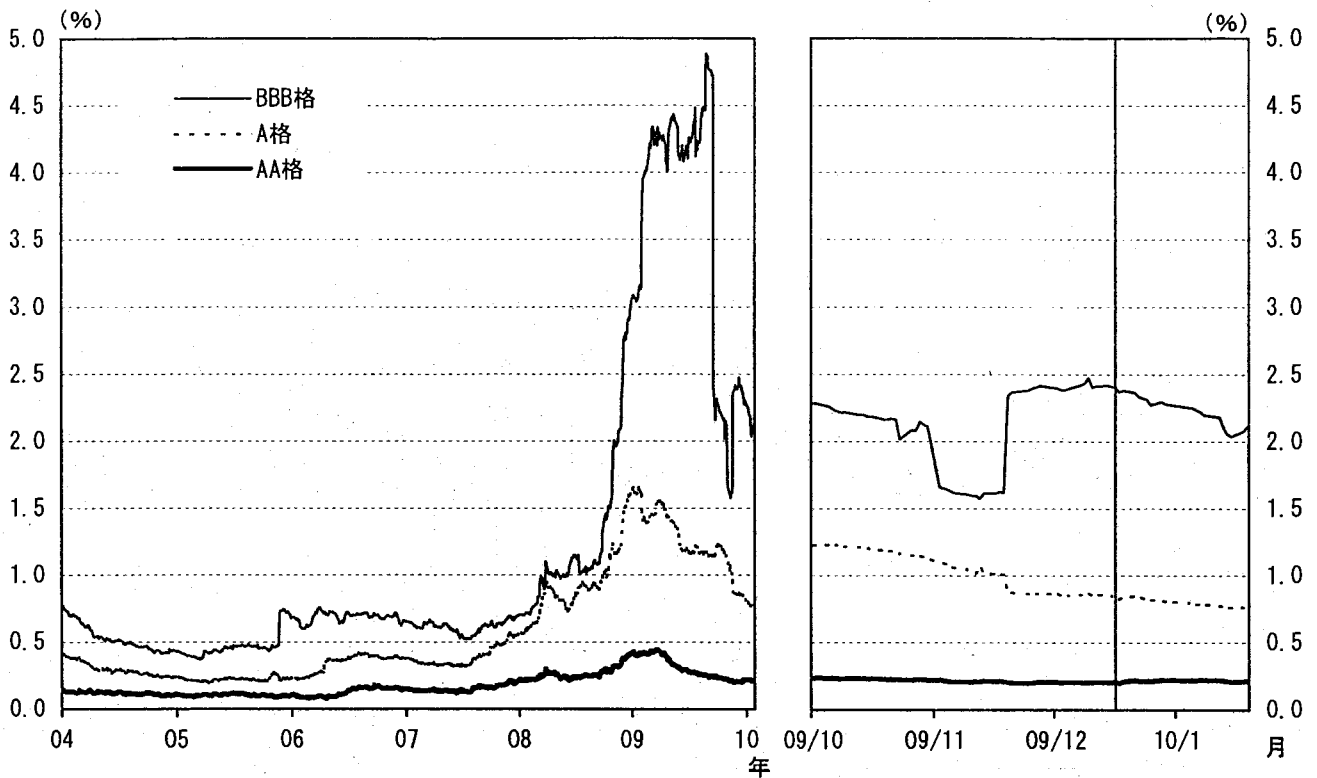


(注) 直近は1/19日。

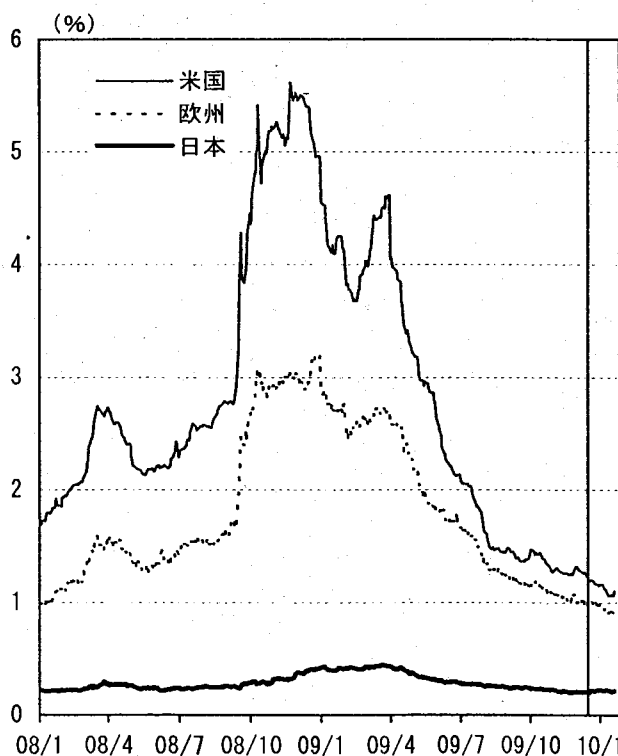
(出所) QUICK

社債流通利回りの対国債スプレッドの推移

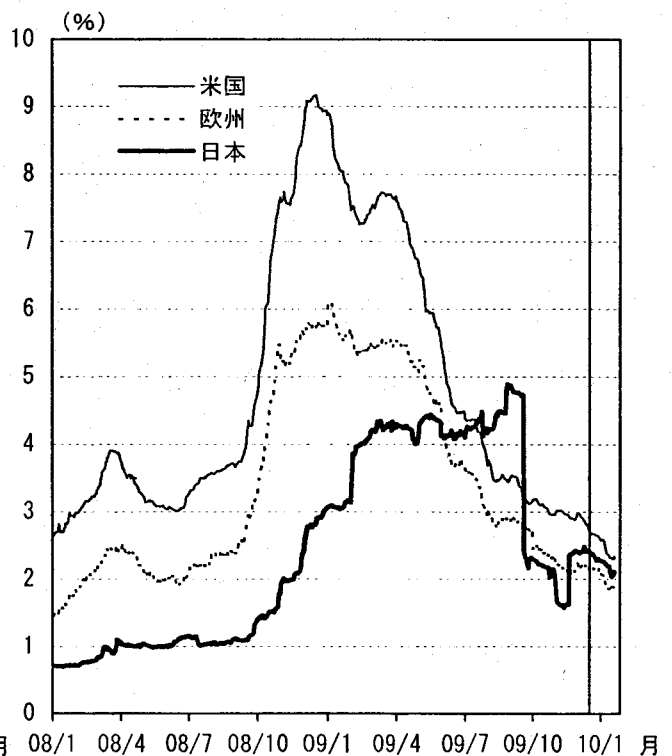
(1) 国内社債の動向



(2) 高格付社債 (AA格) の動向



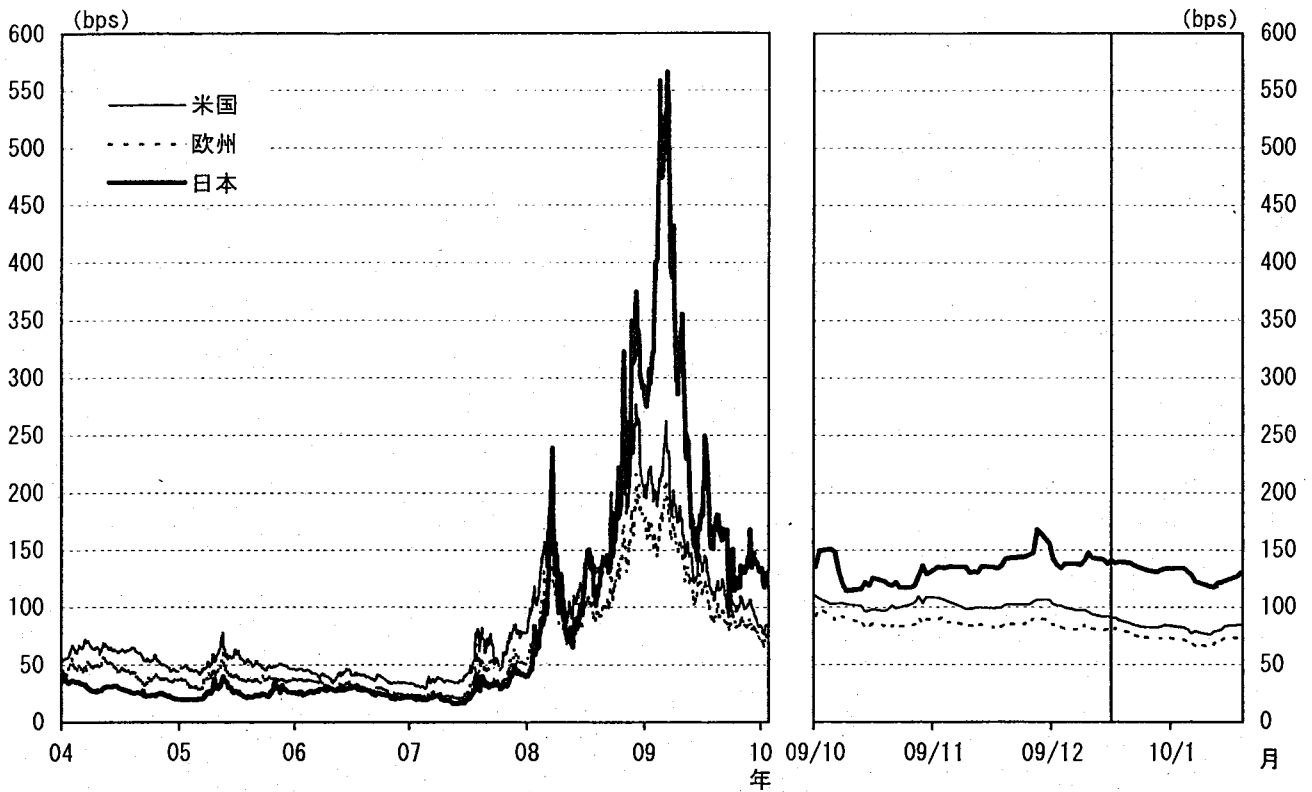
(3) 低格付社債 (BBB格) の動向



(注) 1. 日本の社債流通利回りは売買参考統計値、格付けはR&Iによる。集計対象は、残存3年以上7年未満の銘柄。
2. 米欧はメリルリンチ算出、格付けはMoody's、S&P、Fitchによる。集計対象は、残存3年以上5年未満の銘柄。
3. 直近は1/19日。

(出所) Bloomberg、日本証券業協会、日本銀行

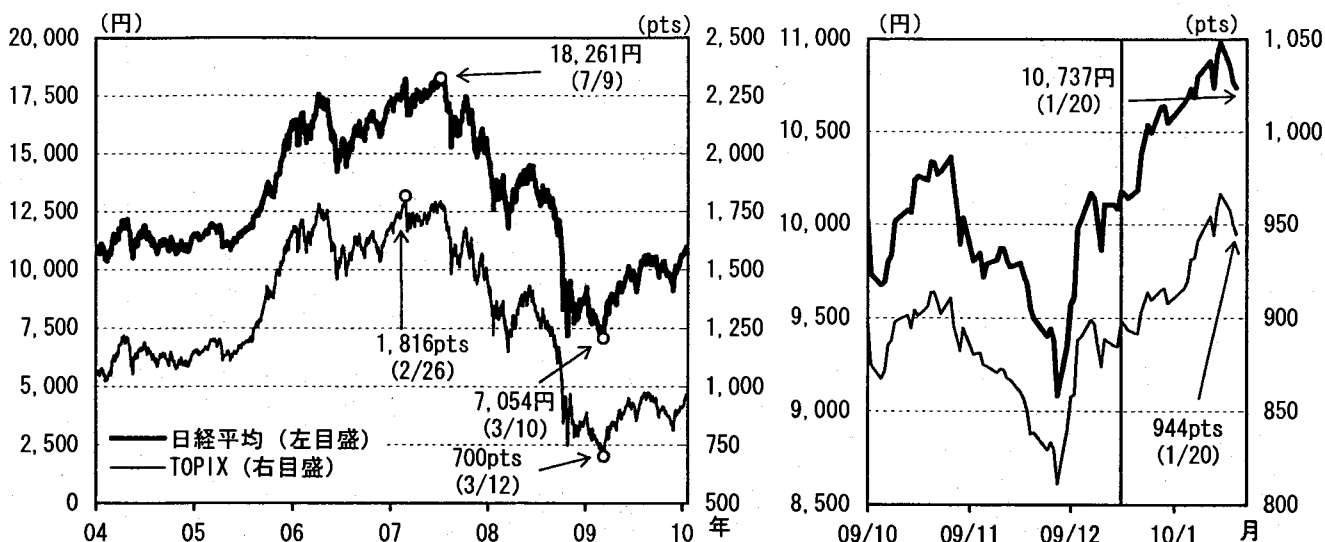
CDSプレミアムの推移



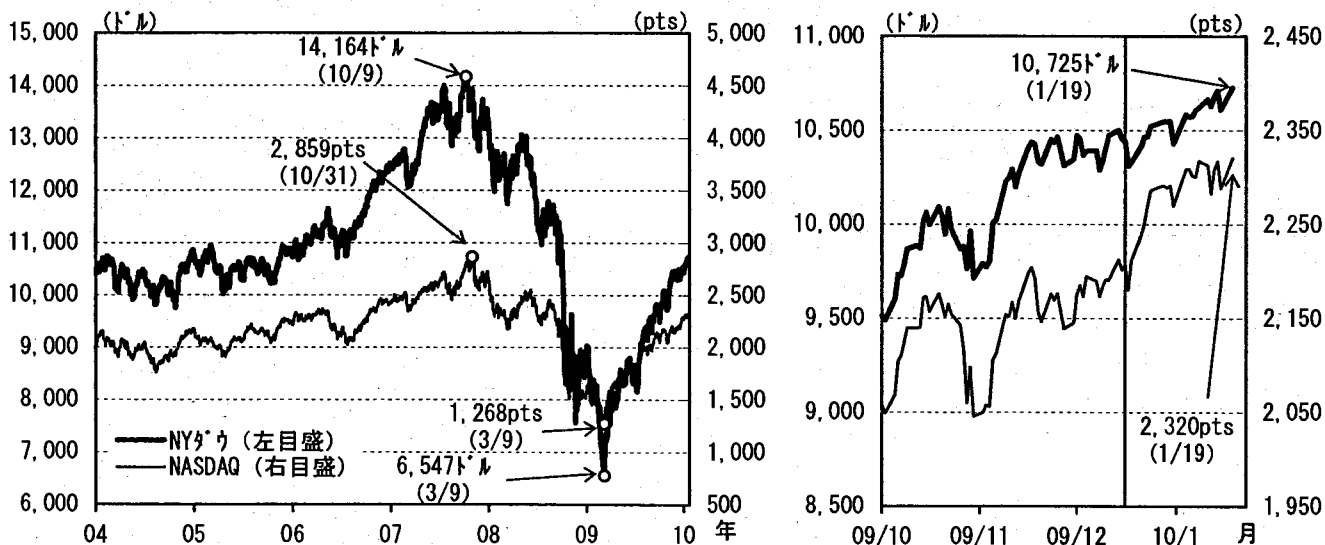
(注) 1. 以下の各インデックス。年限は5年。
日本：iTraxx Japan、米国：CDX.NA.IG、欧州：iTraxx Europe。
2. 対外非公表。直近は1/19日。
(出所) Markit、JPモルガン

株式相場の推移

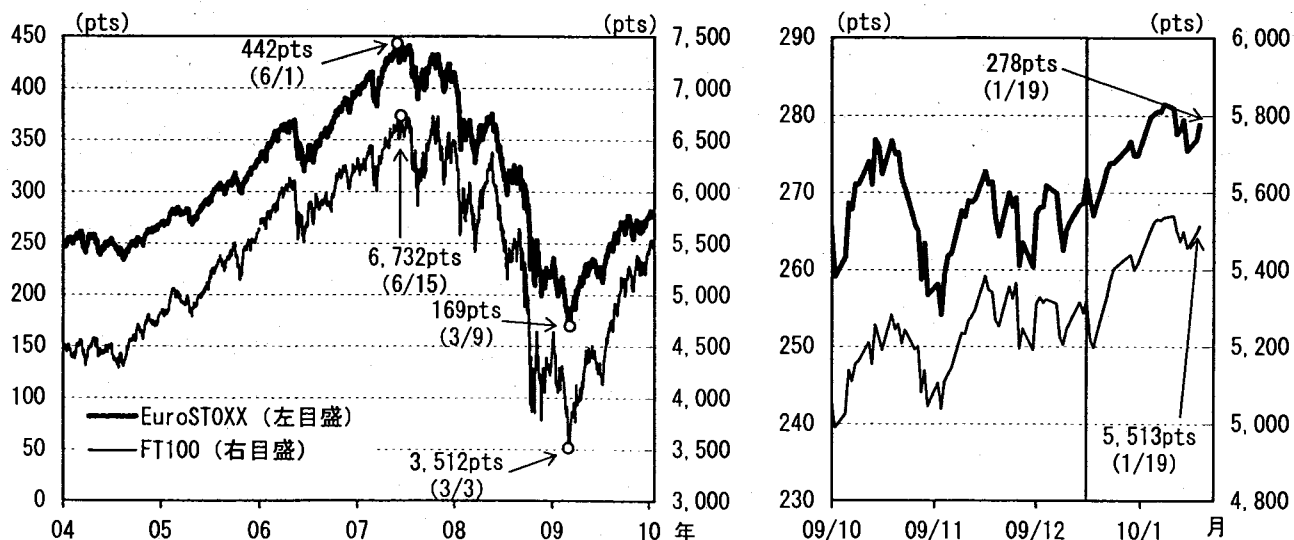
(1) 国内株価の推移



(2) 米国株価の推移



(3) 欧州株価の推移



(注) 直近は、TOPIX、日経平均は1/20日、その他は1/19日。

(出所) Bloomberg、QUICK

(図表11)

主体別売買動向

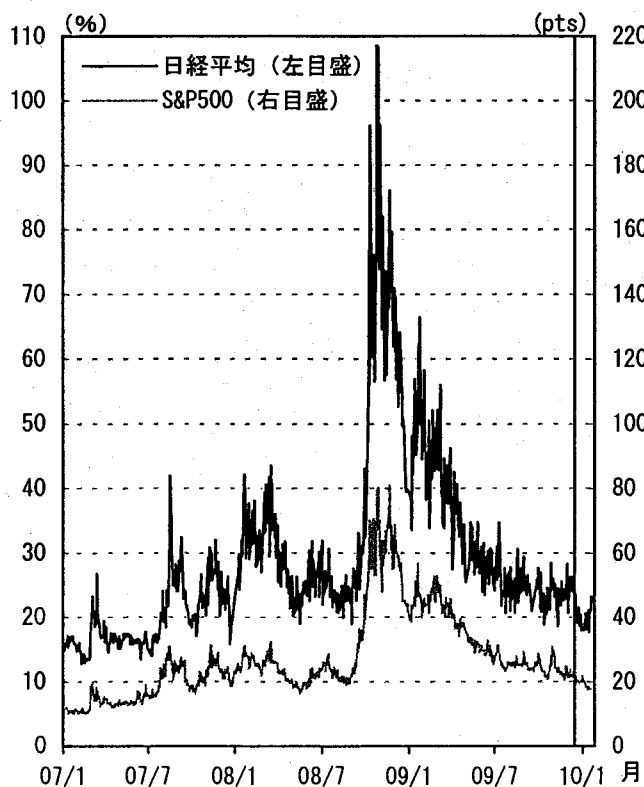
(▲は売り越し、億円)

	個人		事業法人	投信	金融機関			外国人
		うち 信用				うち 信託	うち 生・損保	
07年	▲32,288	14,152	15,555	▲5,448	▲17,953	▲16,834	678	54,234
08年	9,820	▲897	16,321	3,013	39,434	45,026	▲3,289	▲37,085
09年	▲8,666	7,348	▲1,842	769	5,597	14,403	▲4,182	17,775
09/4 ~ 6月	2,884	5,711	▲313	▲1,756	▲6,132	▲2,654	▲1,209	7,886
7 ~ 9月	▲2,730	2,569	▲717	▲1,113	▲10,734	▲7,138	▲2,343	14,671
10 ~ 12月	▲12,334	▲1,050	▲1,975	2,022	▲3,335	▲1,277	▲564	20,595
09/10月	▲977	610	▲286	480	▲3,365	▲2,853	▲170	7,302
11月	398	413	67	1,159	2,194	2,077	167	272
12月	▲11,754	▲2,074	▲1,756	382	▲2,164	▲501	▲562	13,021
09/12/7 ~ 12/11	▲1,629	▲47	▲273	3	▲1,020	▲547	▲226	131
12/14 ~ 12/18	▲1,416	38	▲534	101	53	331	▲171	1,507
12/21 ~ 12/25	▲3,409	▲377	▲403	122	▲625	▲344	4	3,965
12/28 ~ 12/30	▲347	168	▲60	82	▲572	▲356	▲136	1,336
10/1/4 ~ 1/8	▲4,191	▲1,300	▲513	▲352	▲782	▲423	▲151	7,080

(注) 三市場(東京・大阪・名古屋)合計。金融機関は、都銀・地銀等、その他金融、信託、生・損保。

(出所) 東京証券取引所

ボラティリティの推移

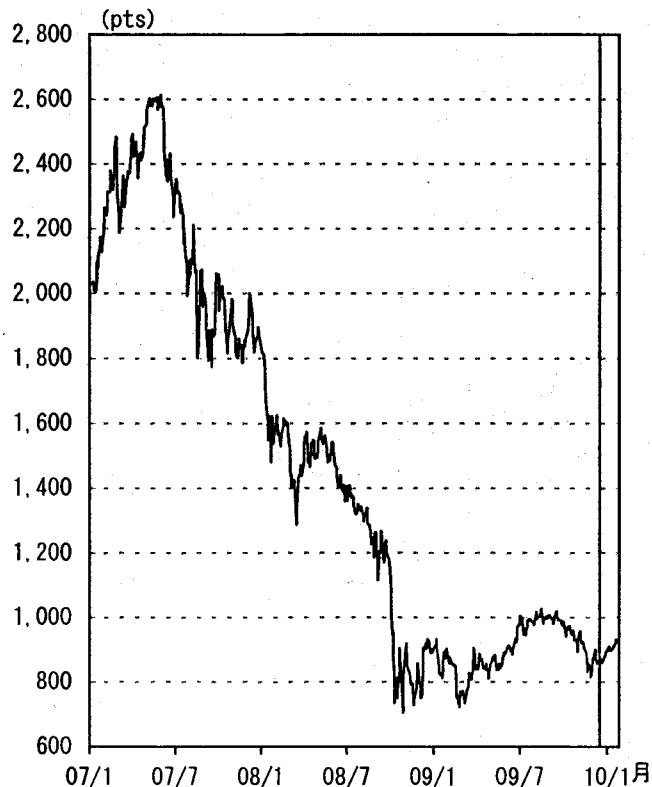


(注) 日経平均はインプライド・ボラティリティ。

S&P500はVIX指数。直近は1/19日。

(出所) Bloomberg

東証REIT指数の推移



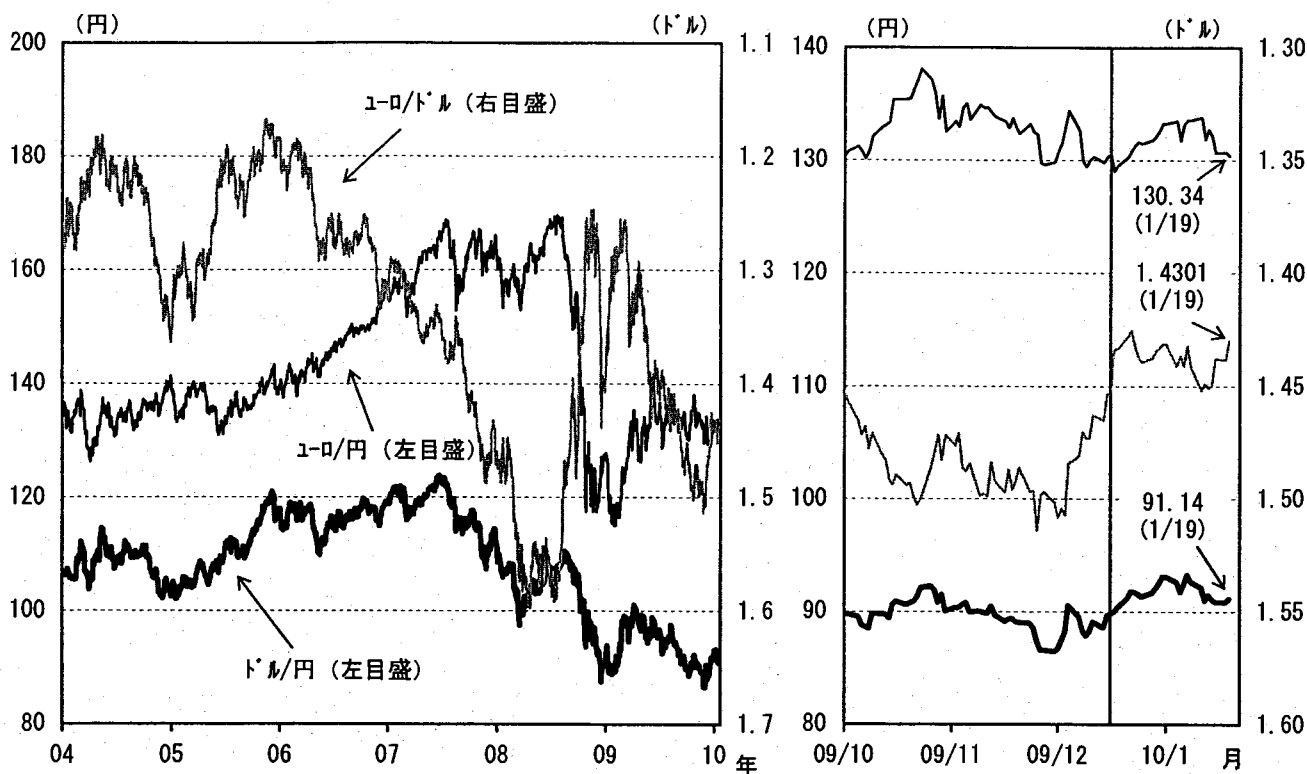
(注) 直近は1/20日。

(出所) Bloomberg

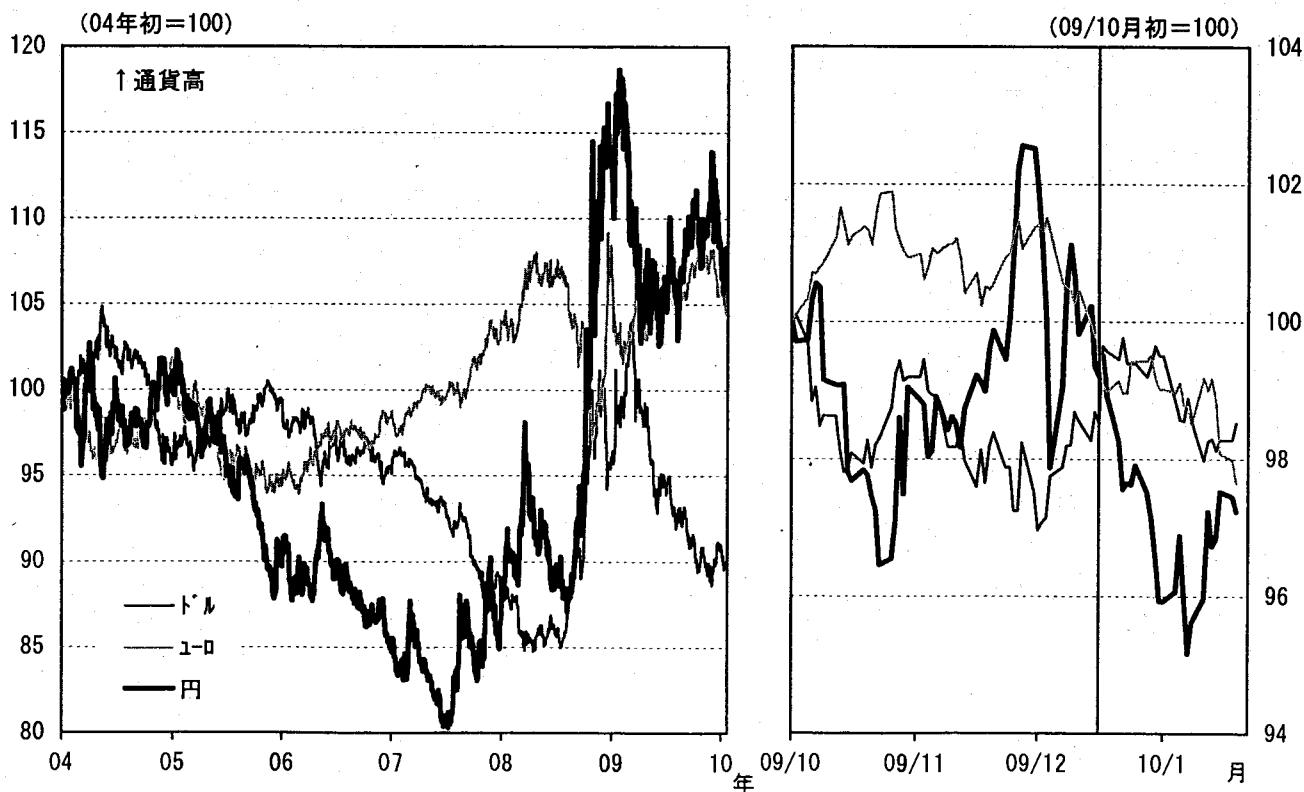
(図表12)

主要為替相場の推移

(1) ドル/円、ユーロ/円、ユーロ/ドル相場の推移



(2) 名目実効為替レートの推移



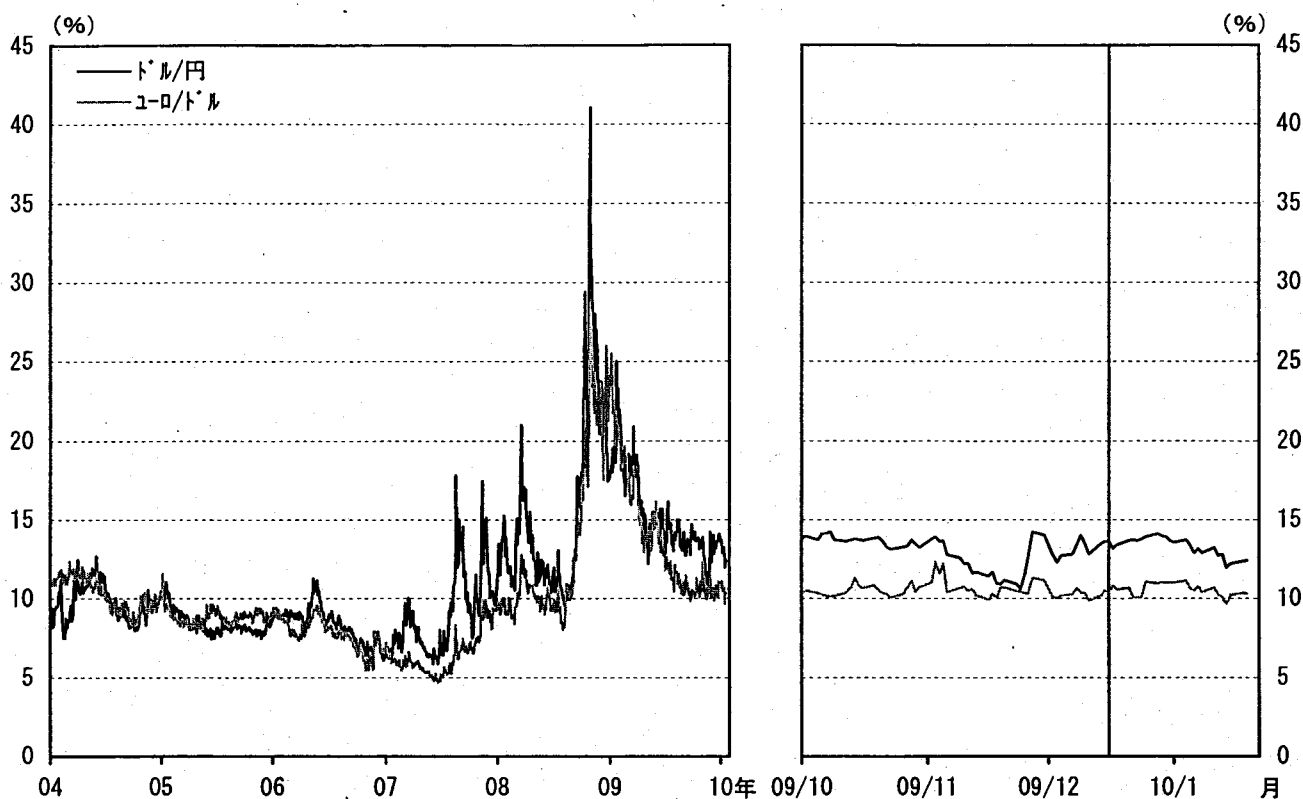
(注) 1. (1)は原則NY市場16時時点。

2. 直近は1/19日。

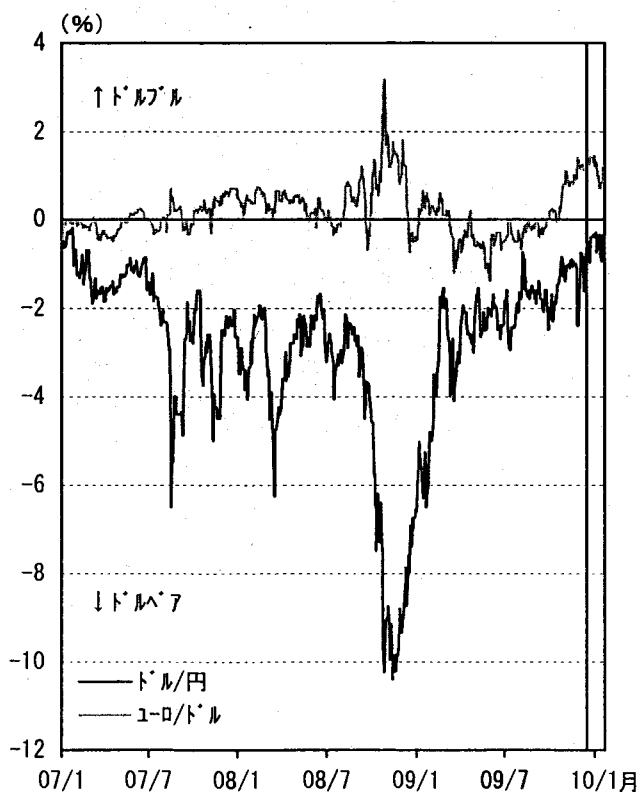
(出所) JPモルガン、トムソン・ロイター、ECB、日本銀行

通貨オプション、先物市場の動向

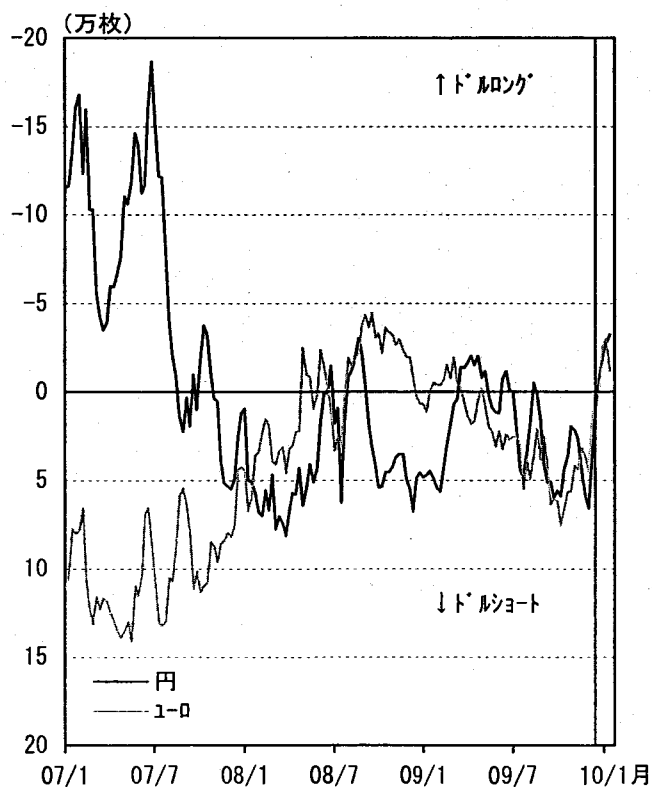
(1) インプライド・ボラティリティ (1か月) の推移



(2) リスクリバーサル (1か月) の推移



(3) IMMネットポジションの推移



(注) 1. (3)は通貨先物取引における非商業目的および目的別計数非報告分のネット建玉の合計。

2. 直近は、(1) (2)は1/19日、(3)は1/12日。

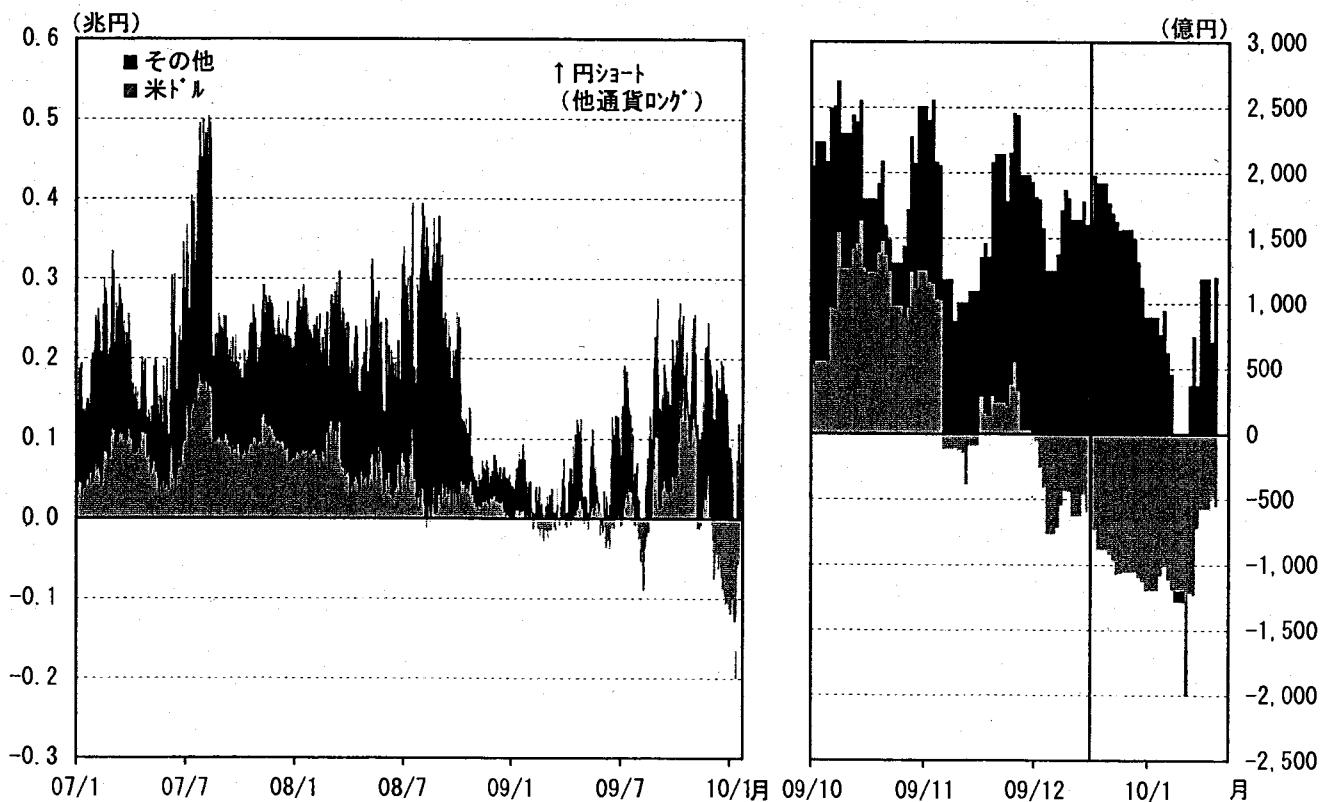
(出所) Bloomberg

クロス円取引の動向

(1) クロス円相場の推移



(2) 外為証拠金取引の動向



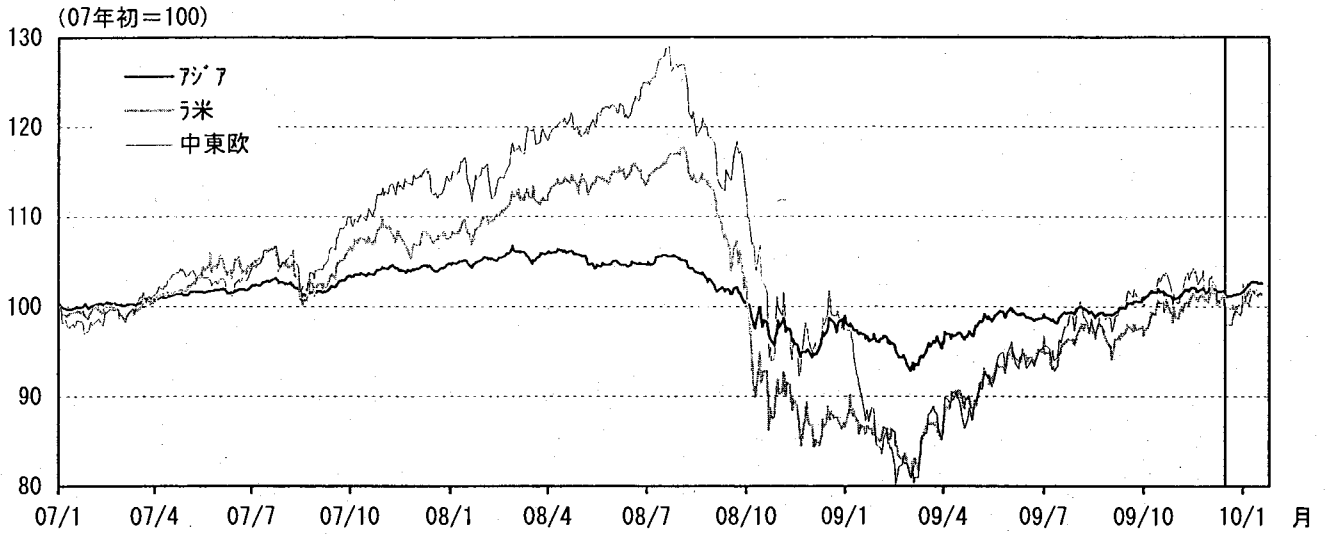
(注) 1. (2)は、円に対する他通貨のネットロングポジション (マーケット・メーカーを除く)。

2. 直近は1/19日。

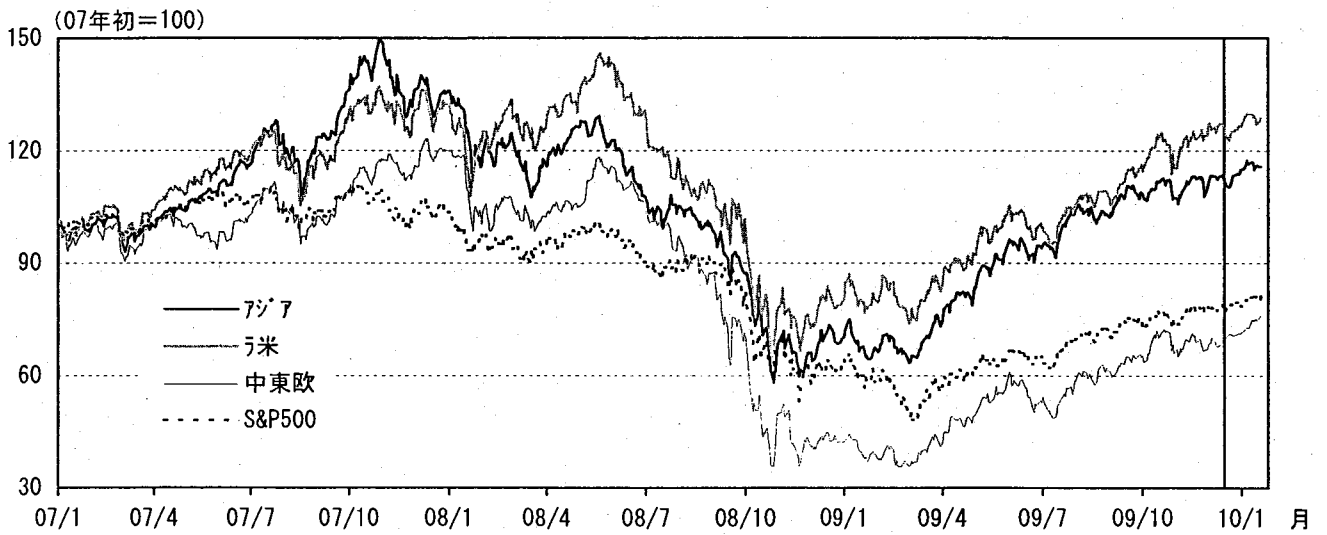
(出所) Bloomberg、東京金融取引所

エマージング、コモディティ市場の動向

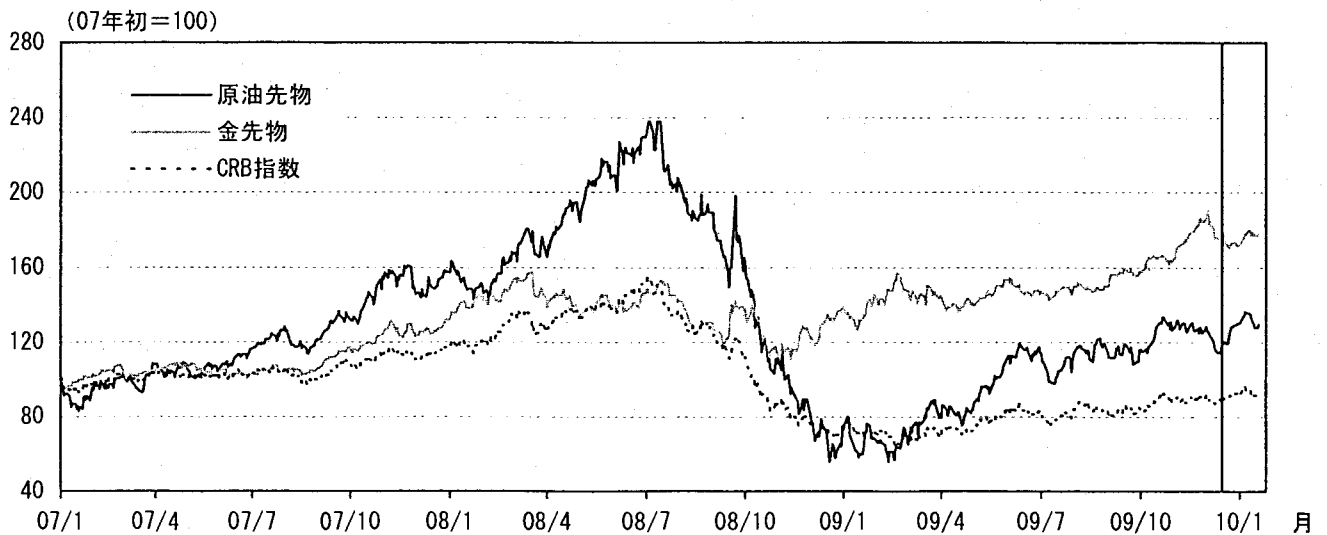
(1) エマージング通貨指数の推移



(2) MSCIエマージング株価指数の推移



(3) コモディティ価格の推移



(注) 1. (1)は対ドル指数。(2)は現地通貨建て。(3)のコモディティ先物はNYMEX期近物。

2. 直近は1/19日。

(出所) Bloomberg

議事録公表時まで対外非公表

< 不開示情報：有（種類：審議・検討） >
 < 配付先：金融政策決定会合関係者限り >
 < 作成局における保管期間満了時期：2040年12月 >

2010.1.25
 金融市場局

1. 「金融調節の運営実績」参考計表【追加】 <資料-1 関連>

- (図表1-1) 金融調節の実績の推移
- (図表1-2) 日銀当座預金の保有状況
- (図表1-3) 09/7月積み期以降の当座預金残高
09/7月積み期以降の短期金利
- (図表1-4) 12月末の短期金融市場
- (図表1-5) 無担コール市場残高
- (図表1-6) 無担コール市場残高（0/N、T/N、S/N計）
- (図表1-7) 最近のオペ結果の推移
- (図表1-8) 資金需給の推移
- (図表1-9) 本行受入担保残高の推移
- (図表1-10) 共通担保使用状況
担保適格 ABCP 等・信用判定の状況

2. 「最近の金融・為替市場の動向」参考計表【追加】 <資料-2 関連>

- (図表2-1) 短期金利の推移
- (図表2-2) ターム物レートの推移（1）
- (図表2-3) ターム物レートの推移（2）
- (図表2-4) フォワードレートの動向
- (図表2-5) 長期金利の推移
- (図表2-6) イールド・カーブの動向
市場参加者が注目する債券利回り変動要因
- (図表2-7) インプライド・ボラティリティの推移
長国先物の値幅・出来高比率の推移
- (図表2-8) 社債流通利回りの対国債スプレッドの推移
- (図表2-9) CDS プレミアムの推移
- (図表2-10) 株式相場の推移
- (図表2-11) 主体別売買動向等
- (図表2-12) 主要為替相場の推移
- (図表2-13) 通貨オプション、先物市場の動向
- (図表2-14) クロス円取引の動向
- (図表2-15) エマージング、コモディティ市場の動向

(注) 図表中の縦線は、特に断りのない限り前回会合の前営業日（12/16日）を表す。

(図表1-1)

金融調節の実績の推移

(億円、%)

	無担 コール レート (O/N) 加重 平均値	日銀当座預金残高(実績値)						補完 貸付 残高	<参考> 日銀当座預金残高見込み		
		日銀当座預金残高(実績値)	準備預金残高(含むゆうちょ銀行)				非準備先 残高		朝方 即日オペ前	9:20 定例調節後	全即日オペ 実施後
			準備預金残高(除くゆうちょ銀行)	超過 準備	残り所要額 (1日平均)	準備預金残高(実績値)					
12月14日(月)	0.092	133,800	117,400		67,900	23,300	16,400	59.0	134,000	-	-
12月15日(火)	0.098	156,100	129,800		73,600	-	26,300	59.0	156,000	-	-
12月16日(水)	0.113	144,200	123,700		22,700	50,000	20,500	49.0	144,000	-	-
12月17日(木)	0.106	151,200	130,800		36,000	49,600	20,400	49.0	152,000	-	-
12月18日(金)	0.105	157,700	127,400		39,200	48,700	30,300	48.0	159,000	-	-
12月21日(月)	0.096	174,300	159,700		54,600	47,900	14,600	48.0	175,000	-	-
12月22日(火)	0.104	155,600	145,800		54,400	47,100	9,800	48.0	155,000	-	-
12月24日(木)	0.102	155,100	144,900		51,200	46,500	10,200	44.0	157,000	-	-
12月25日(金)	0.098	154,500	138,900		52,500	45,700	15,600	43.0	155,000	-	-
12月28日(月)	0.097	155,400	141,000		57,900	45,200	14,400	48.0	156,000	-	-
12月29日(火)	0.097	160,900	133,900		60,200	44,900	27,000	48.0	162,000	-	-
12月30日(水)	0.094	203,400	182,600		82,600	32,400	20,800	48.0	203,000	-	-
1月4日(月)	0.100	171,200	150,700		71,400	30,200	20,500	48.0	171,000	-	-
1月5日(火)	0.095	163,200	147,300		67,600	27,300	15,900	48.0	164,000	-	-
1月6日(水)	0.092	151,300	135,800		66,700	24,900	15,500	48.0	151,000	-	-
1月7日(木)	0.092	149,400	130,800		81,500	23,700	18,600	48.0	149,000	-	-
1月8日(金)	0.092	149,100	126,600		82,900	20,300	22,500	48.0	149,000	-	-
1月12日(火)	0.095	150,200	133,900		93,400	19,400	16,300	48.0	151,000	-	-
1月13日(水)	0.095	150,300	129,300		94,900	19,700	21,000	38.0	150,000	-	-
1月14日(木)	0.094	151,600	125,800		91,100	18,400	25,800	48.0	151,000	-	-
1月15日(金)	0.094	148,900	131,900		93,100	-	17,000	47.0	149,000	-	-
1月18日(月)	0.098	150,500	135,600		44,500	48,800	14,900	45.0	151,000	-	-
1月19日(火)	0.102	152,900	135,800		45,200	48,400	17,100	46.0	153,000	-	-
1月20日(水)	0.101	150,200	133,300		42,700	47,900	16,900	49.0	150,000	-	-
1月21日(木)	0.103	150,400	132,000		44,700	47,400	18,400	49.0	150,000	-	-
1月22日(金)	0.101	149,100	121,300		47,000	47,100	27,800	47.0	150,000	-	-

(注1)準備預金残高(除くゆうちょ銀行)は、対外非公表。

(注2)1月22日分は、5時同時処理終了時点。

日銀当座預金の保有状況

対外非公表

(単位:億円)

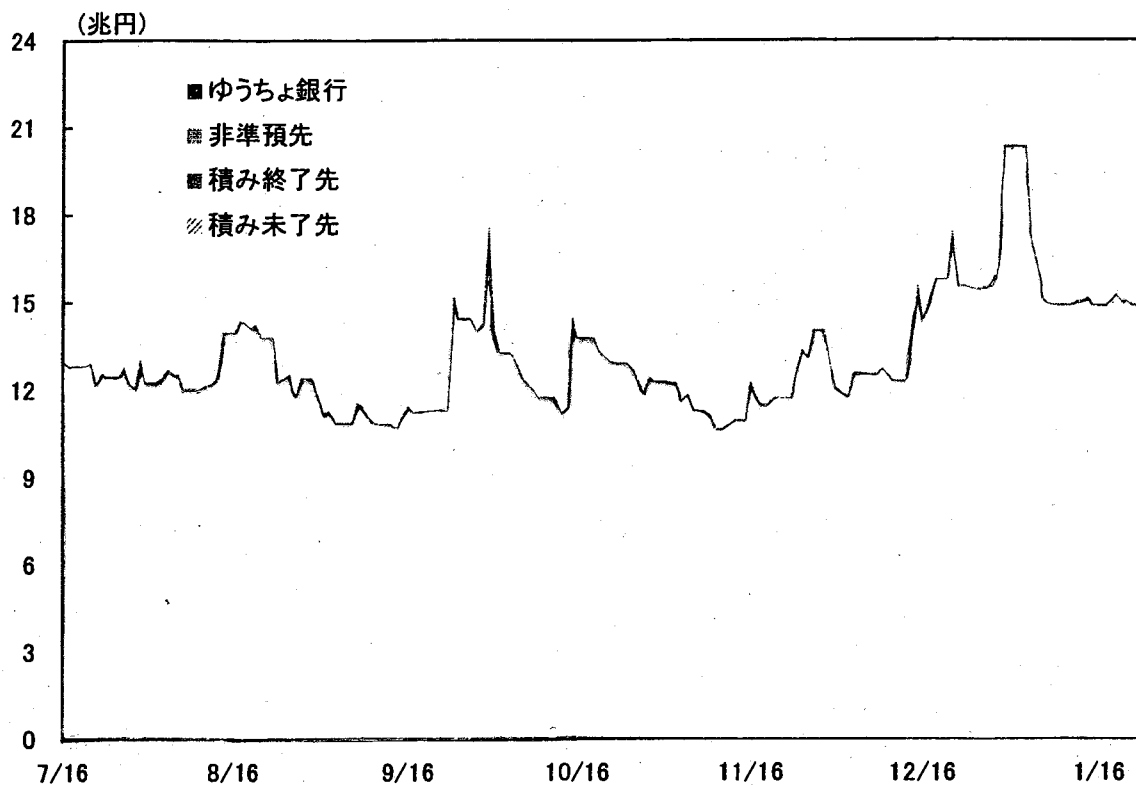
	10月積み期	11月積み期	12月積み期	1月積み期	1月積み期	1月積み期 所要準備額
					1/22日	
準預先	111,044	112,132	142,884	129,386	121,316	<72,643>
除くゆうちょ銀行						< >
都銀	31,910	31,599	36,094	31,221	28,975	<31,188>
地銀	15,828	16,083	18,497	18,536	17,936	<11,883>
地銀Ⅱ	3,502	3,418	4,928	3,632	3,724	<1,513>
外銀	22,576	22,010	31,670	23,570	20,568	<264>
ゆうちょ銀行						< >
非準預先	10,591	13,784	19,654	20,497	27,736	
短資	4,506	5,288	6,327	6,150	6,070	
一部系統	251	980	1,581	237	185	
政府系	351	407	426	330	341	
証券会社等	5,483	7,109	11,320	13,780	21,140	
当預残高	121,635	125,916	162,538	149,883	149,052	

(注1)「証券会社」は、金融商品取引法上の有価証券関連業を行う第一種金融商品取引業者。

(注2)1月積み期の計数は、1/16~1/24日の平均。1/22日は、5時同時処理終了時点。

09/7月積み期以降の当座預金残高

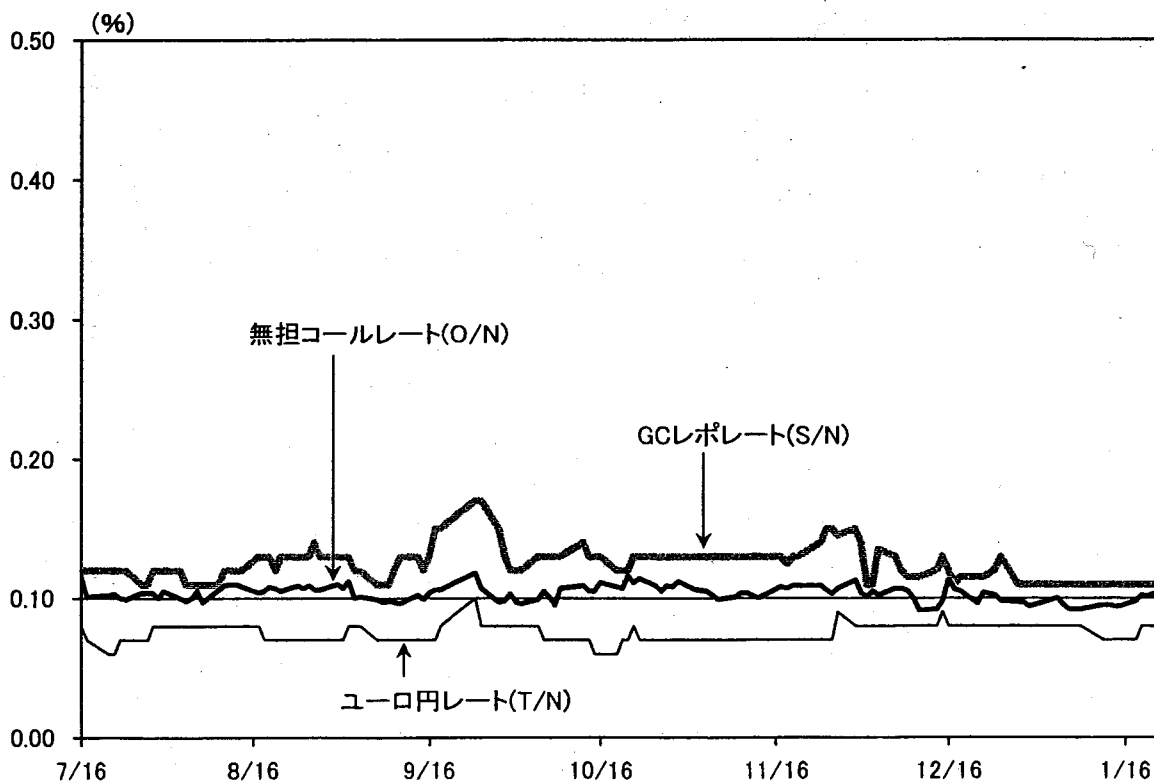
対外非公表



(注) 積み終了先、積み未了先及び一日当たり残り所要(前日終了時点)には、ゆうちょ銀行の計数を含まない。

09/7月積み期以降の短期金利

対外非公表



12月末の短期金融市場

1. 最近の期末日と今回との比較

対外非公表

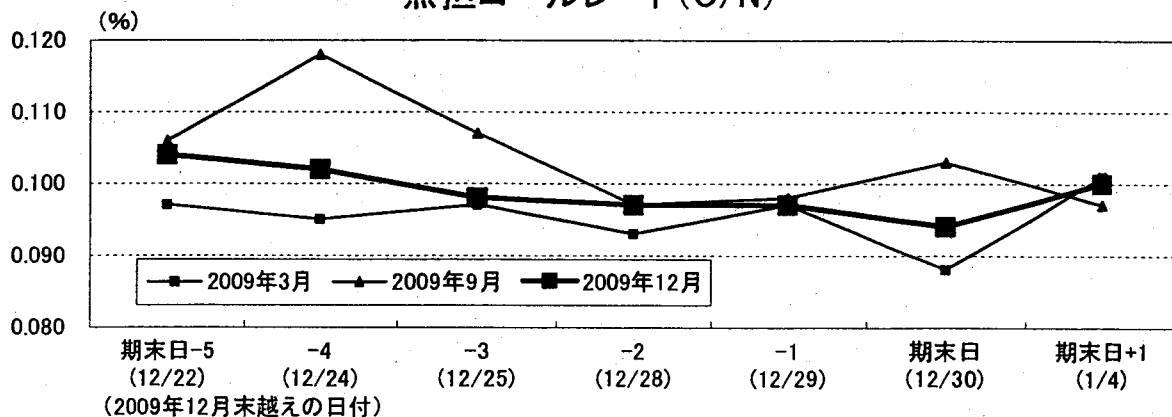
	2009/3月末	2009/6月末	2009/9月末	2009/12月末
無担O/Nレート	0.088%	0.110%	0.103%	0.094%
レポS/Nレート <2営業日前取引>	0.18%	0.17%	0.15%	0.110%
即日オペ	▲0.03兆円	なし	なし	なし
補完貸付実行額	592億円	24億円	33億円	48億円
準預残高 (前日比増減)	()	()	()	()
当預残高 (前日比増減)	22.2兆円 (+5.0兆円)	15.7兆円 (+1.0兆円)	17.6兆円 (+3.3兆円)	20.3兆円 (+4.2兆円)

(注1) 準預残高は、ゆうちょ銀行を除くベース。

(注2) 2009/3月末の即日オペは、国債補完供給。

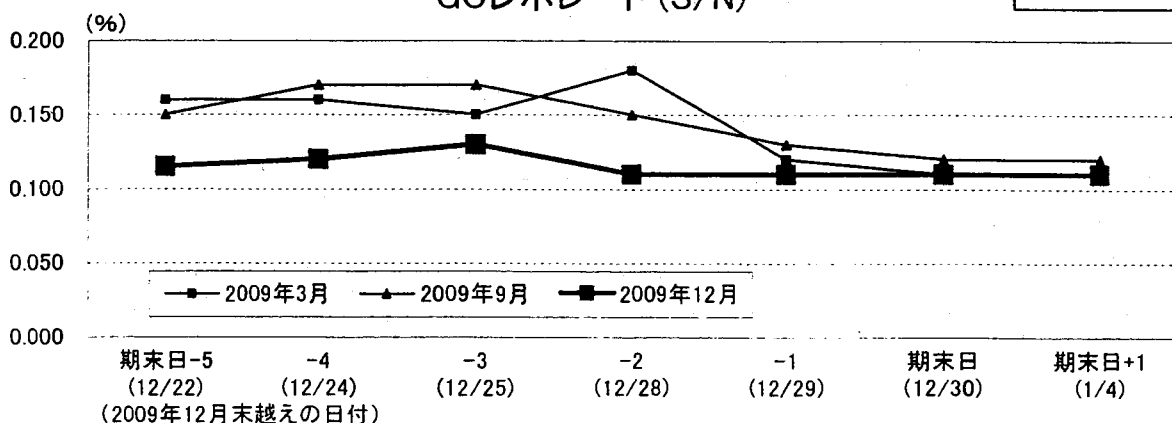
2. 短期レートの推移

無担コールレート(O/N)



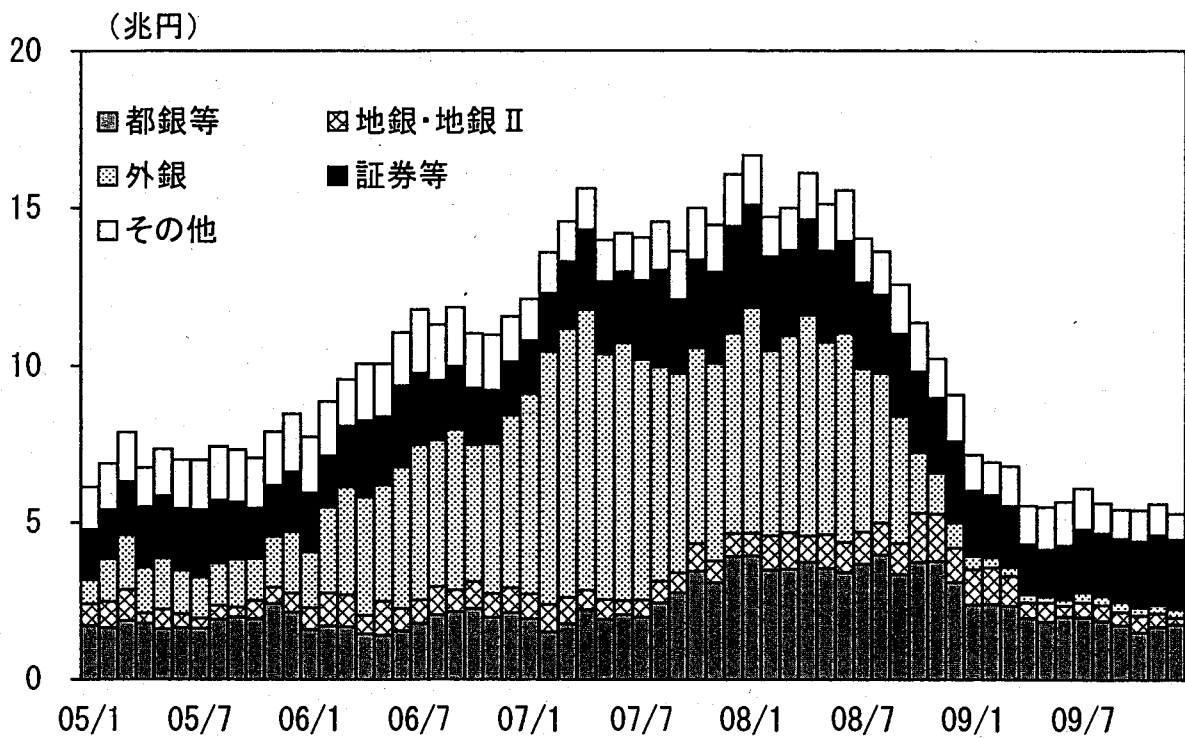
GCLレポレート(S/N)

対外非公表

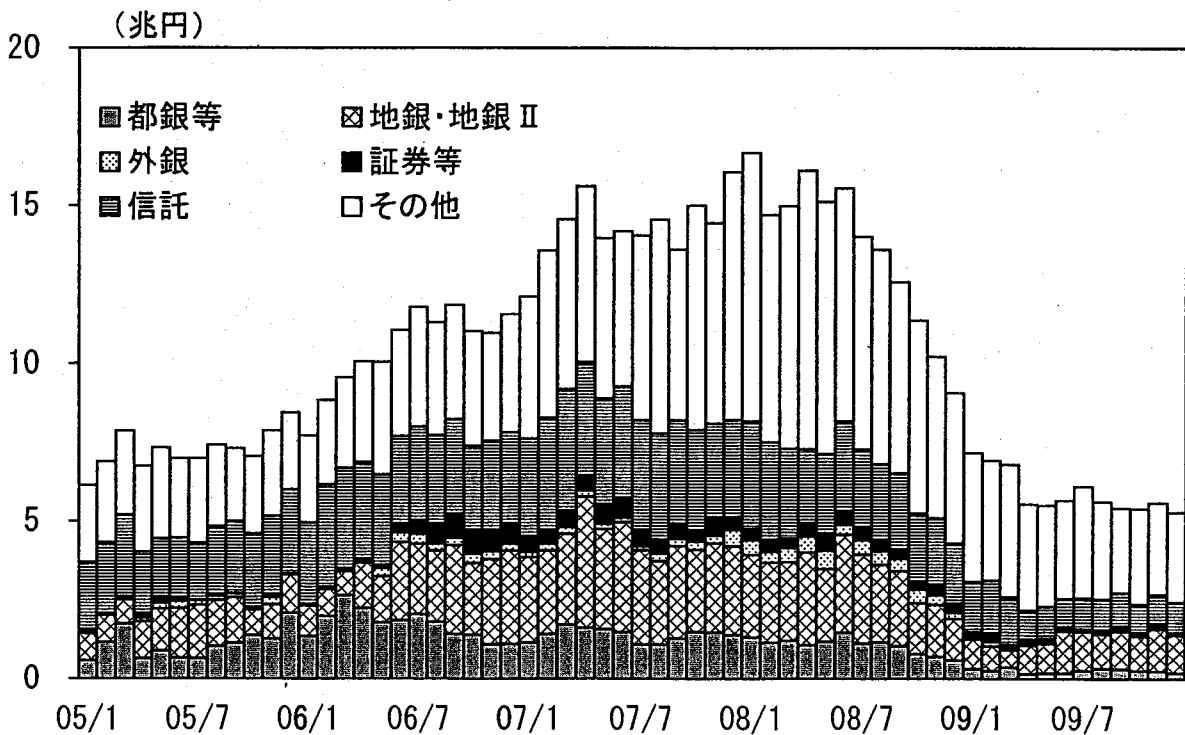


無担コール市場残高

<取り手別>



<出し手別>



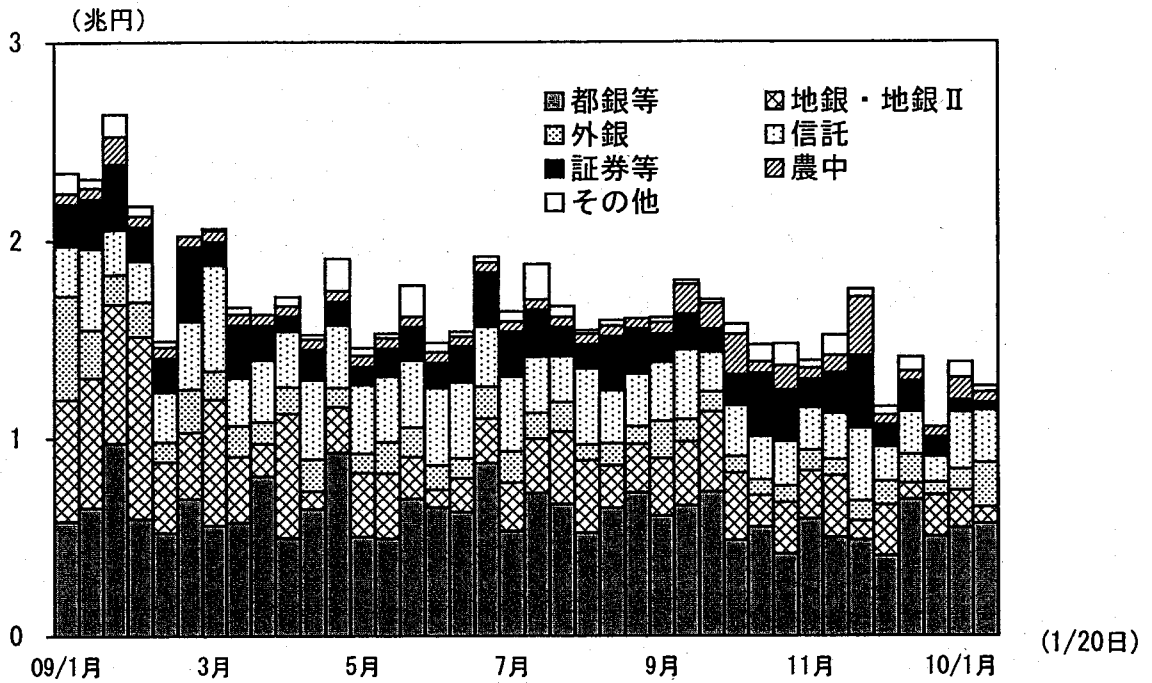
(注1) 月中平残。

(注2) 無担コール市場残高における「都銀等」は都銀、新生銀行、あおぞら銀行。「証券等」は金融商品取引業者（他の区分に属するものを除く）および証券金融会社。

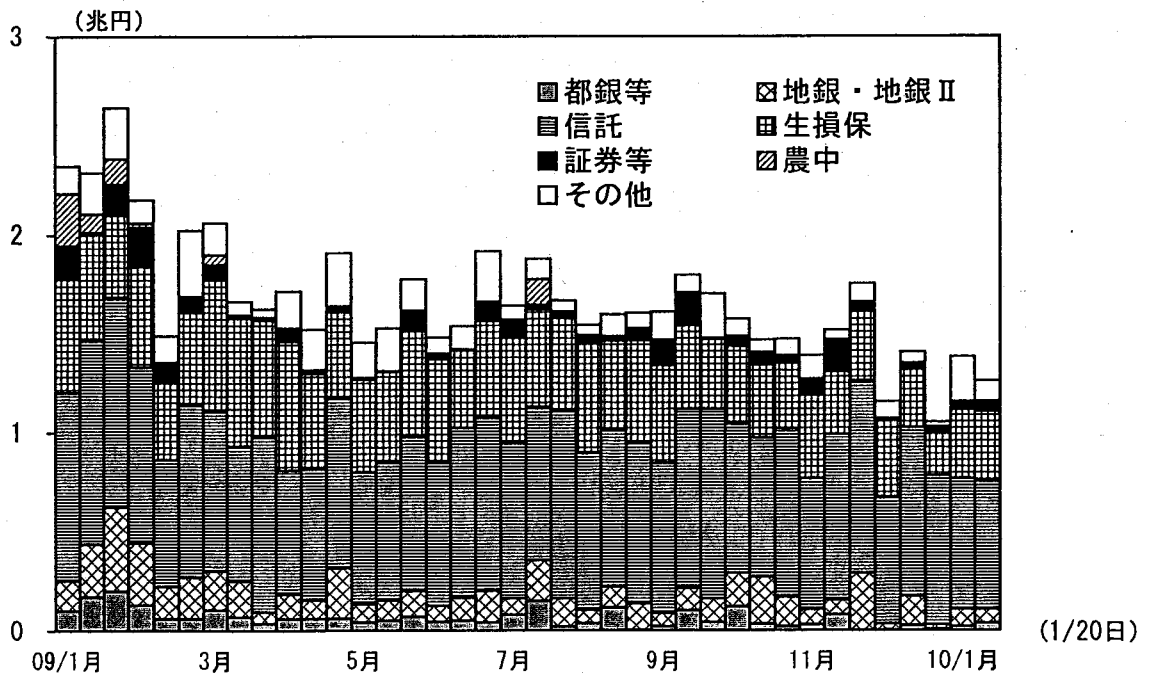
無担コール市場残高 (O/N、T/N、S/N計)

<取り手別>

対外非公表



<出し手別>



(注) 各旬末残高。

(図表1-7)

最近のオペ結果の推移(1)

(資金供給オペ)							(億円、%)	
オペ手段	直近残高	オファー日	スタート	期間	オファー額	応札倍率	平均落札レート	落札決定レート
共通担保・金利入札 (全店)	94,090	12/17	T+2	3M	8,000	4.97	0.110	0.11
		12/21	T+6	5D	10,000	3.57	0.115	0.11
		12/28	T+1	1W	8,000	1.97	0.110	0.10
		1/8	T+1	1W	10,000	2.29	0.105	0.10
		1/14	T+1	2W	8,000	2.85	0.102	0.10
		1/14	T+2	4M	10,000	4.01	0.110	0.10
		1/22	T+1	1W	12,000	1.56	0.100	0.10
共通担保・金利入札 (本店)	132,094	12/21	T+1	1W	4,000	3.40	0.110	0.11
		12/22	T+1	5D	8,000	2.91	0.106	0.10
		12/22	T+1	2W	10,000	3.42	0.111	0.11
		12/24	T+1	2W	6,000	3.13	0.115	0.11
		12/25	T+1	1W	8,000	2.82	0.130	0.13
		12/25	T+1	1W	6,000	3.15	0.122	0.12
		1/5	T+1	1W	6,000	3.18	0.108	0.10
		1/6	T+1	1W	8,000	3.52	0.110	0.11
		1/7	T+1	1W	12,000	2.34	0.101	0.10
		1/7	T+2	2M	8,000	3.94	0.110	0.11
		1/12	T+1	1W	4,000	3.30	0.109	0.10
		1/13	T+1	1W	8,000	2.30	0.100	0.10
		1/13	T+1	2W	8,000	3.25	0.107	0.10
		1/15	T+1	1W	4,000	2.95	0.103	0.10
		1/18	T+1	1W	4,000	2.30	0.100	0.10
		1/19	T+1	1W	6,000	1.63	0.100	0.10
		1/19	T+1	1W	8,000	2.39	0.100	0.10
		1/20	T+1	1W	10,000	2.04	0.100	0.10
		1/20	T+2	2M	8,000	3.51	0.102	0.10
		1/21	T+1	1W	10,000	1.45	0.100	0.10
		1/21	T+1	2W	10,000	1.79	0.100	0.10
共通担保・固定金利 (全店)	56,104	12/24	T+2	3M	8,000	8.37	0.100	0.10
		12/28	T+2	3M	8,000	7.32	0.100	0.10
		1/4	T+2	3M	8,000	8.05	0.100	0.10
		1/13	T+2	3M	8,000	8.92	0.100	0.10
		1/18	T+2	3M	8,000	8.26	0.100	0.10
CP等買現先	27,475	12/17	T+2	1M	4,000	1.63	0.106	0.10
		12/21	T+2	1M	4,000	1.83	0.109	0.10
		12/24	T+2	2W	4,000	2.28	0.115	0.11
		12/28	T+2	2W	4,000	1.91	0.118	0.11
		12/30	T+2	1M	4,000	1.46	0.107	0.10
		1/5	T+2	1M	4,000	1.69	0.108	0.10
		1/7	T+2	2W	4,000	1.63	0.107	0.10
		1/12	T+2	2W	4,000	1.54	0.104	0.10
		1/14	T+2	1M	4,000	1.00	0.100	0.10
		1/19	T+2	1M	4,000	0.92	0.103	0.10
		1/21	T+2	2W	4,000	0.94	0.100	0.10
国債買現先	33,923	12/17	T+2	1D	35,000	1.60	0.112	0.10
		12/17	T+2	1W	6,000	4.05	0.119	0.11
		12/18	T+2	2D	25,000	2.40	0.111	0.11
		12/18	T+2	1W	6,000	2.14	0.114	0.11
		12/21	T+2	1D	20,000	2.54	0.110	0.10
		12/21	T+2	2W	6,000	3.43	0.120	0.12
		12/22	T+2	3D	18,000	2.47	0.110	0.10
		12/22	T+2	2W	6,000	3.10	0.117	0.11
		12/24	T+2	1D	20,000	2.73	0.110	0.11
		12/24	T+2	1W	6,000	3.79	0.118	0.11
		12/25	T+2	1D	25,000	2.60	0.127	0.12
		12/25	T+2	1W	6,000	3.69	0.125	0.12
		12/28	T+2	5D	40,000	1.28	0.119	0.10
		12/28	T+2	1W	6,000	3.01	0.120	0.12
		12/29	T+2	1D	25,000	1.97	0.111	0.10
		12/29	T+2	1W	6,000	3.77	0.112	0.11
		12/30	T+2	1D	20,000	2.31	0.104	0.10
		12/30	T+2	1W	6,000	3.79	0.110	0.11
		1/4	T+2	1D	15,000	3.51	0.109	0.10
		1/4	T+2	1W	6,000	4.00	0.111	0.11
		1/5	T+2	1D	12,000	3.10	0.109	0.10
		1/5	T+2	1W	6,000	3.43	0.110	0.11
		1/6	T+2	4D	10,000	3.27	0.110	0.11
		1/6	T+2	1W	6,000	3.59	0.111	0.11
		1/7	T+2	1D	20,000	2.38	0.110	0.11
		1/7	T+2	1W	6,000	3.64	0.110	0.11
		1/8	T+2	1D	18,000	2.14	0.108	0.10
		1/8	T+2	1W	6,000	3.55	0.110	0.11
		1/12	T+2	1D	15,000	2.00	0.107	0.10
		1/12	T+2	1W	6,000	3.15	0.112	0.11
		1/13	T+2	3D	12,000	3.21	0.110	0.11
		1/13	T+2	1W	6,000	3.38	0.111	0.11
		1/14	T+2	1D	12,000	2.89	0.110	0.11
		1/14	T+2	1W	6,000	3.26	0.111	0.11
		1/15	T+2	1D	10,000	2.96	0.108	0.10
		1/15	T+2	1W	6,000	2.65	0.108	0.10
1/18	T+2	1D	8,000	3.96	0.109	0.10		
1/18	T+2	1W	6,000	3.26	0.106	0.10		
1/19	T+2	1D	6,000	3.28	0.110	0.11		
1/19	T+2	1W	6,000	3.44	0.102	0.10		
1/20	T+2	3D	4,000	2.59	0.108	0.10		
1/20	T+2	1W	6,000	3.02	0.101	0.10		
1/21	T+2	1D	4,000	3.49	0.110	0.11		
1/21	T+2	1W	6,000	2.82	0.108	0.10		
1/22	T+2	1D	4,000	3.13	0.106	0.10		
1/22	T+2	1W	6,000	3.34	0.104	0.10		

(注1) オペ直近残高は2010/1/22日現在(実行日ベース)。

(注2) 国債買現先オペによる買入国債・受入担保国債のうち、変動利付債は5,208億円、物価連動債は1,989億円、30年債は524億円(2010/1/22日現在<実行日ベース>、対外非公表)。

(注3) 共通担保・固定金利の平均落札レート及び落札決定レートは、貸付利率(固定金利)。

(図表1-7)

最近のオペ結果の推移(2)

(資金供給オペ)							(億円、%)	
オペ手段	直近残高	オファー日	スタート	期間	オファー額	応札倍率	平均落札レート	落札決定レート
国庫短期証券買入	97,480	12/18	T+3	-	4,000	3.49	0.001	-0.002
		12/25	T+3	-	4,000	3.62	0.006	0.006
		1/8	T+3	-	4,000	4.46	0.000	-0.002
		1/14	T+3	-	4,000	4.30	-0.002	-0.003
		1/21	T+3	-	4,000	4.59	-0.001	-0.002
CP等買入	0	12/18	T+3	-	3,000	0.00	-	-
国債買入	-	12/24	T+3	-	2,500	3.19	0.014	0.013
		12/24	T+3	-	1,200	2.02	-0.073	0.040
		1/7	T+3	-	3,100	1.65	0.000	-0.002
		1/7	T+3	-	2,500	2.71	0.005	0.005
		1/15	T+3	-	2,500	2.99	0.001	0.000
		1/15	T+3	-	1,000	3.25	-0.012	-0.013
		1/20	T+3	-	3,100	1.15	-0.044	-0.129
		1/20	T+3	-	2,500	3.05	0.012	0.011

(国債補完供給)				(億円、%)	
発動日	供給額	対象銘柄	平均落札レート	落札決定レート	
12/22	5,000	物価連動国債10年6回	0.400	0.400	
1/12	5,000	変動利付国債15年33回	0.400	0.400	

(米ドル資金供給オペ)							(百万ドル、%)
オペ手段	直近残高	オファー日	スタート日 (米国東部時間)	期間	落札額	応札倍率	貸出利率 (固定金利)
米ドル資金供給	100	1/12	1/14	29D	100	-	1.150

(企業金融支援特別オペ)							(億円、%)
オペ手段	直近残高	オファー日	スタート日	期間	落札額	応札倍率	当初貸付利率
企業金融支援特別	66,846	12/21	12/25	3M	9,771	-	0.100
		12/29	1/5	3M	6,574	-	0.100
		1/7	1/13	3M	3,350	-	0.100
		1/14	1/19	3M	3,376	-	0.100
		1/20	1/25	3M	5,345	-	0.100

- (注1) オペ直近残高は2010/1/22日現在(実行日ベース)。
(注2) 国庫短期証券買入・CP等買入・国債買入の平均落札レート及び落札決定レートは、利回り較差(変動利付債・物価連動債については、価格較差)。
(注3) 国庫短期証券買入の直近残高は、繰上償還等を控除していない。
(注4) シャドーは即日スタート分。

(図表 1-8)

資金需給の推移

(単位：兆円)

	資金需給 (国庫短期証券調整済)			金融調節 (国庫短期証券調整済)	当預残高 (末残)	
		銀行券	財政等 (国庫短期証券調整済)			
09/7月	▲9.8	+0.3	▲10.2	+6.3	12.3	
8月	▲5.1	+0.2	▲5.4	+4.8	11.9	
9月	+2.5	+0.3	+2.2	+3.2	17.6	
10月	+1.3	▲0.3	+1.7	▲6.6	12.3	
11月	▲5.0	▲0.0	▲5.0	+5.7	13.0	
12月	▲0.8	▲4.7	+3.9	+8.1	20.3	
10/ 1月	(-22日)	▲4.5	+4.1	▲8.6	▲0.9	14.9
	(25日-)	▲0.5	+0.0	▲0.5	▲6.3	N.A.

(注1) ここでの資金需給は、各月の表面上の計数に、本行が買入れた国庫短期証券の償還額を加えたもので、実力ベースの資金需給。金融調節は、国庫短期証券の償還分も含めた計数で、短期オペ残高の増減に国債買入額を加えたものに一致する。

(注2) 1月(25日-)の資金需給は、現時点での予想。金融調節は、1/22日までにオフターしたオペのスタート・期落ち分に国債買入(0.3兆円)を加えたもの。

(注3) 四捨五入の関係で、資金需給の内訳と合計は必ずしも一致しない。

(図表1-9)

(*)は対外非公表

本行受入担保残高の推移

末残、単位：表内=兆円、括弧内=億円

担保種類	2009/7月	8月	9月	10月	11月	12月
総計	105.9	110.4	105.3	100.9	106.1	106.7
国債	70.6	74.1	67.9	64.8	69.5	69.2
利付国債等 ^(注1)	50.4	52.4	48.8	47.0	48.4	^(注2) 49.2
変動利付国債(*)	11.9	11.4	10.3	10.0	10.1	10.3
物価連動国債(*)	2.1	1.9	2.1	1.8	2.0	1.8
国庫短期証券	20.1	21.7	19.0	17.8	21.1	20.0
社債等 ^(注3)	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
短期社債等 ^(注4)	3.3	3.2	3.0	2.7	2.8	3.3
その他債券 ^(注5)	6.0	5.8	5.8	5.7	5.9	5.8
手形 ^(注6)	1.3	1.4	0.9	1.3	1.1	0.9
証貸	23.0	24.1	25.9	24.7	25.0	25.7
企業向け等 ^(注7)	5.1	5.3	5.3	5.6	5.7	5.5
政府向け等 ^(注8)	17.9	18.8	20.6	19.1	19.2	20.2
うち民間債務分	11.4	11.5	10.9	11.3	11.3	11.4

ABS	424	426	427	428	431	432
ABCP ^(注9)	2,780	2,835	2,844	2,793	2,322	2,337
(うち特則分) (*)	(9)	(55)	(47)	(0)	(8)	(19)
社債特則分(*)	554	525	552	524	537	502
企業向け証貸特則分(*)	4,433	5,071	4,791	4,951	4,945	4,930
不動産投資法人債	46	40	40	46	40	43
不動産投資法人CP ^(注10)	0	0	0	0	0	0
不動産投資法人向け証貸	0	0	0	0	0	0
政府保証付短期債券	0	0	0	0	0	0
政府(特別会計含む)向け証貸	165,103	174,825	192,210	175,688	176,693	187,232
政府保証付証貸	14,257	13,479	13,977	15,313	15,441	14,425
地方公共団体向け証貸	116	177	162	277	352	352
外貨建外国債券	0	39	0	0	0	0

(参考) 現先オペでの買入残高

末残、単位：表内=兆円、括弧内=億円

オペ種類	2009/7月	8月	9月	10月	11月	12月
国債買現先オペでの国債買入残高	4.9	4.1	7.0	3.7	3.8	6.9
CP等買現先オペでのCP買入残高	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7

ABCP買入残高	5,621	4,839	4,394	4,928	4,290	4,521
(うち特則分) (*)	(4,893)	(4,152)	(3,772)	(4,227)	(3,515)	(3,937)
不動産投資法人CP買入残高	0	0	0	0	0	20
政府保証付短期債券買入残高	400	290	0	0	0	0

(注1) 利付国債、割引国債、承継国債および分離国債。

(注2) 分離国債は、186億円。(*)

(注3) 不動産投資法人債を含む。

(注4) 短期社債、保証付短期外債、資産担保短期債券、短期不動産投資法人債および政府保証付短期債券。

(注5) 外貨建外国債券を含む。

(注6) CPを含む。

(注7) 不動産投資法人向け証貸を含む。

(注8) 政府(特別会計含む)向け証貸、政府保証付証貸および地方公共団体向け証貸。

(注9) 資産担保短期債券を含む(以下同じ)。

(注10) 短期不動産投資法人債を含む(以下同じ)。

(図表1-10)

対外非公表

共通担保使用状況

単位：兆円

	2009/7月	8月	9月	10月	11月	12月
共通担保使用額合計 ^(注1)	31.5	34.0	31.2	26.3	30.5	33.3
うち共通担保オペ使用額 ^(注1)	29.7	32.9	30.1	25.3	29.5	32.4
当座貸越残高 日中ピーク ^(注2)	5.3	5.6	5.8	6.2	5.7	5.1

(注1) 末残。企業金融支援特別オペを含む。

(注2) 平残（ITC口を除く）。

(*)は対外非公表

担保適格ABC等・信用判定の状況

1. 担保適格ABC、J-REITの状況

	件数	発行枠	受入残高 ^(注1)
担保適格ABC (特則分) (*)	14件	9兆5,500億円	3,956億円
担保適格ABC (本則分) (*)	5件	1兆550億円	2,902億円
市中ABC計 ^(注2)	39件	16兆2,533億円	—
担保適格J-REIT	10件 (*)	—	63億円

(注1) 「受入残高」は2009年12月末時点（共通担保受入額とCP等買現先オペでの買入残高の合計）。

(注2) 「市中ABC計」は2009年9月末の計数。

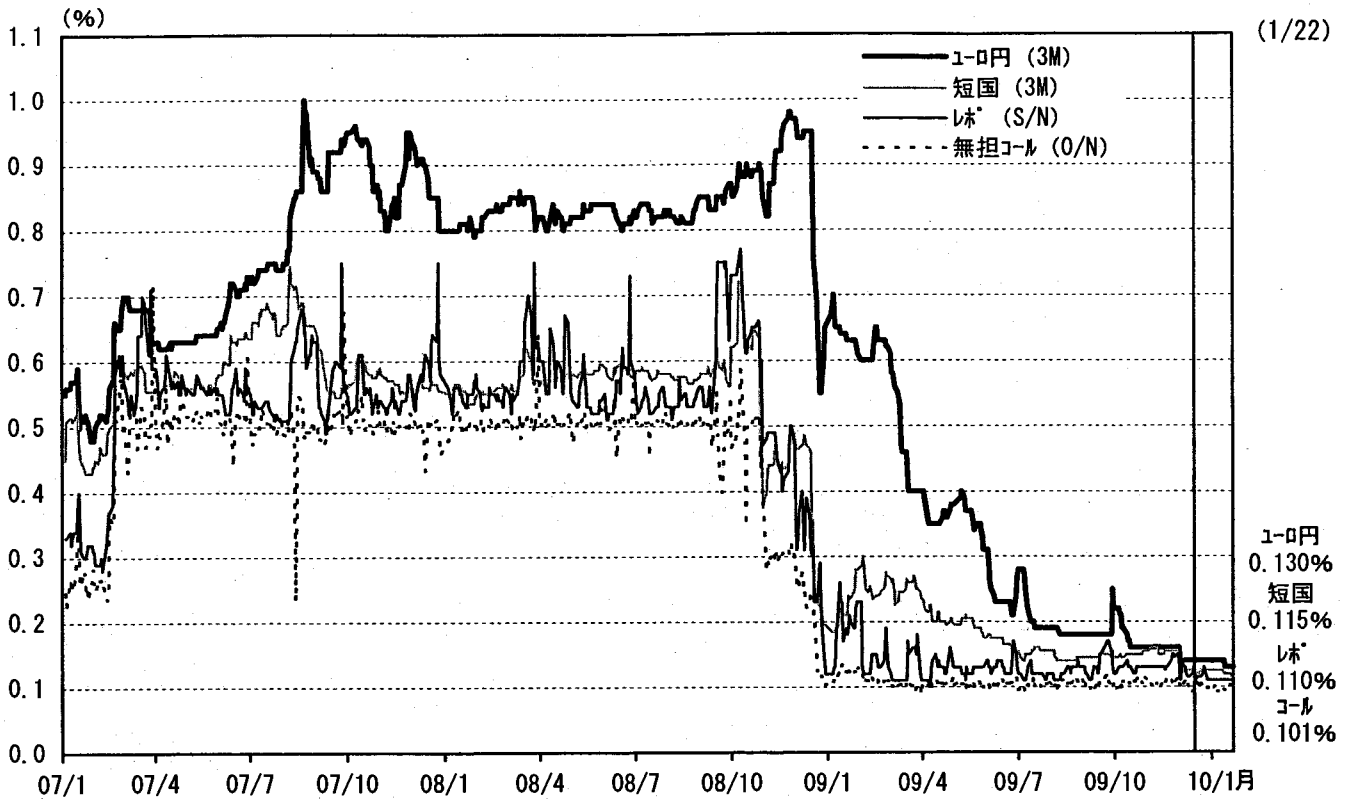
2. 信用判定の状況

	2009/7月	8月	9月	10月	11月	12月	2010/1月 ^(注)
新規適格化先数 (*)	3	0	0	0	1	0	0 (2)
取下げ・抹消先数 (*)	3	0	1	1	3	2	0
信用判定適格先数	369	369	368	367	365	363	363

(注) 1/20日時点。カッコ内は審査中の件数。

短期金利の推移

(1) 短期金利の推移



(2) ターム物レート等の推移

(%)

	無担コール	レポ	TIBOR	ユーロ円			短国		
	0/N	S/N	3M	1M	3M	6M	3M	6M	1Y
09/12/16	0.113	0.120	0.464	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/17	0.106	0.110	0.464	0.130	0.140	0.230	0.125	0.130	0.140
12/18	0.105	0.115	0.464	0.130	0.140	0.230	0.120	0.125	0.135
12/21	0.096	0.115	0.463	0.130	0.140	0.230	0.120	0.125	0.130
12/22	0.104	0.115	0.463	0.130	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
12/24	0.102	0.120	0.463	0.130	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
12/25	0.098	0.130	0.463	0.130	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
12/28	0.097	0.110	0.463	0.120	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
12/29	0.097	0.110	0.465	0.120	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
12/30	0.094	0.110	0.464	0.120	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
10/ 1/4	0.100	0.110	0.462	0.120	0.140	0.230	0.125	0.125	0.130
1/5	0.095	0.110	0.460	0.120	0.140	0.230	0.125	0.130	0.130
1/6	0.092	0.110	0.458	0.120	0.140	0.230	0.125	0.130	0.130
1/7	0.092	0.110	0.456	0.120	0.140	0.230	0.125	0.130	0.130
1/8	0.092	0.110	0.456	0.120	0.140	0.230	0.125	0.130	0.130
1/12	0.095	0.110	0.456	0.120	0.140	0.230	0.125	0.130	0.130
1/13	0.095	0.110	0.456	0.120	0.140	0.230	0.120	0.130	0.130
1/14	0.094	0.110	0.456	0.110	0.130	0.230	0.120	0.130	0.130
1/15	0.094	0.110	0.456	0.110	0.130	0.230	0.120	0.130	0.130
1/18	0.098	0.110	0.456	0.110	0.130	0.230	0.120	0.130	0.130
1/19	0.102	0.110	0.455	0.110	0.130	0.230	0.120	0.125	0.130
1/20	0.101	0.110	0.455	0.110	0.130	0.230	0.115	0.120	0.125
1/21	0.103	0.110	0.455	0.110	0.130	0.230	0.115	0.120	0.125
1/22	0.101	0.110	0.455	0.110	0.130	0.230	0.115	0.120	0.125

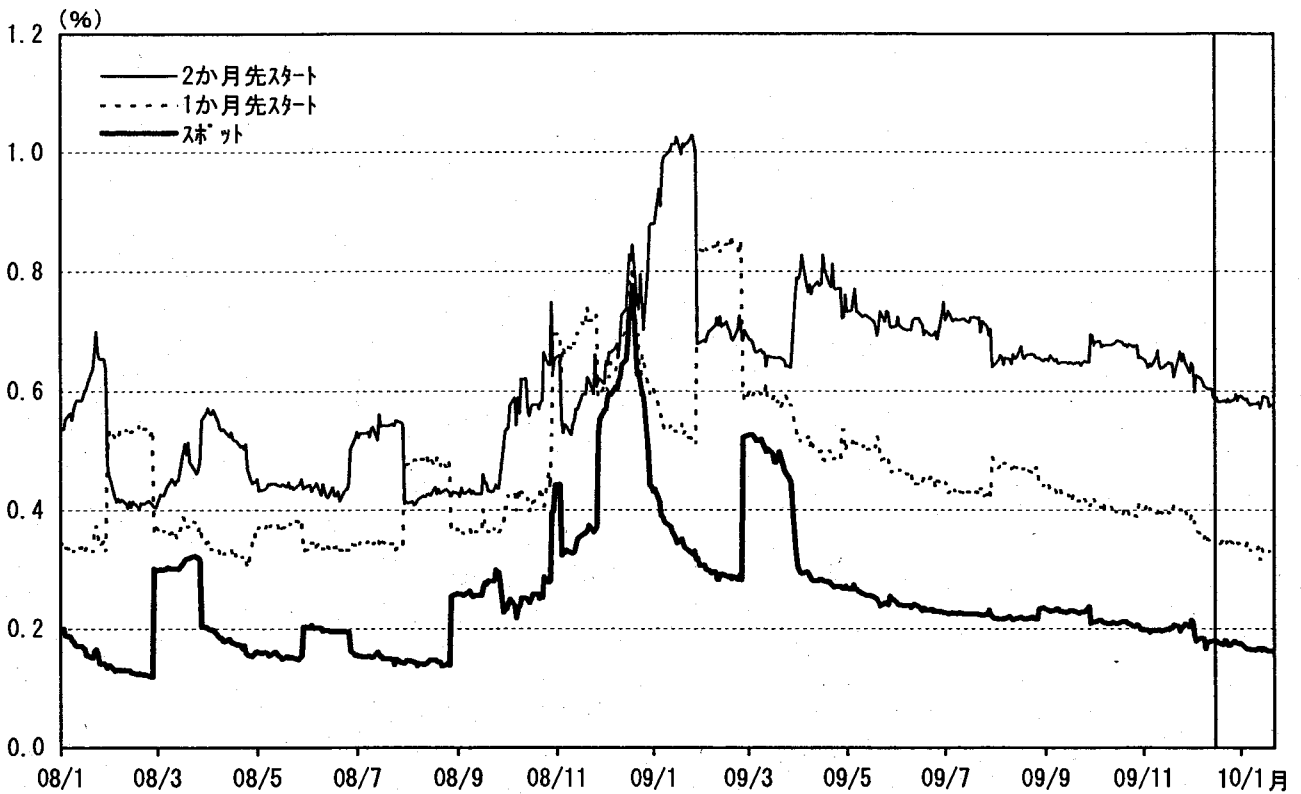
(注) 1. レポレート、ユーロ円レートはヒアリングベース (対外非公表)。

2. 短国レートはT-Bill利回り。ただし、09/2月の統合発行以前はFB/TB利回り。

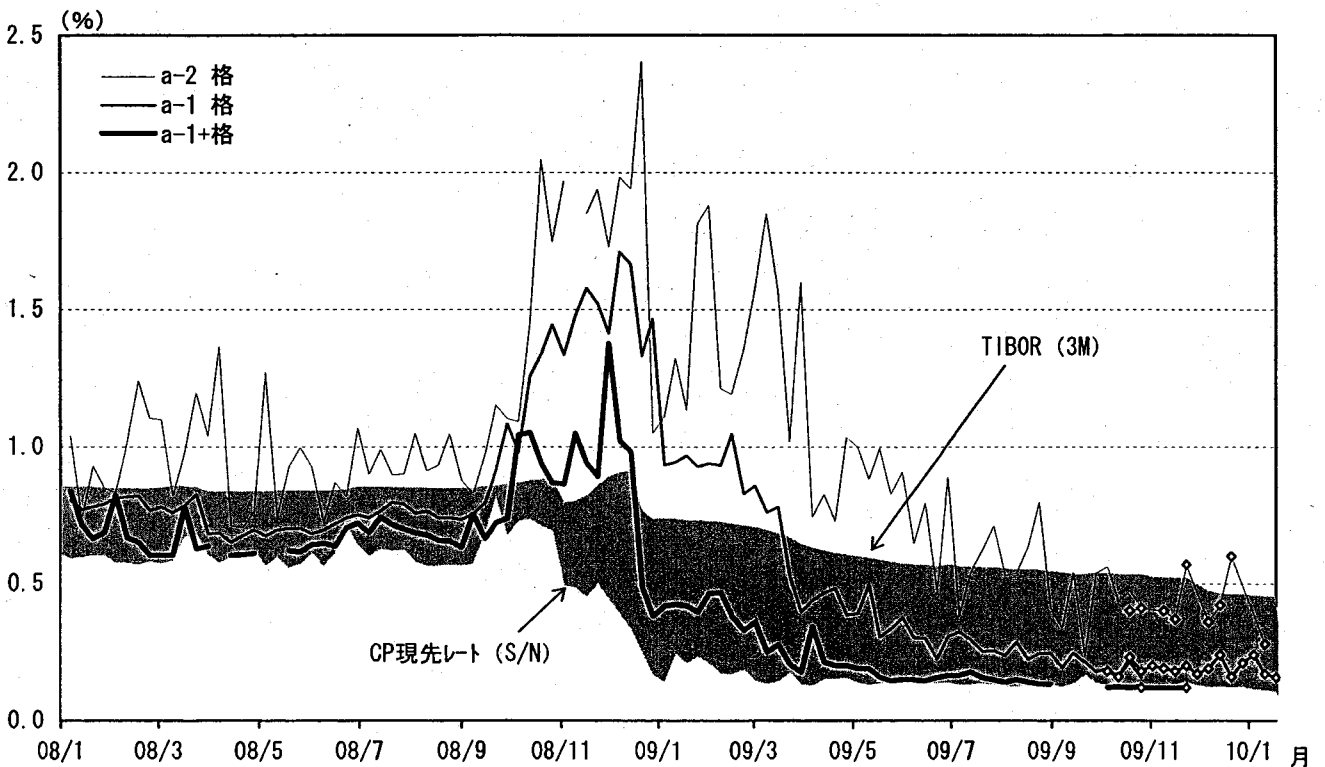
(出所) 全国銀行協会、日本相互証券、日本銀行

ターム物レートの推移 (1)

(1) TIBOR-OISスプレッド (1か月物フォワードレート) の推移



(2) CP発行レート (3か月物) の推移



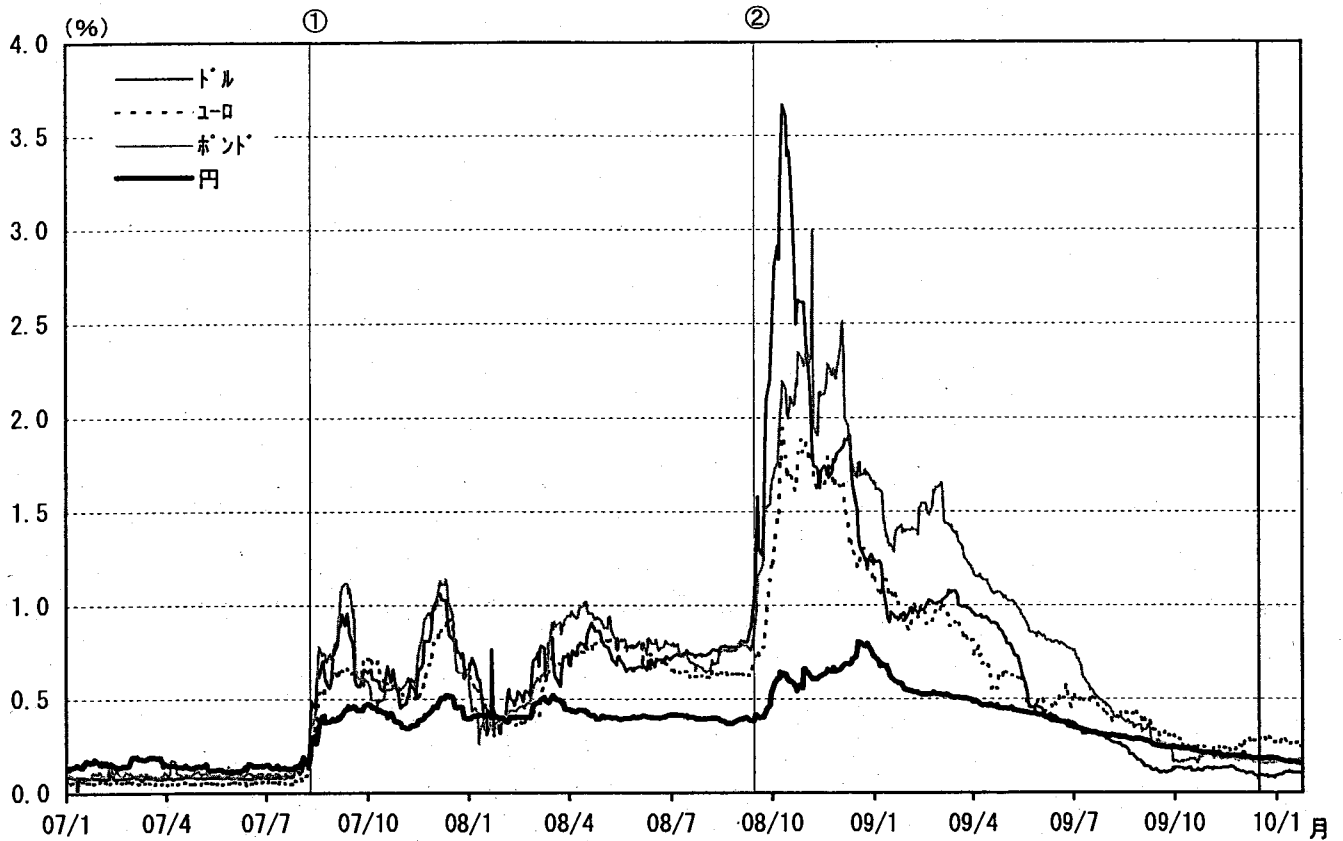
(注) 1. (2)のCP発行レートは、週次平均レート (証券保管振替機構公表計数: ◇印)。ただし、09/10月以前はCP等買現先オへの対象先による引受分 (対外非公表)。発行額による加重平均で、格付けは基本的にR&Iによる。金融機関発行分およびABCPは除く。

2. 直近は、(1)は1/22日、(2)は1/18日週 (21日までの日次計数の平均)。

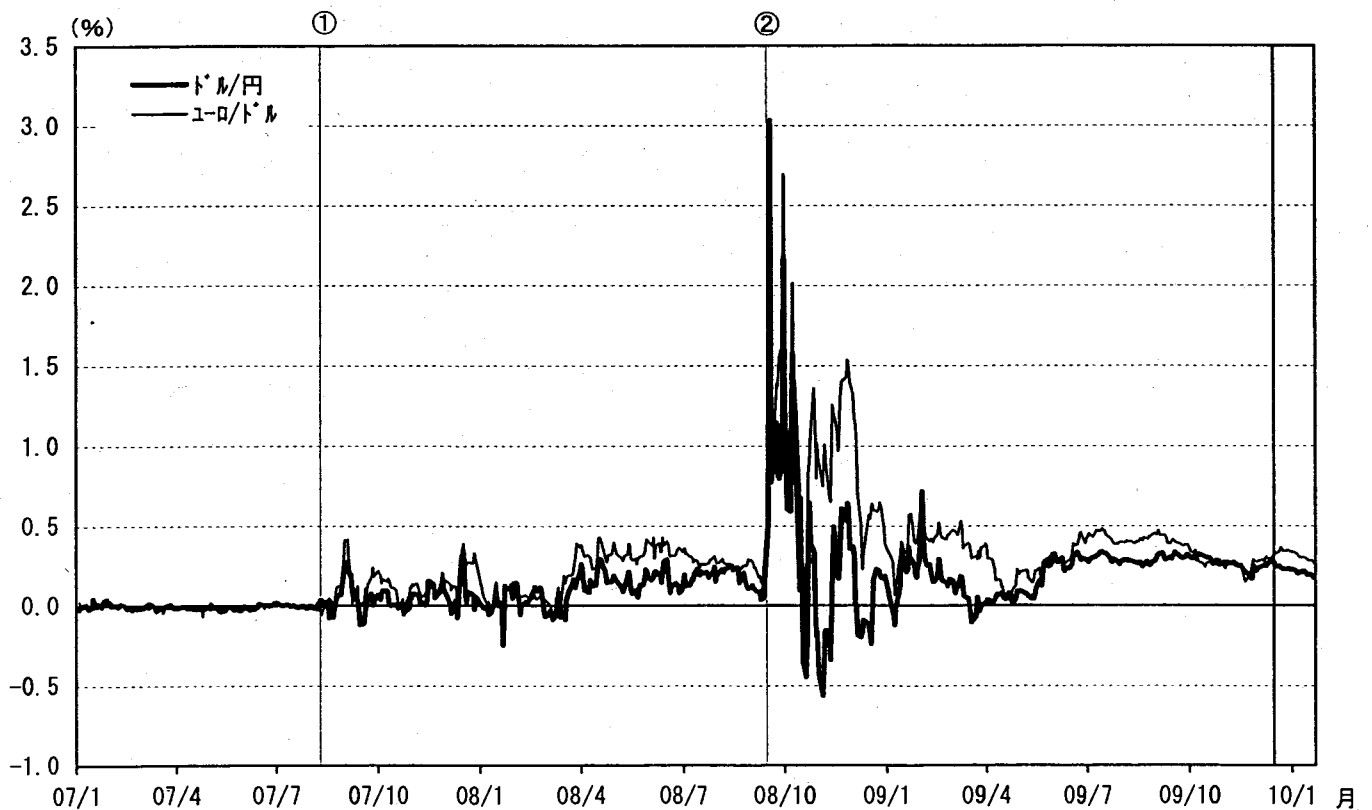
(出所) Bloomberg、証券保管振替機構、全国銀行協会、日本銀行

ターム物レートの推移 (2)

(1) LIBOR-OISスプレッド (3か月物) の推移



(2) ドル転コスト対ドルLIBORスプレッド (3か月物) の推移



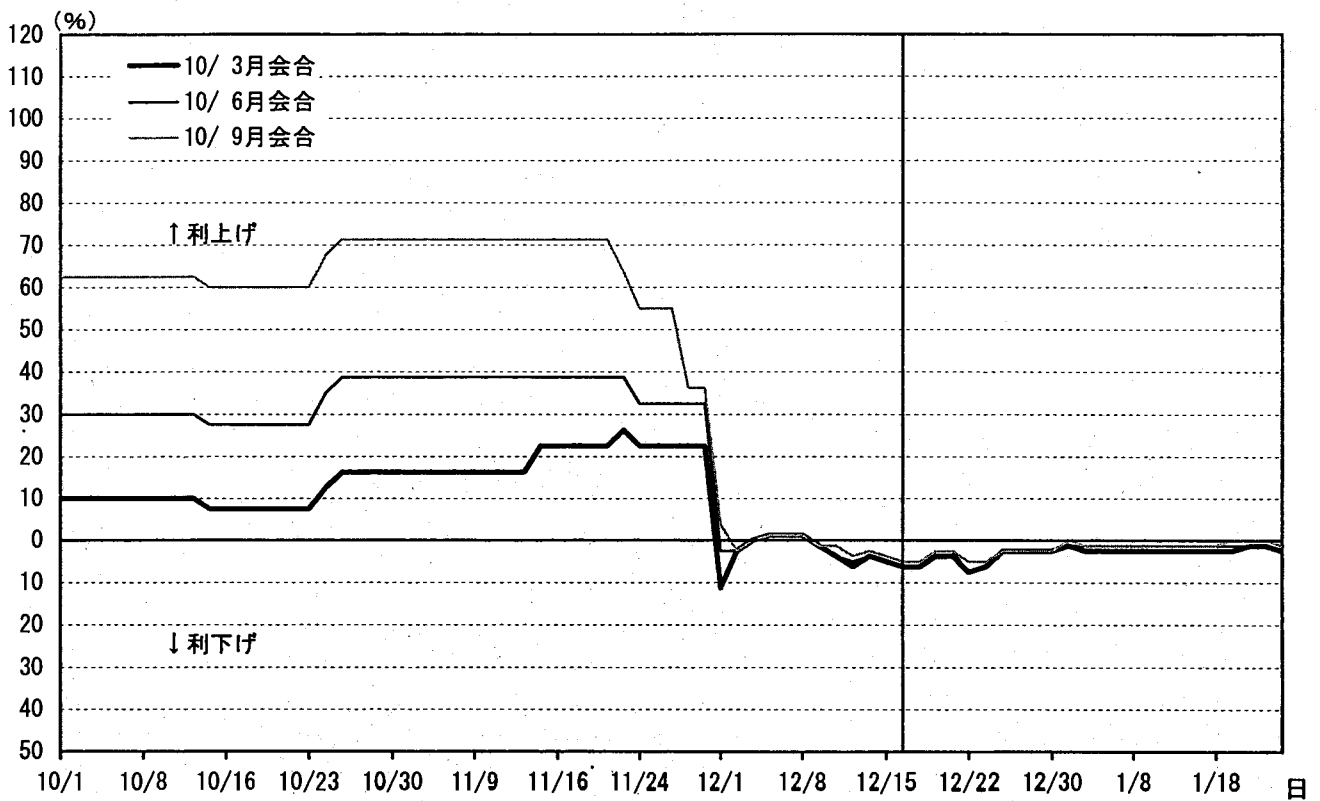
(注) 1. ①はパリバ・ショック (07/8/9日) 時点、②はリーマン破綻 (08/9/15日) 時点。

2. 直近は1/22日。

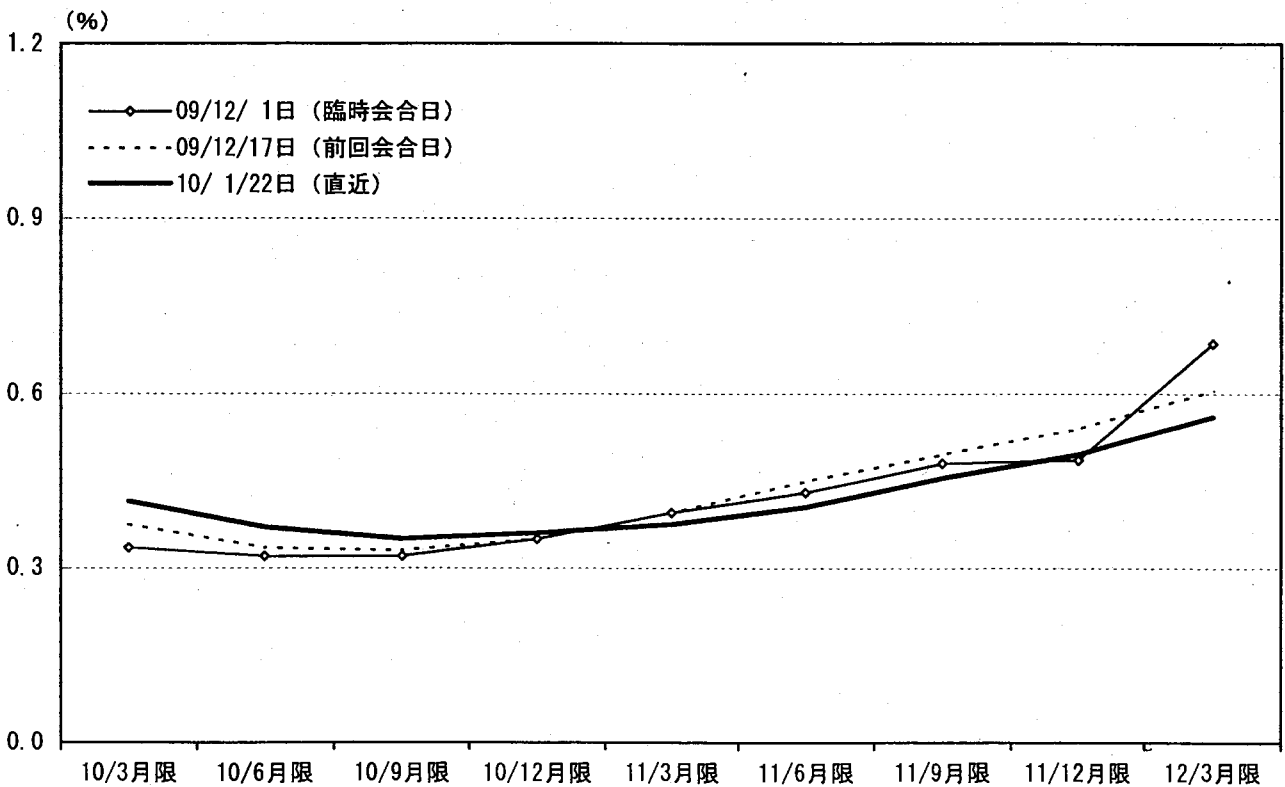
(出所) Bloomberg

フォワードレートの動向

(1) OISレートからみた政策変更(±10bps)の織り込み度合い



(2) ユーロ円金利先物からみたフォワードレート・カーブ



(注) (1)は会合間取引レートの仲値から算出。直近は1/22日。

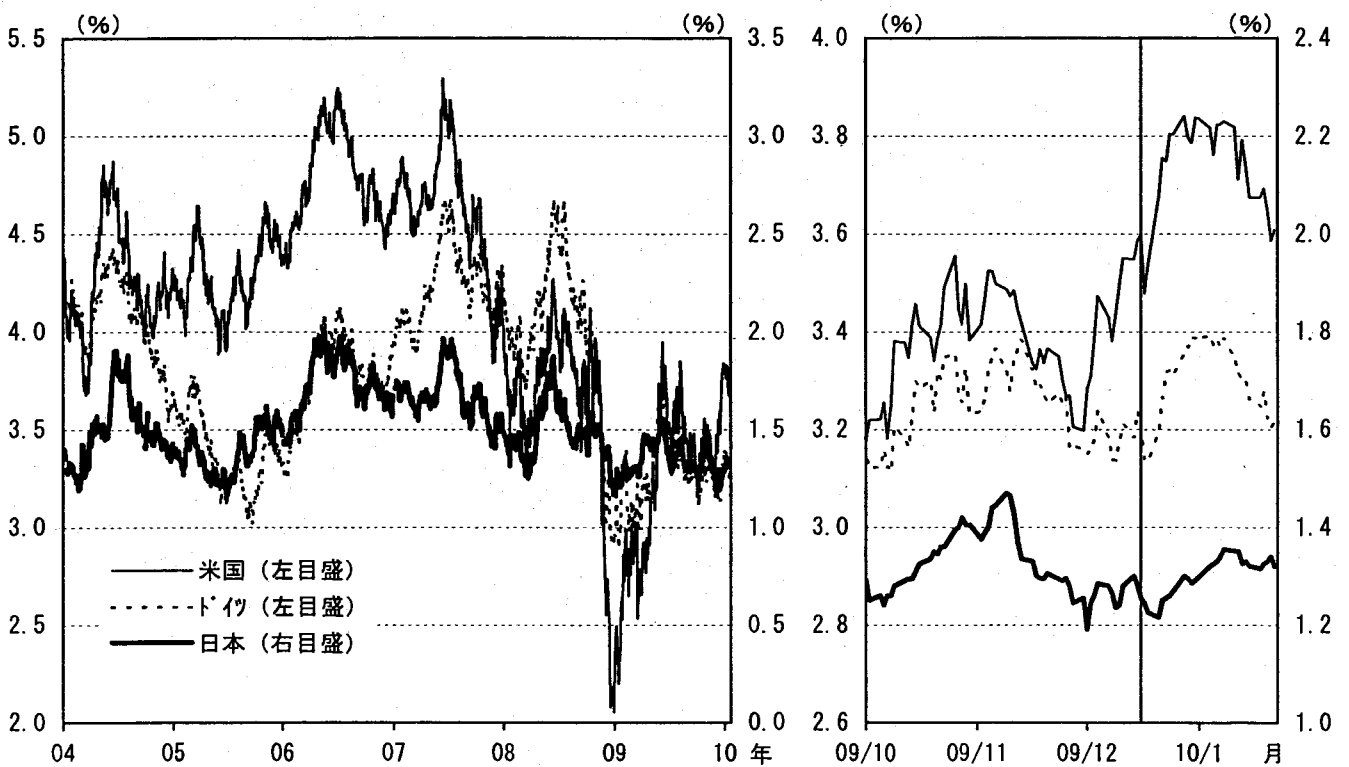
(出所) トムソン・ロイター、メイタン・トラディション、東京金融取引所

長期金利の推移

(1) 国内年限別の推移



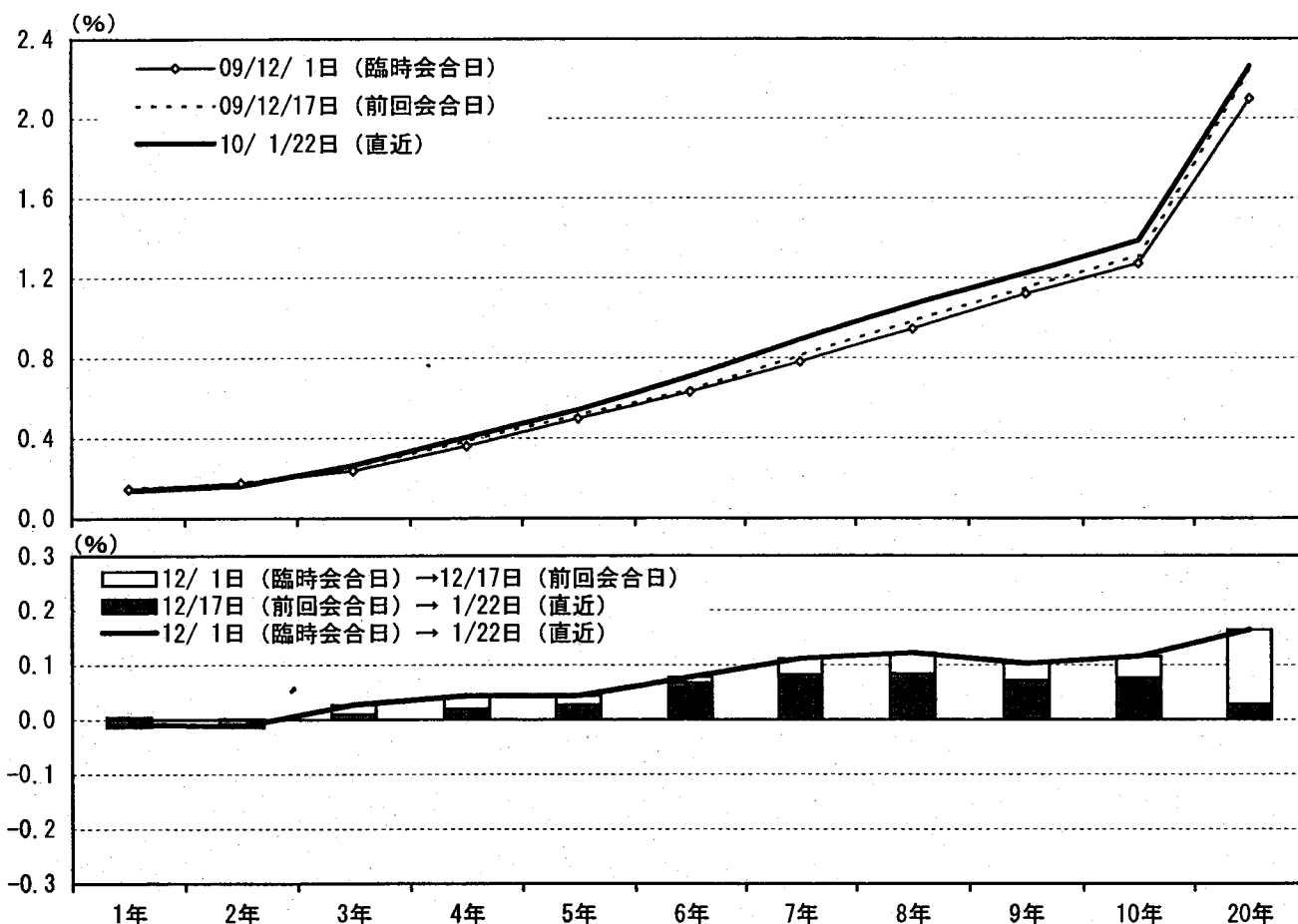
(2) 10年国債利回りの推移



(注) 直近は1/22日。

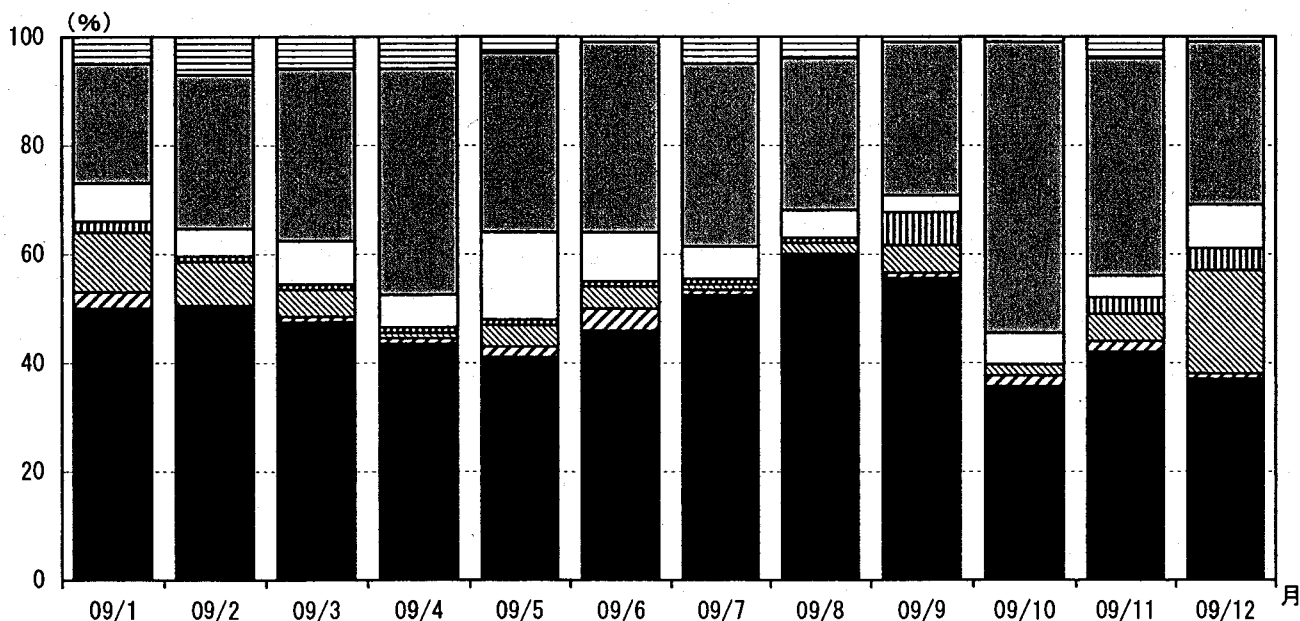
(出所) Bloomberg、日本相互証券

イールド・カーブの動向



(出所) 日本証券業協会、日本銀行

市場参加者が注目する債券利回り変動要因



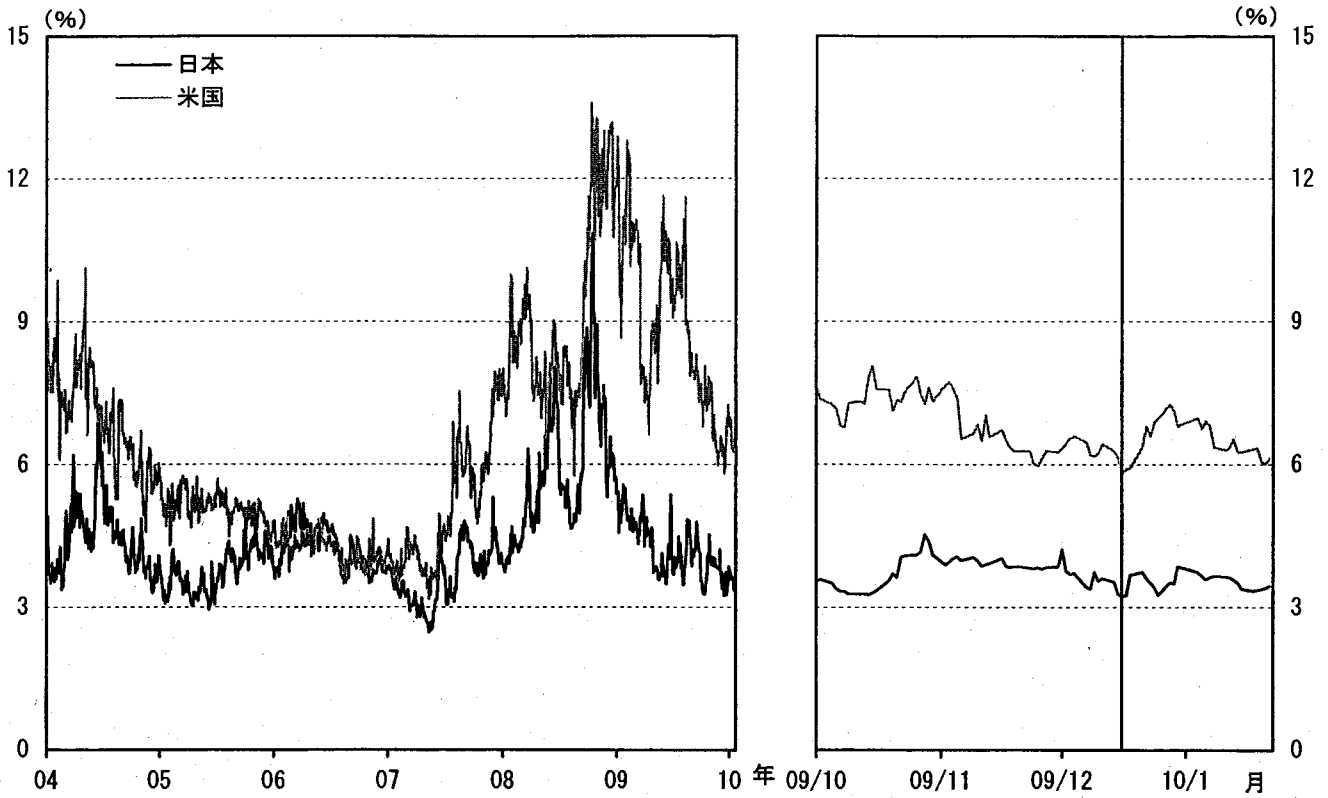
■景気動向 □物価動向 ▨短期金利・金融政策 ▩為替動向 □海外金利 ▨債券需給 ▨株価動向

(注) 調査期間は09/12/21日～09/12/24日。期間中の10年新発債利回りは1.220～1.255%。

(出所) 「QSS債券月次調査」

(図表2-7)

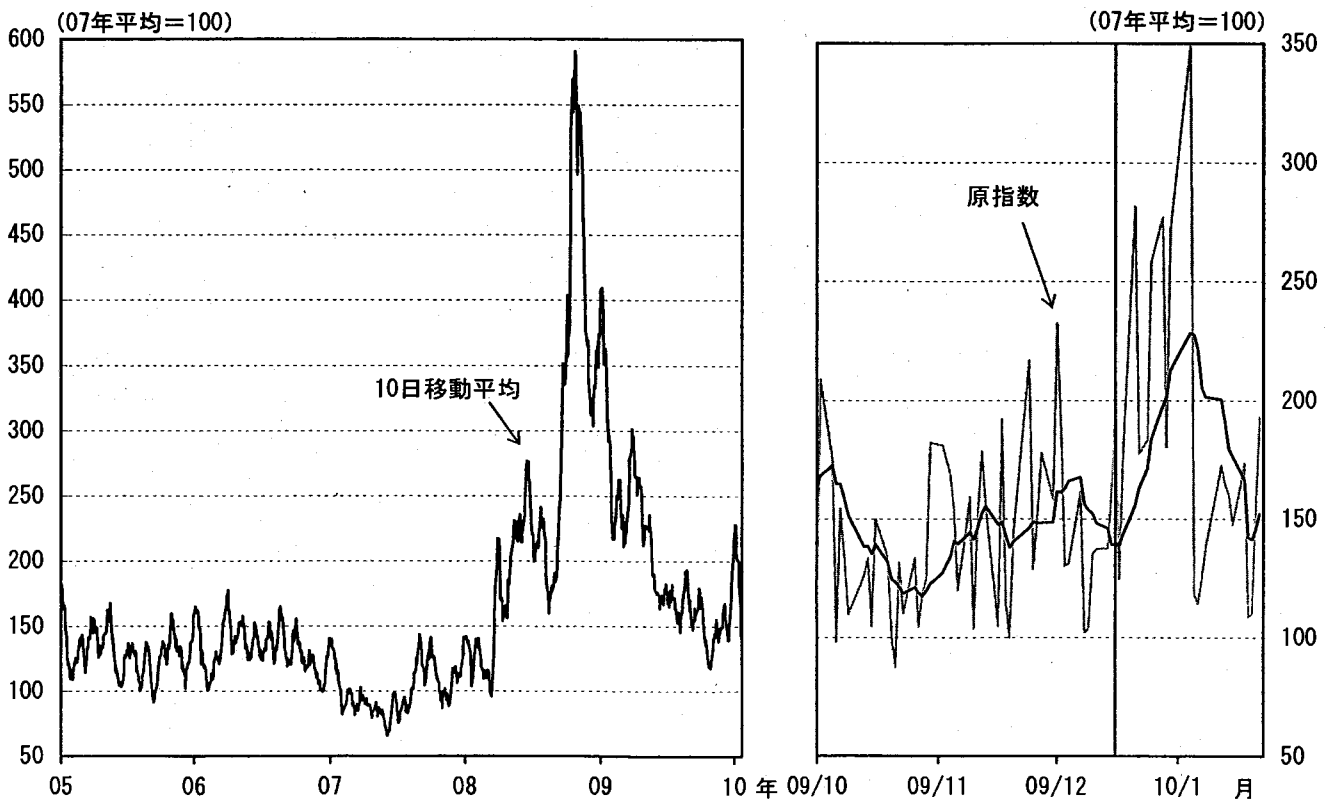
インプライド・ボラティリティの推移



(注) 直近は1/22日。

(出所) Bloomberg、三菱UFJ証券

長国先物の値幅・出来高比率の推移

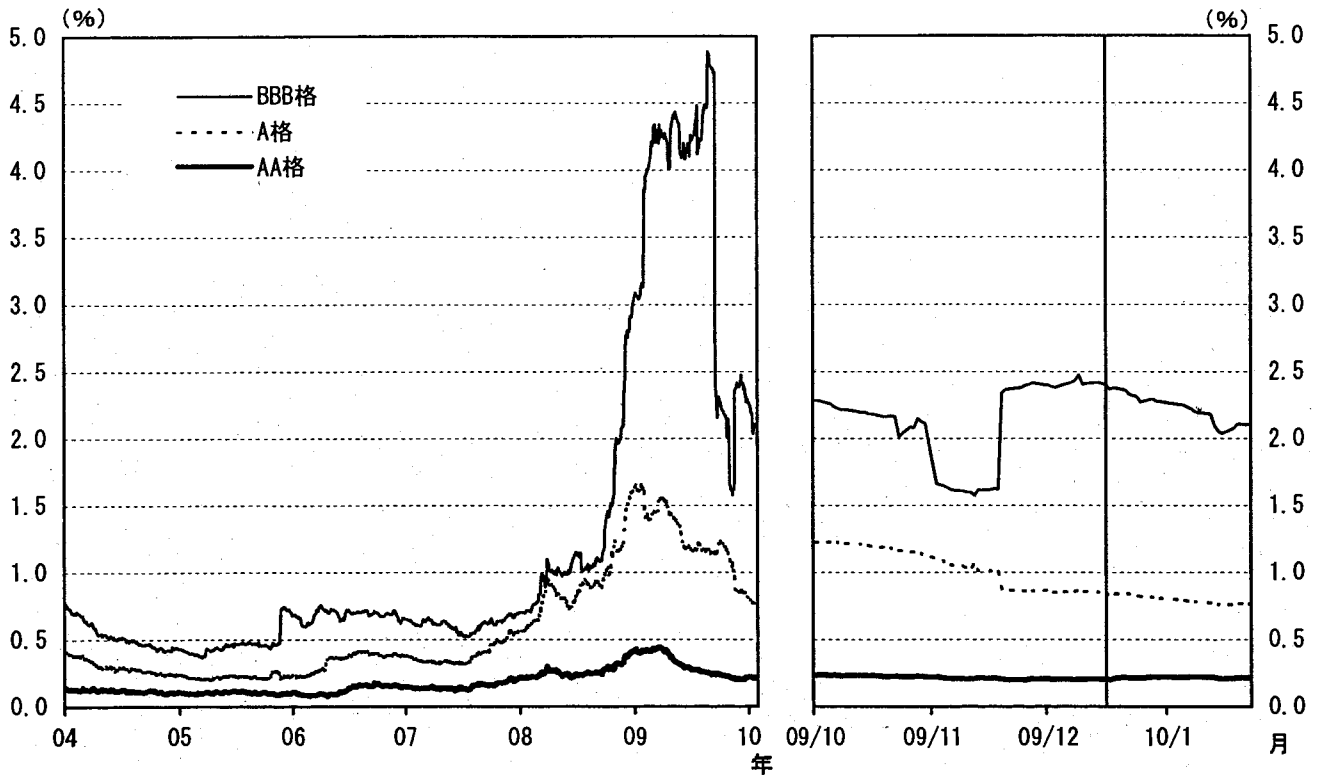


(注) 直近は1/22日。

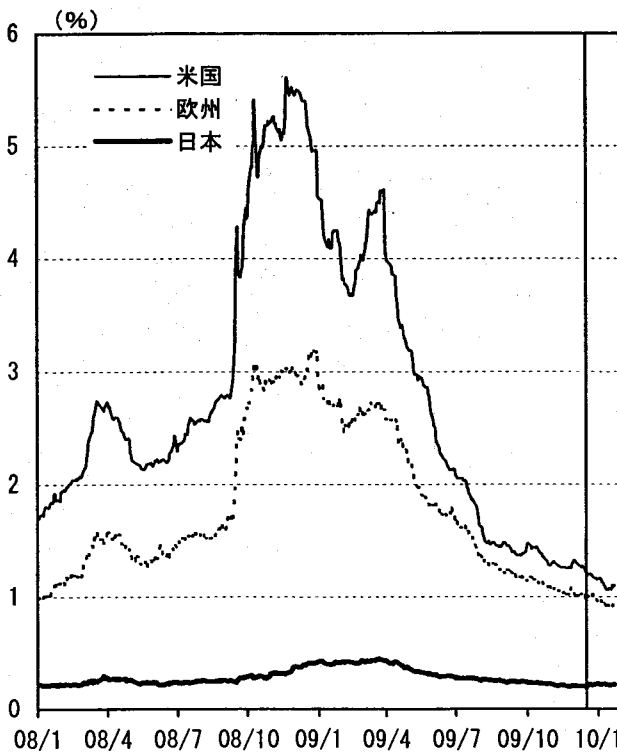
(出所) QUICK

社債流通利回りの対国債スプレッドの推移

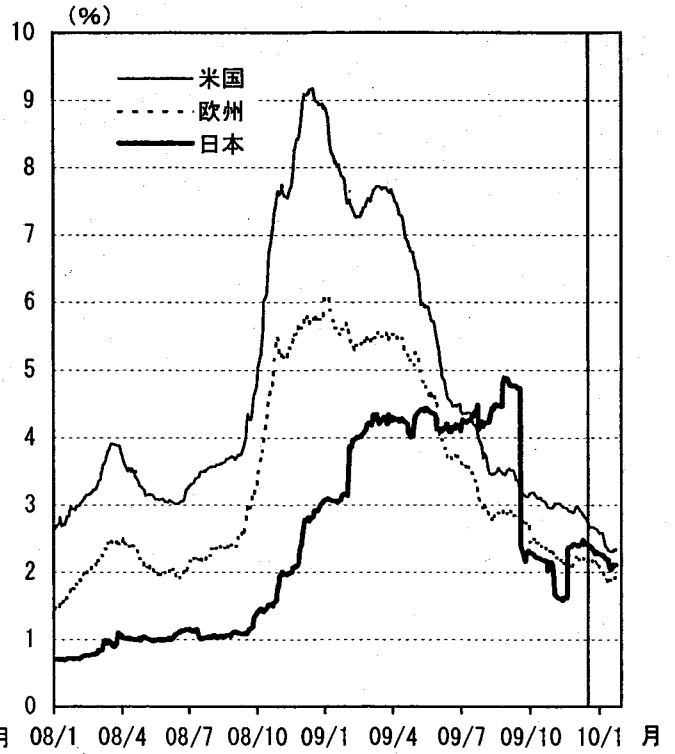
(1) 国内社債の動向



(2) 高格付社債（AA格）の動向



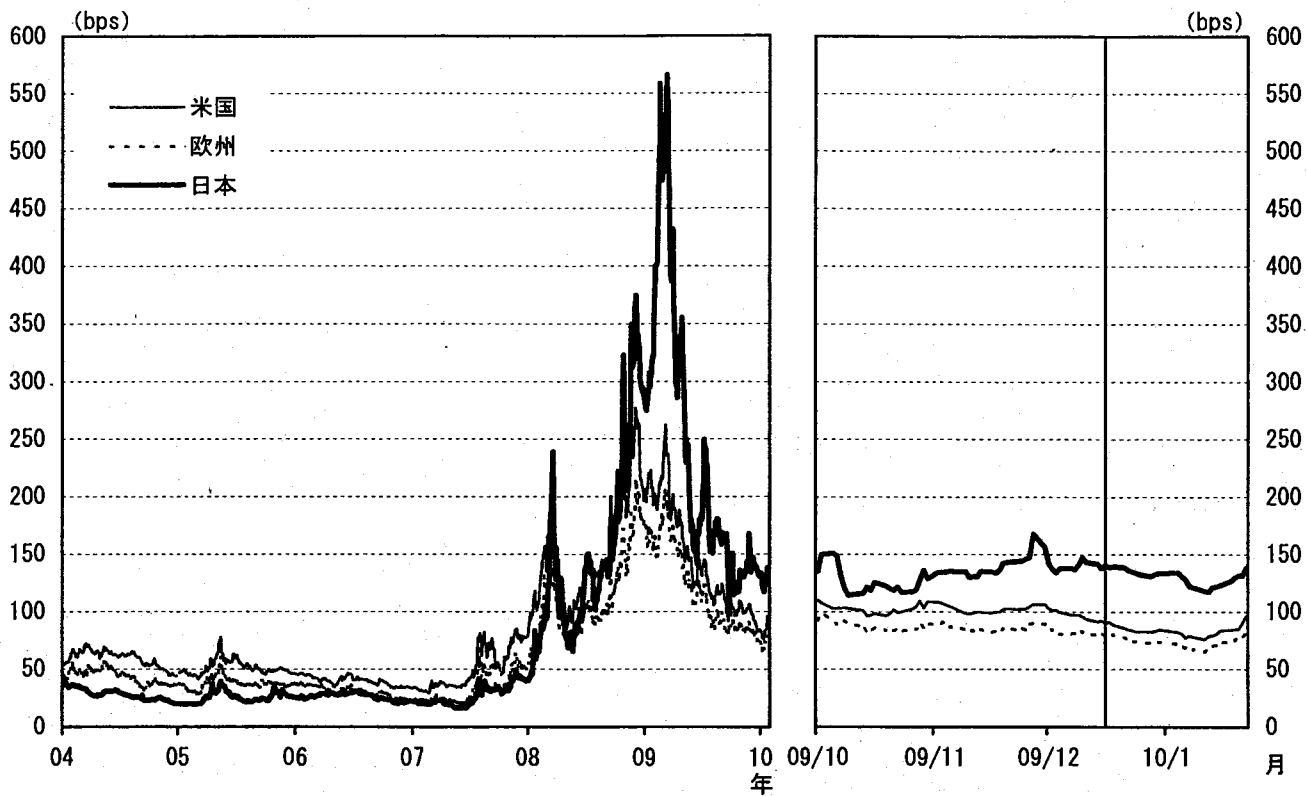
(3) 低格付社債（BBB格）の動向



(注) 1. 日本の社債流通利回りは売買参考統計値、格付けはR&Iによる。集計対象は、残存3年以上7年未満の銘柄。
2. 米欧はメリルリンチ算出、格付けはMoody's、S&P、Fitchによる。集計対象は、残存3年以上5年未満の銘柄。
3. 直近は1/22日。

(出所) Bloomberg、日本証券業協会、日本銀行

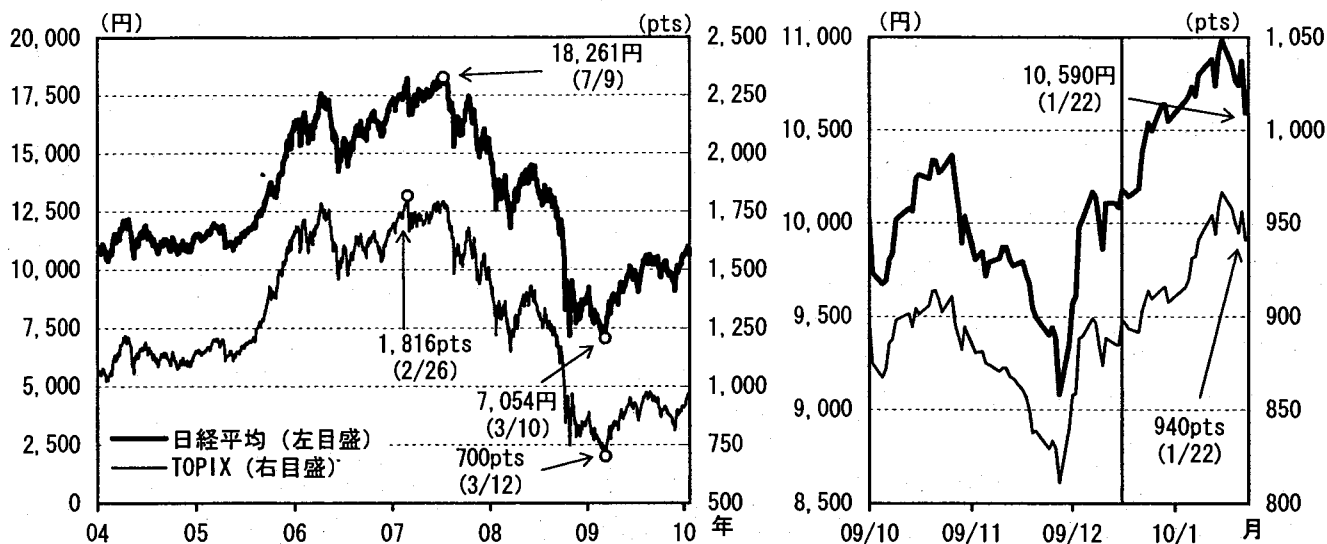
CDSプレミアムの推移



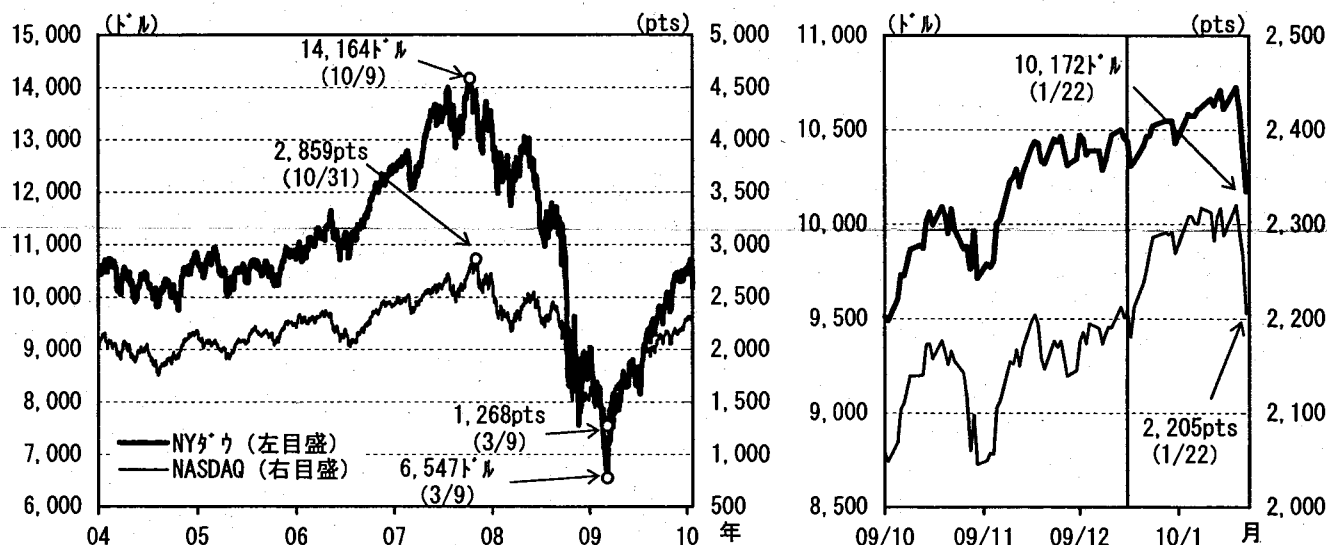
(注) 1. 以下の各インデックス。年限は5年。
日本：iTraxx Japan、米国：CDX.NA.IG、欧州：iTraxx Europe。
2. 対外非公表。直近は1/22日。
(出所) Markit、JPモルガン

株式相場の推移

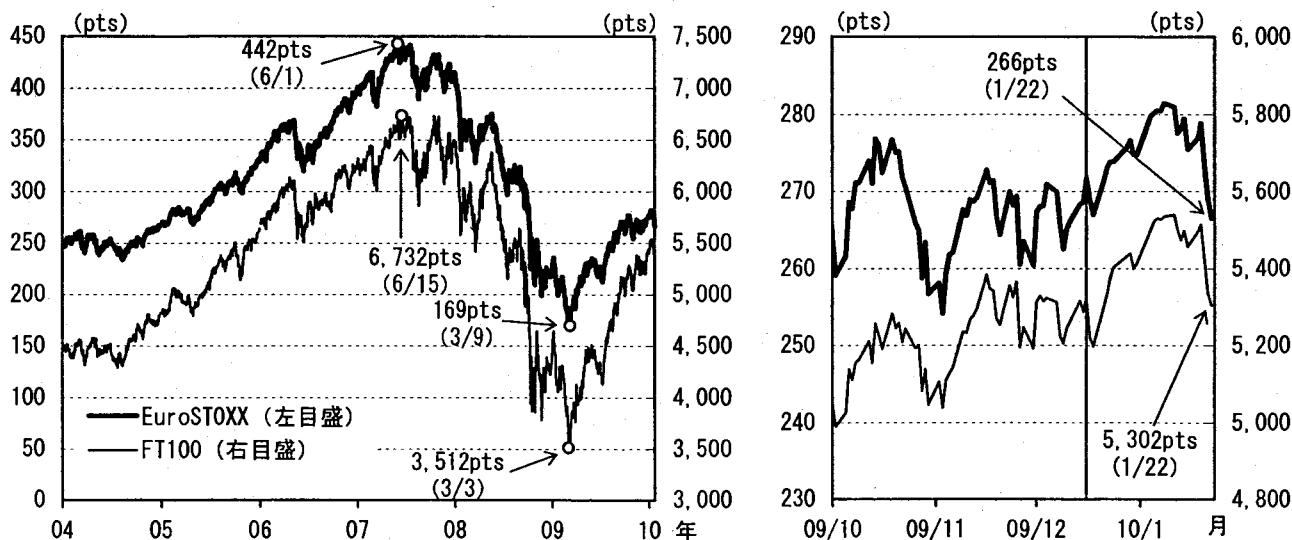
(1) 国内株価の推移



(2) 米国株価の推移



(3) 欧州株価の推移



(注) 直近は1/22日。
(出所) Bloomberg、QUICK

(図表2-11)

主体別売買動向

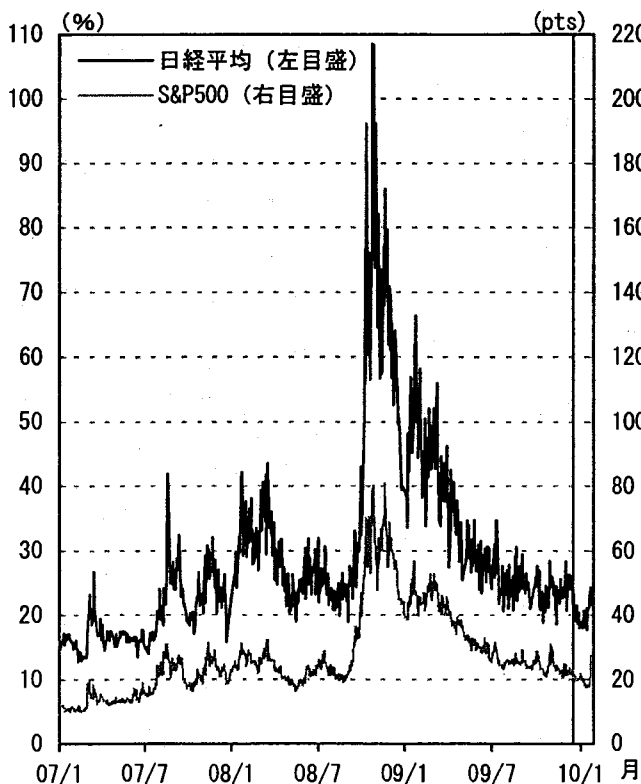
(▲は売り越し、億円)

	個人		事業法人	投信	金融機関			外国人
		うち 信用				うち 信託	うち 生・損保	
07年	▲32,288	14,152	15,555	▲5,448	▲17,953	▲16,834	678	54,234
08年	9,820	▲897	16,321	3,013	39,434	45,026	▲3,289	▲37,085
09年	▲8,666	7,348	▲1,842	769	5,597	14,403	▲4,182	17,775
09/4 ~ 6月	2,884	5,711	▲313	▲1,756	▲6,132	▲2,654	▲1,209	7,886
7 ~ 9月	▲2,730	2,569	▲717	▲1,113	▲10,734	▲7,138	▲2,343	14,671
10 ~ 12月	▲12,334	▲1,050	▲1,975	2,022	▲3,335	▲1,277	▲564	20,595
09/10月	▲977	610	▲286	480	▲3,365	▲2,853	▲170	7,302
11月	398	413	67	1,159	2,194	2,077	167	272
12月	▲11,754	▲2,074	▲1,756	382	▲2,164	▲501	▲562	13,021
09/12/14 ~ 12/18	▲1,416	38	▲534	101	53	331	▲171	1,507
12/21 ~ 12/25	▲3,409	▲377	▲403	122	▲625	▲344	4	3,965
12/28 ~ 12/30	▲347	168	▲60	82	▲572	▲356	▲136	1,336
10/1/4 ~ 1/8	▲4,191	▲1,300	▲513	▲352	▲782	▲423	▲151	7,080
1/12 ~ 1/15	▲2,347	▲183	▲580	▲21	▲353	▲171	▲119	4,805

(注) 三市場(東京・大阪・名古屋)合計。金融機関は、都銀・地銀等、その他金融、信託、生・損保。

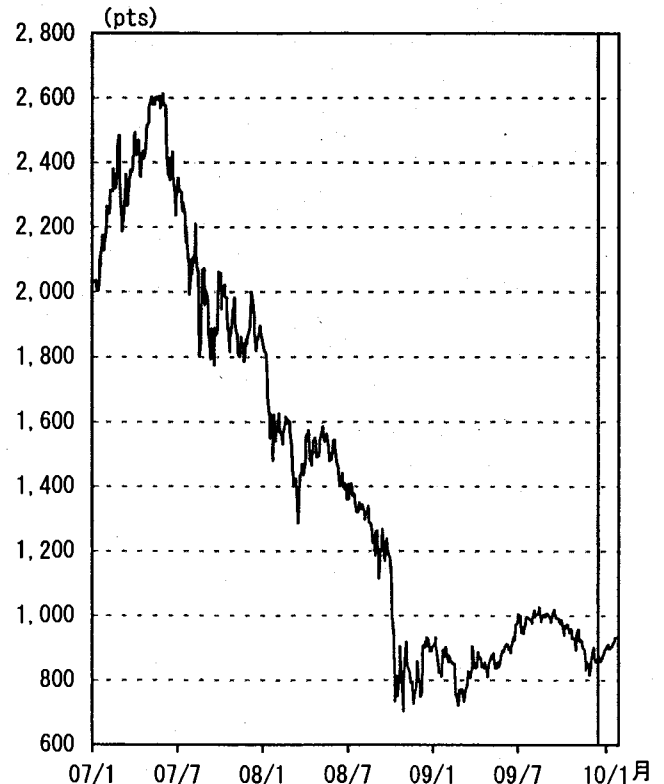
(出所) 東京証券取引所

ボラティリティの推移

(注) 日経平均はインプライド・ボラティリティ。
S&P500はVIX指数。直近は1/22日。

(出所) Bloomberg

東証REIT指数の推移

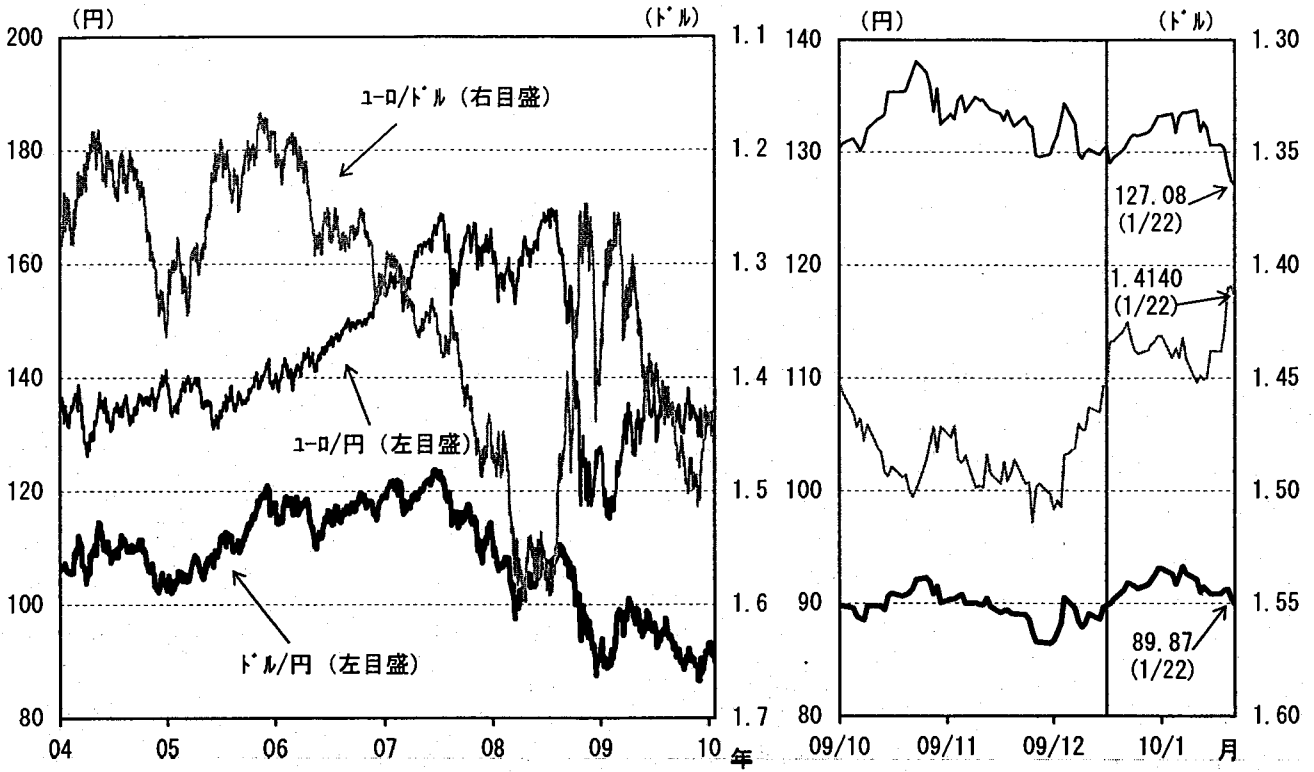


(注) 直近は1/22日。

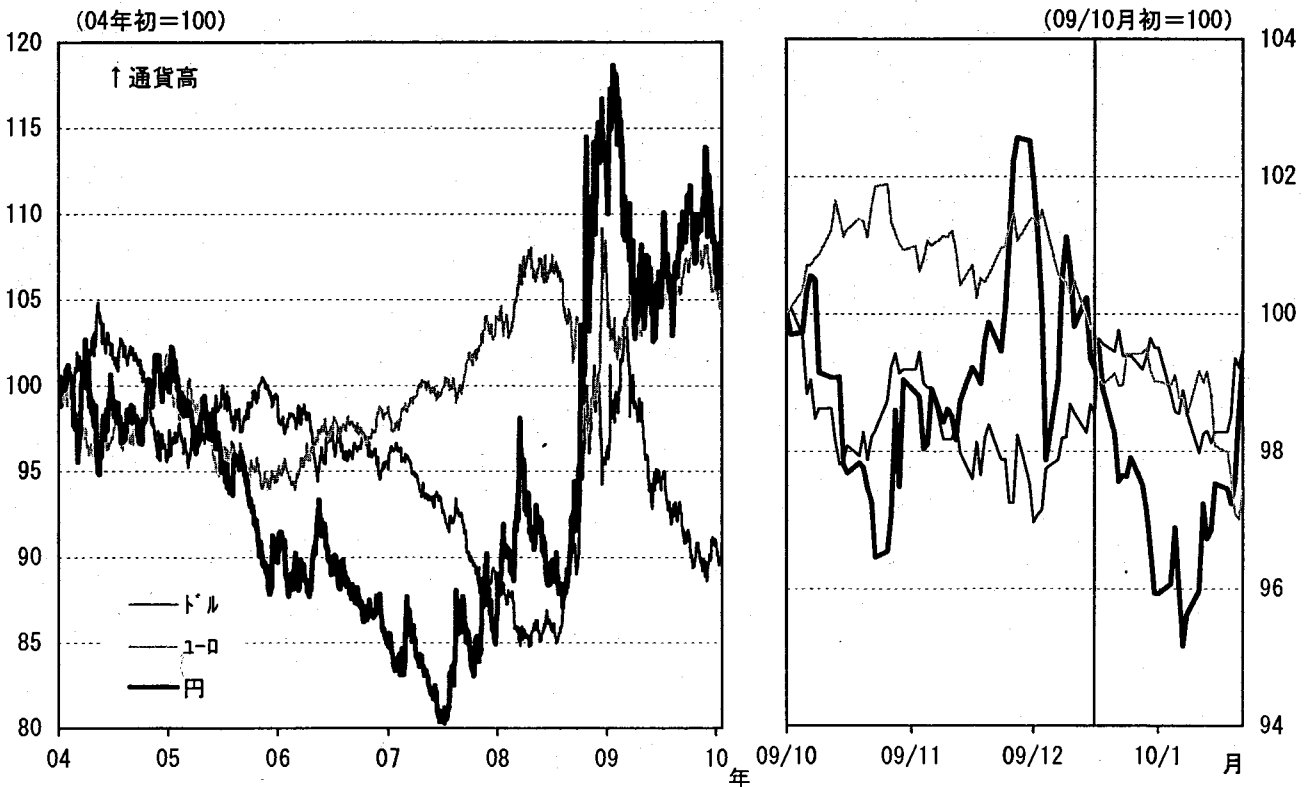
(出所) Bloomberg

主要為替相場の推移

(1) ドル/円、ユーロ/円、ユーロ/ドル相場の推移



(2) 名目実効為替レートの推移



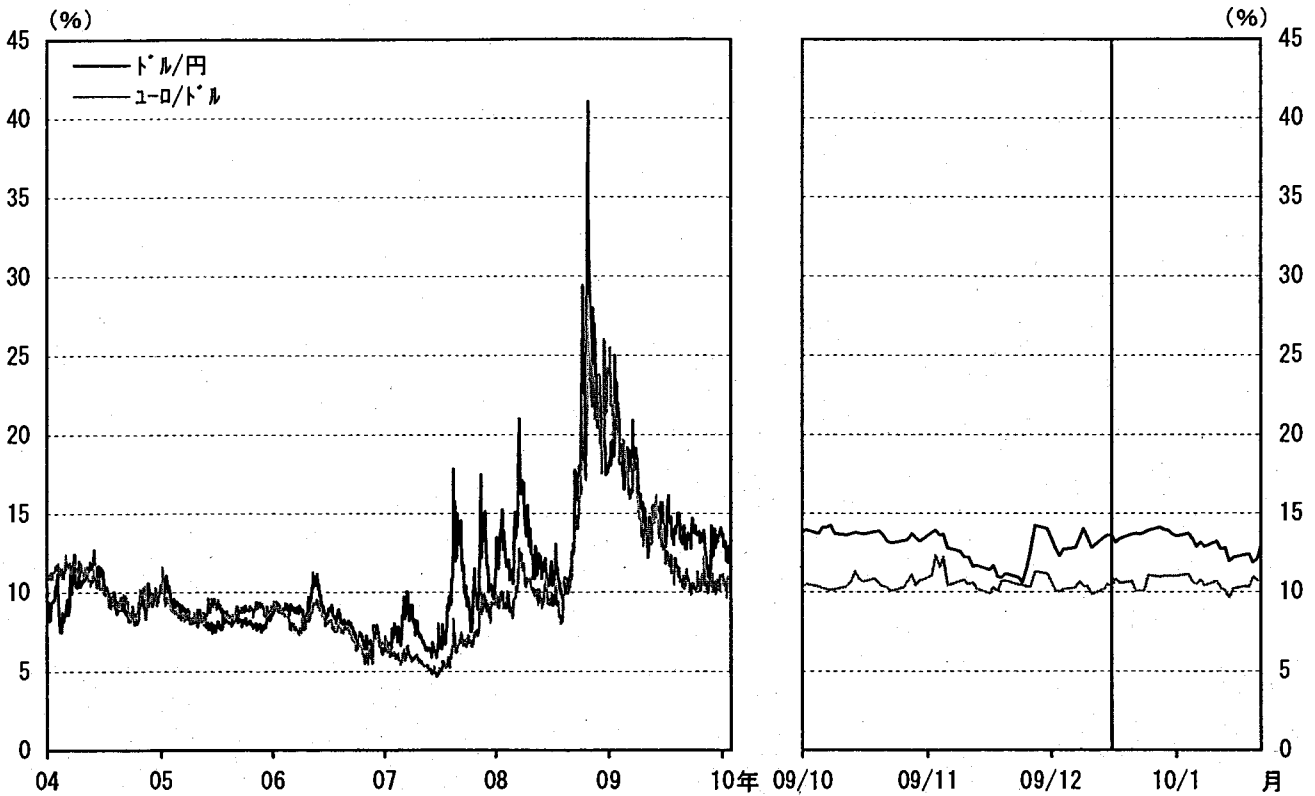
(注) 1. (1)は原則NY市場16時時点。

2. 直近は1/22日。

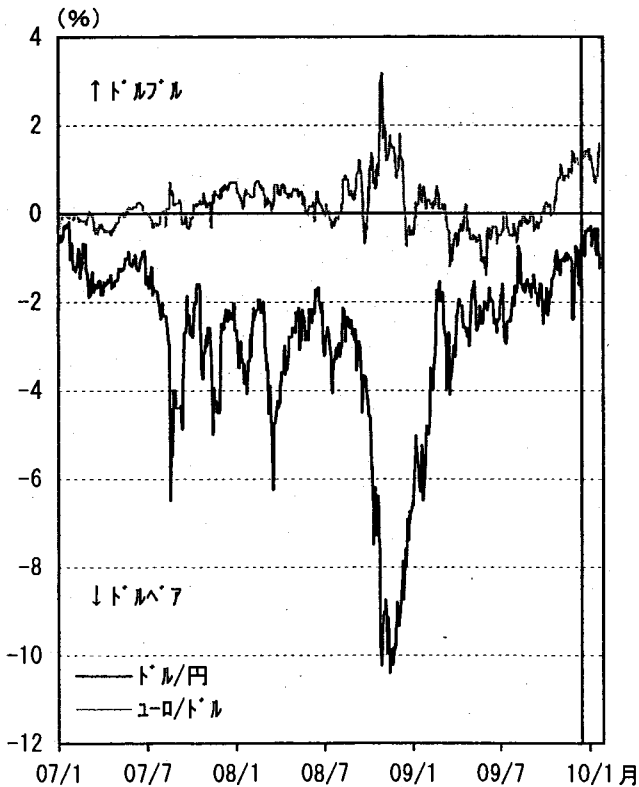
(出所) JPモルガン、トムソン・ロイター、ECB、日本銀行

通貨オプション、先物市場の動向

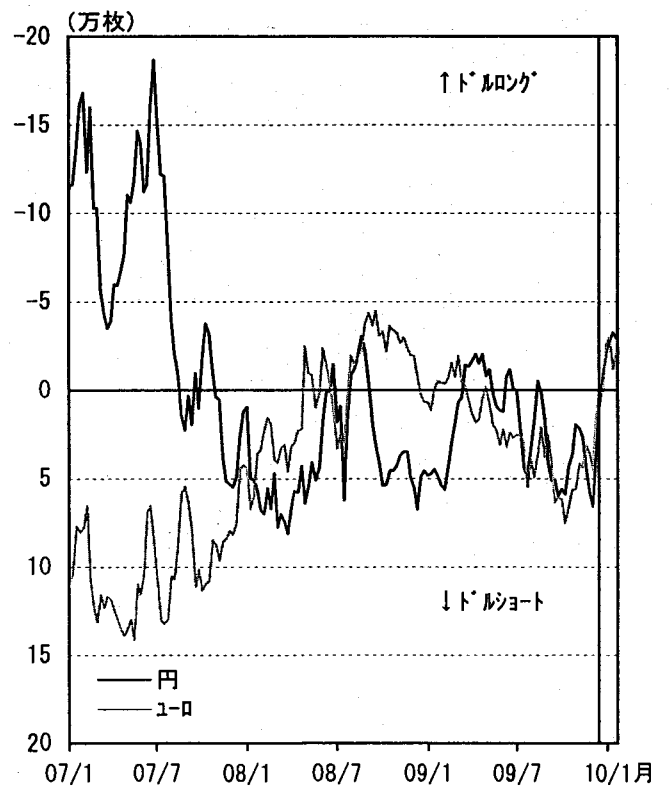
(1) インプライド・ボラティリティ (1か月) の推移



(2) リスクリバーサル (1か月) の推移



(3) IMMネットポジションの推移



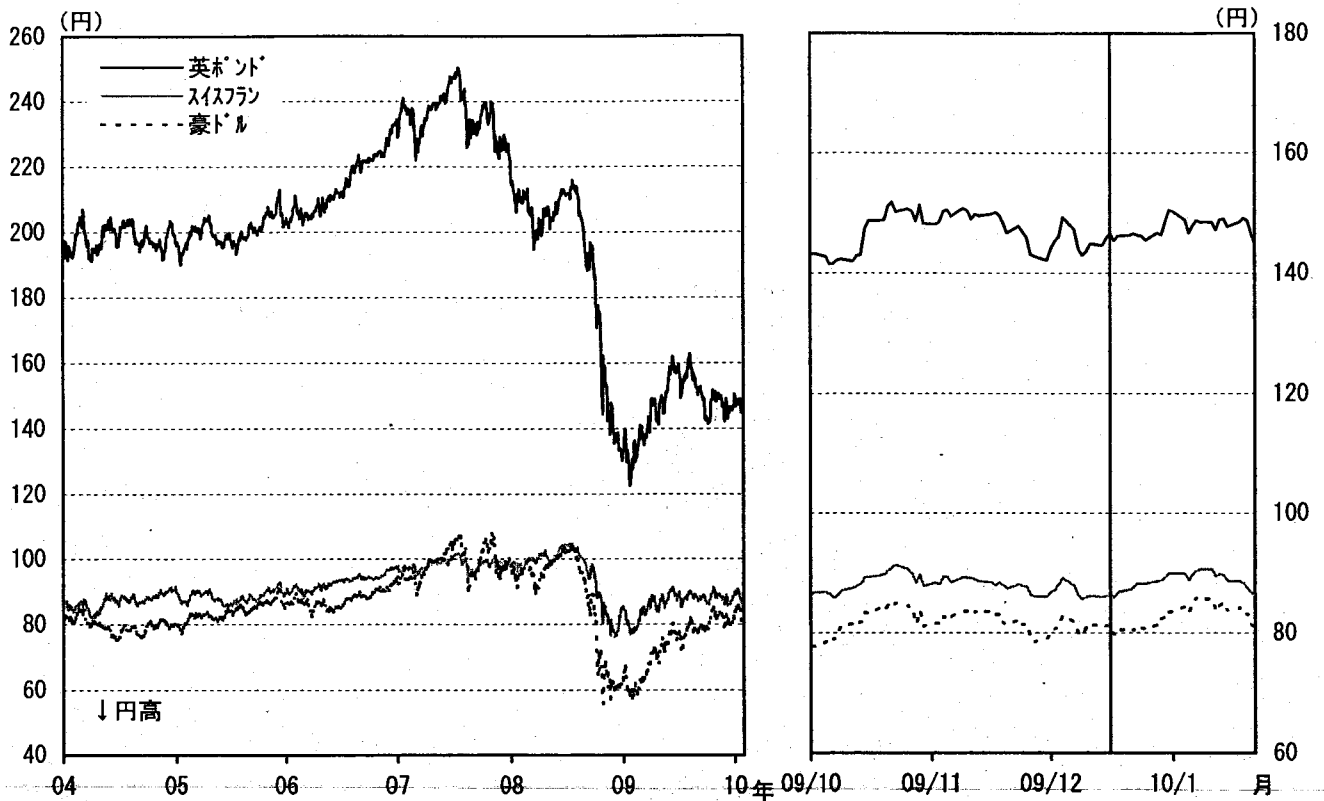
(注) 1. (3)は通貨先物取引における非商業目的および目的別計数非報告分のネット建玉の合計。

2. 直近は、(1)(2)は1/22日、(3)は1/19日。

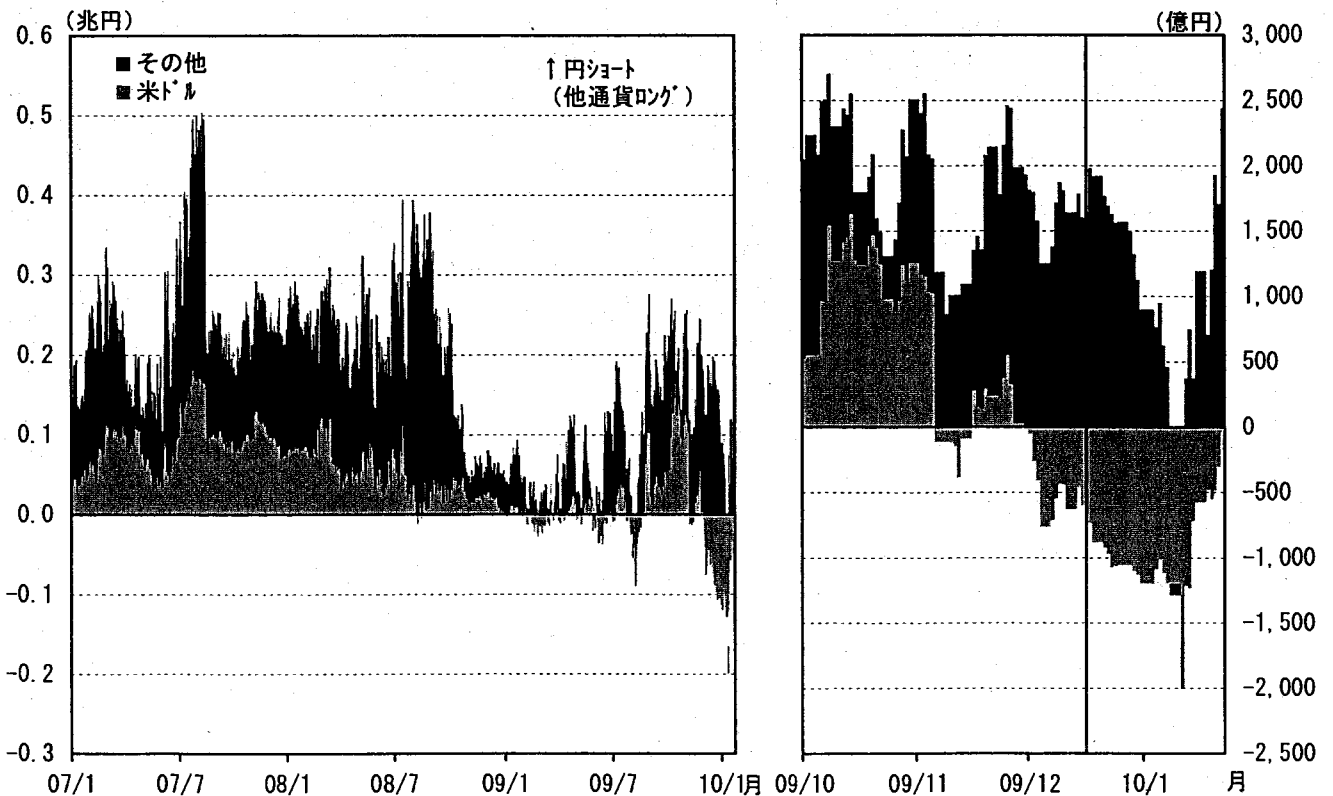
(出所) Bloomberg

クロス円取引の動向

(1) クロス円相場の推移



(2) 外為証拠金取引の動向



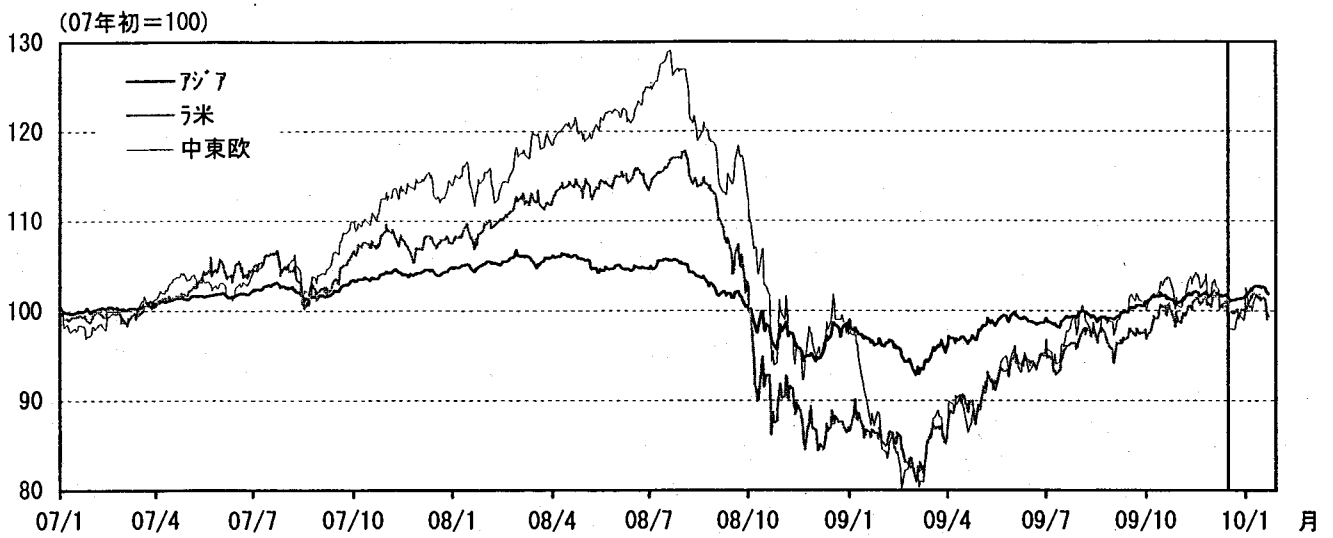
(注) 1. (2)は、円に対する他通貨のネットロングポジション (マーケット・メーカーを除く)。

2. 直近は1/22日。

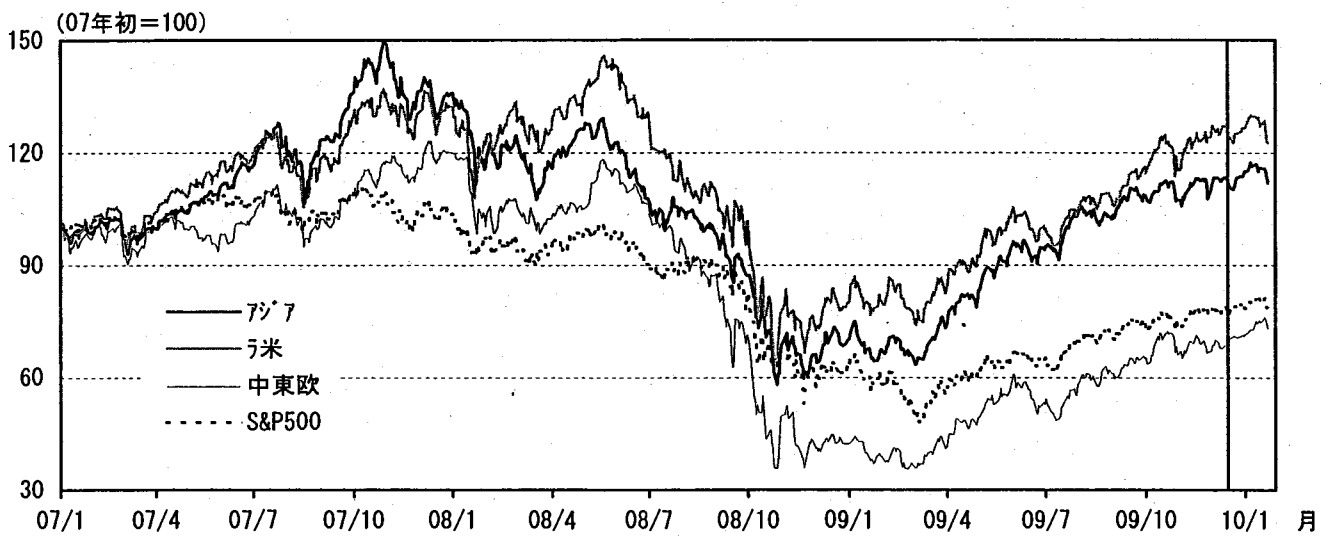
(出所) Bloomberg、東京金融取引所

エマージング、コモディティ市場の動向

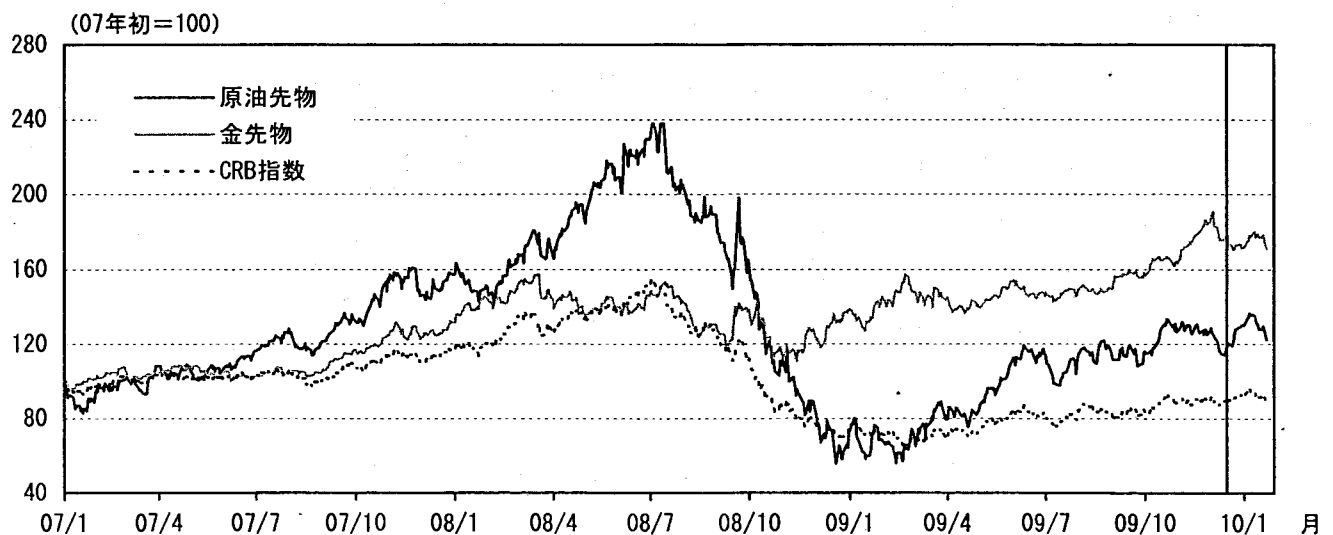
(1) エマージング通貨指数の推移



(2) MSCIエマージング株価指数の推移



(3) コモディティ価格の推移



(注) 1. (1)は対ドル指数。(2)は現地通貨建て。(3)のコモディティ先物はNYMEX期近物。

2. 直近は1/22日。

(出所) Bloomberg

2010.1.20

国際局

海外経済・国際金融の現状評価

1. 概況

[海外経済の現状]（図表1～3）

世界経済は、緩やかに回復している。

米国経済は、持ち直している。住宅価格の下落圧力が弱まるもとで、個人消費は緩やかながらも増加している。また、輸出が増加し、設備投資の減少は小幅になっている。こうした需要動向のもと、生産は、在庫調整の進捗から持ち直している。この間、労働市場では、雇用者数の減少が続き、失業率は上昇基調にあるが、雇用者数の減少ペースは和らいでいる。

ユーロエリア経済は、持ち直しつつある。個人消費は、全体として弱めの動きとなっているが、輸出が持ち直し、設備投資の減少が小幅になる中で、生産も持ち直しつつある。英国経済は、下げ止まっている。個人消費の減少幅は縮小し、生産活動も持ち直してきている。この間、住宅市場では調整が進捗する中、住宅価格は上昇している。

中国経済は、内需を中心に、高めの成長を続けている。政府による景気刺激策の効果から、個人消費が堅調に推移し、固定資産投資も高伸する中で、生産は増加を続けている。この間、輸出も海外経済の回復から増加している。インド経済も、高めの成長を続けている。NIEs・ASEAN 経済は、回復している。輸出や個人消費が増加し、設備投資も持ち直している。こうしたもとで、生産は増加している。

この間、物価についてみると、コアベースの消費者物価の前年比は、需給緩和や賃金の伸び鈍化などを背景に、世界的に低下傾向を辿っている。総合ベースの消費者物価の前年比は、2008年後半のエネルギー価格反落の影響が一巡してきており、伸びが高まっている。

[国際金融の現状]

欧米の金融市場をみると、短期金融市場は、ターム物金利のスプレッドが 2007 年夏の水準前後で推移する中、落ち着きを取り戻している。クレジット市場では、社債の対国債スプレッド（除く金融）が、低格付け物を中心に依然高水準ながら、全体として縮小傾向を辿っている。こうしたもとで、企業の資本市場調達についてみると、社債発行が堅調に推移しているほか、IPO も、2009 年夏以降、それまでの極端な低迷状態からは脱している。この間、銀行貸出は、依然縮小傾向を辿っており、資本市場での調達手段を持たない中小企業にとっては、厳しい資金調達環境が続いている。

米国の株価は、一部経済指標が予想を上回る改善をみせたことなどから、上昇した。長期金利も、前回会合対比では上昇したが、ごく足もとは金融緩和の長期化期待などから若干低下している。欧州でも、米国と同様に、株価、長期金利ともに、この間通してみれば上昇した。ただし、ドイツ国債については、ギリシャの財政問題を背景とした質への逃避（ドイツ国債への資金流入）などから、足もと低下している。

エマージング諸国・地域の金融市場をみると、景気回復が続く中、株価と通貨の上昇基調、ならびに国債金利の対米スプレッドの縮小傾向が続いている。

国際商品市況をみると、原油価格（WTI スポット）は、前回会合対比では世界的な寒波の影響から上昇しているが、ごく足もとは米国の実需の弱さが意識され下落している。また、金は、ドルが減価する中、上昇したほか、非鉄金属も、堅調な中国需要を受けて上昇した。

[先行きの展望]

世界経済は、先行きも、緩やかな回復を続けていくとみられる。

米国では、輸出や個人消費の増加が続く中、景気全体として回復に向けた動きが続くとみられる。もともと、財政政策による景気刺激効果が減衰していくもとで、回復のペースは緩やかなものに止まると考えられる。また、企業が新規雇用に対して慎重姿勢を維持するもとで、過剰債務を抱えた家計の支出活動には弾みがつきにくく、不動産市場の調整も続くとみられる。これが、金融機関のバランスシートの劣化圧力として作用し続け、銀行借入依存度の高い中小企業の支出や雇用創出に対して抑制的に作用すると考えられる。先行きの不確実性やダウンサイド・リスクが一頃に比べ低下したとはいえ、不動産市場や銀行貸出の調整と、企業や家計の支出活動の下振れが相互に増幅するリスクはなお大きいと考えられる。

ユーロエリア経済も、緩やかな回復に向けた動きが続くとみられるが、厳しい雇

用・所得環境や依然タイトな金融機関の与信姿勢は、企業や家計の支出活動を抑制する方向に作用することから、景気の下振れリスクはなお大きい。また、主要輸出先の一つである欧州新興国の停滞は、当面、ユーロエリアの回復を遅らせる要因として作用し続けると考えられる。

中国経済は、政府による景気刺激策の効果もあって、内需を中心に、高い成長率を維持するとみられる。インド経済も、堅調な内需を映じ、高めの成長が続くとみられる。NIEs・ASEAN 経済については、輸出が緩やかに増加し、個人消費や設備投資も増加を続ける中、景気は回復傾向を維持すると考えられる。この間、資源国の経済も、世界需要の回復に伴う資源需要の増加などから、全体として回復傾向を辿ると考えられる。

新興国経済のリスクとしては、先進国経済の下振れや国際金融資本市場の動揺を通じた景気のダウンサイド・リスクがなお存在する。一方、アジアやラ米などでは、海外からの資本流入が続く中、拡張的な金融財政政策による景気刺激効果が予想以上に大きくなる可能性もある。

物価面では、先進国では、需給ギャップのマイナス幅が大きく拡大したもとで、コアベースのインフレ率の低下傾向が続くとみられる。一方、新興国では、需給ギャップがほぼ解消し、高めの成長が続くもとで、インフレ率の上昇圧力が徐々に高まっていくとみられる。

2. 米国の経済・金融動向

2-1. 米国の実体経済（図表4）

○ 米国経済は、持ち直している。

—— 7～9月の実質GDP（第3回推計値）は、前期比年率+2.2%となった。第1回推計値（同+3.5%）との比較では、累計で1.3%ポイントの下方修正となる。

○ 住宅支出は足もとで減少しているが、住宅価格の下落圧力は弱まっている。

—— 住宅販売件数についてみると、新築一戸建ては、2期連続で増加した後、減少している（7～9月前期比+9.4%→10～11月の7～9月対比▲7.2%）。足もとの減少には、初回住宅購入者向け減税終了前における駆け込み需要の反動減が影響している。一方、中古住宅販売は、11月まで増加を続けているが（同+11.2%→+19.4%）、成約件数の動きを踏まえると、12月には反動減が発生すると見込まれる¹。なお、減税措置の期限は、当初、昨年11月末に設定

¹ 新築販売件数が成約時点で統計に計上されるのに対し、中古販売件数は引き渡し時点で計上さ

されていたが、追加景気刺激策として、今年 6 月末に延長されており、今後、住宅販売を再び押し上げるとみられる。

—— 住宅着工件数は、2 期連続で増加した後、減少した（7～9 月前期比+8.6%→10～11 月の 7～9 月対比▲6.2%）。

—— 在庫率は、新築・中古ともに低下傾向を辿っている（新築：7～9 月平均 7.7 か月分→10～11 月平均 7.6 か月分、中古：同 8.9 か月分→6.8 か月分）。もともと、中古住宅の在庫件数の水準は、差押さえ物件の流入から、引き続き高い状況にある。

—— ケース・シラー住宅価格指数（10 大都市）は、10 月まで 5 か月連続で上昇した（9 月前月比+0.3%→10 月同+0.4%）²。

○ 個人消費は、緩やかながらも増加している。

—— 実質個人消費は、緩やかに増加している（7～9 月前期比+0.7%→10～11 月の 7～9 月対比+0.3%）。実質可処分所得も、緩やかに増加している（同▲0.3%→+0.5%）。貯蓄率は、このところ 4%台で推移しており、2007～08 年の水準に比べ高い状態が続いている（2007 年 1.7%、08 年 2.7%）。

—— 小売売上高（名目、除く自動車・ガソリン・建築資材）は、増加している（7～9 月前期比+0.4%→10～12 月同+1.4%）。内訳をみると、量販店・百貨店をはじめとする多くの業態で増加している。

—— 新車販売台数は、3 か月連続で増加した（10 月年率 1,064 万台→11 月同 1,112 万台→12 月同 1,144 万台）。

—— 消費者コンフィデンス（コンファレンス・ボード指数）は、横這い圏内の動きとなっている（7～9 月 51.8→10～12 月 50.7）³。

○ 設備投資の減少は、小幅になっている。

—— 建設投資の動きを示す非居住用建設支出は、商業用不動産市場の低迷などを背景に、5 期連続の減少となっている（7～9 月前期比▲8.8%→10～11 月の 7～9 月対比▲8.1%）。一方、機械投資の動きを示す非国防資本財受注（除く航空機）は、低水準圏内の動きながら、持ち直している（同+2.9%→+

れる。

² FHFA 住宅価格指数は横這い圏内の動きとなっている（8 月前月比▲0.5%→9 月同▲0.4%→10 月同+0.6%）。

³ ミシガン大学指数は、小幅上昇している（7～9 月 68.4→10～12 月 70.2→1 月 72.8）。

1.3%)。

- 財・サービス貿易収支は、景気の持ち直しに伴い、赤字幅がやや拡大している。
 - 財・サービス貿易収支の赤字幅は、2008年の月平均が▲580億ドルだったものが、09年4～6月には▲271億ドルまで縮小した後、7～9月は▲325億ドル、10～11月は▲348億ドルと拡大している。輸出、輸入ともに、工業用原材料や資本財、自動車関連など幅広い項目で増加しているが、後者の伸びが前者を上回っている。

- 製造業の生産は、在庫調整の進捗から持ち直し、非製造業の生産活動も下げ止まっている。
 - 鉱工業生産は、増加している（7～9月前期比+1.7%→10～12月同+1.7%）。内訳を均してみると、原材料や消費財など幅広い品目で増加している。また、足もとでは、寒波の影響により、エネルギーの生産が増加している。
 - ISM指数・製造業は、改善・悪化の分岐点である50を5か月連続で超えている（7～9月51.5→10～12月55.1）。内訳を均してみると、新規受注と生産が60台で推移する中、在庫は40台で推移している（新規受注：7～9月60.3→10～12月61.4、生産：同58.5→61.7、在庫：同36.8→43.9）。また、同・非製造業は、50前後で推移している（7～9月48.6→10～12月49.8）。

- 労働市場では、雇用者数の減少が続き、失業率は上昇基調にあるが、雇用者数の減少ペースは和らいでいる。
 - 非農業部門の雇用者数についてみると、減少幅が縮小傾向にある（7～9月▲19.9万人→10～12月▲6.9万人、11月+0.4万人→12月▲8.5万人）⁴。10～12月の内訳をみると、非製造業が減少幅を大きく縮小させた。人材派遣の増加や、建設や小売の減少幅の縮小が寄与している。また、製造業も減少幅を縮小している。新規失業保険申請件数（1月9日週まで）も、減少傾向を辿っている。もっとも、こうした改善を示す雇用指標の裏側で、平均失業期間が12月に既往ピークを更新したほか、恒久的レイオフ比率は高水準で推移している。
 - 失業率は、均してみれば上昇基調が続いている（7～9月9.7%→10～12月

⁴ 11月の計数は上方改訂され、単月ながら、2007年12月以来の増加となった（改訂前▲1.1万人→改訂後+0.4万人）。

10.0%)。もっとも、労働参加率の低下を背景に、失業率の上昇テンポは鈍化している。時間当たり賃金は、前年比上昇率の低下傾向が続いている(7~9月+2.6%→10~12月+2.3%)。

- 物価についてみると、コアベースの消費者物価は、需給緩和や賃金の伸び鈍化を背景に、前年比プラス幅の緩やかな縮小傾向が続いている。

—— コアベースの前年比は、プラス幅の縮小傾向が続いているが、足もとは、中古自動車価格が上昇していることや、前年の自動車価格下落や公共交通料金下落の影響が一巡してきていることなどから、プラス幅がやや拡大している(7~9月+1.5%→10月+1.7%→11月+1.7%→12月+1.8%)。総合ベースの前年比は、前年のエネルギー価格下落の影響が一巡してきていることから、プラスに転化した(10月▲0.2%→11月+1.8%→12月+2.7%)。この間、長期の期待インフレ率は横這い圏内で推移している⁵。

2-2. 米国の金融市場(図表5)

- 金融政策面では、FRBが、12月のFOMC会合で、政策金利のターゲット・レンジ(0~0.25%)の据え置きを決定した。その後、1月に公表された同会合の議事要旨では、成長率見通しが悪化した場合などにおける、資産買い入れプログラムの規模拡大や期限延長の可能性への言及があったことが判明し、市場参加者の金融緩和の長期化期待につながった。
- 株価は、一部経済指標(資本財受注、ISM指数・製造業)が予想を上回る改善をみせたことなどから、上昇した。長期金利も上昇したが、ごく足もとは金融緩和の長期化期待などから若干低下している。
- TED スプレッド(ユーロドル3か月物-TB3か月物)や、ターム物金利の対OIS スプレッドは、パリバ・ショック(2007年8月)以前の水準近辺で推移している。社債の対国債スプレッド(除く金融)は、低格付け物を中心に依然高水準ながら、全体として縮小傾向を辿っている。
- 企業の資金調達環境をみると、資本市場調達の面では、社債発行が堅調に推移しているほか、IPOも、2008年秋以降の極端な低迷状態から脱し、金融市場混乱前(2007年上期)の半分程度にまで回復している。一方、銀行貸出は、依然縮小

⁵ 期待インフレ率について、ミシガン大学による家計向けサーベイをみると、5~10年先の期待値は横這い圏内の動きとなっている(12月+2.7%→1月+2.8%)。

傾向を辿っており、資本市場での調達手段を持たない中小企業にとっては、厳しい資金調達環境が続いている。この間、個人向けの銀行貸出も、前年比マイナスで推移している。

3. 欧州の経済・金融動向

3-1. 欧州の実体経済（図表6）

(1) ユーロエリア経済

○ ユーロエリア経済は、持ち直しつつある。

—— 7～9月のユーロエリアの実質GDP（2次推計値）は、1次推計値から若干上方改訂された（前期比年率+1.5%→+1.7%）。今回公表された総固定資本形成の内訳をみると、住宅投資は6四半期連続の減少となったが、機械投資は財政刺激策の効果（販売促進策を受けた商用車購入の増加）などから、5四半期ぶりに増加した。

○ 輸出は持ち直している。

—— ユーロエリアの域外輸出は、増加している（7～9月前期比+3.4%→10～11月の7～9月対比+1.2%）。仕向け地別の内訳をみると、アジア向けが増加しているほか、米国向けも増加に転じている。

—— ユーロエリアの製造業輸出受注PMIをみると、8月以降12月まで連続で、改善・悪化の分岐点である50を超えて推移している（7～9月49.6→10～12月52.3）。

○ 個人消費は、全体として弱めの動きとなっている。一方、設備投資の減少は小幅になっている。

—— ユーロエリアの小売売上数量（自動車を除く）は、弱めの動きが続いている（7～9月前期比▲0.5%→10～11月の7～9月対比▲0.8%）。

—— ユーロエリアの新車登録台数は、減速しつつも増加を続けている（7～9月前期比+2.8%→10～12月同+1.3%）。フランスやイタリアで増加が続く一方、ドイツで自動車販売促進策の反動減が現れている。

—— ユーロエリアの消費者コンフィデンスは、改善を続けているが（11月▲17→12月▲16）、水準としては、なお低い。

—— ドイツの国内投資財受注は、自動車販売促進策などにより増加した7～9月の反動から、減少している（7～9月前期比+9.0%→10～11月の7～9月対比

▲5.7%)。

○ 製造業の生産は、在庫調整の進捗から、持ち直しつつある。また、非製造業の生産活動も持ち直しつつある。

—— ユーロエリアの鉱工業生産は、増加している（7～9 月前期比+2.3%→10～11 月の 7～9 月対比+0.8%）。内訳をみると、消費財（自動車を除く）が減少している一方、中間財や自動車が増加している。

—— ユーロエリアの PMI は、製造業、サービス業ともに、改善・悪化の分岐点である 50 を超えて推移している（製造業：11 月 51.2→12 月 51.6、サービス業：同 53.0→53.6）⁶。製造業の内訳をみると、新規受注と生産が 50 台で推移する中、在庫は 40 台で推移している（新規受注：同 53.8→53.6、生産：同 54.8→55.1、在庫：同 42.9→43.5）。

○ 消費者物価の前年比（コアベース）は、需給緩和や賃金の伸び鈍化を背景に、プラス幅が緩やかに縮小している。

—— ユーロエリアの失業率は上昇傾向を辿っている（9 月 9.8%→10 月 9.9%→11 月 10.0%）。地域別にみると、スペインやフランスで上昇する一方、ドイツは、政府による時短手当措置の効果から、横這い圏内の動きが続いている（11 月 8.1%→12 月 8.1%）。

—— コアベースの消費者物価前年比は、加工食品やサービスなどを中心に、伸びが鈍化している（7～9 月+1.2%→10～12 月+1.0%）。総合ベースの前年比は、前年後半におけるエネルギー価格下落の影響が一巡してきていることから、プラス幅を拡大した（11 月+0.5%→12 月+0.9%）。

（2）英国経済

○ 英国経済は、下げ止まっている。個人消費の減少幅は縮小し、生産活動も持ち直しつつある。この間、住宅市場では調整が進捗する中、住宅価格は上昇している。

—— 7～9月の実質GDP（2次推計値）は、前期比年率▲0.6%となり、1次推計値（同▲1.2%）から上方改訂された。今回公表された総固定資本形成の内訳をみると、住宅投資が2007年1～3月以来の増加に転じた。

—— 小売売上数量は、均してみれば、家具・家電などを中心に増加している（7

⁶ ここでのサービス業の調査対象には金融仲介業（金融機関）も含まれる。

～9 月前期比+1.1%→10～11 月の 7～9 月対比+0.7%)。新車登録台数は、自動車販売促進策の効果や VAT 税率引き上げ (1 月、15%→17.5%) 前の駆け込み需要により、12 月まで増加を続けている。消費者コンフィデンスは、横這い圏内の動きとなっている (9 月▲15→10 月▲12→11 月▲17→12 月▲18)。

- 住宅価格 (ネーションワイド指数) は、12 月まで 8 か月連続で上昇している (11 月前月比+0.5%→12 月同+0.4%)⁷。住宅ローン承認件数は、一頃に比べ低水準ではあるが、増加傾向を辿っている。
- 鉱工業生産は、下げ止まっている (7～9 月前期比▲0.9%→10～11 月の 7～9 月対比+0.2%)。内訳をみると、自動車販売促進策を受けて自動車の生産が増加している。
- PMI は、製造業、サービス業ともに、改善・悪化の分岐点である 50 を超えて推移している (製造業：11 月 51.8→12 月 54.1、サービス業：同 56.6→56.8)。
- 消費者物価の前年比は、2008 年 12 月における VAT 税率引き下げ (17.5%→15%) の影響が一巡したことや、足もとガソリン価格が上昇していることなどから、プラス幅が拡大した (11 月+1.9%→12 月+2.9%)⁸。

3-2. 欧州の金融市場 (図表 7)

- 金融政策面をみると、ECB は、1 月初の定例政策理事会で、政策金利を 1% で据え置くことを決定した。BOE は、政策金利 (0.5%) と資産買入ファシリティ (APF) の資金枠 (2,000 億ポンド) の据え置きを決定した。
- 株価と長期金利 (国債 10 年物利回り) は、米国と同様に、前回会合対比でみて、上昇した。ただし、ドイツ国債については、ギリシャの財政問題を背景とした質への逃避 (ドイツ国債への資金流入) などから、足もと低下している。
 - ギリシャでは、欧州委員会により財政統計に関する追加的な不備が指摘されたほか、トリシェ ECB 総裁が特定国のために適格担保の枠組みを変更することはないと強調したことなどから、同国の長期金利が大幅に上昇している。この間、S&P とムーディーズがギリシャ国債を格下げし、2011 年以降の適格担保の格付け基準 (A3 相当、現在は Baa3 相当) を満たす先はムーディーズ

⁷ ハリファックス指数は、12 月まで 6 か月連続で上昇している。

⁸ 1 月には VAT 税率引き上げの影響が現れることになる。

(A2) のみとなった。

- 短期金融市場におけるターム物金利の対 OIS スプレッドは、2007 年夏の水準前後まで縮小している。一方、社債の対国債スプレッド（除く金融）は、依然高水準ながら、全体として縮小傾向を辿っている。
- 資金調達動向をみると、銀行貸出残高は、9 月に 1992 年の統計開始以来初の前年比マイナスとなった後、10、11 月もマイナス圏内で推移している。特に企業向けはマイナス幅が拡大している。

4. エマージング諸国・地域の経済・金融動向

4-1. アジア諸国・地域の実体経済（図表 8）

(1) 中国経済

- 中国経済は、内需を中心に、高めの成長を続けている。政府による景気刺激策の効果から、個人消費が堅調に推移し、固定資産投資も高伸する中で、生産は増加を続けている。この間、輸出も海外経済の回復から増加している。
 - 製造業 PMI は、改善・悪化の分岐点である 50 を超えて推移しており、かつ緩やかに上昇している（7～9 月 53.9→10～12 月 55.7）。12 月の内訳をみると、新規受注が国内向けで上昇したほか、生産も上昇した。
 - 輸出は、アジア向けや欧米向けなどを中心に増加している（7～9 月前期比 +6.7%→10～12 月同 +16.8%）。輸入は、減速しつつも増加を続けている（同 +14.5%→+10.2%）。
 - 12 月の自動車販売は、141 万台と既往ピークを更新した。また、2009 年の年間販売台数は 1,362 万台となり、米国（1,060 万台）を抜いて世界一となった。
 - M2 と 貸出は、前年比 30%前後の高い伸びが続いている（M2：12 月 +27.7%、貸出：同 +31.7%）。貸出の月間増加額をみると、12 月は約 3,800 億元となり、上期の月間平均（約 1.2 兆元）に比べ小幅となったが、今年 1 月に入ると、第 1 週だけで 6,000 億元増と大幅に増加している模様である。

(2) インド経済

- インド経済も、高めの成長を続けている。
 - 鉱工業生産は、化学などの中間財を中心に、増加傾向を辿っている（7～9 月前期比 +5.3%→10～11 月の 7～9 月対比 +0.9%）。

- 製造業 PMI は、改善・悪化の分岐点である 50 を 4 月に超えた後、50 台半ばでの推移が続いている（7～9 月 54.5→10～12 月 54.3）。
- 卸売物価 は、エネルギーや食料品の価格上昇などから、前年比プラス幅を拡大した（11 月+4.8%→12 月+7.3%）。
- M3 と貸出 は、減速しつつも高い伸びを続けている（M3：7～9 月前年比+19.0%→10～12 月同+17.4%、貸出：7～9 月同+12.7%→10～11 月同+10.0%）。

（3）NIEs・ASEAN 経済

○ NIEs・ASEAN 経済は、回復している。

- 10～12 月のシンガポールの実質 GDP は 3 期振りの減少に転じた。サービス業や建設業は増加したが、製造業が医薬品（設備補修のための減産）などで減少した。

○ 輸出や個人消費が増加し、設備投資も持ち直している。

- NIEs・ASEAN の輸出合成指数 は、増加を続けている（7～9 月前期比+9.2%→10～11 月の 7～9 月対比+8.0%）⁹。輸出の動きを仕向け地別にみると、中国などアジア向けやその他新興国向けが増加しているほか、米欧向けも持ち直している。
- 内需関連指標をみると、韓国では、消費者信頼感指数が高めの水準で推移するも、小売数量指数が増加を続けているほか、機械投資推計指数も増加基調にある。台湾でも、消費者コンフィデンスが、株価に対する見方の改善などから上昇を続けるも、小売指数が伸びを高めている。タイにおいても、民間消費指数、民間投資指数がともに増加傾向を辿っている。

○ 生産は増加している。

- NIEs・ASEAN の生産合成指数 は、夏場にかけて大幅に増加した後も、増加基調を続けている（7～9 月前期比+6.6%→10～11 月の 7～9 月対比+1.1%）¹⁰。生産の動きを国別にみると、台湾やタイでは、電気機械などを中心に増加傾向を辿っている。一方、韓国では、自動車生産の減速もあり、足もと横這

⁹ 輸出合成指数は、NIEs・ASEAN8 各国・地域（韓国、台湾、シンガポール、香港、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）の輸出金額を合算したもの（国際局試算、対外非公表）。

¹⁰ 生産合成指数は、NIEs・ASEAN6 各国・地域（香港、インドネシアについては利用可能な統計がない）の生産指数を各国 GDP ウェイトで加重平均したもの（国際局試算、対外非公表）。

い圏内の動きとなっているが、企業景気実査指数をみると、改善・悪化の分岐点である100を超えて推移している（11月105.3→12月110.0）。

- 消費者物価について、コアベースの前年比をみると、韓国やインドネシアで低下傾向を辿っているほか（韓国：7～9月+3.0%→10～12月+2.4%、インドネシア：同+4.9%→+4.4%）、台湾では前年比▲1%弱のマイナス幅が続いている（同▲0.9%→▲0.8%）。この間、タイではプラスに転化している（同▲0.5%→+0.1%）。

4-2. エマージング諸国・地域の金融市場（図表9）

- エマージング諸国・地域の金融市場をみると、景気回復が続く中、株価と通貨の上昇基調、ならびに国債金利の対米スプレッドの縮小傾向が続いている。
- 個別のエマージング金融市場の動きで目立ったものは以下の通り。
 - 中国では、株価が前回会合対比でみて上昇したが、預金準備率の引き上げ（6大商業銀行：15.5%→16%）などを受け、その上昇幅は限定的となった。
 - 資源国である豪州、インドネシア、ブラジル、ロシアでは、資源価格の上昇などを受け、株価、通貨ともに上昇した。
 - ロシア、ハンガリー、チェコでは、利下げが行われた（ロシア：9%→8.75%、ハンガリー：6.5%→6.25%、チェコ：1.25%→1%）。
 - アルゼンチンでは、1月上旬、フェルナンデス大統領が、中央銀行保有の外貨準備を対外債務の利払いに充てることに反対したレドラド総裁の解任を求めた。これを受け、CDSスプレッドが小幅拡大している。

以 上

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2040年12月>

2010.1.20
国際局

「海外経済・国際金融の現状評価」参考計表

(図表1)	米国の主要経済指標	1
(図表2)	欧州の主要経済指標	2～3
(図表3)	アジア諸国・地域の主要経済指標	4～6
(図表4)	米国の実体経済	7～13
(図表5)	米国の金融市場	14～20
(図表6)	欧州の実体経済	21～26
(図表7)	欧州の金融市場	27～30
(図表8)	アジア諸国・地域の実体経済	31～38
(図表9)	エマージング諸国・地域の金融市場	39～45
(図表10)	国際機関及び民間の海外経済・物価見通し	46

米国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(12月17日)以降に判明したもの。

	2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
1. 実質GDP ＜前期比年率、％＞	0.4		▲ 0.7	<12/22改訂> 2.2				
2. 実質可処分所得 ＜前期比、％＞	0.5		1.5	▲ 0.3	0.5	0.2	<12/23公表> 0.2	
3. 実質個人消費 ＜前期比、％＞	▲ 0.2		▲ 0.2	0.7	0.3	0.4	<12/23公表> 0.2	
4. 家計貯蓄率 ＜対可処分所得比、％＞	2.7		5.4	4.5	4.7	4.7	<12/23公表> 4.7	
5. 小売売上高 (除く自動車、ガソリン、建築資材) ＜前期比、％＞	2.3	▲ 0.8	▲ 0.7	0.4	1.4	0.2	0.9	<1/14公表> ▲ 0.3
6. 自動車販売 (年率、万台) ＜前期比、％＞	1,349	1,060	975	1,168	1,106	1,064	1,112	<1/8公表> 1,144
	▲ 18.0	▲ 21.4	0.8	19.8	▲ 5.3	13.4	4.5	2.9
7. 消費者コンフィデンス指数	57.9	45.2	48.3	51.8	50.7	48.7	50.6	<12/29公表> 52.9
8. 住宅着工 (年率、千戸) ＜前期比、％＞	906		540	587	551	527	574	
	▲ 33.2		2.3	8.6	▲ 6.2	▲ 10.1	8.9	
9. ケース・シー住宅価格指数(10大都市) ＜前期比、％＞			▲ 2.7	2.6	1.0	<12/29公表> 0.4		
(前年比、％)	▲ 16.7		▲ 16.6	▲ 10.6	▲ 6.4	▲ 6.4		
10. 非国防資本財受注(除く航空機) ＜前期比、％＞			0.9	2.9	1.3	▲ 2.1	<1/5改訂> 3.6	
(前年比、％)	▲ 0.3		▲ 23.5	▲ 18.5	▲ 9.9	▲ 11.5	▲ 8.1	
11. 財・サービス貿易収支 (億ドル)	▲ 579.9		▲ 270.8	▲ 324.6	▲ 348.0	▲ 331.9	<1/12公表> ▲ 364.0	
12. ISM 製造業指数	45.5	46.3	42.6	51.5	55.1	55.7	53.6	<1/4公表> 55.9
非製造業指数	47.4	46.3	44.9	48.6	49.8	50.6	48.7	<1/8公表> 50.1
13. 鉱工業生産 ＜前期比、％＞			▲ 2.7	1.7	1.7	0.2	0.6	<1/15公表> 0.6
(前年比、％)	▲ 2.2	▲ 9.7	▲ 13.5	▲ 9.1	▲ 4.6	▲ 6.6	▲ 4.7	▲ 2.4
14. 失業率 (除く軍人、％)	5.8	9.3	9.3	9.7	10.0	10.1	10.0	<1/8公表> 10.0
15. 非農業部門雇用者数 (増減数、千人/月)	▲ 257	▲ 347	▲ 428	▲ 199	▲ 69	▲ 127	4	<1/8公表> ▲ 85
うち民間部門	▲ 270	▲ 342	▲ 425	▲ 171	▲ 76	▲ 163	0	▲ 64
16. CPI ＜前期比、％＞			0.3	0.9	0.8	0.3	0.4	<1/15公表> 0.1
(前年比、％)	3.8	▲ 0.4	▲ 1.2	▲ 1.6	1.4	▲ 0.2	1.8	2.7
コア＜前期比、％＞			0.6	0.4	0.4	0.2	0.0	<1/15公表> 0.1
(前年比、％)	2.3	1.7	1.8	1.5	1.7	1.7	1.7	1.8
17. 非農業部門労働生産性 ＜前期比年率、％＞			6.9	8.1				
(前年比、％)	1.8		1.9	4.0				
18. ユニット・レーバ・コスト ＜前期比年率、％＞			▲ 0.0	▲ 2.5				
(前年比、％)	1.0		0.3	▲ 1.4				

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均を用いて算出。

(注) ・前期(月)比は季調済みベース。

・財・サービス貿易収支の年計数および四半期計数は月平均に換算。

・雇用者増減数(期末差)の年計数および四半期計数は月平均に換算。

・CPIコアは食料品、エネルギーを除いたベース。

ユーロエリアの主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(12月17日)以降に判明したもの。

※

		2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月	12月
1. 実質GDP	<前期比年率、%>	0.6		▲0.5	<1/8改訂> 1.7					
独 実質GDP	<前期比年率、%>	1.3	<1/13公表> ▲5.0	1.8	2.9					
仏 実質GDP	<前期比年率、%>	0.3		1.3	<12/29公表> 1.0					
2. 輸出	<前期比、%>			▲0.3	3.4	1.2	4.5	<1/15改訂> ▲0.1	<1/15公表> ▲0.4	
	(前年比、%)	3.6		▲23.2	▲19.4	▲11.9	▲19.3	▲17.1	▲5.8	
3. 独 海外受注(域外)	<前期比、%>			9.6	8.2	1.2	3.6	▲1.5	<1/7公表> ▲3.2	
	(前年比、%)	▲5.5		▲30.8	▲19.5	▲7.7	▲11.7	▲8.4	▲7.0	
4. 独 国内投資財受注	<前期比、%>			▲0.6	9.0	▲5.7	▲8.0	▲0.4	<1/7公表> 3.0	
	(前年比、%)	▲6.9		▲26.3	▲15.9	▲9.2	▲19.0	▲14.1	▲3.9	
5. 輸入	<前期比、%>			▲4.6	0.9	0.7	2.7	<1/15改訂> ▲1.0	<1/15公表> 0.3	
	(前年比、%)	8.1		▲27.2	▲25.8	▲18.8	▲22.8	▲22.4	▲14.7	
6. 小売売上数量	<前期比、%>			▲0.4	▲0.5	▲0.8	▲0.5	0.2	<1/7公表> ▲1.2	
	(前年比、%)	▲0.7		▲2.5	▲2.1	▲2.6	▲2.8	▲1.3	▲4.0	
7. 新車登録台数	(年率、万台)	1,076	1,107	1,119	1,150	1,165	1,163	1,176	1,170	<1/15公表> 1,151
	<前期比、%>	▲7.0	2.8	12.6	2.8	1.3	4.0	1.1	▲0.5	▲1.6
8. 消費者コンフィデンス	(DI、%)	▲18	▲25	▲28	▲21	▲17	▲19	▲18	▲17	<1/7公表> ▲16
9. 鉱工業生産	<前期比、%>			▲1.2	2.3	0.8	0.3	▲0.3	<1/14公表> 1.0	
	(前年比、%)	▲1.7		▲18.6	▲14.5	▲9.1	▲12.7	▲10.9	▲7.1	
10. 製造業PMI(購買担当者指数)	(DI、%)	46.5	43.3	40.0	47.9	51.2	49.3	50.7	51.2	<1/4改訂> 51.6
サービス業PMI(事業活動指数)	(DI、%)	48.5	46.8	44.4	48.8	53.1	50.9	52.6	53.0	<1/6改訂> 53.6
11. 失業率	(%)	7.5		9.3	9.6	10.0	9.8	9.9	<1/8公表> 10.0	
12. 消費者物価	(前年比、%)	3.3	0.3	0.2	▲0.4	0.4	▲0.3	▲0.1	0.5	<1/15改訂> 0.9
コア	(前年比、%)	2.4	1.3	1.5	1.2	1.0	1.1	1.0	1.0	<1/15公表> 1.0

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) 欧州委員会 (Eurostat)、ECB、Deutsche Bundesbank、Statistisches Bundesamt、INSEE、Thomson Reuters Datastream、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

- (注) ・ユーロエリアに関する計数・図表のうち、消費者物価・M3・貸出は各時期のユーロ構成国ベース。
 ・実質GDPの年率換算値は、当局計算による。なお、ユーロエリアとドイツの暦年の計数は、未季調ベース。
 ・前期(月)比は季調済みベース。
 ・消費者物価コアは、エネルギー、非加工食料品を除いたベース。
 ・ドイツの2009年の実質GDPは、通年の成長率のみが公表されており、4Qの成長率は未公表。

(図表 2-2)

英国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(12月17日)以降に判明したもの。

		※								
		2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月	12月
1. 実質GDP	<前期比年率、%>	0.5		▲2.7	▲0.6					
2. 小売売上数量	<前期比、%>			0.9	1.1	0.7	0.4	0.6	▲0.3	
	(前年比、%)	2.6		1.0	2.6	3.4	2.9	3.7	3.1	
3. 消費者コンフィデンス	(DI、%)	▲29	▲25	▲27	▲22	▲16	▲15	▲12	▲17	▲18
4. 鉱工業生産	<前期比、%>			▲0.6	▲0.9	0.2	1.3	▲0.1	0.4	
	(前年比、%)	▲3.1		▲11.9	▲10.8	▲7.2	▲10.8	▲8.4	▲6.0	
5. 製造業PMI(購買担当者指数)	(DI、%)	44.9	46.5	45.4	50.4	53.0	50.0	53.0	51.8	54.1
サービス業PMI 事業活動指数	(DI、%)	47.6	51.3	50.7	54.2	56.8	55.3	56.9	56.6	56.8
6. 失業率(失業保険ベース)	(%)	2.8		4.7	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	
7. CPI	(前年比、%)	3.6	2.2	2.1	1.5	2.1	1.1	1.5	1.9	2.9
8. 住宅価格(Nationwide指数)	(前年比、%)	▲6.7	▲7.4	▲11.9	▲3.0	3.5	0.0	2.0	2.7	5.9

※直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) ONS、Thomson Reuters Datastream、Bloomberg、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(注) 実質GDPの年率換算値と、消費者コンフィデンスの季調値は、当局計算による。

アジア諸国・地域の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(12月17日)以降に判明したものの。

1. 中国

(前年比、%)

	2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
1. 実質GDP 〈内は季調済前期比年率〉	9.6		7.9 〈 18.6 〉	8.9 〈 11.0 〉				
2. 工業生産 〈〉内は前期比	12.9		9.1 〈 6.3 〉	12.4 〈 4.4 〉	17.7 〈 3.8 〉	16.1 〈 1.5 〉	19.2 〈 1.0 〉	
3. 製造業PMI*	50.2	52.9	53.3	53.9	55.7	55.2	55.2	56.6
4. 消費財小売売上総額	21.6		15.0	15.4	16.0	16.2	15.8	
5. 固定資産投資	26.1		35.9	32.8	27.9	31.6	24.3	
6. 輸出 〈〉内は前期比	17.4	▲ 16.0	▲ 23.5 〈 ▲ 2.7 〉	▲ 20.6 〈 6.7 〉	0.2 〈 16.8 〉	▲ 13.8 〈 ▲ 0.0 〉	▲ 1.2 〈 6.5 〉	17.7 〈 14.4 〉
7. 輸入 〈〉内は前期比	18.5	▲ 11.2	▲ 20.3 〈 18.3 〉	▲ 11.7 〈 14.5 〉	22.6 〈 10.2 〉	▲ 6.4 〈 ▲ 5.1 〉	26.7 〈 ▲ 5.3 〉	55.9 〈 24.6 〉
8. CPI	5.9		▲ 1.5	▲ 1.3	0.0	▲ 0.5	0.6	
9. M2	17.8	27.7	28.5	29.3	27.7	29.5	29.7	27.7
10. 人民元貸出	18.7	31.7	34.4	34.2	31.7	34.2	33.8	31.7

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M2、人民元貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 実質GDP、工業生産、輸出入の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。中国物流購買連合会が公表するデータを使用。

(注4) 固定資産投資は、都市部、当期の値。中国国家統計局が公表する年初来累計値と同前年比伸び率を用いて当局で試算。

2. インド

(前年比、%)

	2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
1. 実質GDP 〈内は季調済前期比年率〉	7.5		6.1 〈 6.8 〉	7.9 〈 14.6 〉				
個人消費	4.4		1.6 〈 ▲ 4.7 〉	5.6 〈 17.6 〉				
総固定資本形成	8.8		4.2 〈 1.5 〉	7.3 〈 39.6 〉				
2. 鉱工業生産 〈〉内は前期比	4.4		3.8 〈 3.6 〉	9.1 〈 5.3 〉	11.0 〈 0.9 〉	10.3 〈 ▲ 2.1 〉	11.7 〈 3.1 〉	
3. 製造業PMI*	55.5	52.8	54.8	54.5	54.3	54.5	53.0	55.6
雇用*	50.9	49.7	50.1	49.8	50.3	50.8	50.3	49.9
4. 卸売物価	9.1	2.0	0.5	▲ 0.1	4.4	1.3	4.8	7.3
5. M3	19.7	17.4	20.1	19.0	17.4	18.3	18.4	17.4
6. 貸出	23.2		15.1	12.7	10.0	9.0	10.0	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M3、貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 実質GDPの季調値は、X-11による当局算出値。鉱工業生産の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(注4) 貸出は指定商業銀行ベース。

(出所) CEIC、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(図表3-2)

3. NIEs、ASEAN諸国・地域

(1) 実質GDP

(季調済前期比年率、()内は前年比、%)

	2007年	2008年	2009年	2008/4Q	2009/1Q	2Q	3Q	4Q
韓国	5.1	2.2		▲ 18.8 (▲ 3.4)	0.5 (▲ 4.2)	11.0 (▲ 2.2)	13.6 (0.9)	
台湾	6.0	0.7		▲ 13.7 (▲ 7.1)	▲ 11.3 (▲ 9.1)	18.8 (▲ 6.9)	8.3 (▲ 1.3)	
香港	6.4	2.4		▲ 7.4 (▲ 2.6)	▲ 16.1 (▲ 7.8)	14.8 (▲ 3.6)	1.6 (▲ 2.4)	
シンガポール	7.8	1.1	▲ 2.1	▲ 16.4 (▲ 4.2)	▲ 12.2 (▲ 9.5)	21.7 (▲ 3.3)	14.2 (0.6)	▲ 6.8 (▲ 3.5)
タイ	4.9	2.5		▲ 18.0 (▲ 4.2)	▲ 6.0 (▲ 7.1)	9.0 (▲ 4.9)	5.5 (▲ 2.8)	
インドネシア	6.3	6.1		1.4 (5.2)	4.1 (4.4)	5.3 (4.0)	5.8 (4.2)	
マレーシア	6.2	4.6		▲ 7.3 (0.1)	▲ 17.2 (▲ 6.2)	12.2 (▲ 3.9)	10.0 (▲ 1.2)	
フィリピン	7.1	3.8		1.1 (2.9)	▲ 8.3 (0.6)	7.0 (0.8)	4.1 (0.8)	

(注1) 季節調整値は、韓国、台湾、香港、シンガポール、タイ、フィリピンが現地統計。その他はX-11による当局算出値。

(注2) 実質GDPの年率換算値は、当局計算による。

(2) 輸出

(名目米ドルベース、季調済前期比、()内は前年比、%)

	2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
輸出合成指数	11.3		8.1	9.2	8.0			
うちIT関連寄与度			4.0	0.8	2.6			
韓国 <29.5>	13.6	▲ 13.9	12.7 (▲ 21.1)	8.6 (▲ 17.6)	6.4 (11.7)	▲ 3.1 (▲ 8.5)	▲ 0.2 (17.9)	9.4 (▲ 32.8)
台湾 <17.9>	3.6	▲ 20.3	8.9 (▲ 32.0)	13.2 (▲ 20.9)	10.1 (17.0)	4.8 (▲ 4.6)	▲ 2.4 (19.4)	6.7 (▲ 46.9)
タイ <12.5>	15.5	▲ 14.2	▲ 0.0 (▲ 26.2)	13.9 (▲ 17.7)	7.6 (11.9)	▲ 1.1 (▲ 3.0)	▲ 0.7 (17.2)	5.5 (▲ 26.1)
インドネシア <9.6>	20.1		10.1 (▲ 26.2)	8.3 (▲ 19.3)	19.4 (12.4)	22.3 (13.5)	▲ 3.1 (11.3)	

(参考) 新規輸出受注PMI*

	2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
韓国	48.3	50.8	50.9	53.9	51.4	51.2	52.4	50.7
台湾	43.1	53.9	53.3	59.4	61.7	62.6	60.1	62.4

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10~11月の値。直近月まで公表されていないデータは、前月の前年比で横置きしている。

(注3) 輸出の季節調整値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 輸出の< >内は、合成指数に占めるシェア(%)、2008年)。

(注5) 輸出、輸出合成指数はともに金額ベース。

(注6) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注7) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(出所) CEIC、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(図表3-3)

(3) 生産関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
生産合成指数		1.7		11.3	6.6	1.1			
うちIT関連寄与度				6.0	2.3	0.4			
韓国	鉱工業生産指数	3.0		11.4 (▲6.2)	7.1 (4.2)	▲0.0 (8.4)	▲3.8 (0.2)	1.4 (17.8)	
	企業景気実査指数 [†] (季調済)	82.0	93.5	91.7	104.0	107.7	107.8	105.3	110.0
台湾	鉱工業生産指数	▲1.8		17.3 (▲16.6)	7.0 (▲5.4)	7.8 (17.9)	▲0.1 (7.1)	6.5 (31.5)	
タイ	製造業生産指数	5.3		9.7 (▲9.2)	4.0 (▲5.0)	4.7 (4.5)	▲0.1 (0.5)	▲0.4 (8.9)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10~11月の値。直近月まで公表されていないデータは、前月の値で横置きしている。

(注3) 生産指数の季節調整値は、現地統計またはX-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 生産、生産合成指数はともに数量ベース。

(注5) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注6) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(4) 内需関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
韓国	小売数量指数	1.0		5.0 (1.6)	1.5 (3.4)	3.4 (9.9)	2.9 (9.8)	▲0.9 (10.0)	
	消費者信頼感指数 [†]	90.8	103.5	103.0	112.3	114.3	117.0	113.0	113.0
	機械投資推計指数	▲4.3		6.6 (▲13.4)	4.2 (▲10.1)	10.1 (5.3)	▲5.6 (0.5)	7.0 (10.3)	
台湾	小売指数	▲4.3		(▲1.4)	(4.8)	(9.2)	(7.4)	(11.0)	
	消費者コンフィデンス [†]	58.7	54.5	51.1	55.2	62.8	60.6	62.5	65.4
タイ	民間消費指数(PCI)	3.6		1.1 (▲4.3)	4.2 (▲2.4)	1.3 (1.5)	▲1.1 (▲0.9)	1.3 (4.0)	
	民間投資指数(PII)	3.7		▲4.1 (▲16.0)	4.9 (▲12.8)	4.7 (▲8.5)	1.4 (▲10.1)	1.7 (▲6.9)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(5) 消費者物価指数(CPI)

(前年比、%)

		2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
韓国	()内はコア	4.7 (4.3)	2.8 (3.6)	2.8 (3.9)	2.0 (3.0)	2.4 (2.4)	2.0 (2.6)	2.4 (2.5)	2.8 (2.2)
台湾	()内はコア	3.5 (3.1)	▲0.9 (▲0.1)	▲0.8 (▲0.0)	▲1.3 (▲0.9)	▲1.2 (▲0.8)	▲1.9 (▲0.9)	▲1.6 (▲0.9)	▲0.2 (▲0.7)
タイ	()内はコア	5.5 (2.3)	▲0.8 (0.3)	▲2.8 (▲0.1)	▲2.2 (▲0.5)	1.9 (0.1)	0.4 (▲0.1)	1.9 (0.1)	3.5 (0.2)
インドネシア	()内はコア	9.8 (N/A)	4.8 (4.4)	5.6 (6.4)	2.8 (4.9)	2.6 (4.4)	2.6 (4.5)	2.4 (4.3)	2.8 (4.3)

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 韓国のCPIコアは、CPI総合から穀物以外の農産物、石油関連製品を排除。台湾のCPIコアは、CPI総合から生鮮食料品およびエネルギーを排除。タイのCPIコアは、CPI総合から非加工食品、エネルギーを排除。インドネシアのCPIコアは、CPI総合から、政府の規制価格の影響がある項目および生鮮食料品を排除。

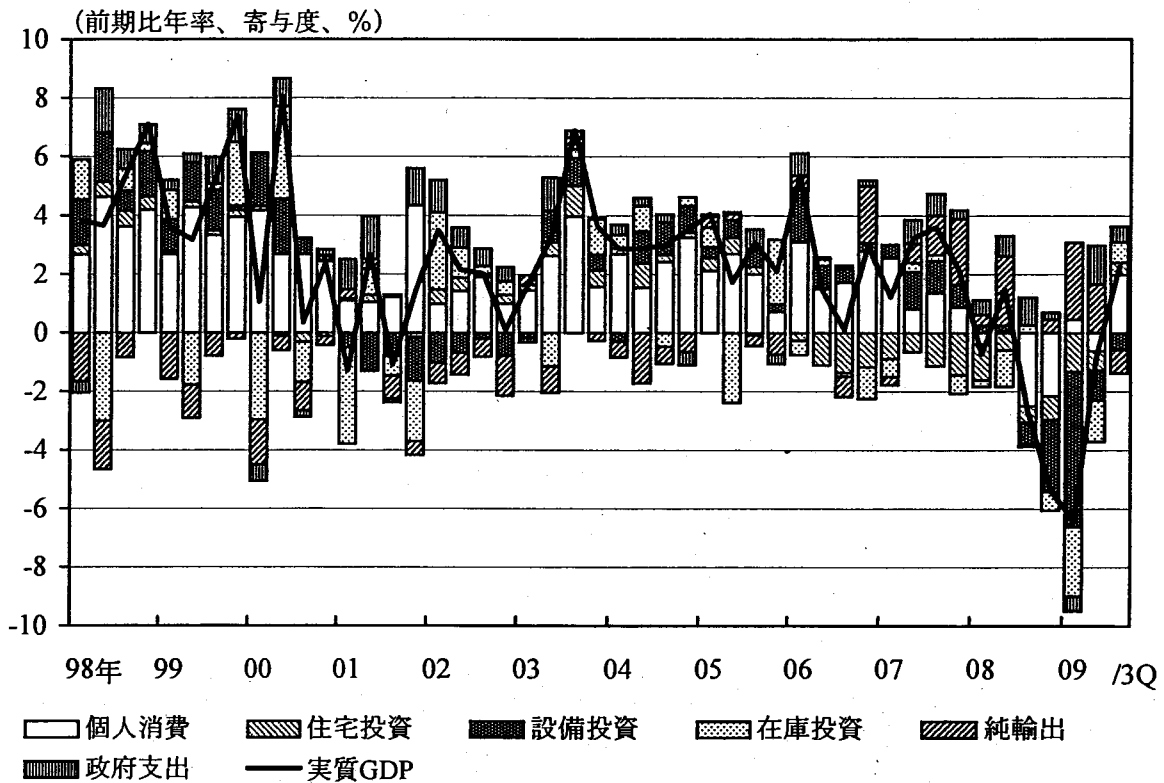
(注3) インドネシアは、2008年以降の計数は2007年基準、その他は2002年基準。2007年基準のCPIコアは、一部未公表。

(出所) CEIC

米国の実体経済

① 米国の実質GDP

(1) 実質GDPの需要項目別寄与度



(2) 需要項目別計数

実質・年率、% () 内は前期比増減、10億ドル

	2008年 ウェイト	寄与度分解					前期比年率				
		2008年 通年	2009年				2008年 通年	2009年			
			1Q	2Q	3Q	(改訂前)		1Q	2Q	3Q	(改訂前)
実質GDP	100	0.4	▲ 6.4	▲ 0.7	2.2	2.8	0.4	▲ 6.4	▲ 0.7	2.2	2.8
個人消費	70	▲ 0.2	0.4	▲ 0.6	2.0	2.1	▲ 0.2	0.6	▲ 0.9	2.8	2.9
住宅投資	3	▲ 1.0	▲ 1.3	▲ 0.7	0.4	0.5	▲ 22.9	▲ 38.2	▲ 23.3	18.9	19.5
設備投資	12	0.2	▲ 5.3	▲ 1.0	▲ 0.6	▲ 0.4	1.6	▲ 39.2	▲ 9.6	▲ 5.9	▲ 4.1
在庫投資	▲ 0	▲ 0.4	▲ 2.4	▲ 1.4	0.7	0.9	(▲ 45.4)	(▲ 76.5)	(▲ 46.3)	(21.0)	(26.8)
純輸出	▲ 4	1.2	2.6	1.7	▲ 0.8	▲ 0.8	(153.4)	(84.4)	(56.1)	(▲ 27.0)	(▲ 27.6)
輸出	12	0.6	▲ 4.0	▲ 0.5	1.8	1.7	5.4	▲ 29.9	▲ 4.1	17.8	17.0
輸入	16	0.6	6.6	2.1	▲ 2.6	▲ 2.5	▲ 3.2	▲ 36.4	▲ 14.7	21.3	20.8
政府支出	19	0.6	▲ 0.5	1.3	0.6	0.6	3.1	▲ 2.6	6.7	2.6	3.1
最終需要	100	0.8	▲ 4.1	0.7	1.5	1.9	0.8	▲ 4.1	0.7	1.5	1.9

%

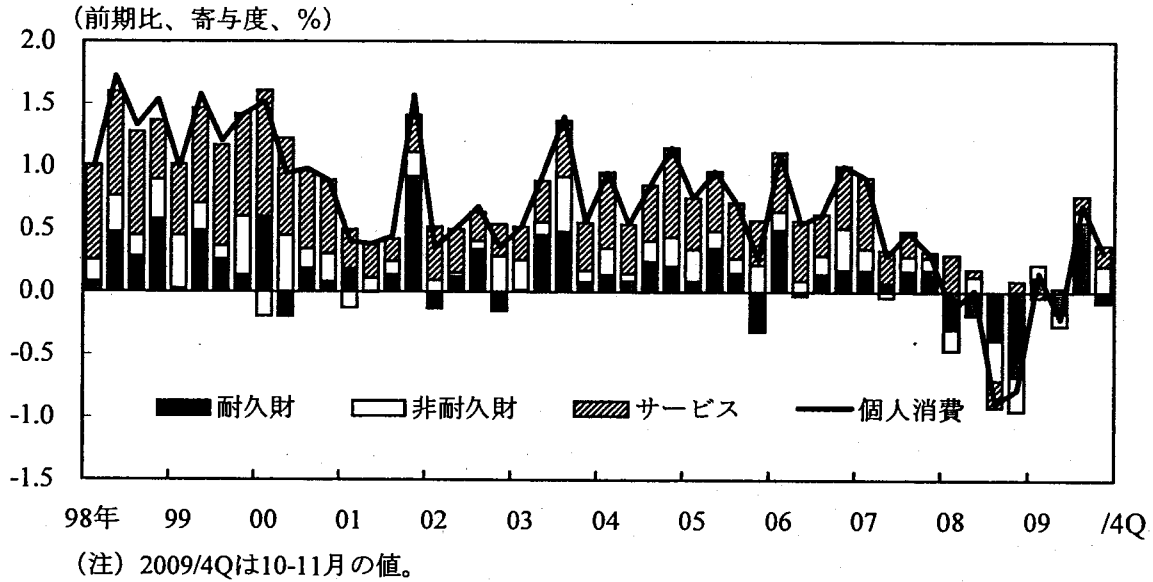
個人消費デフレーター	前年比					前期比年率				
	2008年 通年	2009年				2008年 通年	2009年			
		1Q	2Q	3Q	(改訂前)		1Q	2Q	3Q	(改訂前)
総合	3.3	0.4	▲ 0.2	▲ 0.7	▲ 0.7	3.3	▲ 1.5	1.4	2.6	2.7
コア	2.4	1.7	1.6	1.3	1.3	2.4	1.1	2.0	1.2	1.3

(注) 最終需要は、実質GDPから在庫投資を除いたもの。

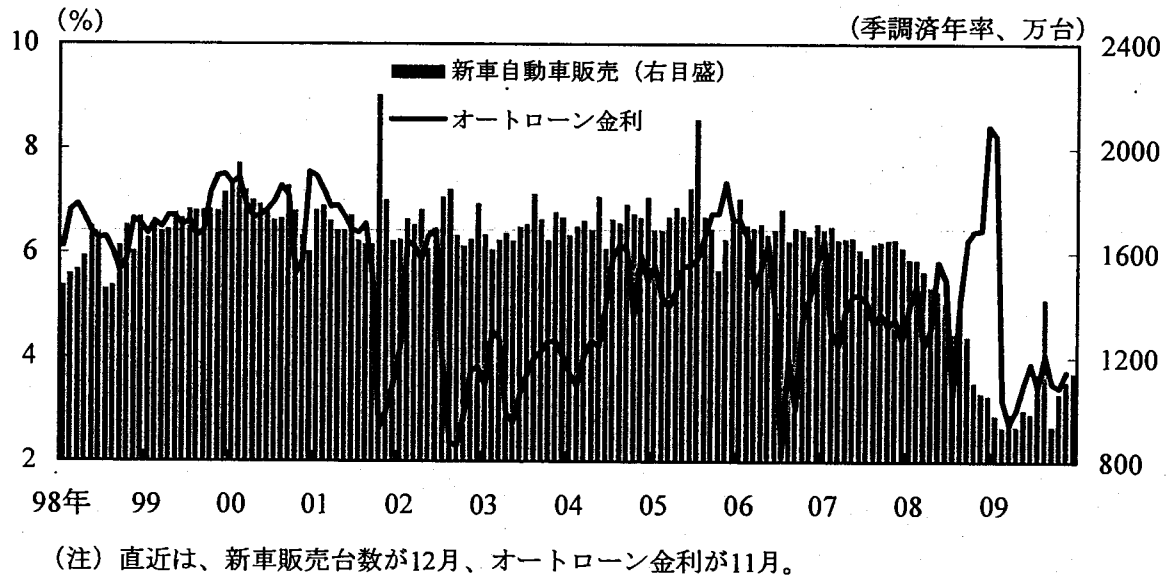
② 米国の個人消費関連

(図表4-2)

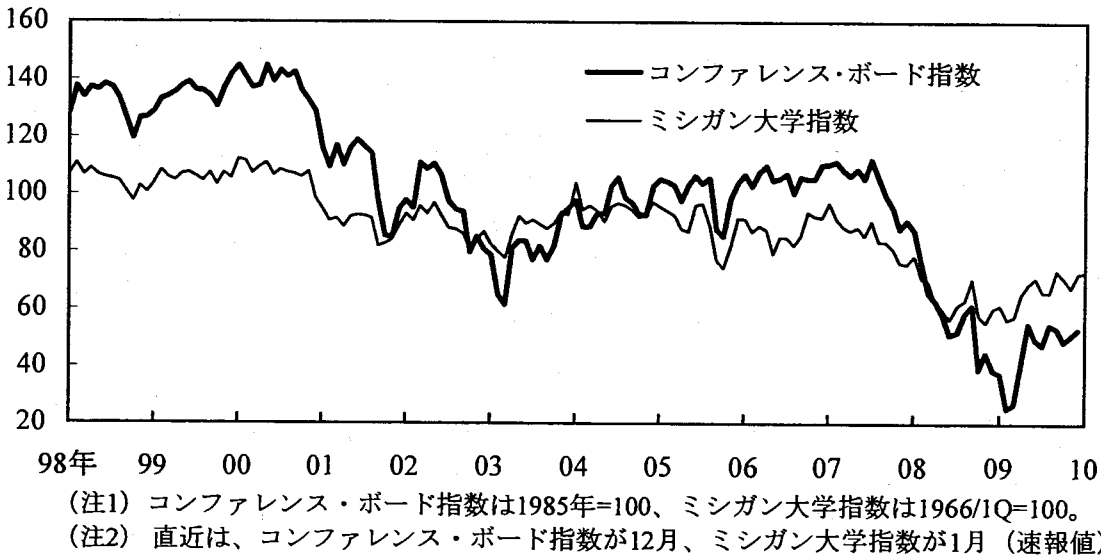
(1) 個人消費



(2) 自動車販売



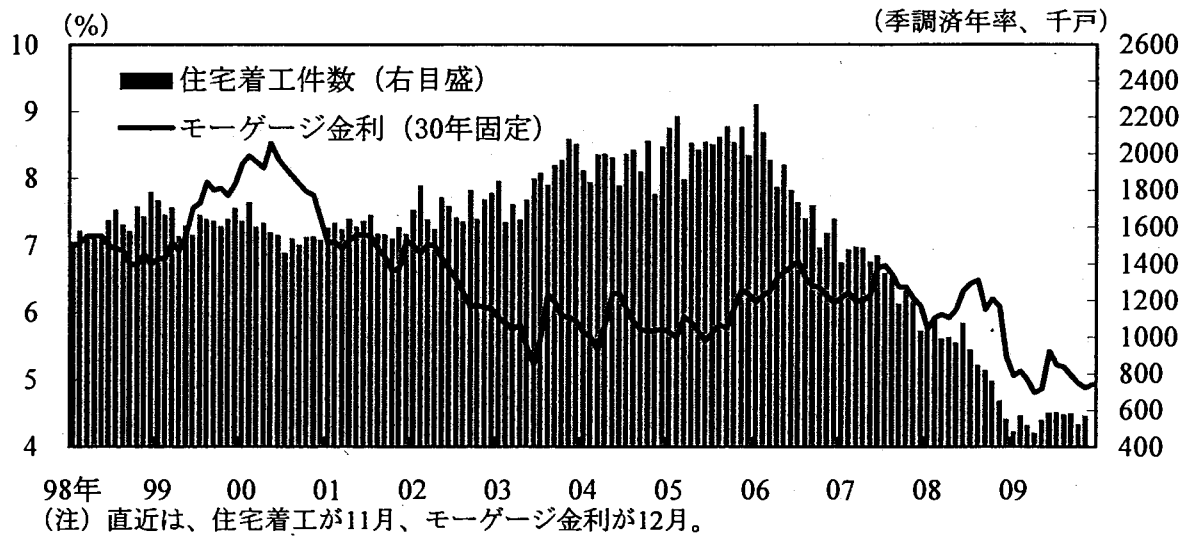
(3) 消費者コンフィデンス



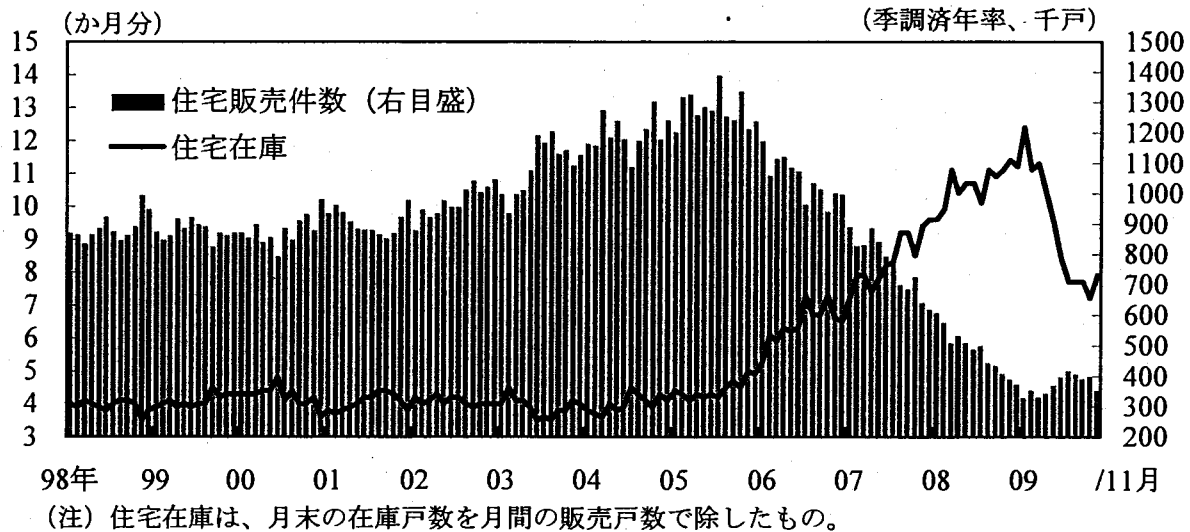
③ 米国の住宅投資

(図表4-3)

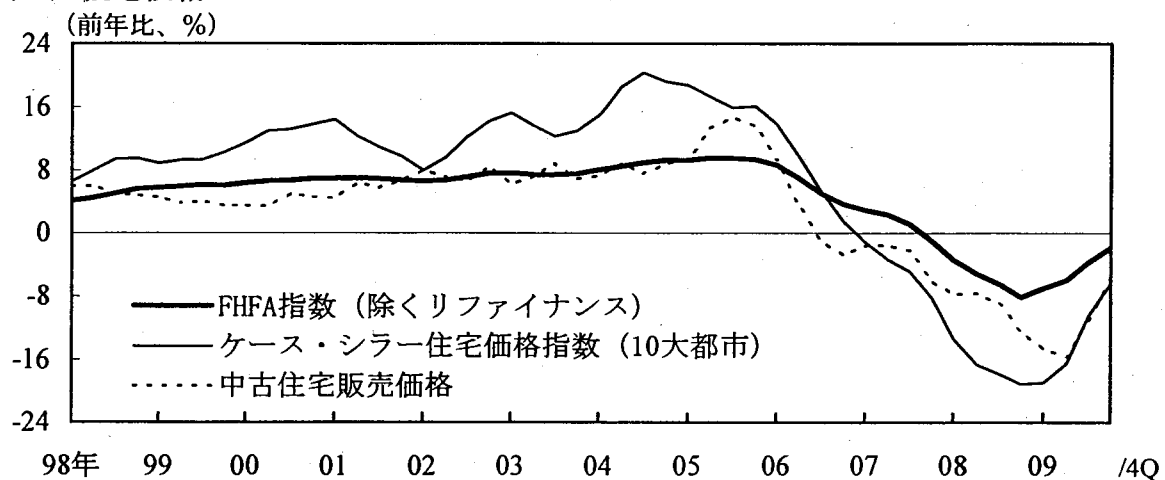
(1) モーゲージ金利と住宅着工



(2) 新築一戸建て住宅販売と住宅在庫



(3) 住宅価格

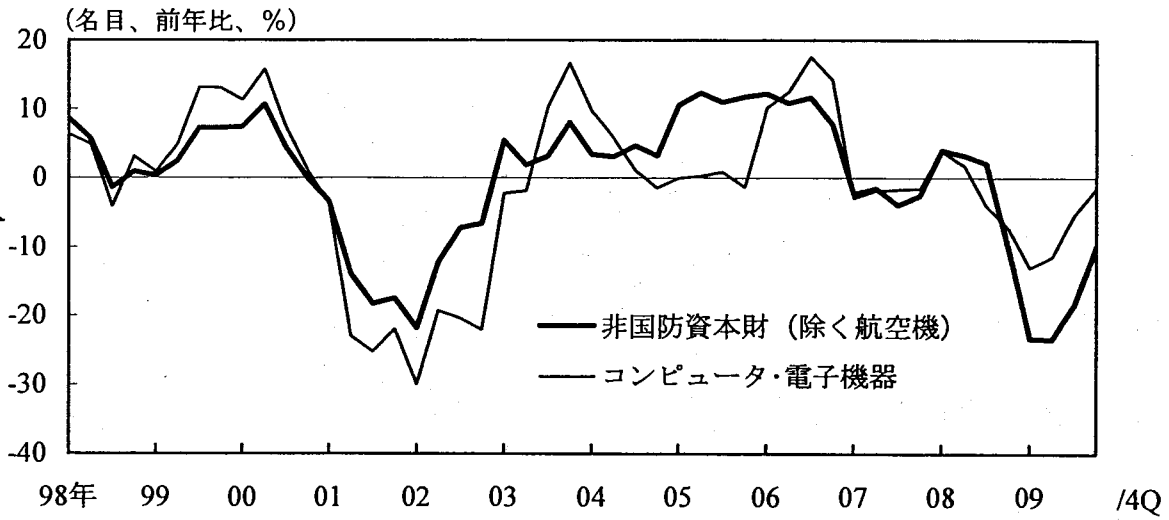


- (注1) 除くリファイナンスは、FHFA指数の対象物件のうち、リファイナンスに伴い再評価された物件を除き、実際に購入された物件のみを対象とした価格指数。
- (注2) 中古住宅販売価格は、不動産業者から報告された中古一戸建て住宅の販売物件の平均単価を集計したもの(中央値)。
- (注3) 直近は、FHFA指数(除くリファイナンス)、ケース・シラー住宅価格指数(10大都市)が10月、中古住宅販売価格が10-11月の値。

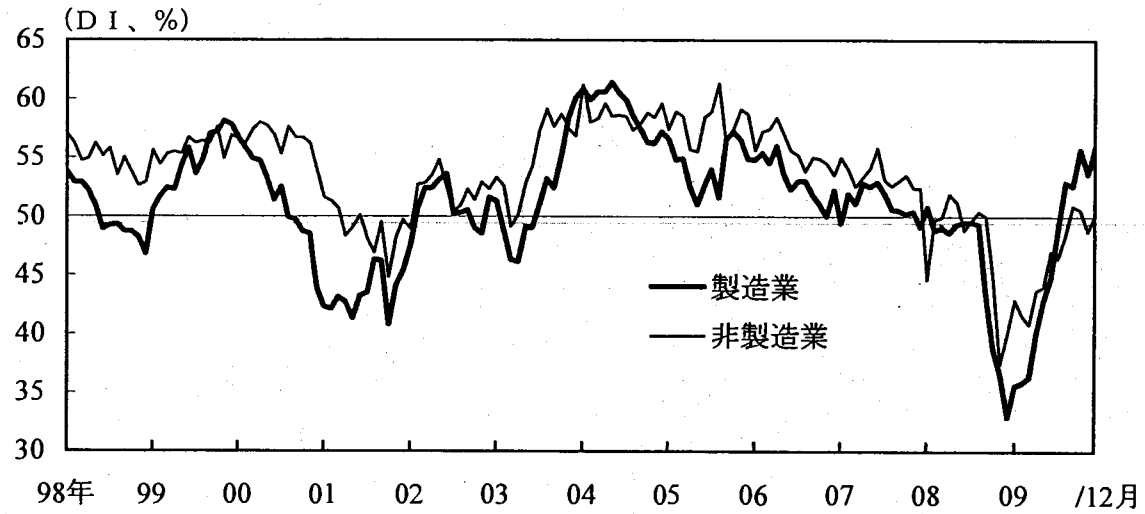
④ 米国の設備投資と生産

(図表4-4)

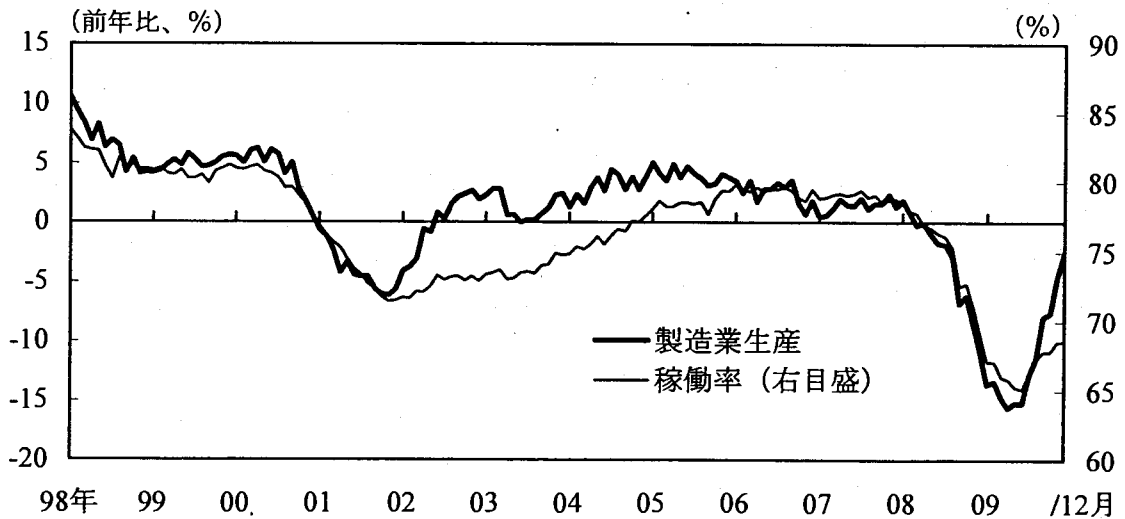
(1) 非国防資本財(除く航空機)とコンピュータ・電子機器受注



(2) 企業コンフィデンス(ISM指数)



(3) 製造業生産・稼働率

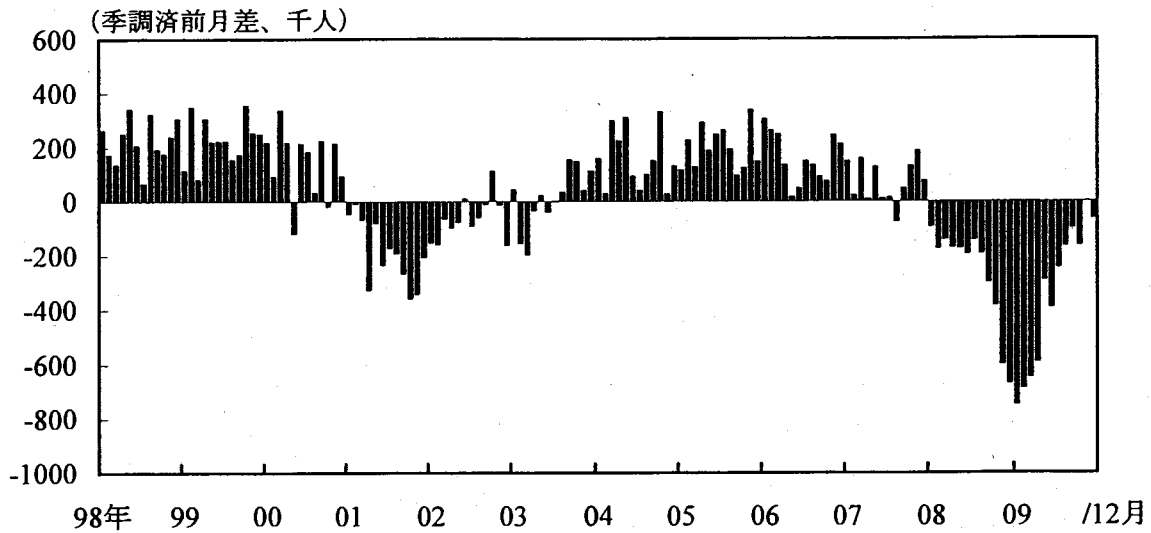


⑤ 米国の雇用

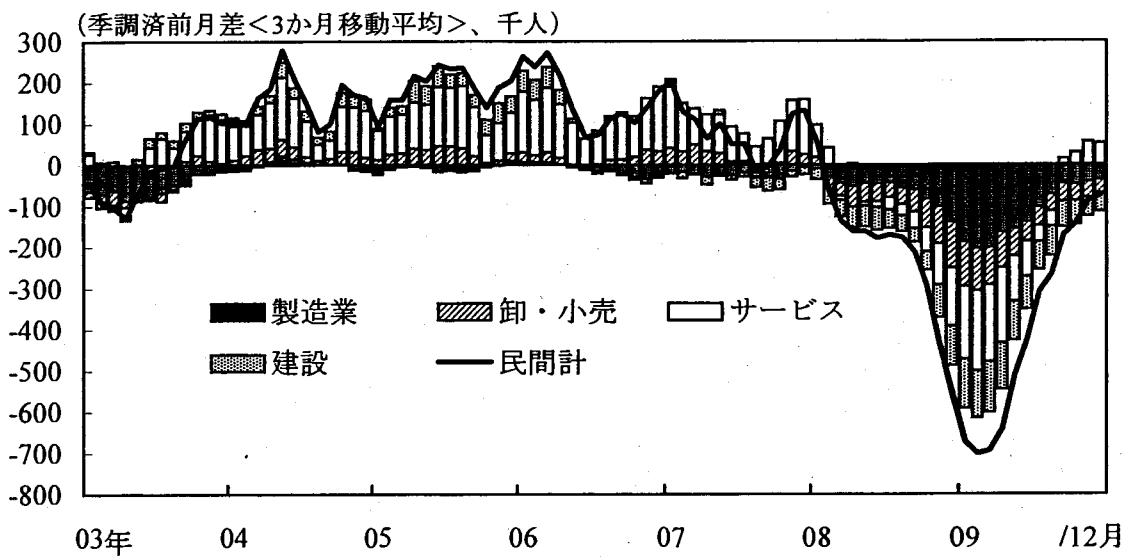
(図表4-5)

(1) 民間部門雇用者数

① 全体

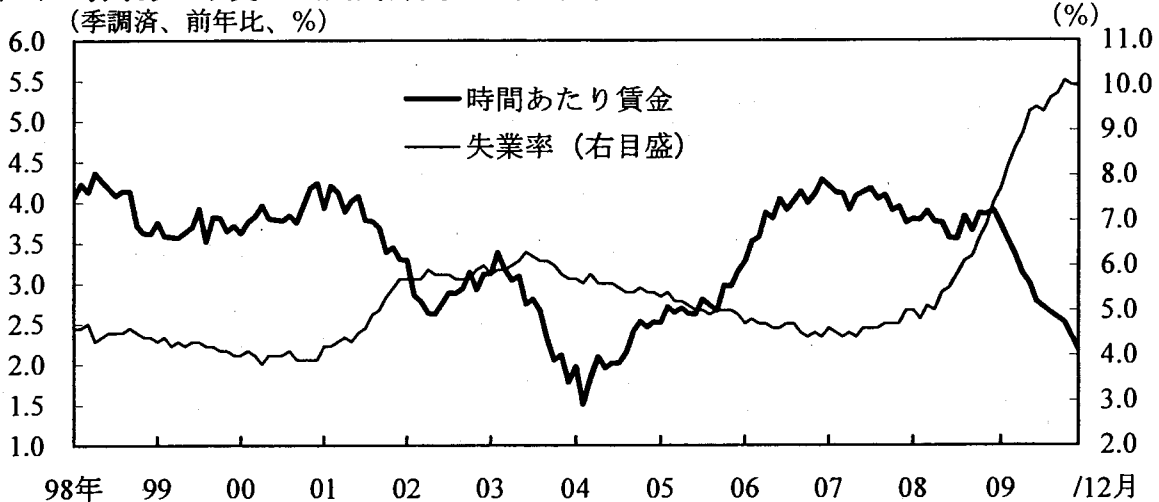


② 業種別



(注) 棒線の合計と折れ線の差はその他の項目(金融等)。

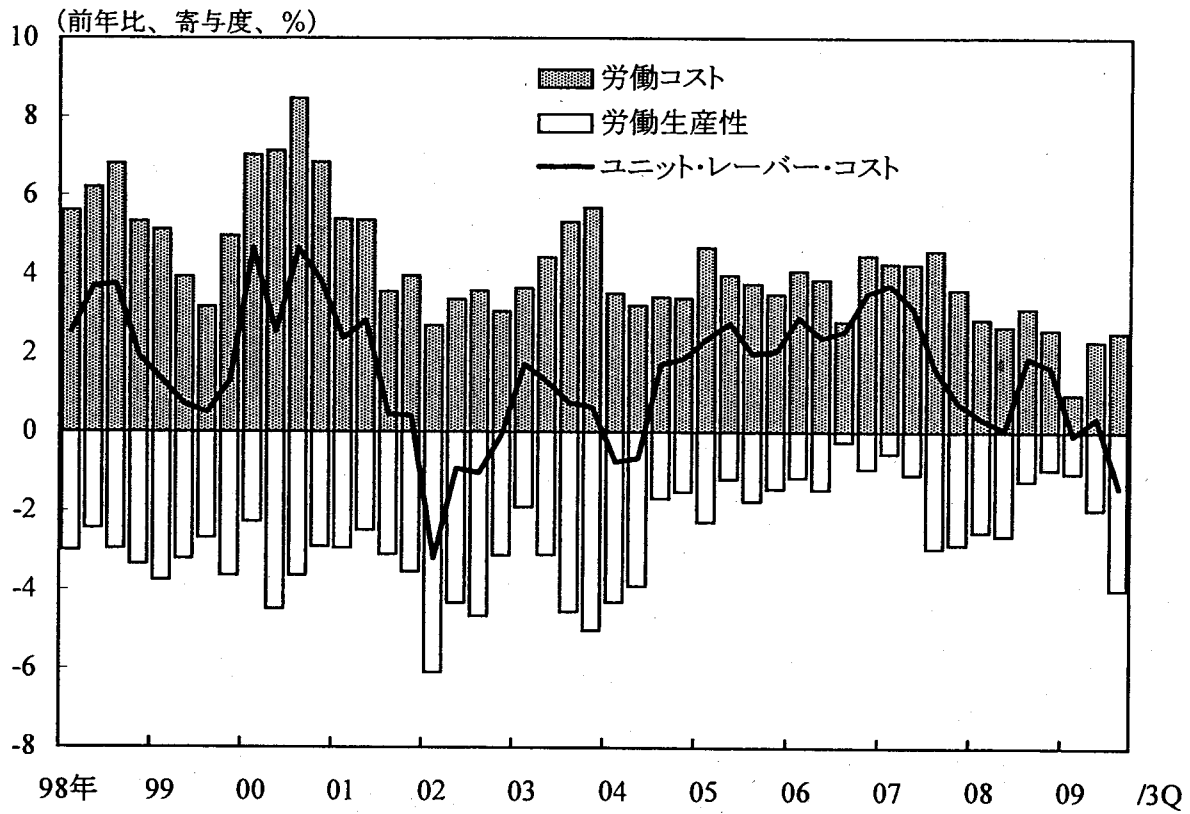
(2) 時間あたり賃金(民間部門)と失業率



⑥ 米国の労働コスト、物価

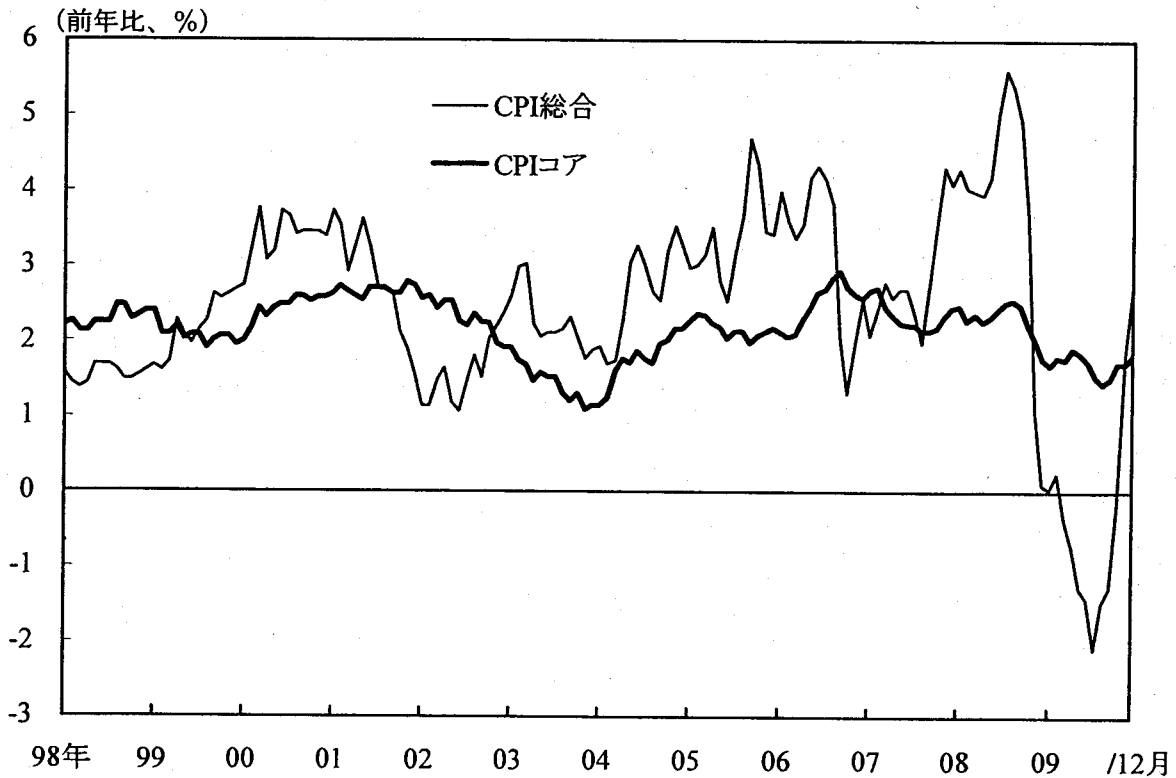
(図表4-6)

(1) ユニット・レーバー・コスト



(注)労働コストは、賃金と福利厚生費の合計。

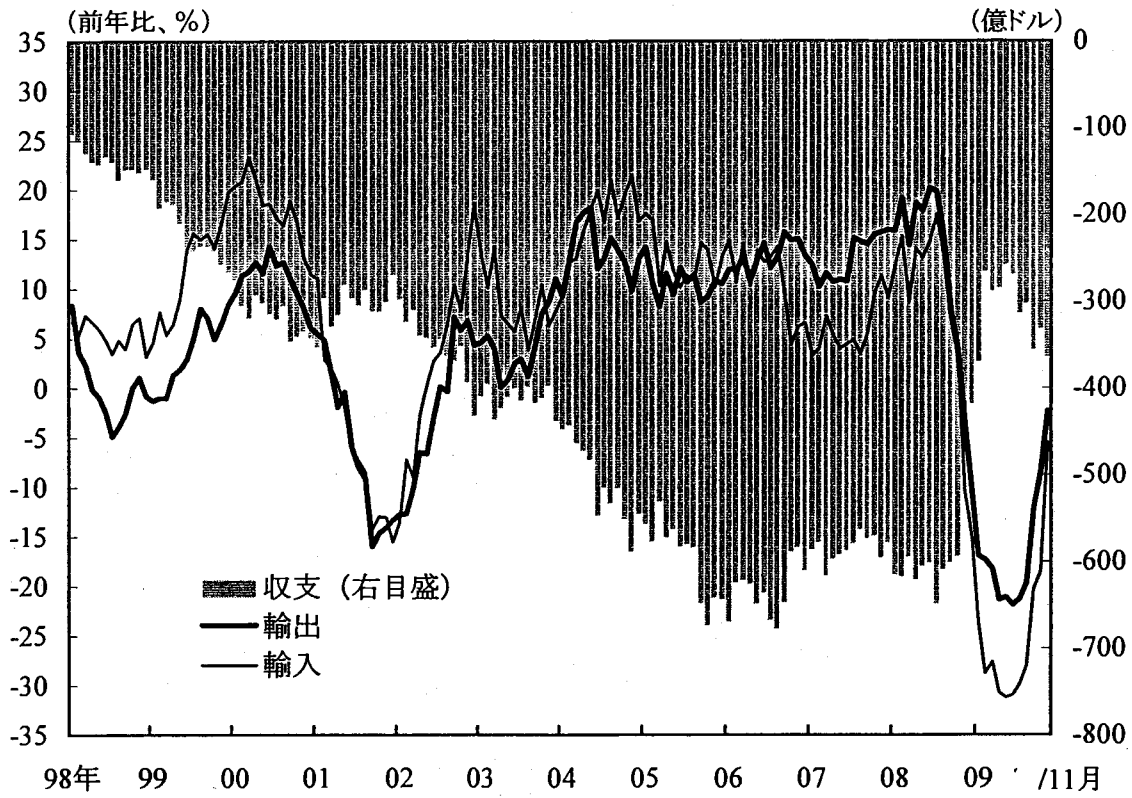
(2) CPI



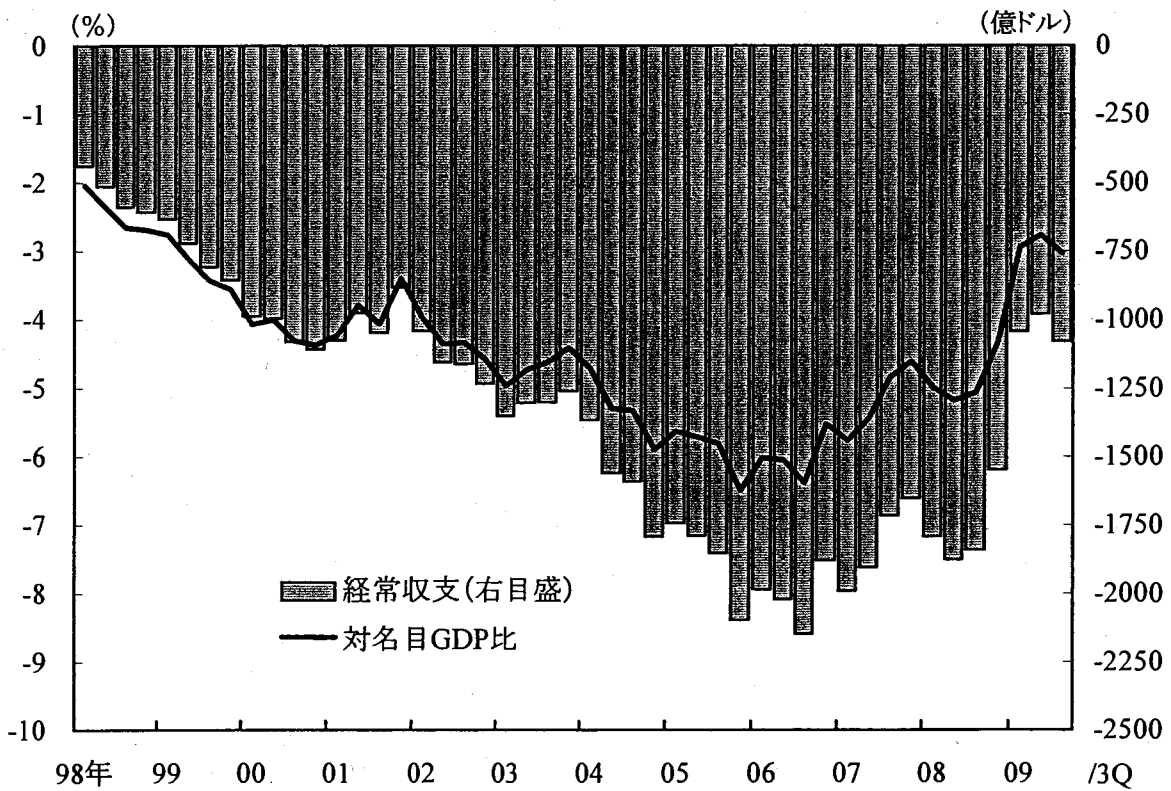
⑦ 米国の対外バランス

(図表4-7)

(1) 財・サービス収支



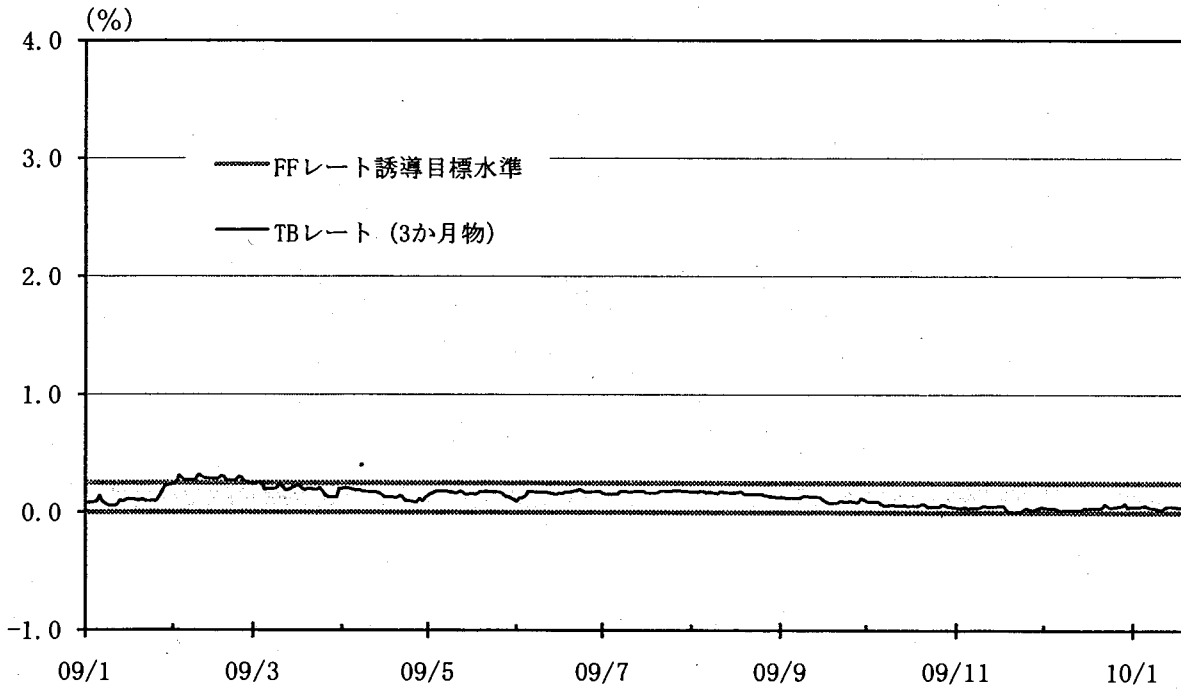
(2) 経常収支



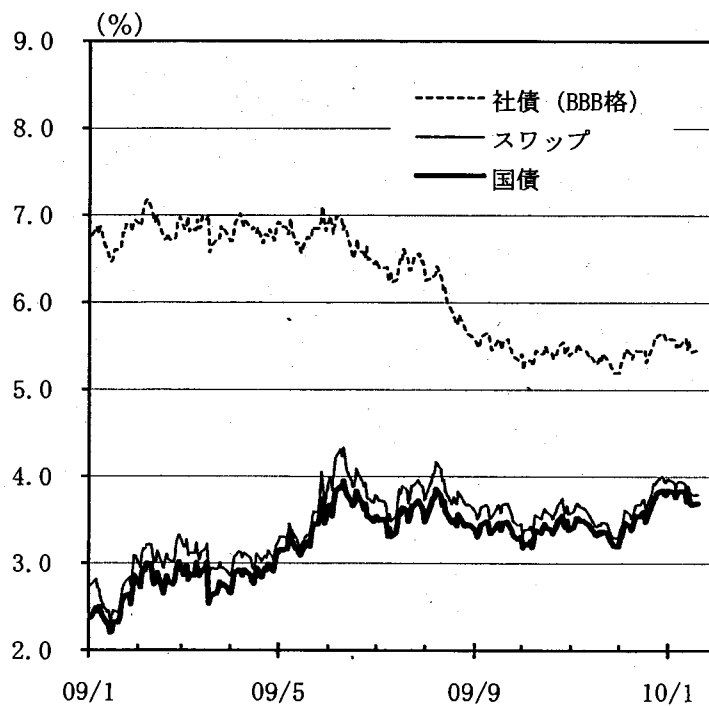
米国の金融市場

金利 (米国)

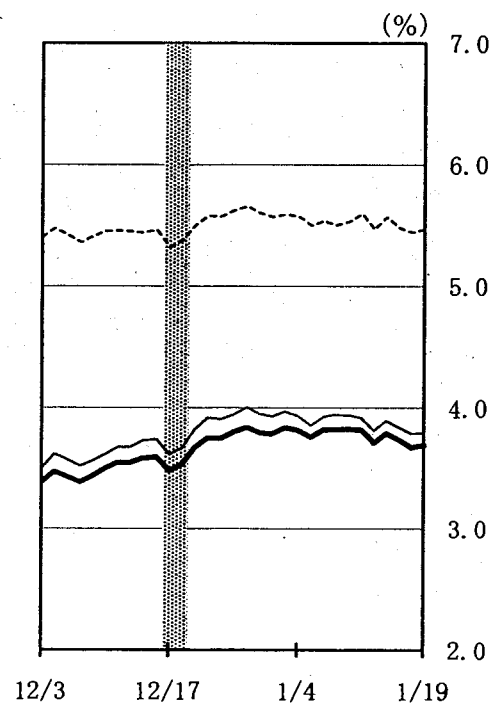
(1) 政策金利・短期金利



(2) 長期金利 (10年物)



<最近の動き>



(注1) シャドーは前回会合。

(注2) 社債金利は、BloombergがMoody's、S&Pの格付けを基に合成したBBBを使用。

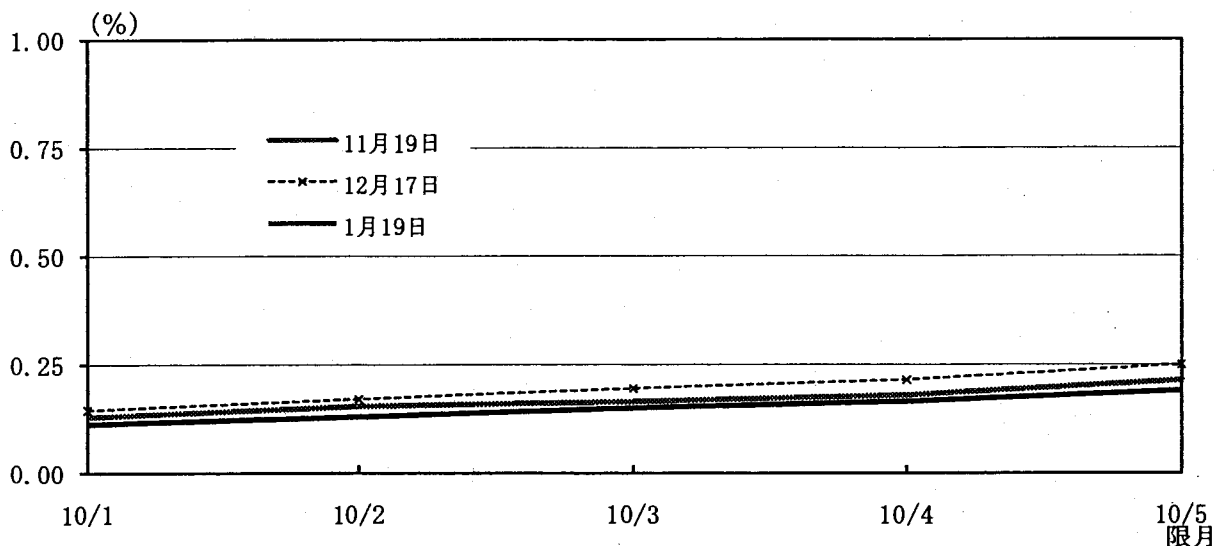
因みに、BloombergのBBBは、Moody'sのBaa2、S&PのBBBに対応。

(出所) Bloomberg

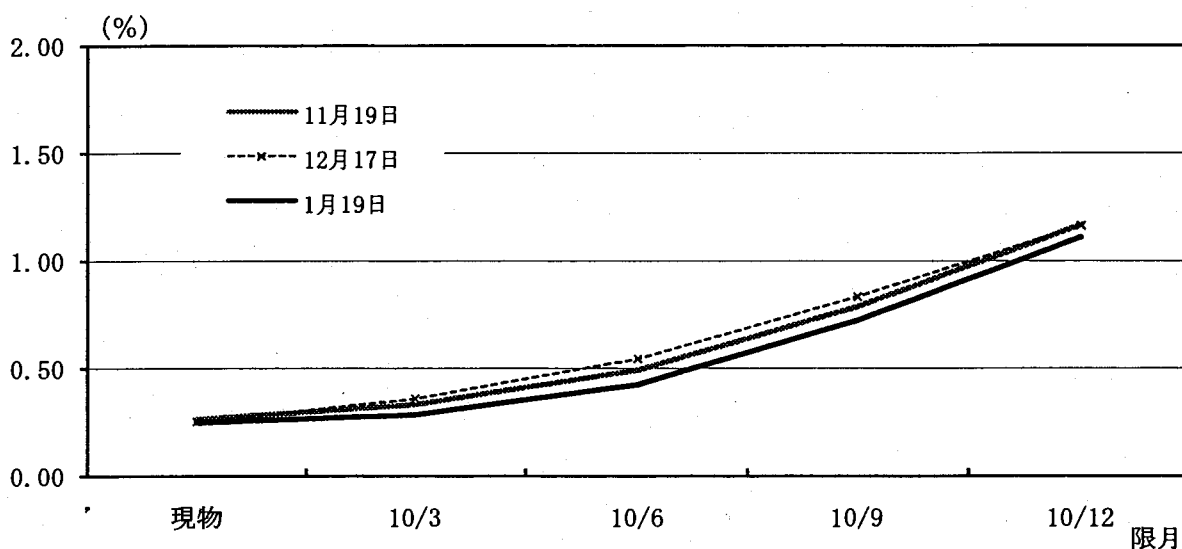
いずれも直近は1月19日

先行きの金利観（米国）

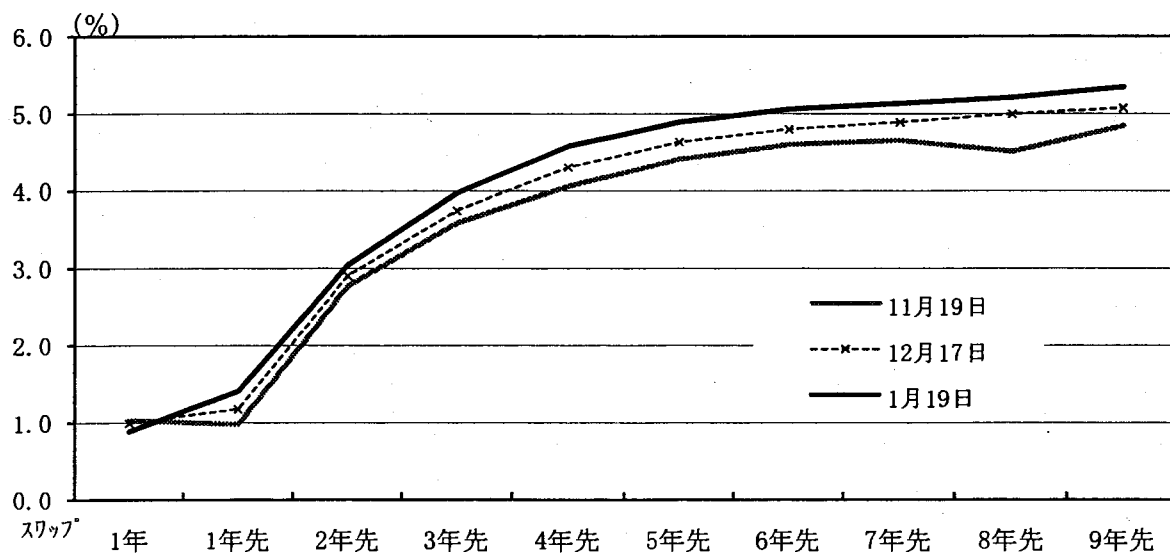
(1) FF先物金利



(2) ユーロドル先物金利（3か月物）



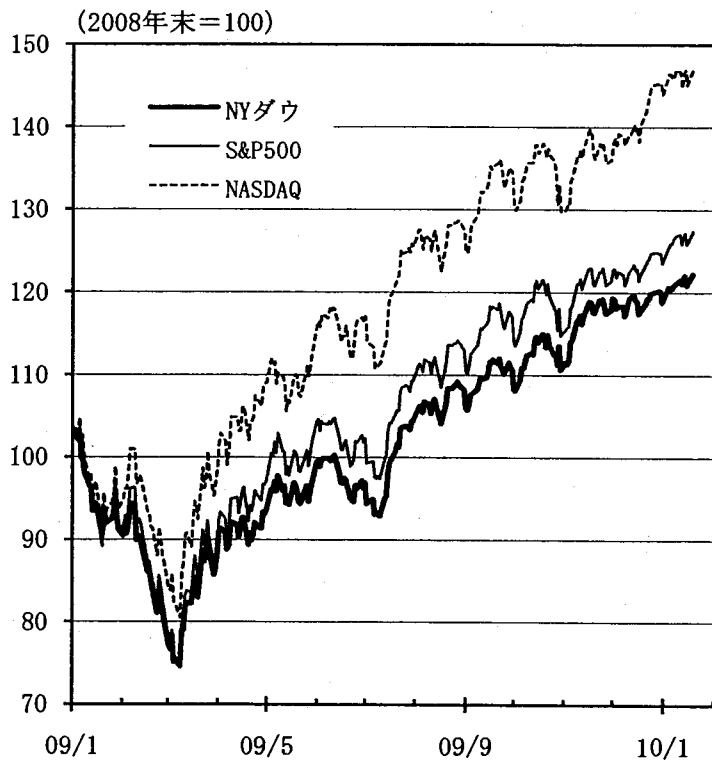
(3) インプライド・フォワード・レート（米ドル・スワップ、1年物）



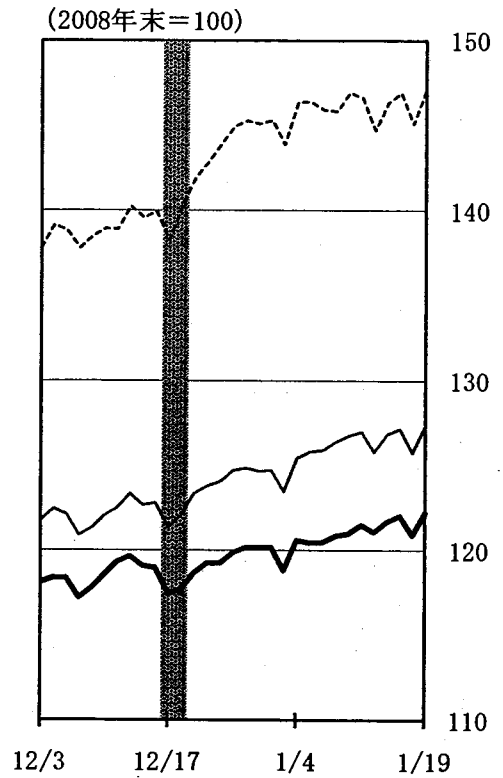
(出所) Bloomberg

株価 (米国)

(1) 株価 (NYダウ・S&P500・NASDAQ)



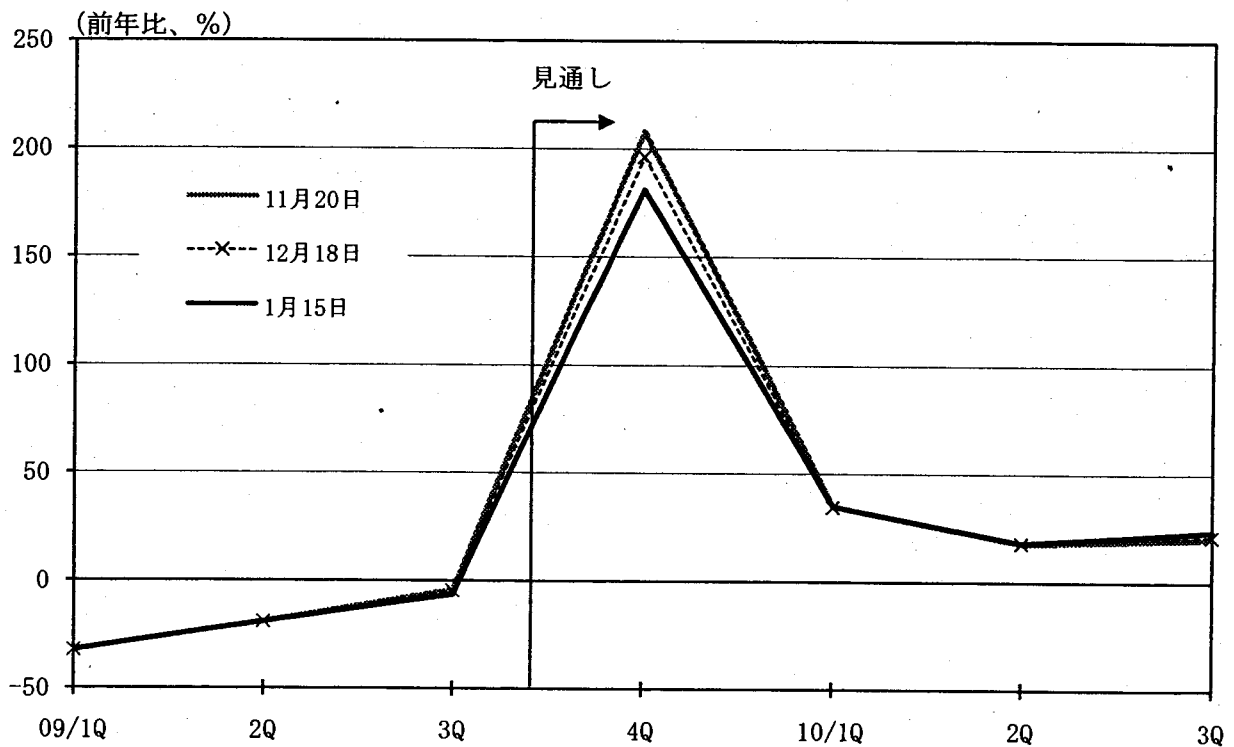
<最近の動き>



(注) シャドーは前回会合。
(出所) Bloomberg

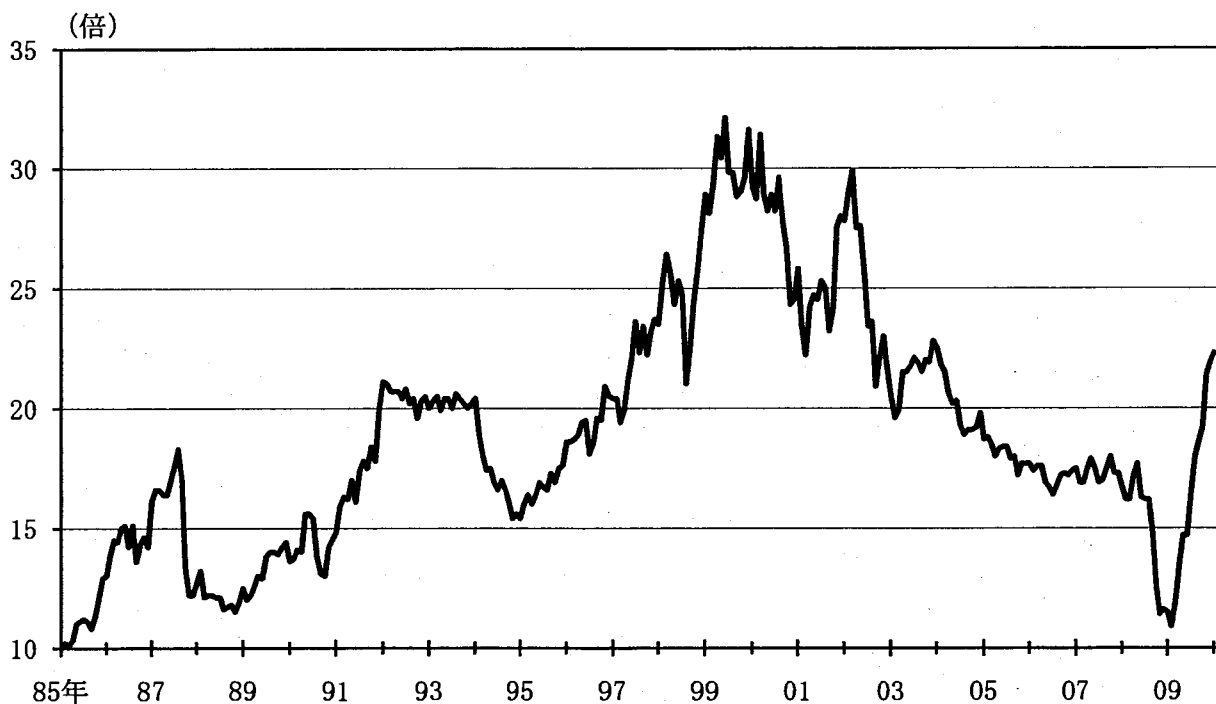
直近は1月19日

(2) アナリストのEPS (一株当たり利益) 成長率見通し (S&P500社ベース)



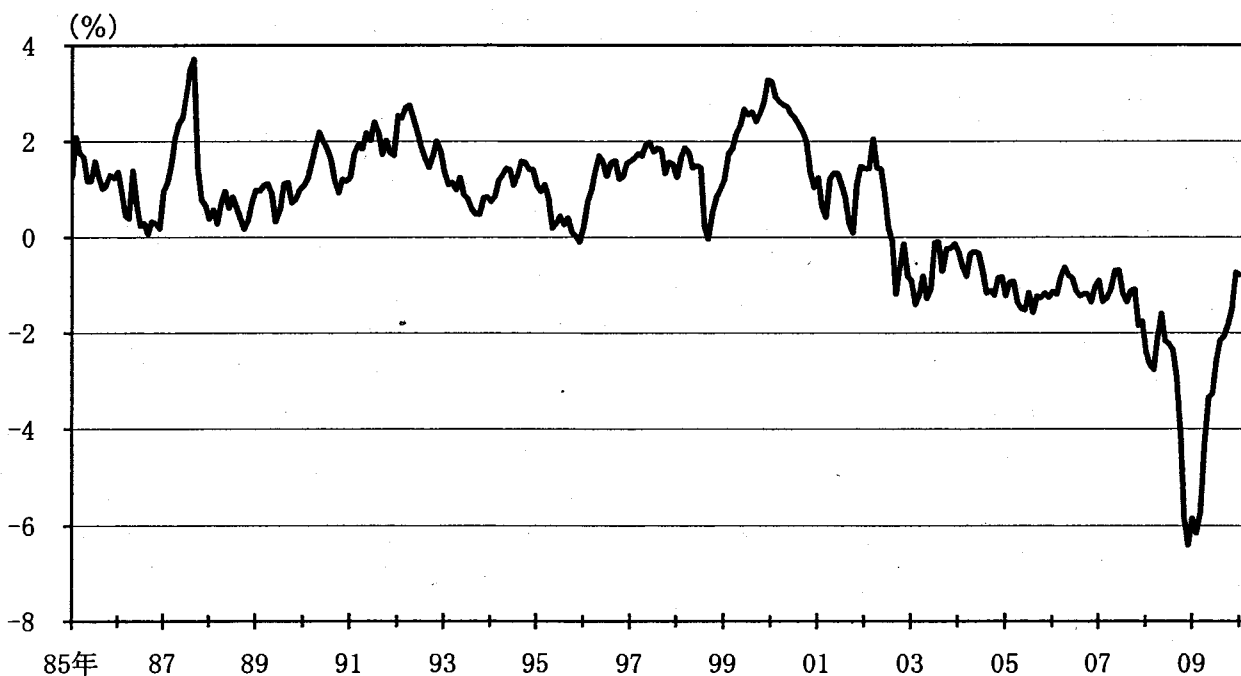
(出所) Thomson ONE Analytics

(3) 株価収益率 (PER、S&P500)



(注) 株価収益率 (PER) = 株価 / 一株当たり利益 (EPS)。
S&P500実績利益ベース。

(4) イールド・スプレッド (S&P500ベース)



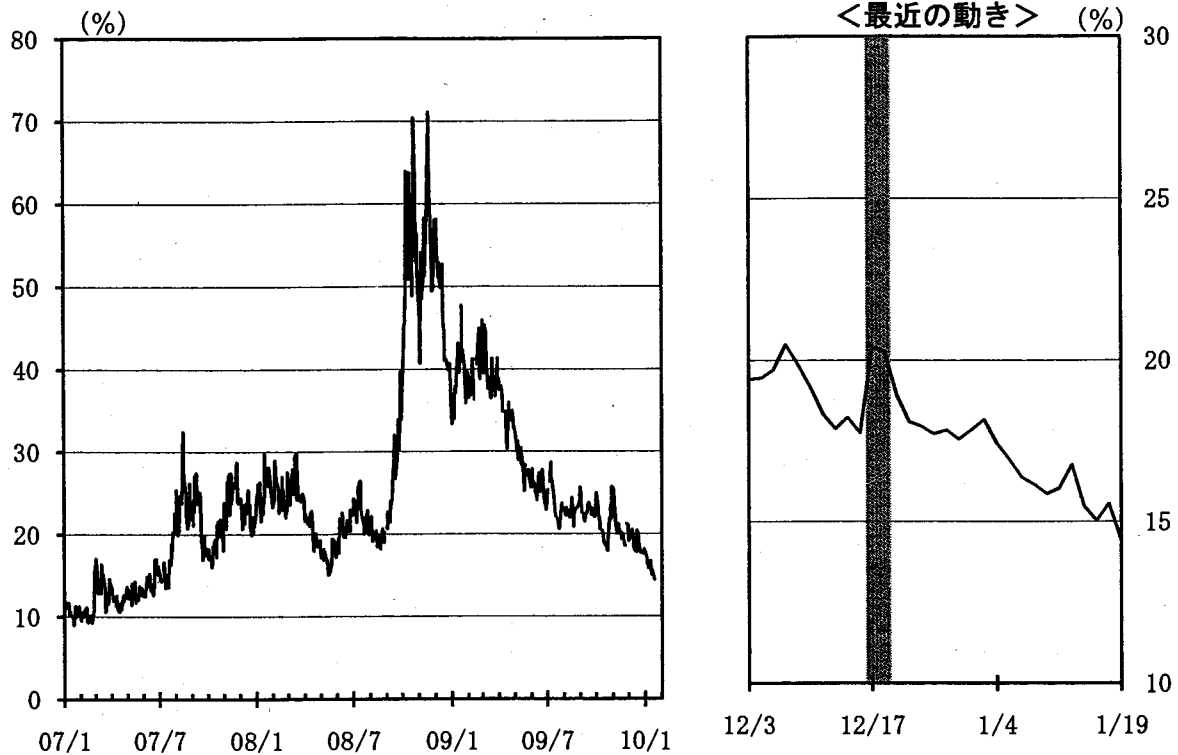
(注) イールド・スプレッド = 国債10年物利回り - 株式益回り (=1/PER)。

(出所) Thomson Reuters Datastream

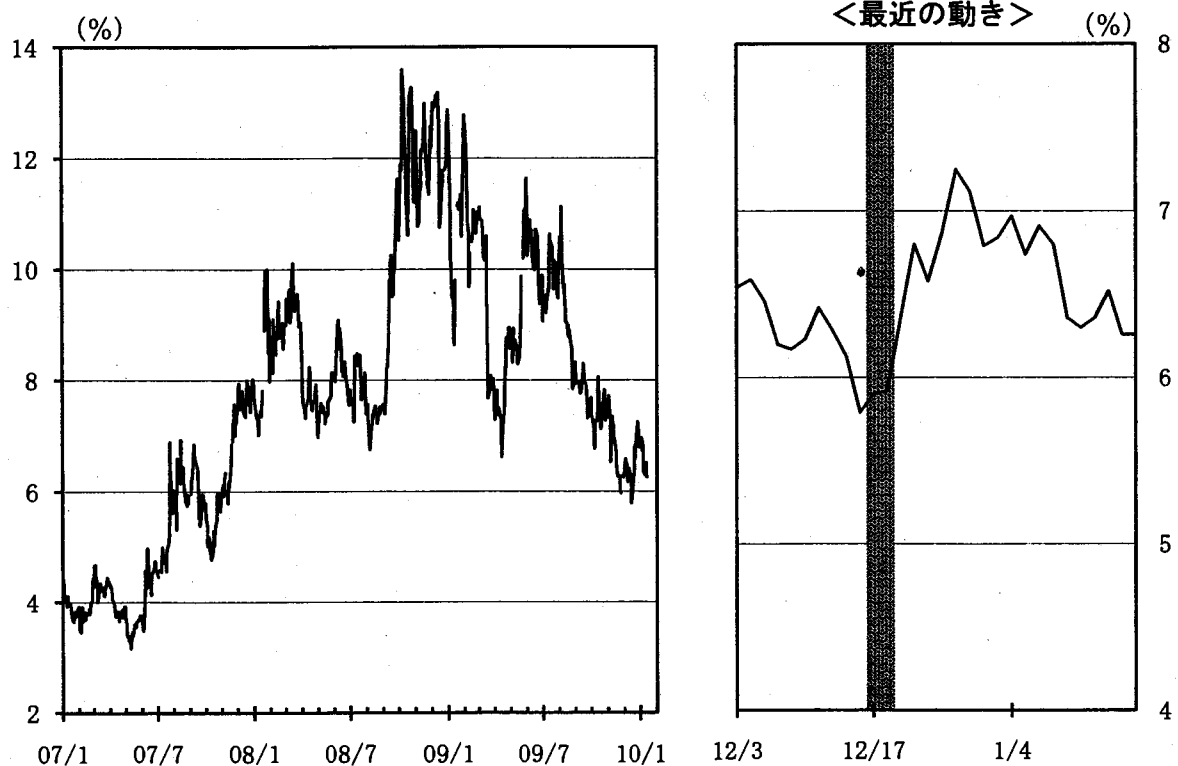
いずれも直近は1月19日

金融市場のリスク関連指標 (米国)

(1) 株価オプションのインプライド・ボラティリティ (S&P500)



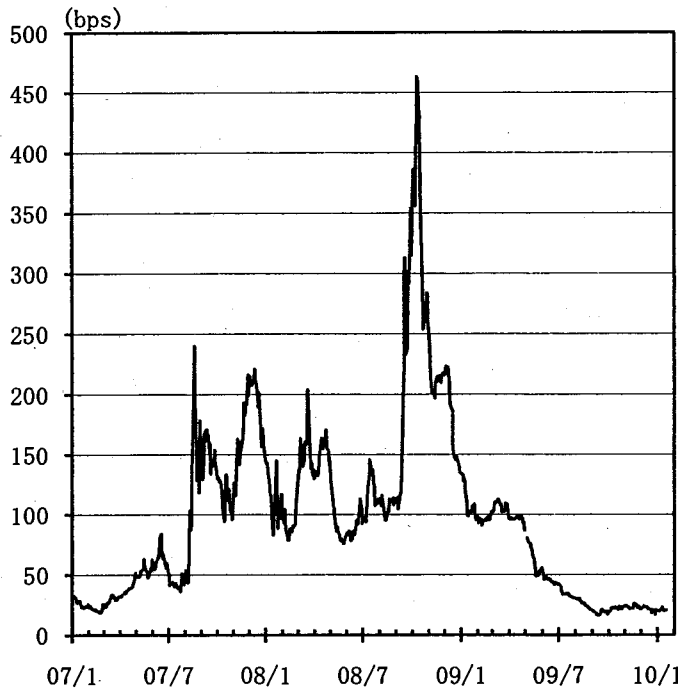
(2) 米国債先物オプションのインプライド・ボラティリティ



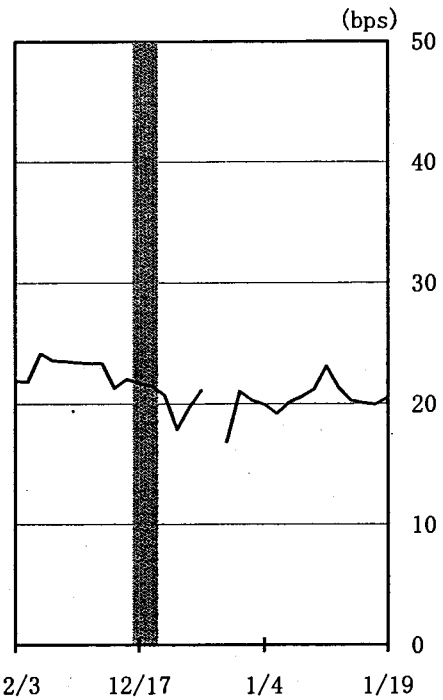
(注) シャドーは前回会合。

(出所) Bloomberg

(3) TEDスプレッド

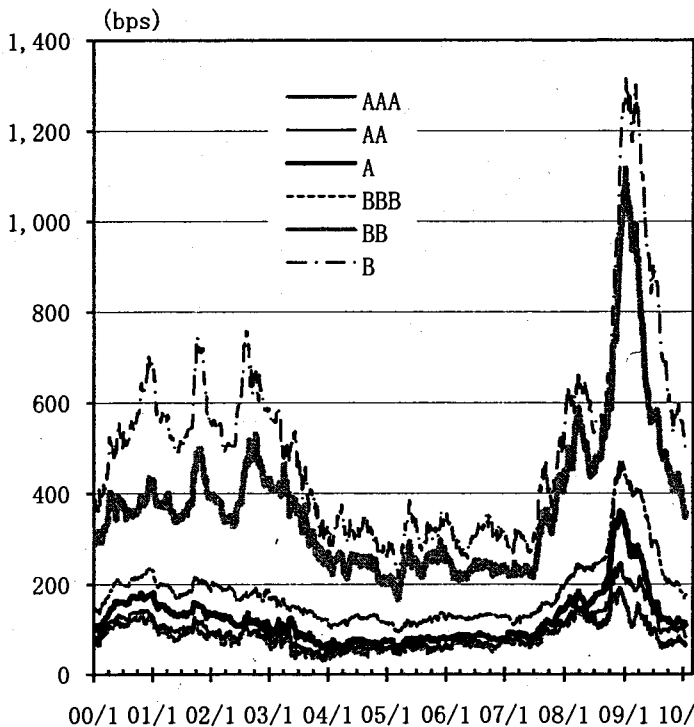


<最近の動き>

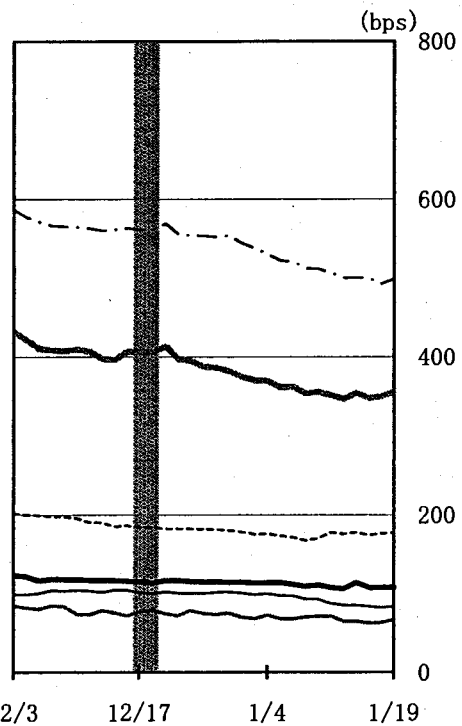


(注) ユーロドル3か月物-TB3か月物。

(4) 米国社債の対国債スプレッド (10年物)



<最近の動き>



(注1) 社債金利は、BloombergがMoody's、S&Pの格付けを基に合成。例えば、AAはMoody'sのAa2、S&PのAAに対応。

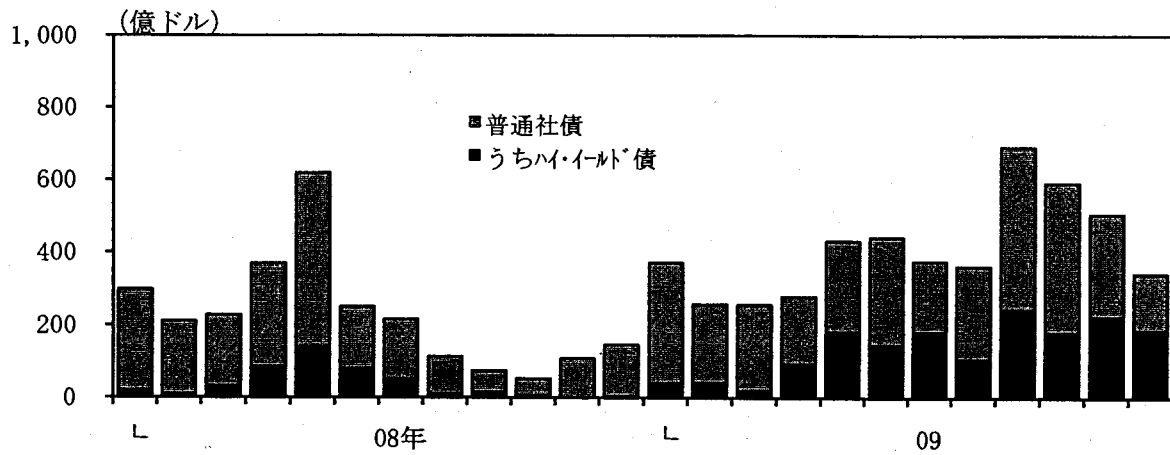
(注2) シャドーは前回会合。

(出所) Bloomberg

いずれも直近は1月19日

企業の資金調達 (米国)

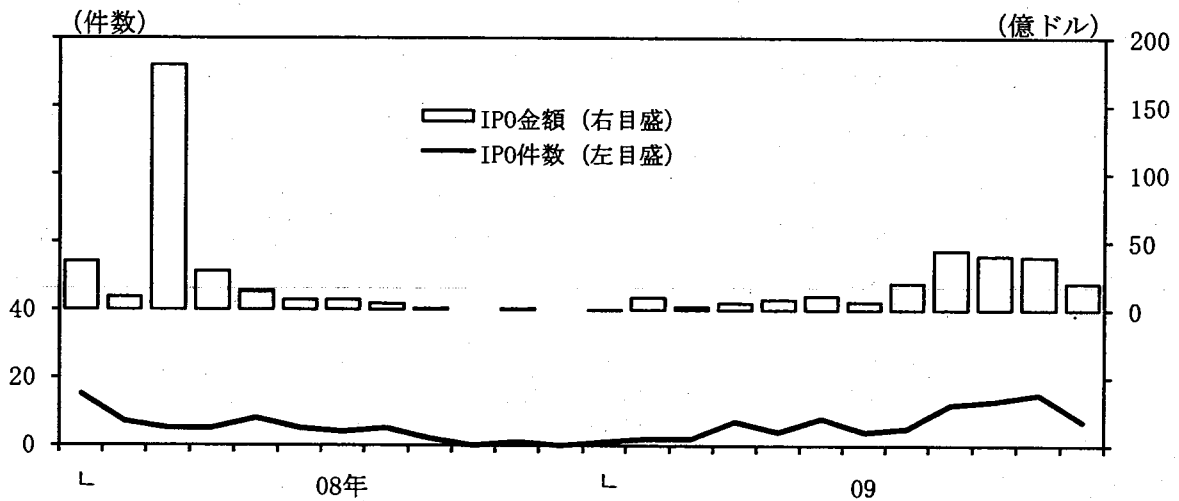
(1) 社債発行額 (普通社債)



(出所) Thomson ONE Banker

直近は12月

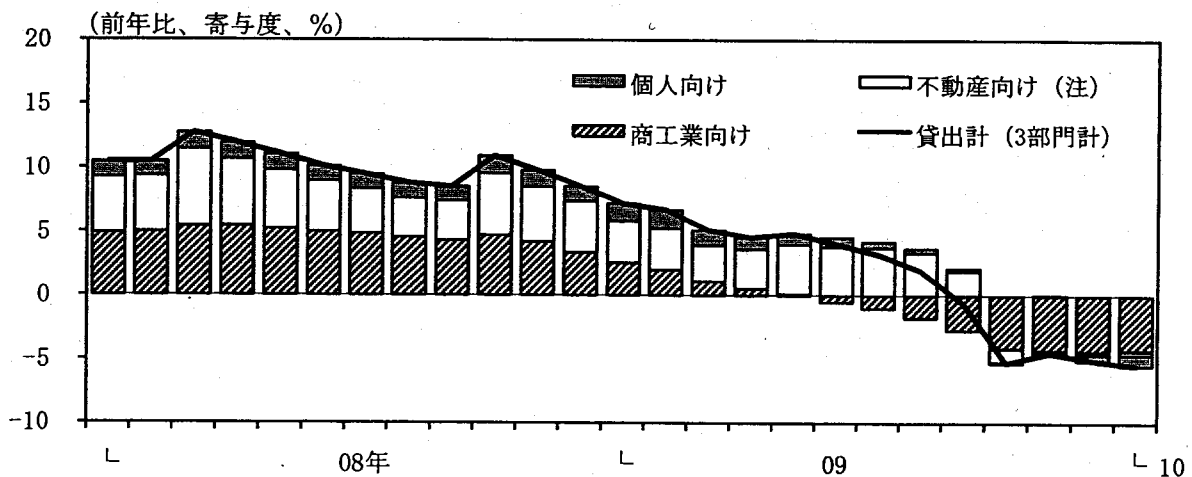
(2) IPO金額・件数



(出所) Bloomberg

直近は12月

(3) 銀行貸出



(注) 商銀+外銀ベース。不動産向けはホームエクイティ・ローンを含む。

貸出計は、商工業、不動産、個人の3部門向け貸出の合計。「その他」(レポ取引等)は含まない。

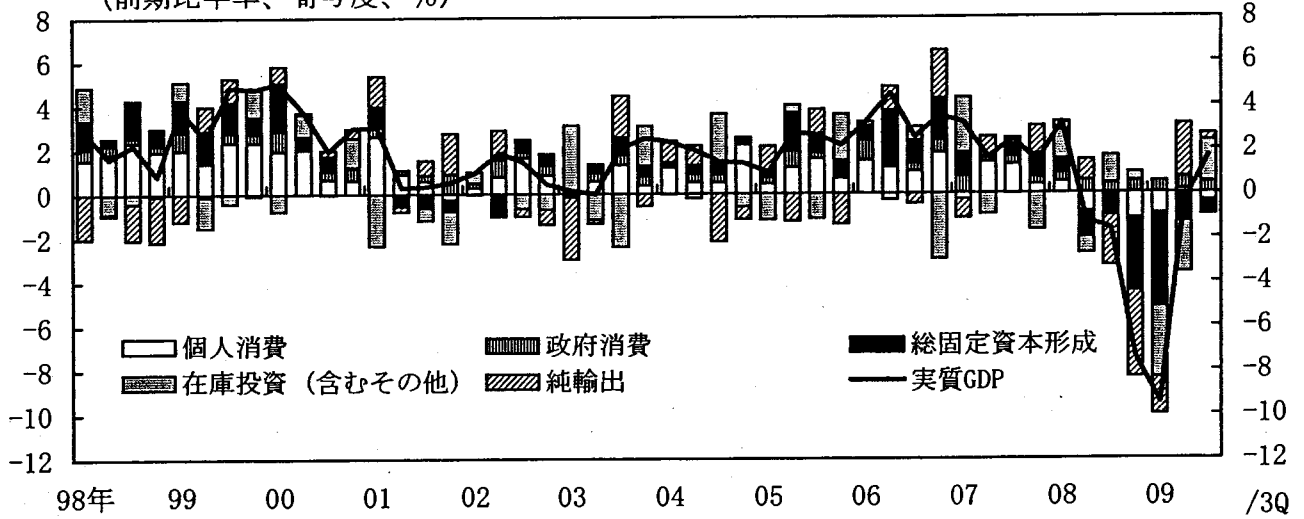
(出所) FRB

直近は1月6日週

欧州の実体経済

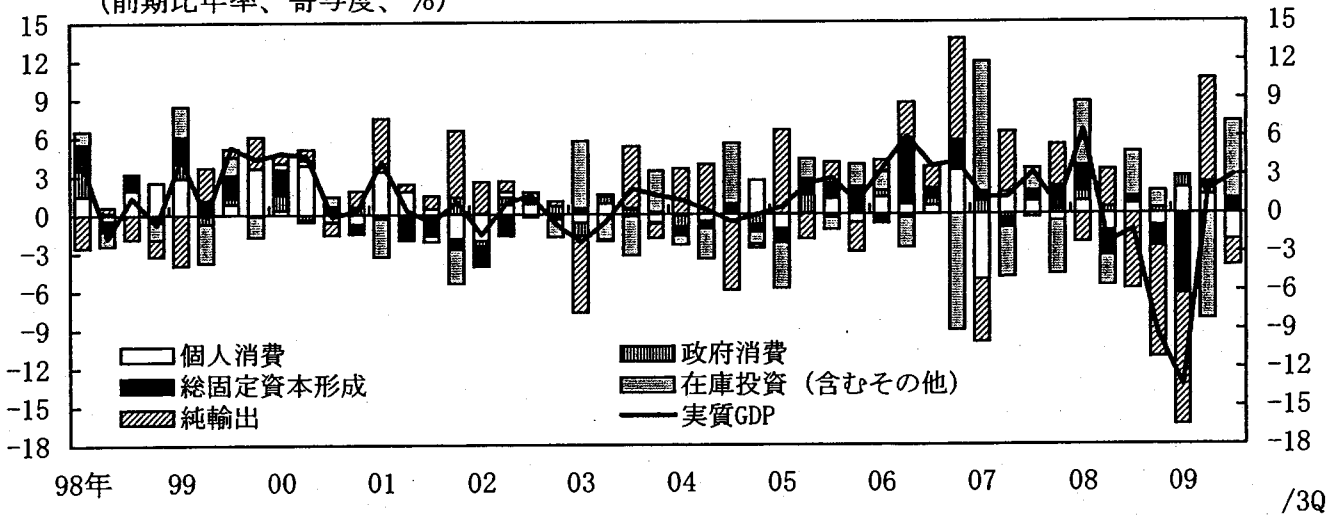
(1) ユーロエリアの実質GDP成長率

(前期比年率、寄与度、%)



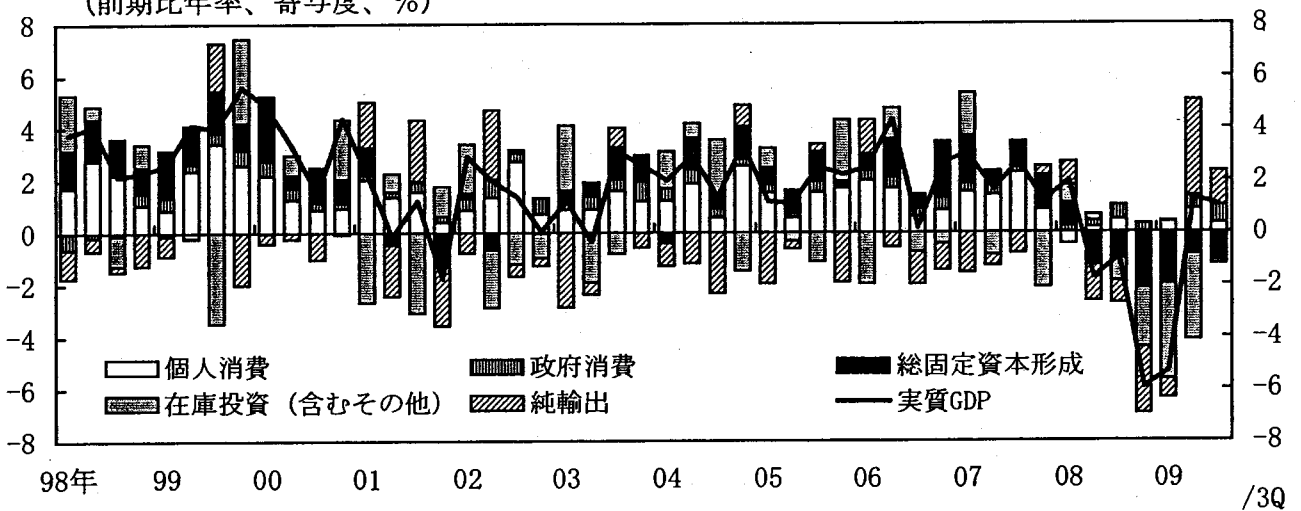
(2) ドイツの実質GDP成長率

(前期比年率、寄与度、%)



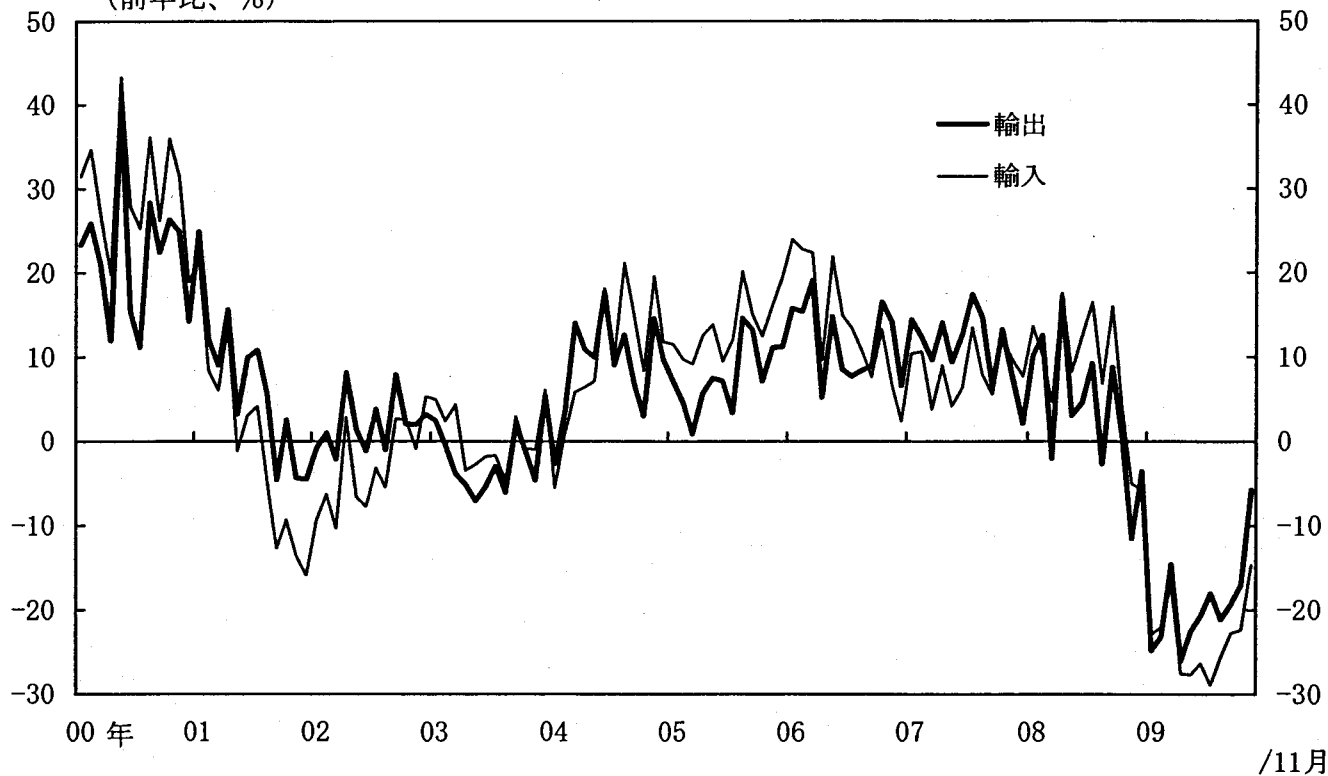
(3) フランスの実質GDP成長率

(前期比年率、寄与度、%)



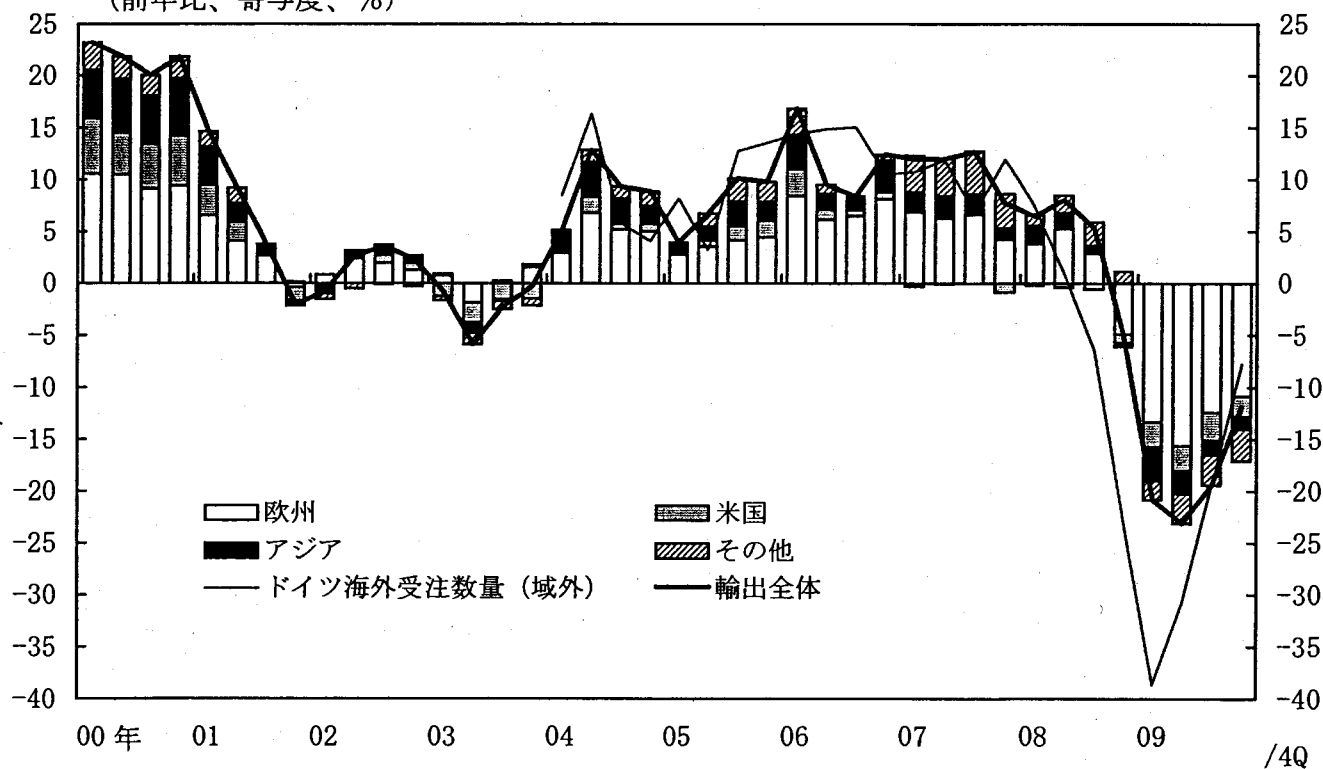
(4) ユーロエリアの域外貿易

(前年比、%)



(5) ユーロエリア域外輸出 (地域別寄与度) とドイツ海外受注数量 (域外)

(前年比、寄与度、%)

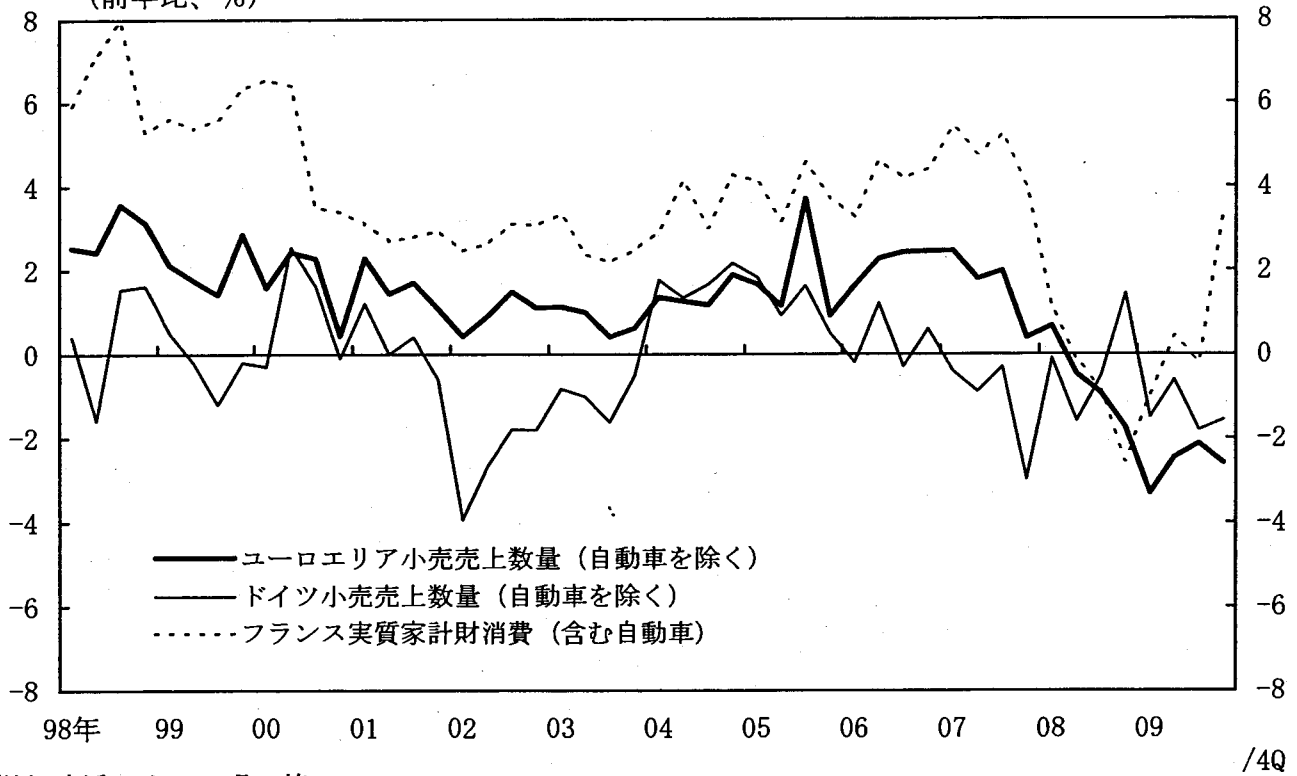


(注1) 欧州はトルコ、ロシアなど、アジアは中東などを含む。

(注2) 直近4Qは、輸出全体とドイツ海外受注数量は10-11月の値。輸出の地域別寄与度の直近は10月の値であり、積み上げと全体が一致しない。

(6) 小売関連指標

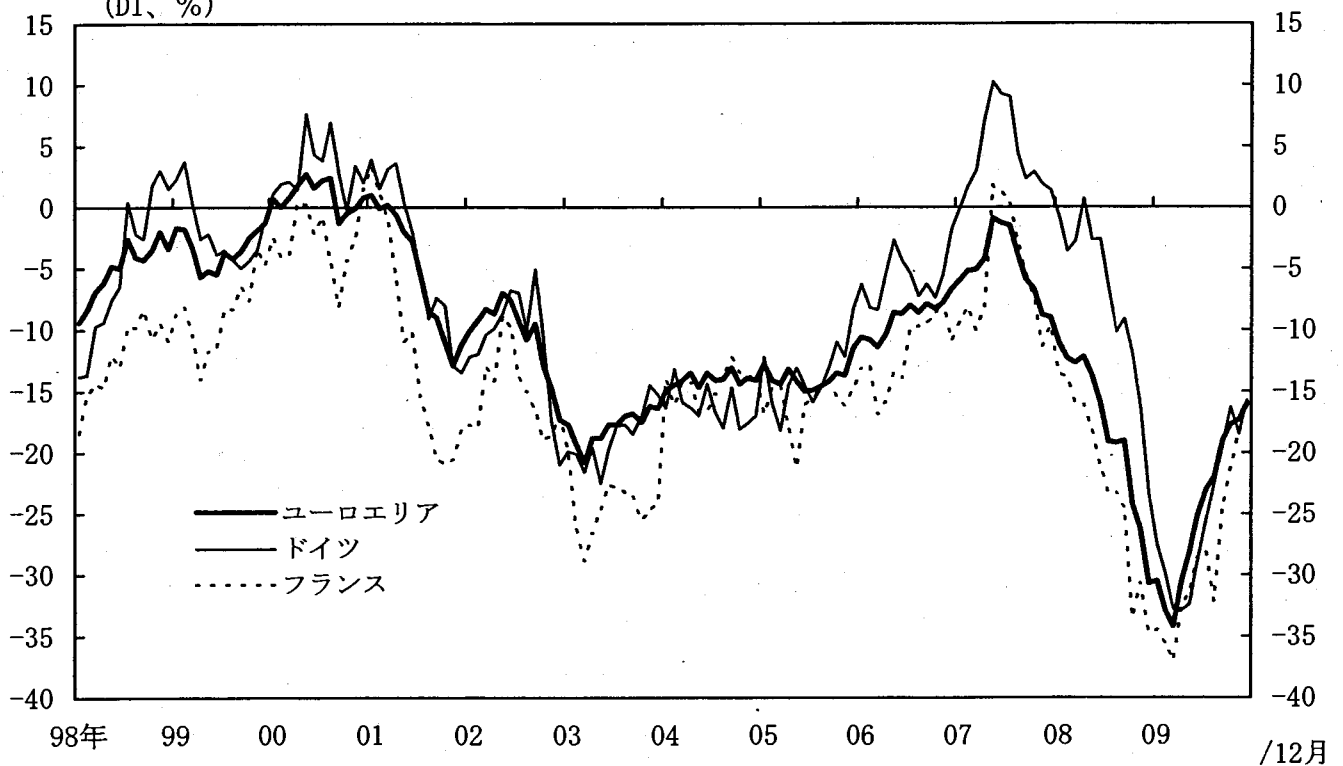
(前年比、%)



(注) 直近4Qは10-11月の値。

(7) 消費者コンフィデンス

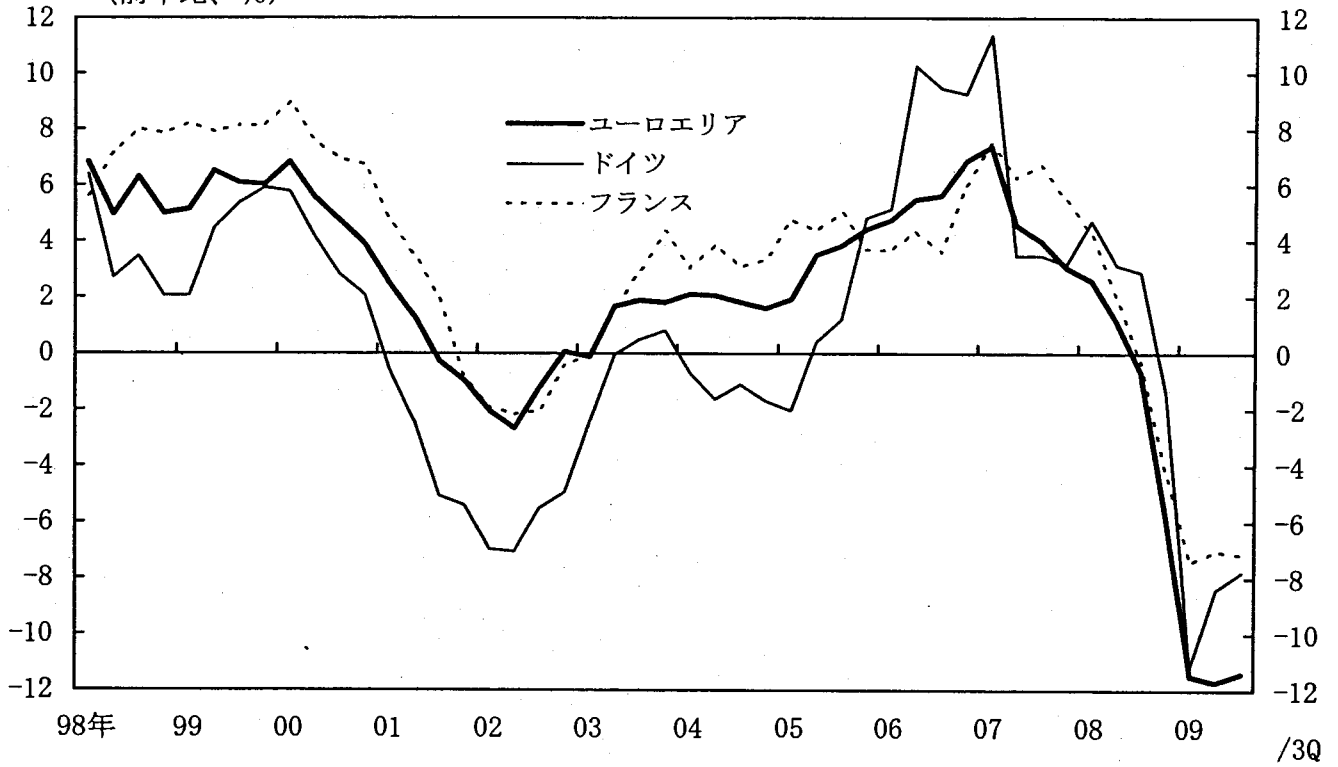
(DI、%)



(注) フランスでの調査方法の変更の影響で、フランス、ユーロエリアの2004年1月以降の計数は2003年12月以前と連続しない。

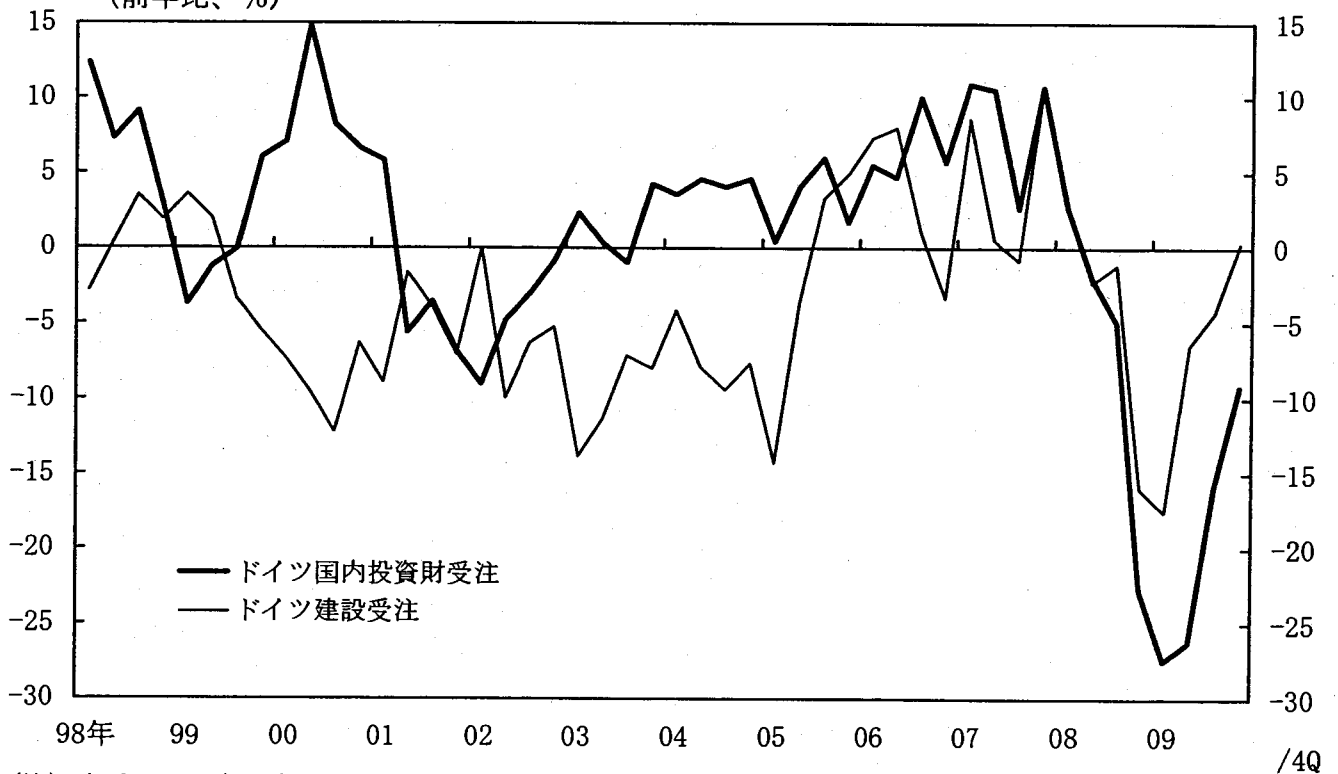
(8) 総固定資本形成

(前年比、%)



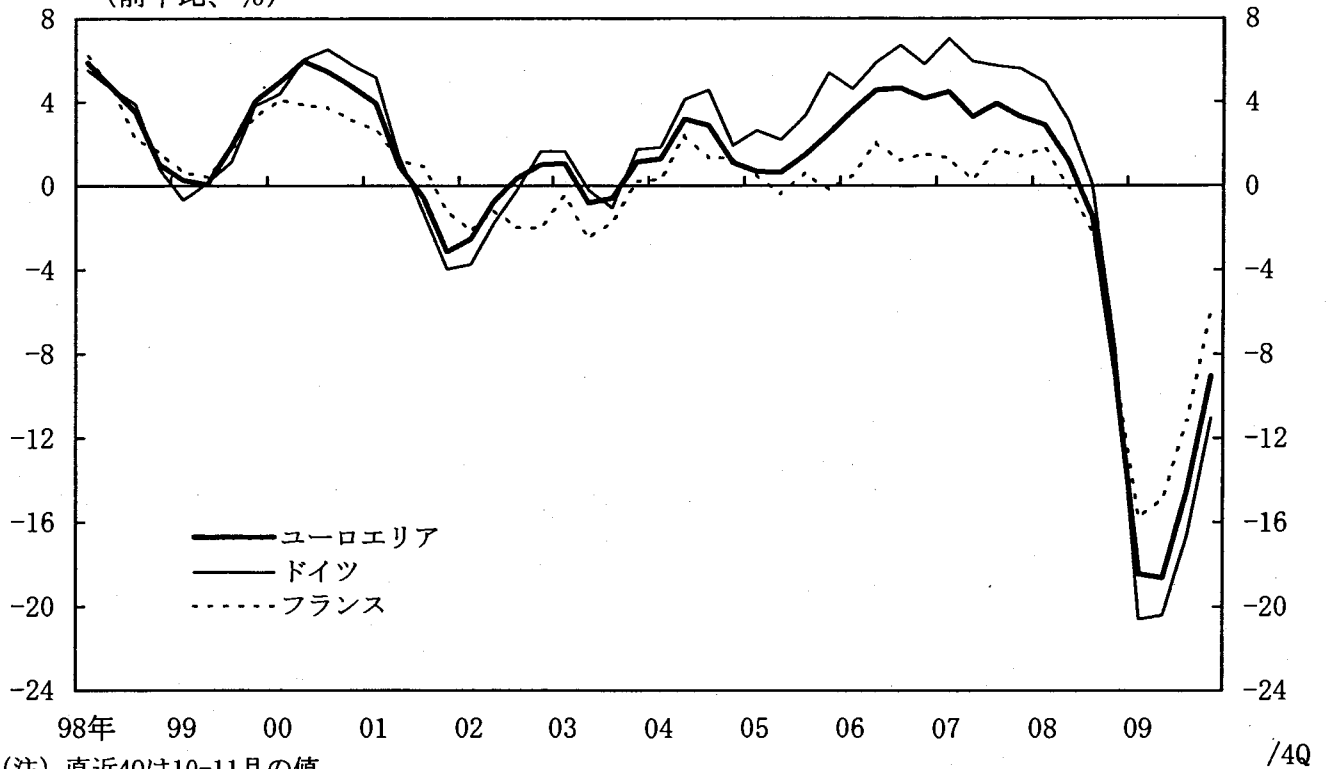
(9) ドイツの国内投資財受注、建設受注

(前年比、%)

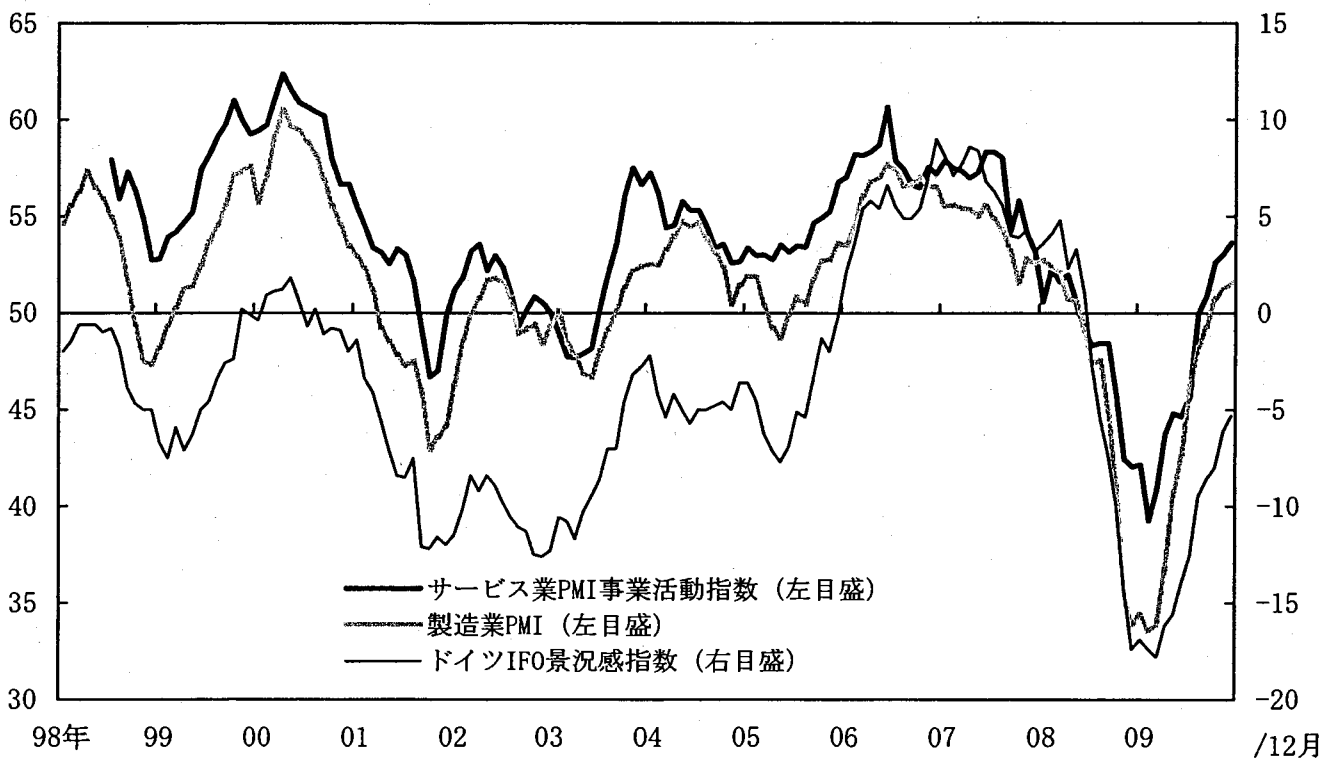


(注) 直近4Qは、建設受注は10月の値、国内投資財受注は10-11月の値。

(10) 鉱工業生産
(前年比、%)



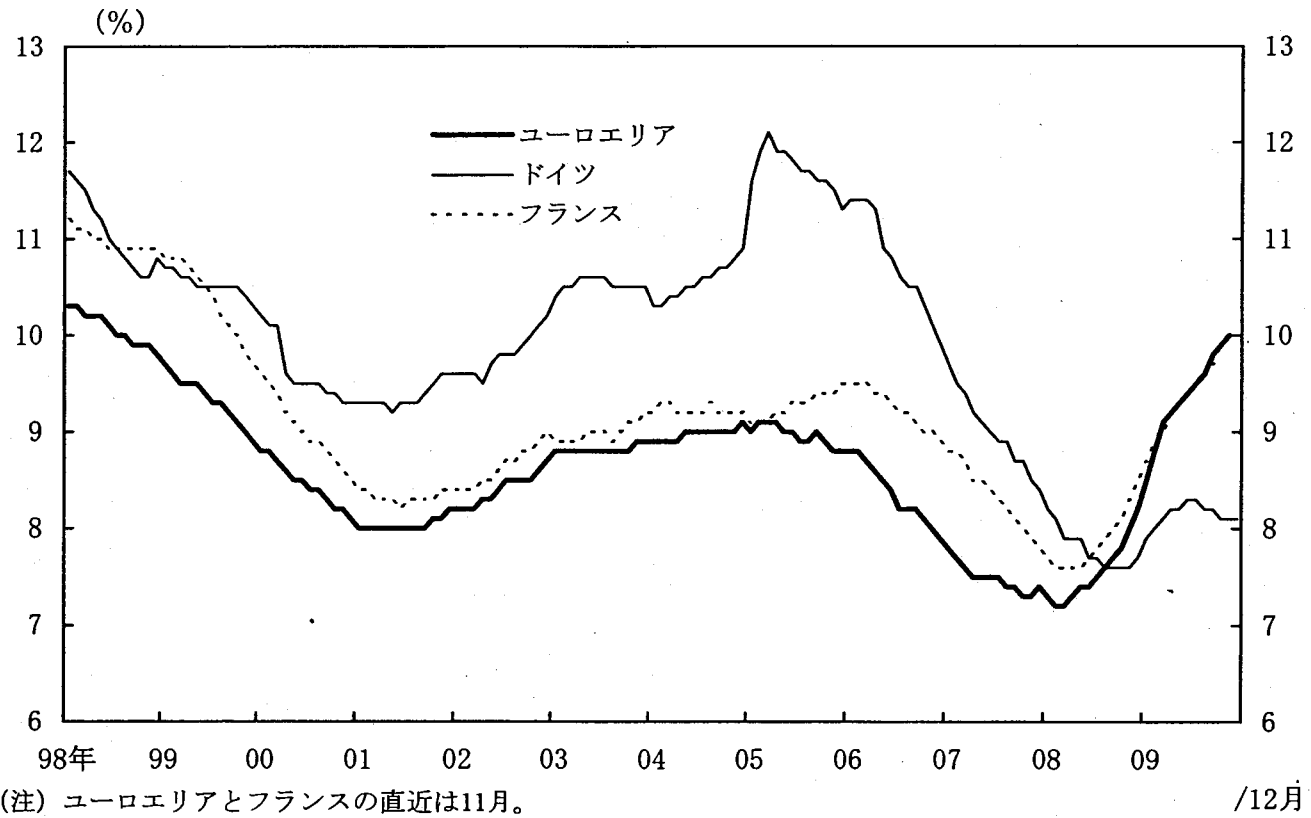
(11) PMI (購買担当者指数) と企業コンフィデンス



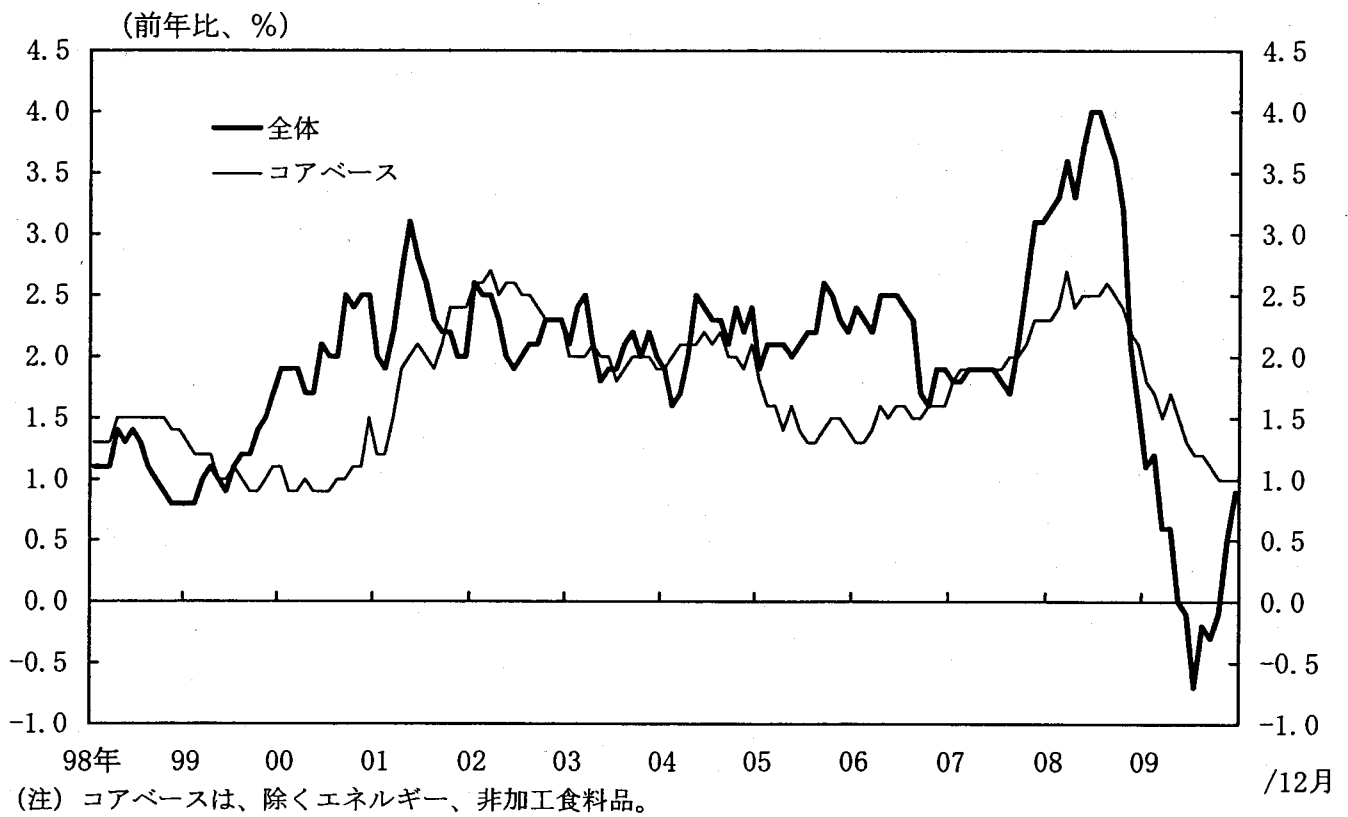
(出所) IFO, Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(注) ドイツIFO景況感指数は、公表系列(2000年平均=100)から100を引いた計数を使用。

(12) 失業率



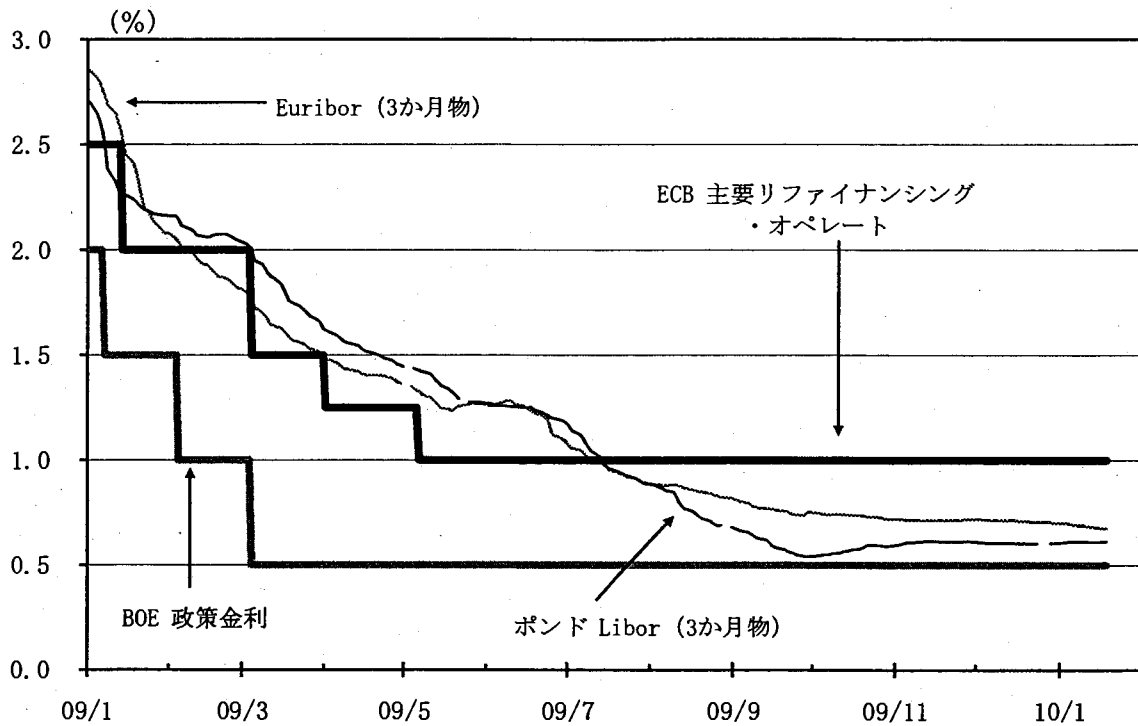
(13) 消費者物価 (HICP)



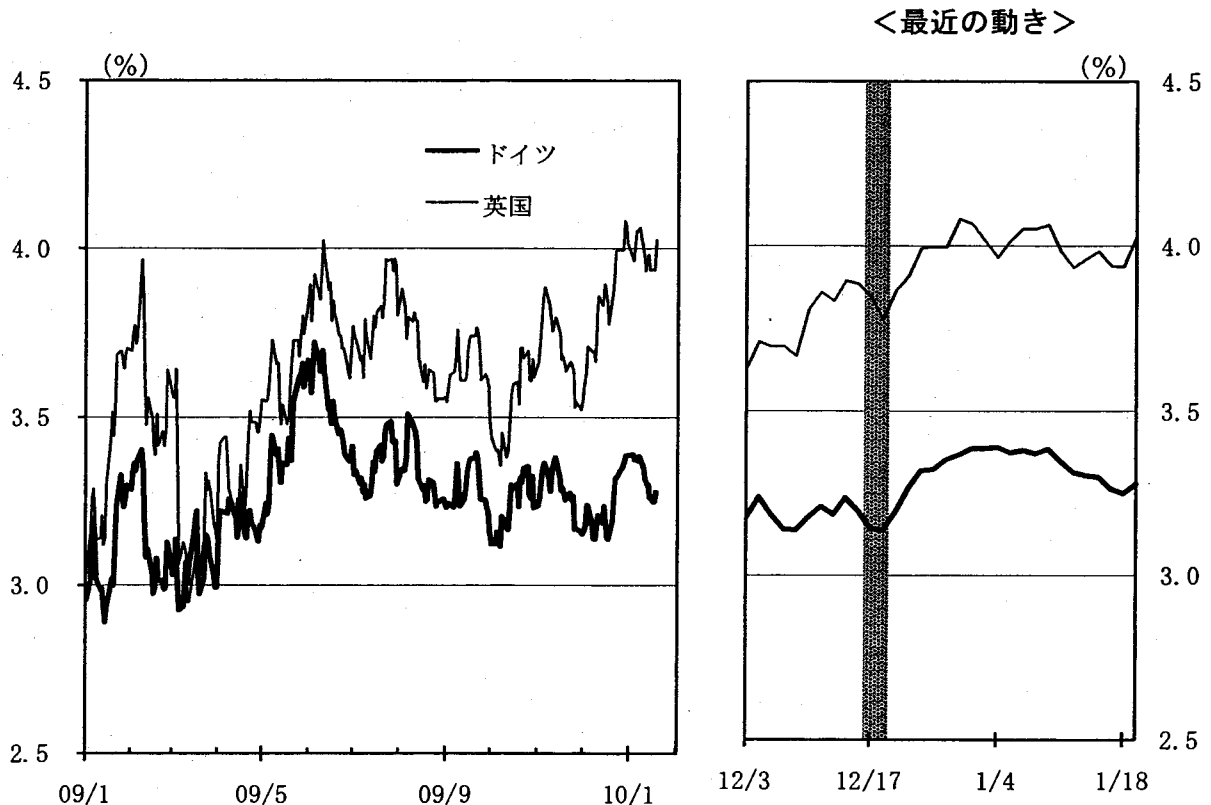
欧州の金融市場

金利 (欧州)

(1) 政策金利・短期金利 (ユーロエリア・英)



(2) 長期金利 (10年物国債利回り、独・英)



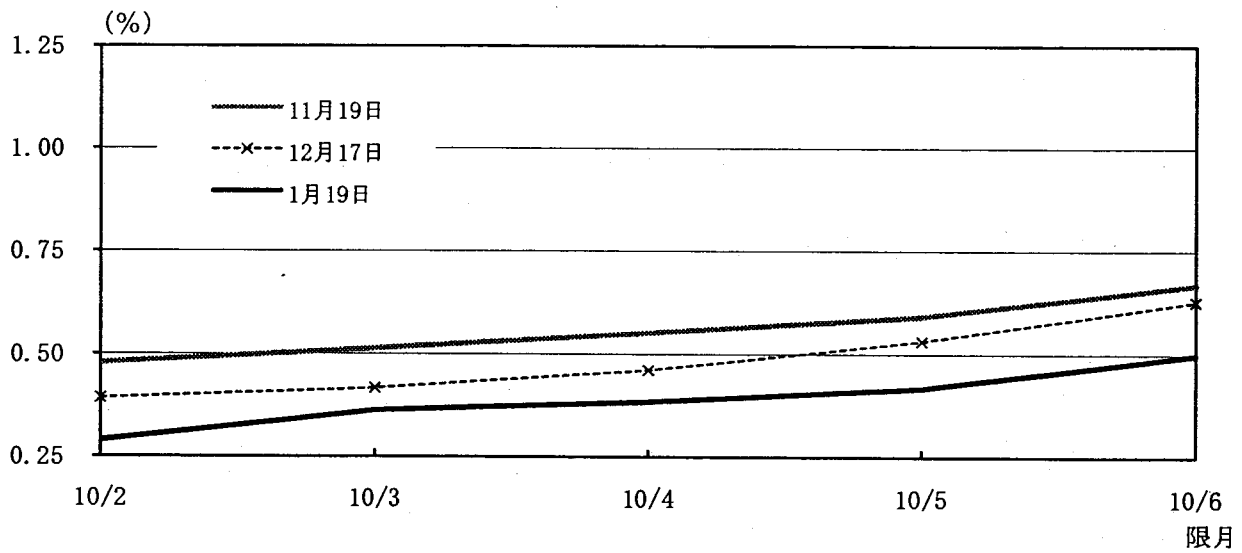
(注) シャドーは前回会合。

(出所) Bloomberg

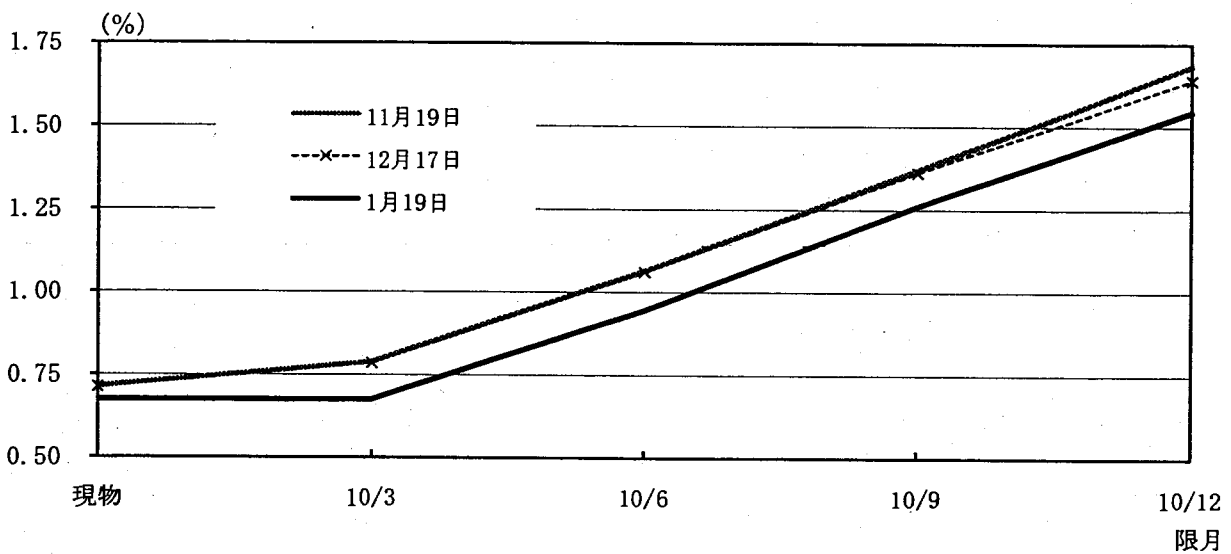
いずれも直近は1月19日

先行きの金利観 (ユーロエリア)

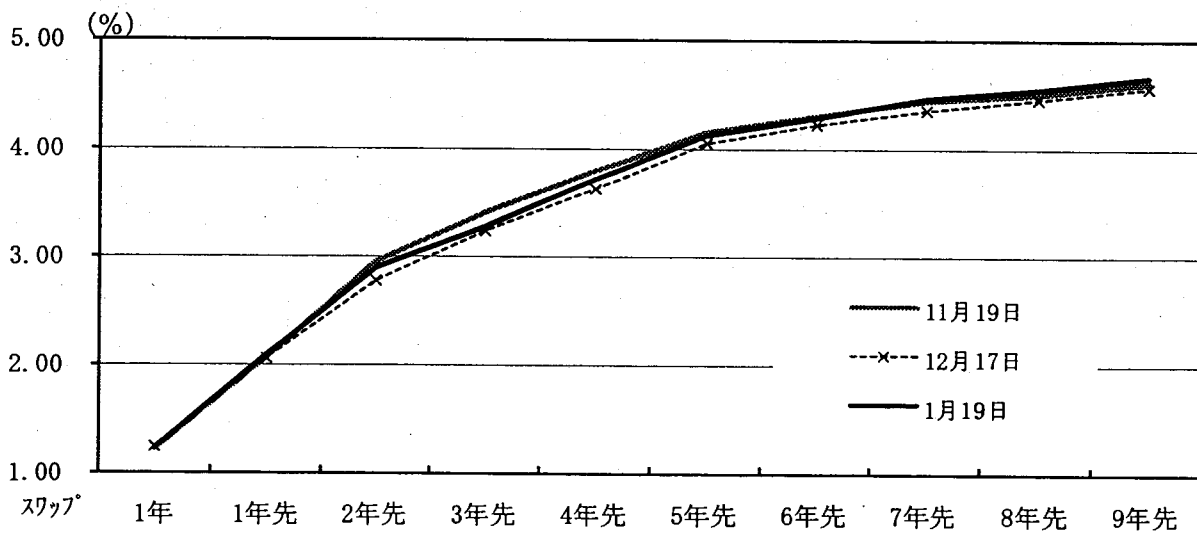
(1) EONIAスワップのインプライド・フォワード・レート (1か月物)



(2) Euribor先物金利 (3か月物)



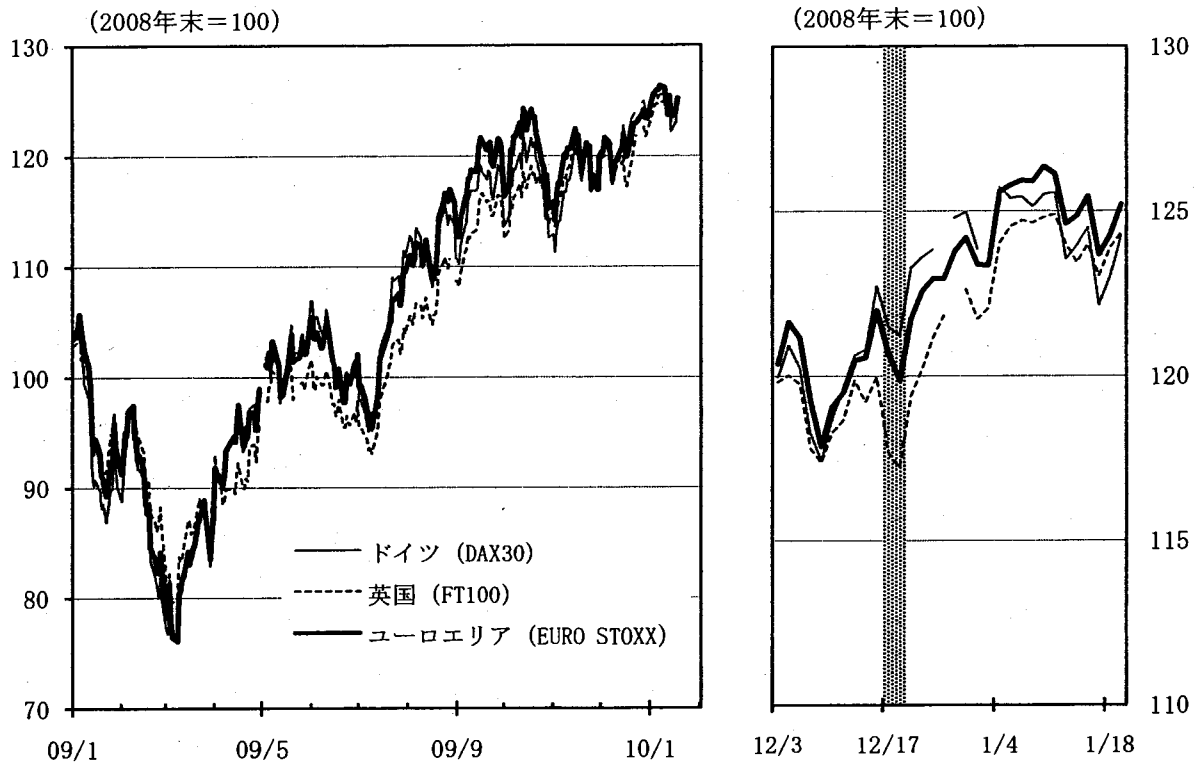
(3) インプライド・フォワード・レート (ユーロ・スワップ、1年物)



(出所) Bloomberg

株価（欧州）

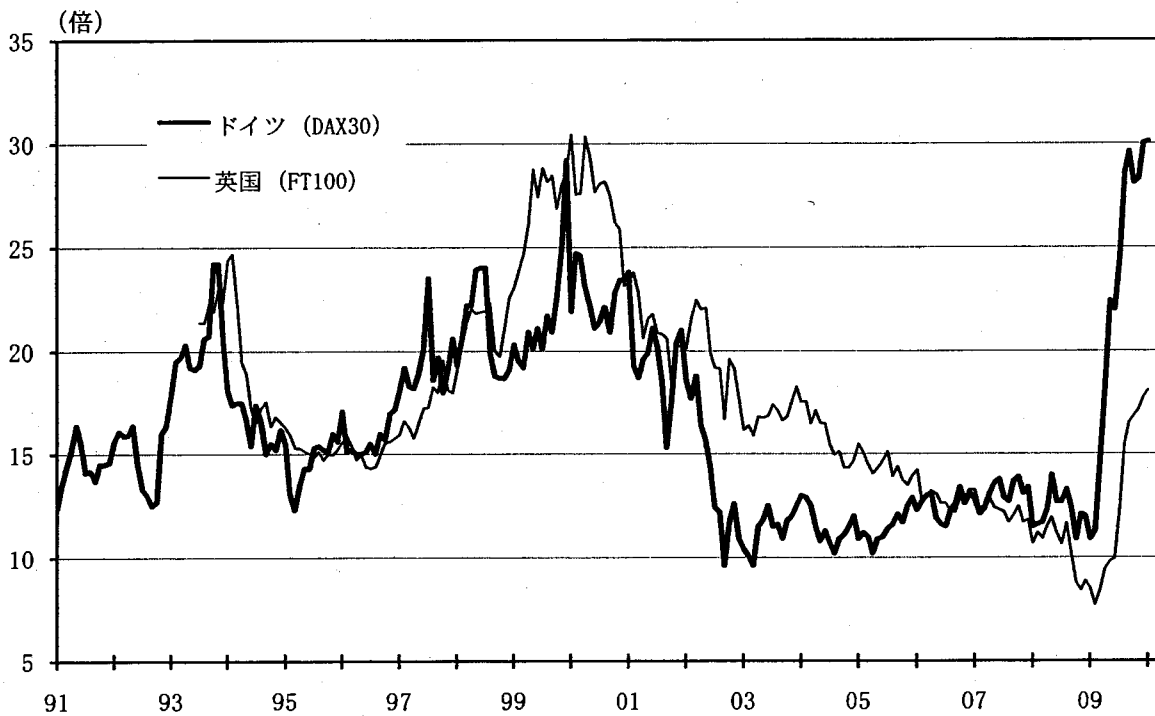
(1) 株価（ユーロエリア・独・英）



(注) シャドーは前回会合。

(出所) Bloomberg

(2) 株価収益率（PER、DAX30・FT100）



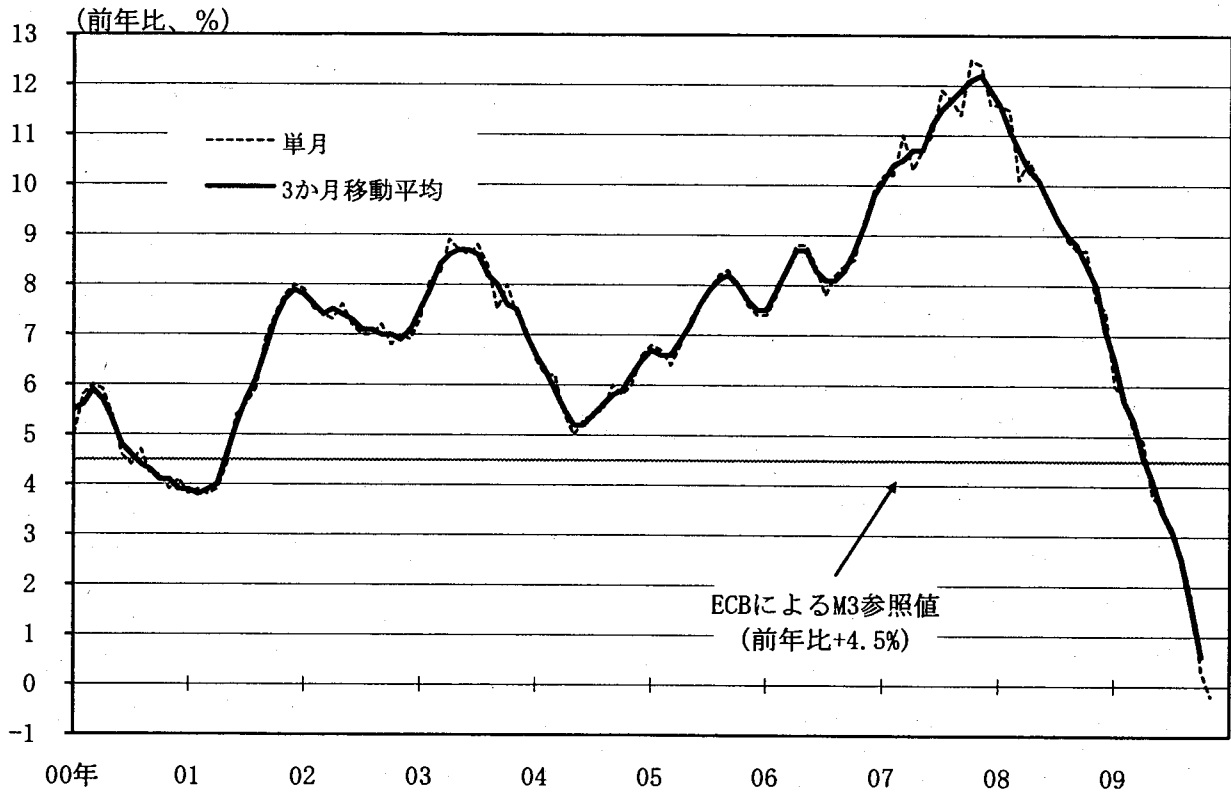
(注) DAX30のPERは予想収益ベース、FT100のPERは実績収益ベース。

(出所) Thomson Reuters Datastream

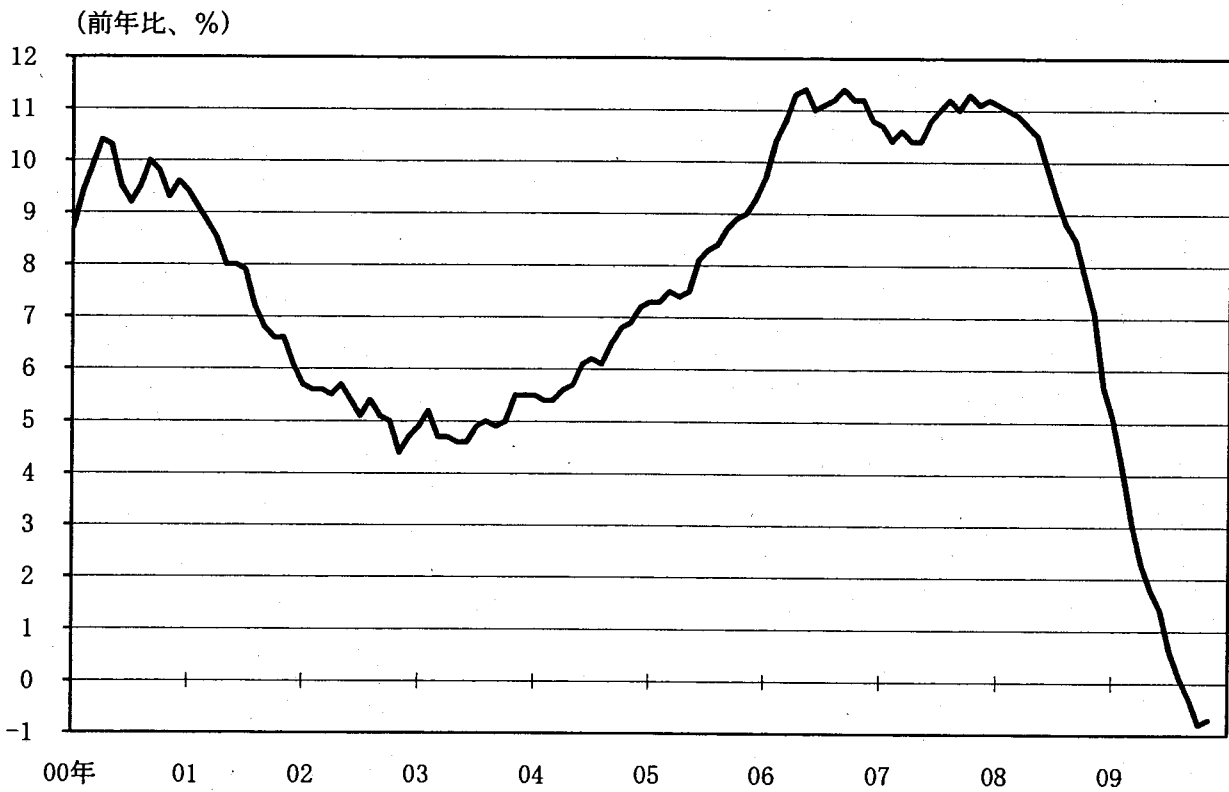
いずれも直近は1月19日

M3・貸出（ユーロエリア）

(1) M3伸び率



(2) 対民間貸出伸び率

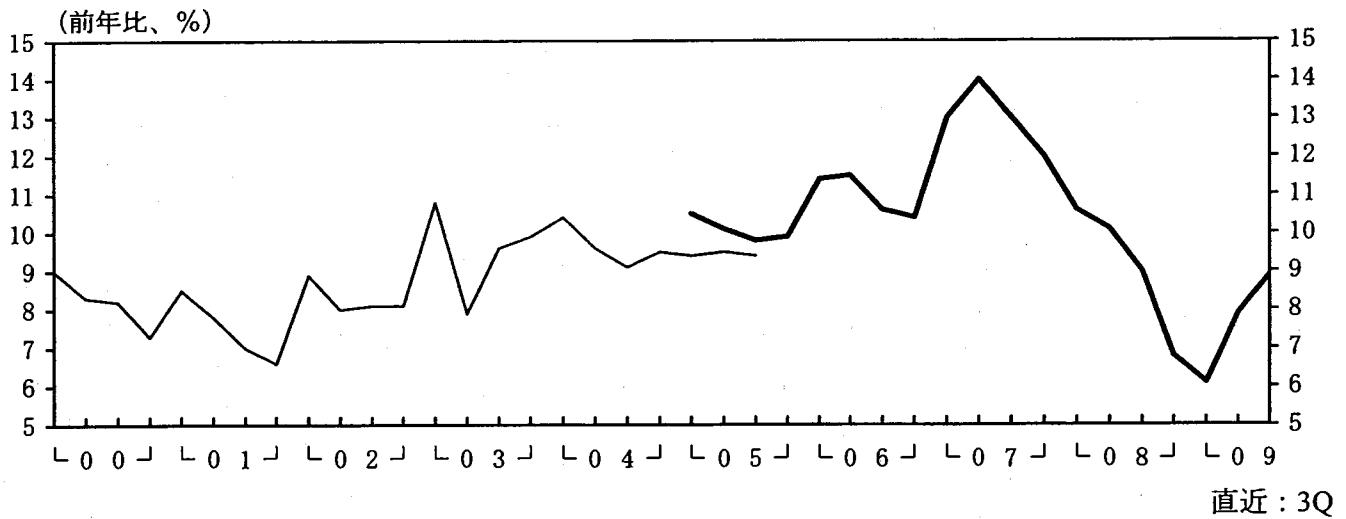


(出所) ECB

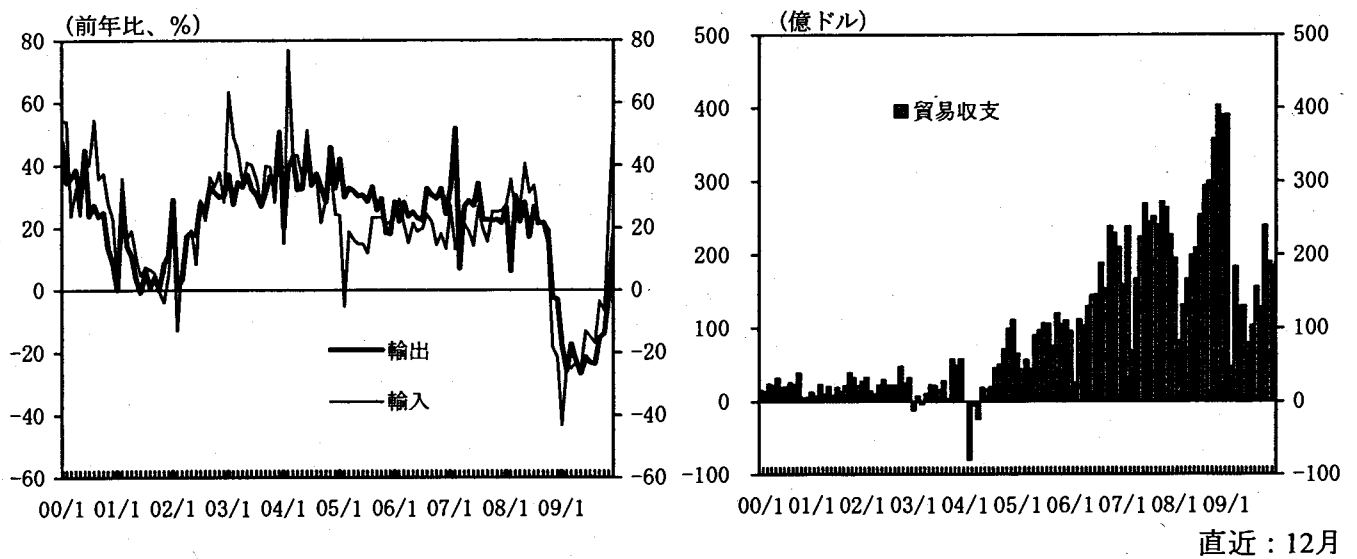
いずれも直近は11月

アジア諸国・地域の实体经济 中国(1)

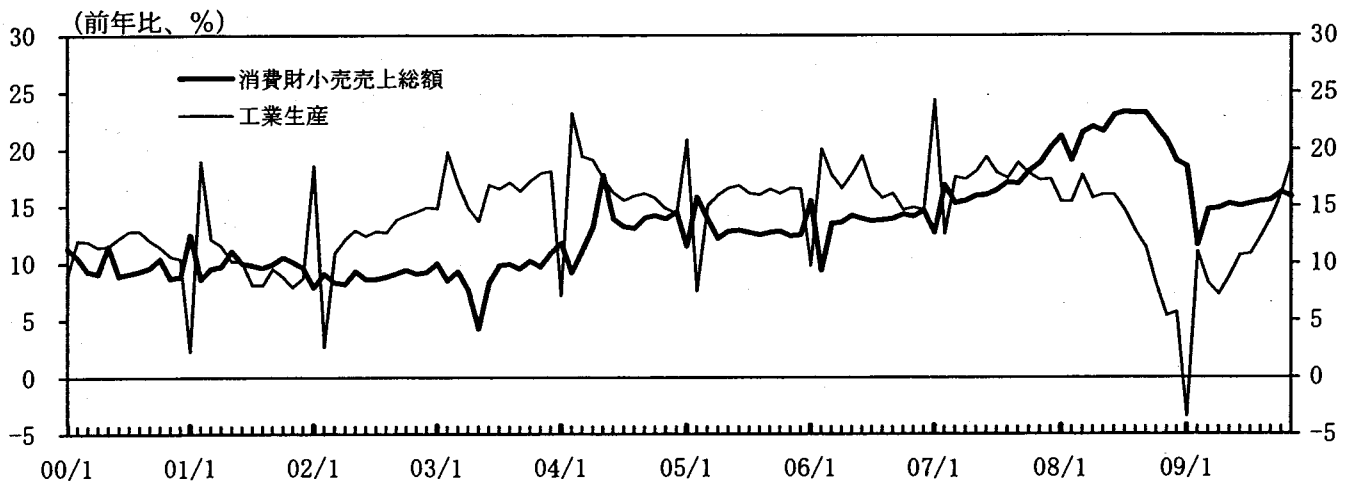
(1) 実質GDP



(2) 貿易



(3) 生産、個人消費

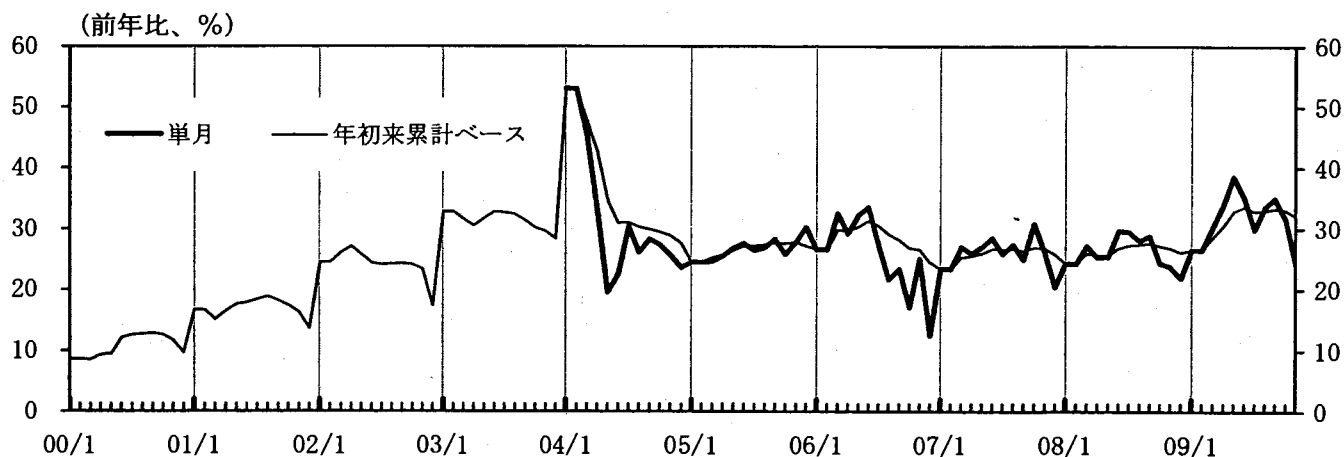


(注1) 1、2月の工業生産が大きく変動しているのは、旧正月要因。

(注2) 工業生産の2007年以降の1月は、中国国家统计局が公表する1-2月累計値の前年比伸び率と2月の前年比伸び率を用いて当局で試算。

中国(2)

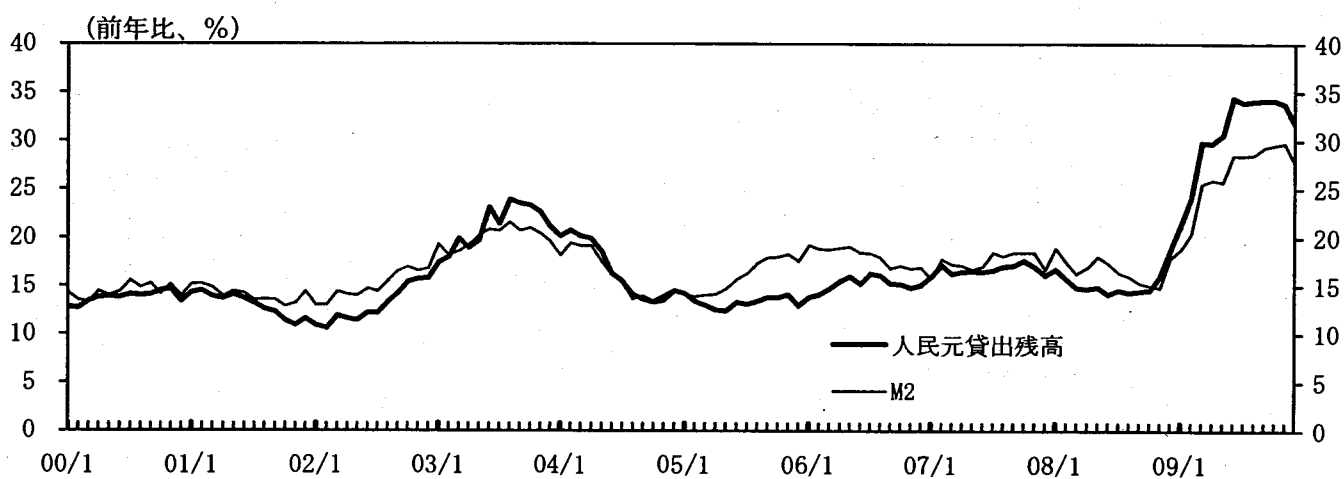
(1) 固定資産投資



直近：11月

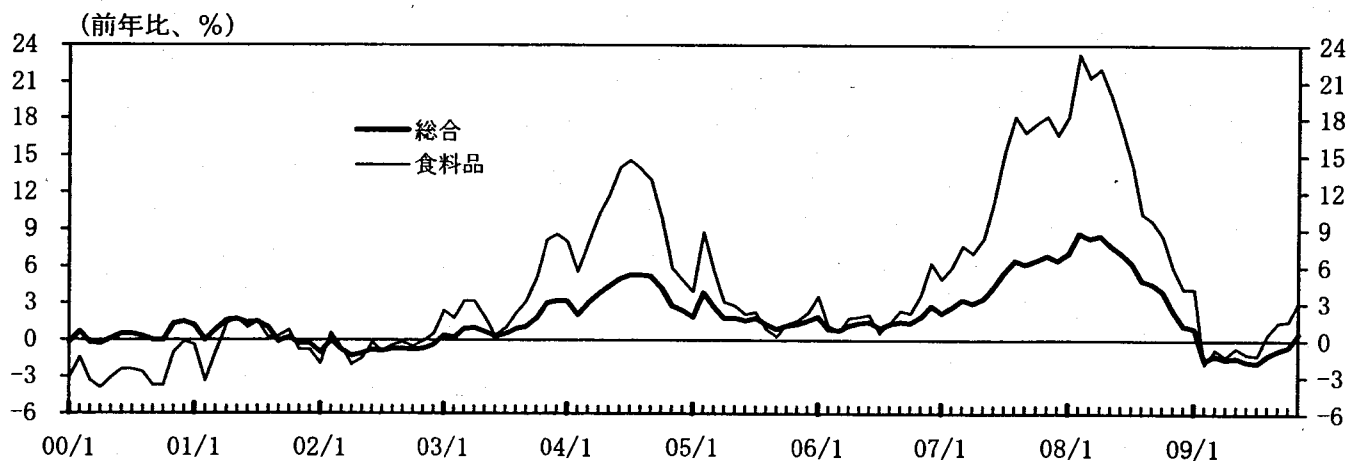
(注) 固定資産投資は、都市部。2003年までは、不動産開発を除き、都市部及び農村部の集団所有制企業と個人による投資を除外している。2004年以降は、都市部における50万元以上の全ての投資、不動産開発投資、都市の鉱工業区における民間住宅建設を含む。なお、1月単月の数値は公表されていないため、1~2月は等速と仮定している。

(2) M2と貸出



直近：12月

(3) 消費者物価

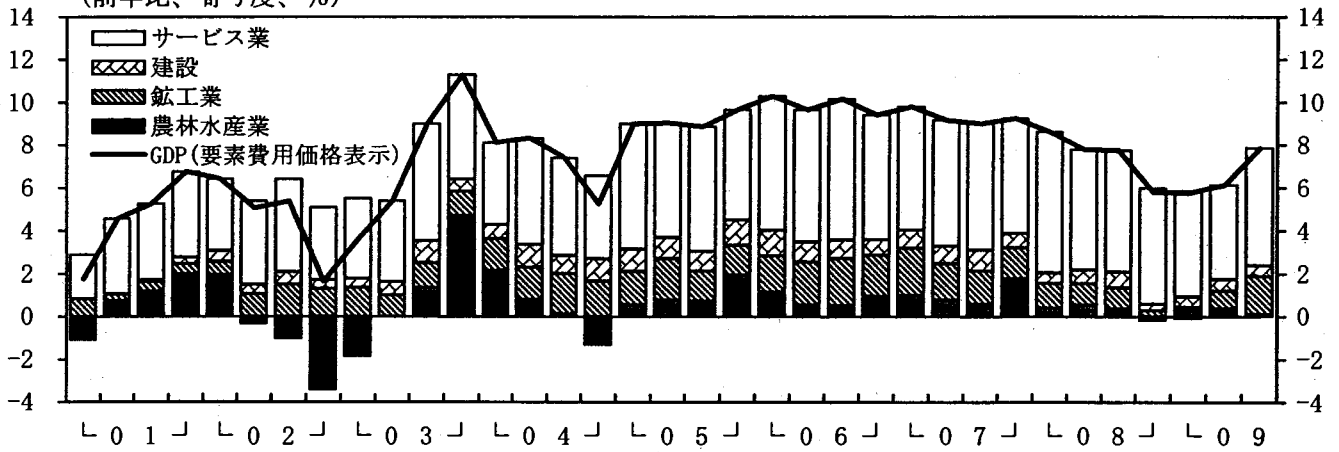


直近：11月

インド

(1) 実質GDP (産業別寄与度)

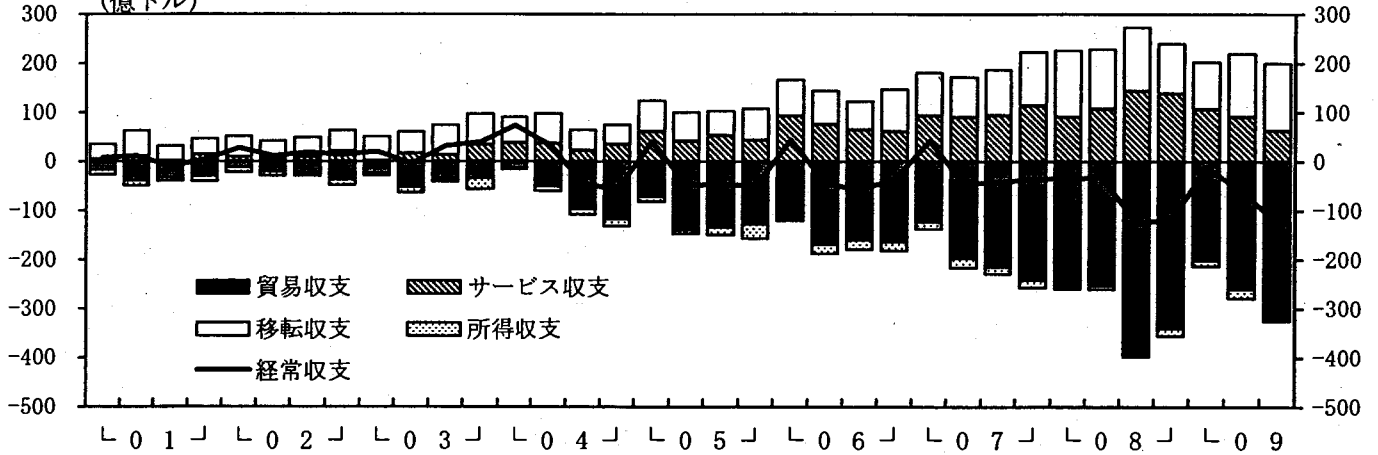
(前年比、寄与度、%)



直近: 3Q

(2) 経常収支

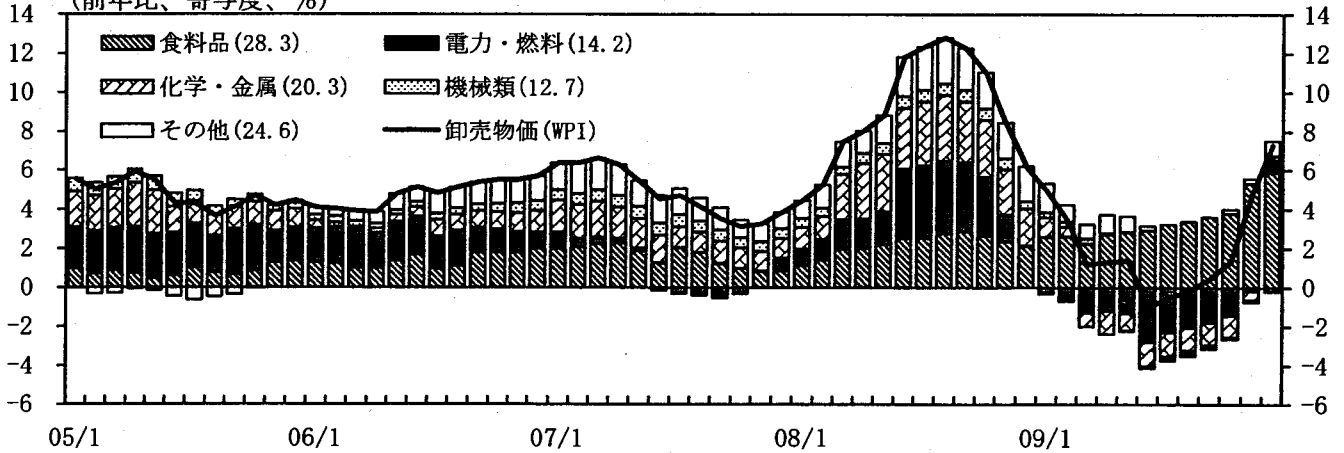
(億ドル)



直近: 3Q

(3) 卸売物価 (WPI)

(前年比、寄与度、%)

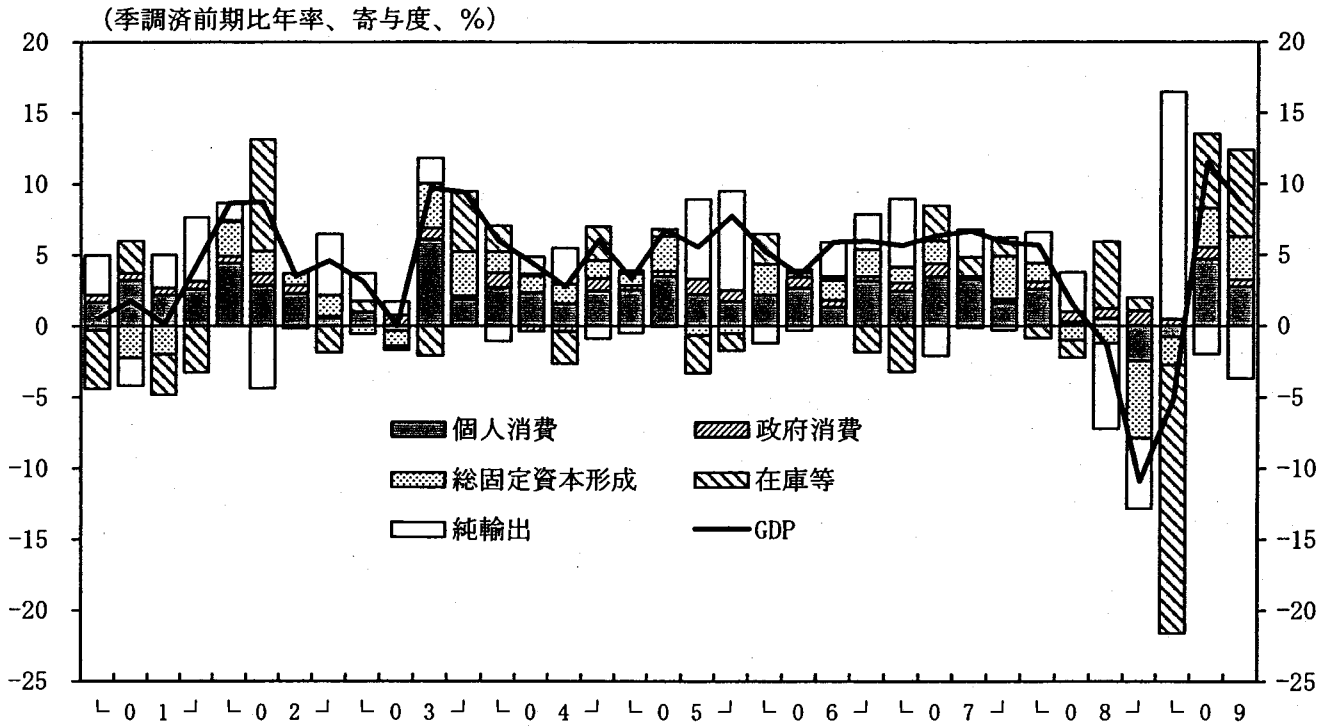


(注) 食料品には加工食品、飲料・タバコを含む。カッコ内はウエイト。

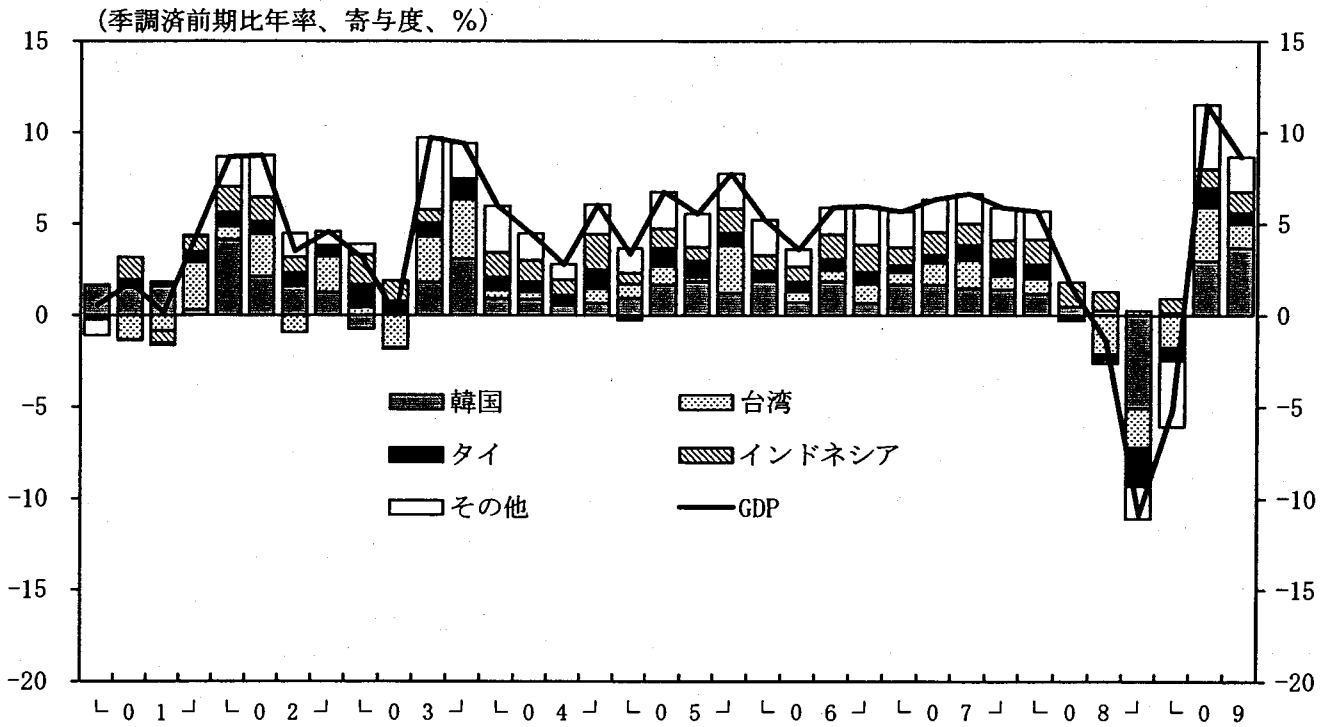
直近: 12月

NIEs、ASEAN諸国・地域の実質GDP成長率

(1) NIEs、ASEAN (需要項目別寄与度)



(2) NIEs、ASEAN (国・地域別寄与度)



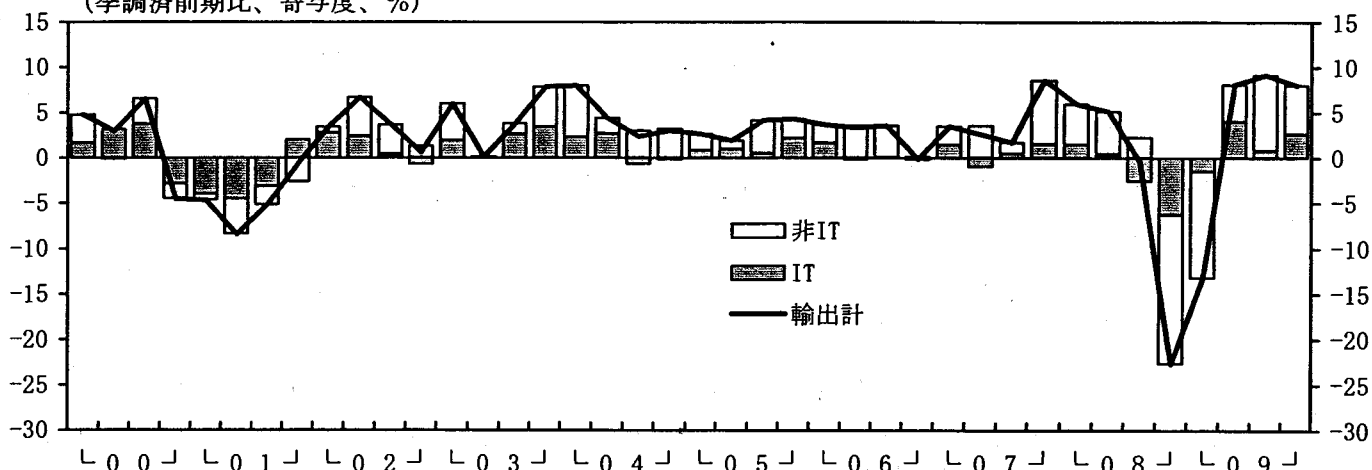
(注1) 全体の前期比年率は、各国・地域の季調済前期比年率を購買力平価換算 (IMF算出) による GDPウェイトで加重平均した値。

(注2) 図表 (1) の在庫等には、統計誤差を含む。

NIEs、ASEAN諸国・地域の輸出合成指数 (NIEs4・ASEAN4)

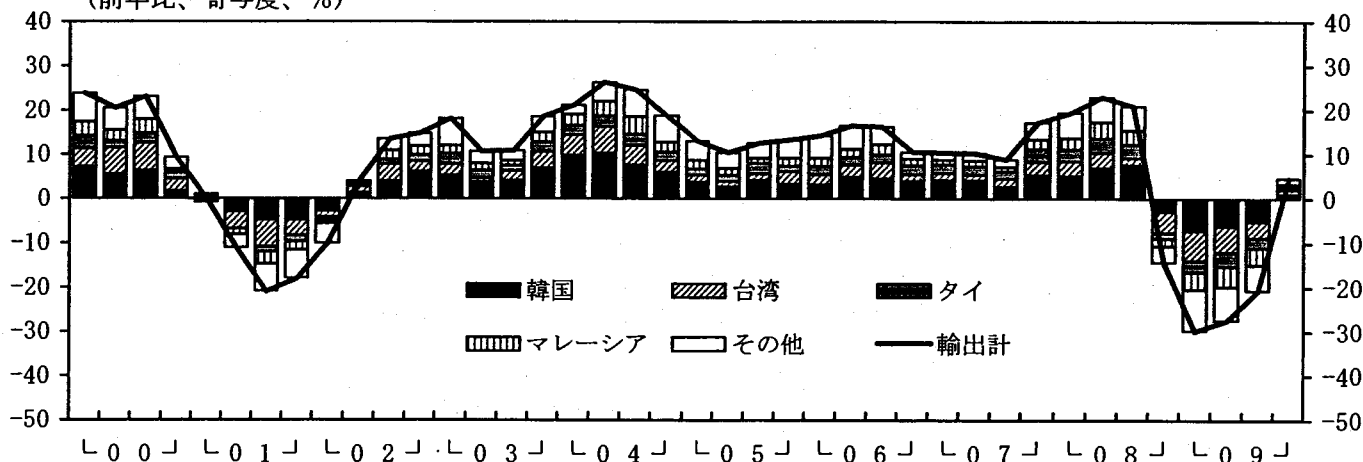
(1) 輸出全体 (前期比)

(季調済前期比、寄与度、%)



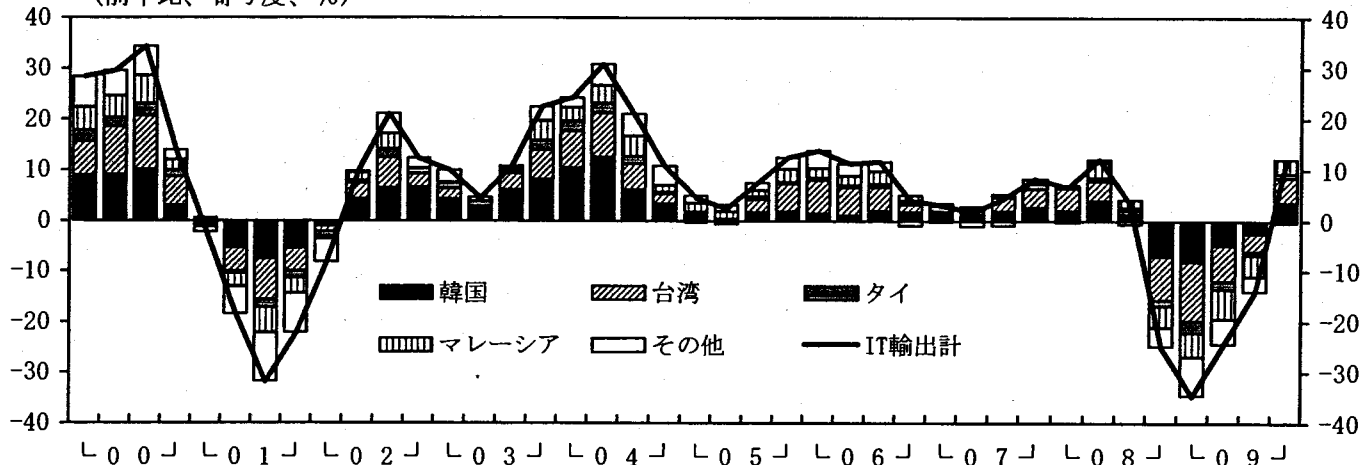
(2) 輸出全体 (前年比)

(前年比、寄与度、%)



(3) IT関連輸出 (前年比)

(前年比、寄与度、%)



(注1) 直近4Qは、10~11月の値。なお、直近月まで公表されていないデータに関しては、前月の前年比で横置きしている。

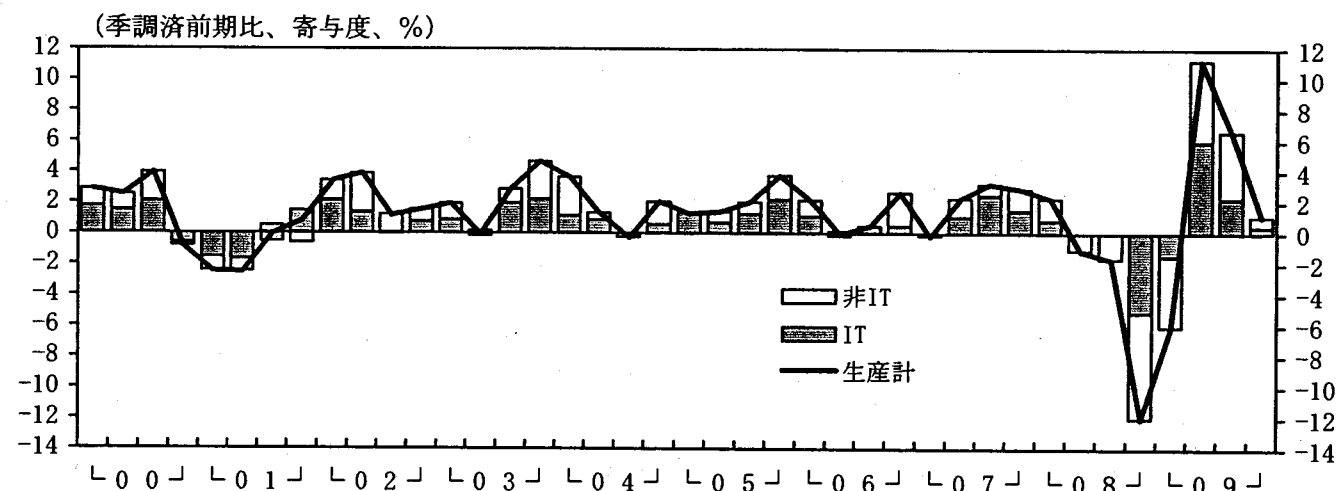
(注2) NIEs4は、韓国、台湾、シンガポール、香港、ASEAN4は、タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン。

(注3) 季調済前期比は、X-12-ARIMAによる。IT輸出の寄与度は、X-12-ARIMAによる季調済のIT輸出金額を用いて算出し、非ITは輸出全体からIT輸出の寄与度を差し引いて算出した。

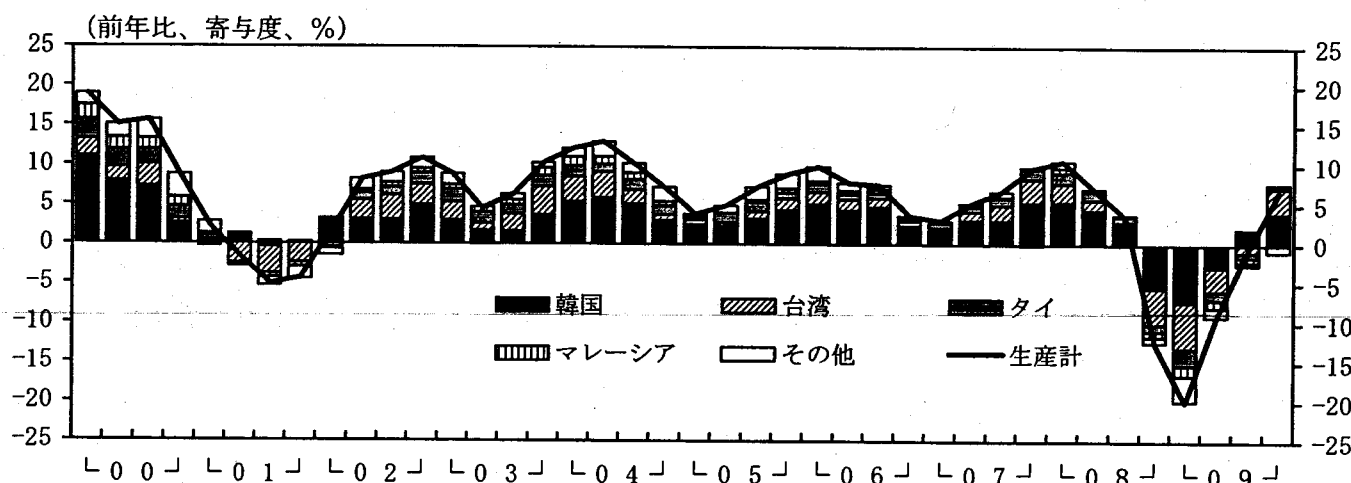
(注4) 全て金額ベース。

NIEs、ASEAN諸国・地域の生産合成指数 (NIEs3・ASEAN3)

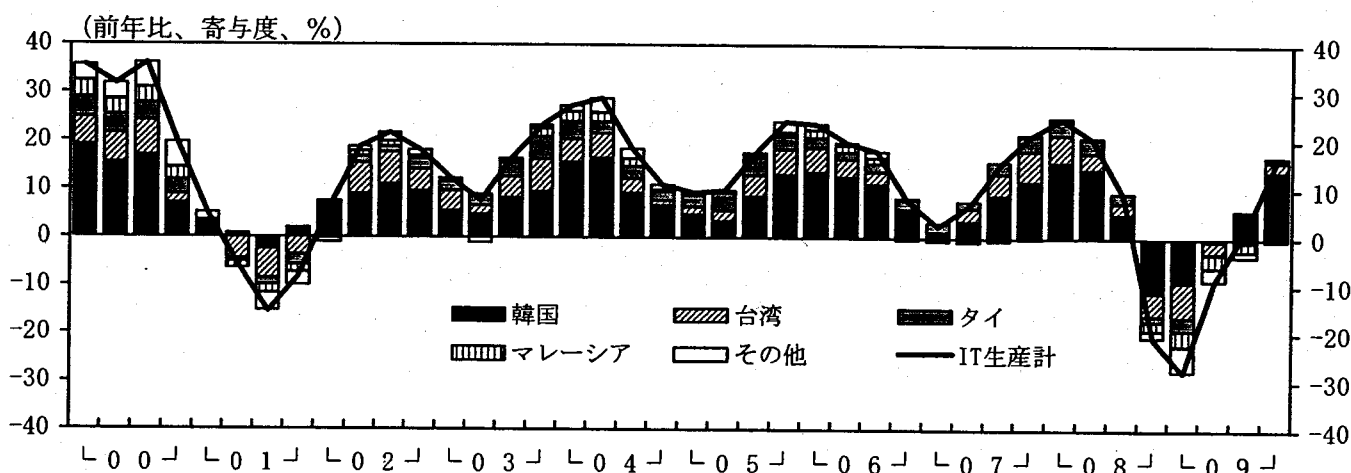
(1) 生産全体 (前期比)



(2) 生産全体 (前年比)



(3) IT関連生産 (前年比)



(注1) 直近4Qは、10～11月の値。なお、直近月まで公表されていないデータに関しては、未季調値は前月の前年比、季調値は前月の値で横置きしている。

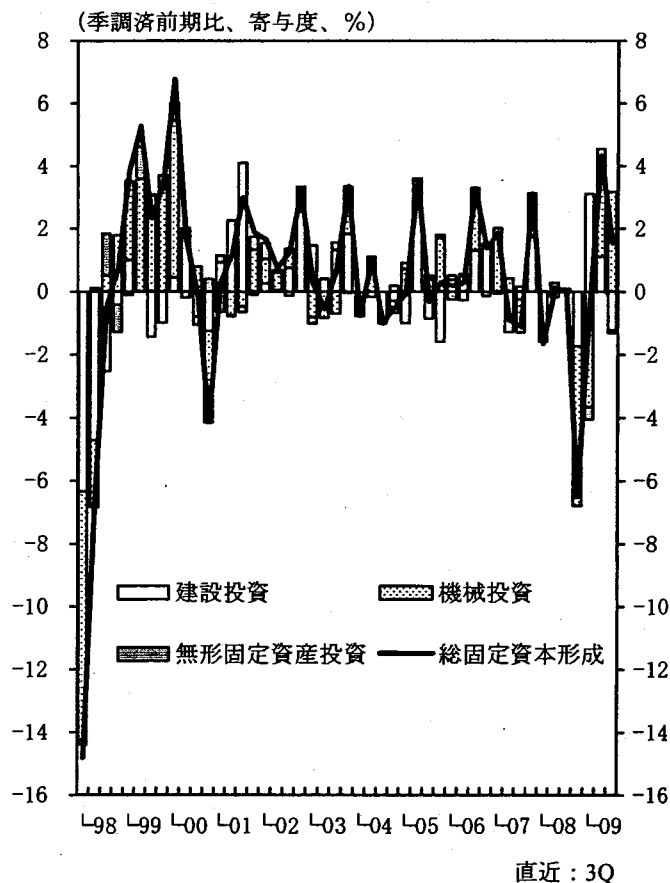
(注2) NIEs3は、韓国、台湾、シンガポール、ASEAN3は、タイ、マレーシア、フィリピン。

(注3) 全体の前期比は、各国・地域の季調済前期比を名目GDPウェイト(ドル建名目GDPの世界計に対する各国シェアの後方3年移動平均を用いて算出)で加重平均した値。現地統計で季調値が公表されていないデータは、X-12-ARIMAによる当局算出値。生産全体に対するITの内訳寄与度は、各国・地域の生産指数のIT関連品目の伸び率およびウェイトを用いて寄与度を計算し、それを名目GDPウェイトで加重平均して算出した。

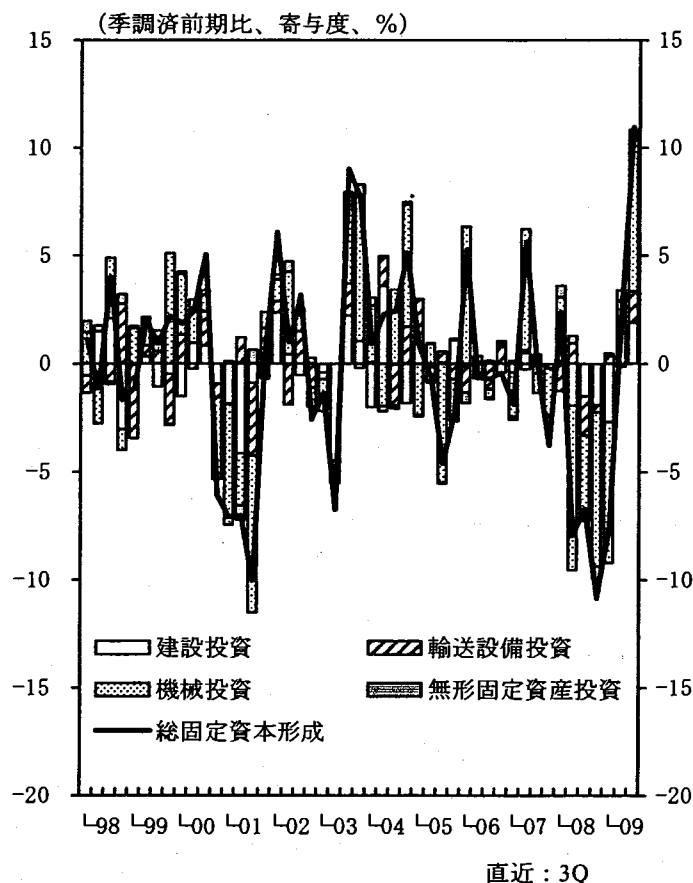
(注4) 全て数量ベース。

NIEs、ASEAN諸国・地域の総固定資本形成、家計支出関連指標

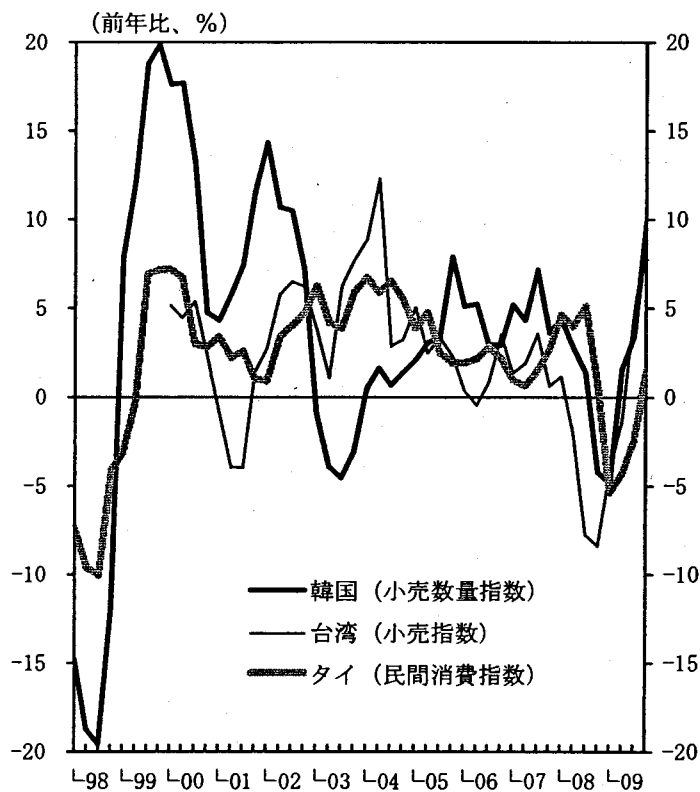
(1) 韓国の総固定資本形成



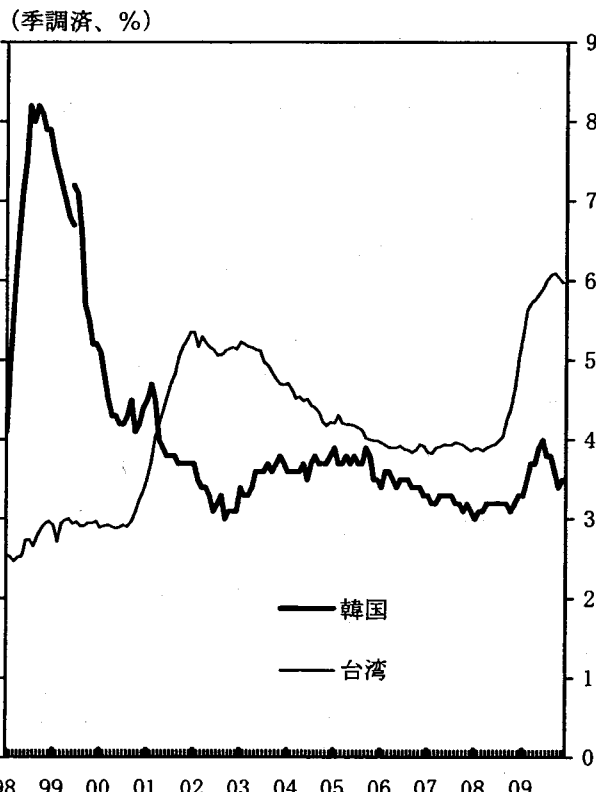
(2) 台湾の総固定資本形成



(3) 個人消費関連指標



(4) 失業率



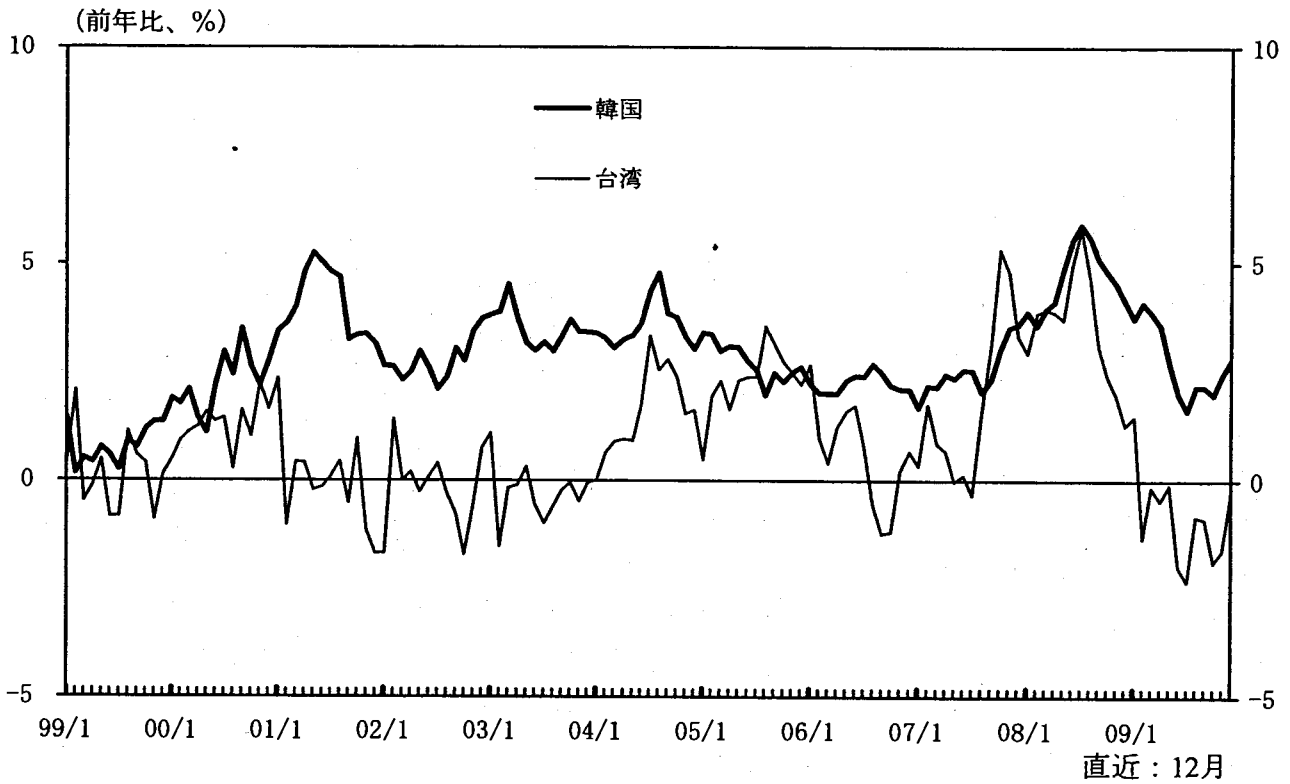
(注1) 季節調整値は、台湾の総固定資本形成はX-11を用いて当局で算出、その他は現地統計。

(注2) 韓国の失業率は、調査内容の変更により、1999/5月時点で不連続となっている。1999/5月までは調査日から過去1週間の、それ以降は過去4週間の求職活動の有無について調査している。

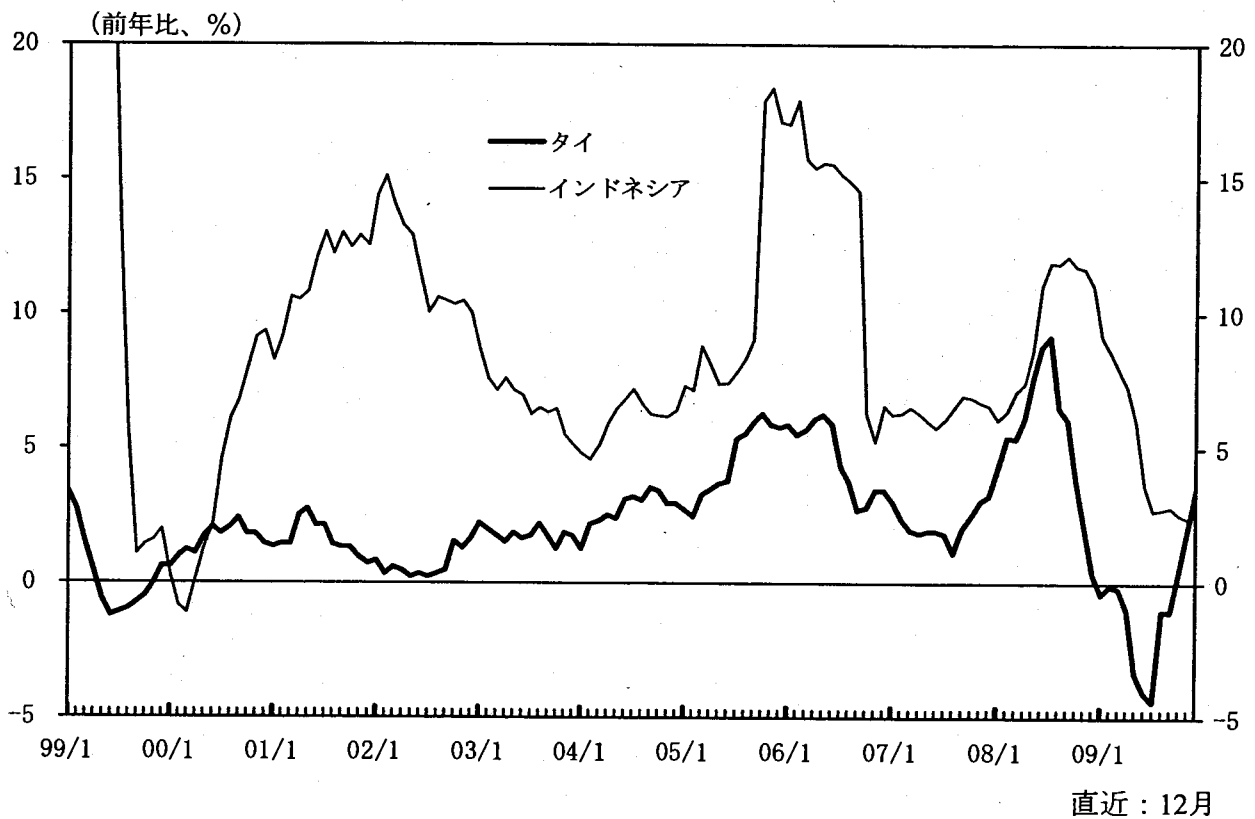
(注3) タイの個人消費は、1999年までは1995年基準値、2000年以降は2000年基準値。

NIEs、ASEAN諸国・地域の消費者物価

(1) NIEs (韓国・台湾)

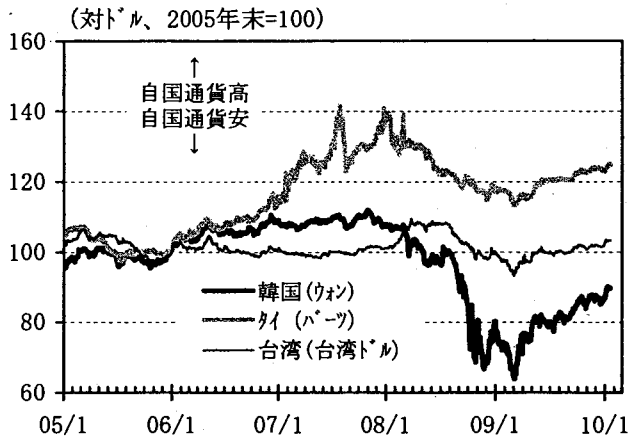


(2) ASEAN (タイ・インドネシア)

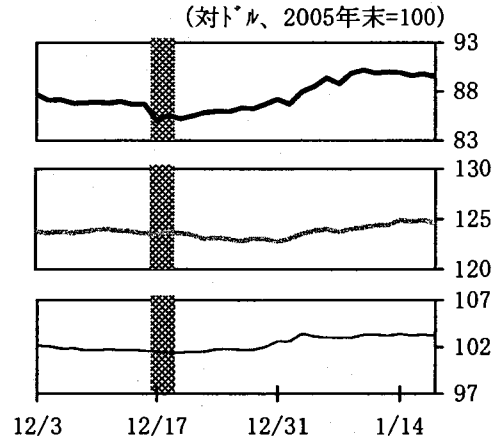


エマージング諸国・地域の金融市場 通貨(1)

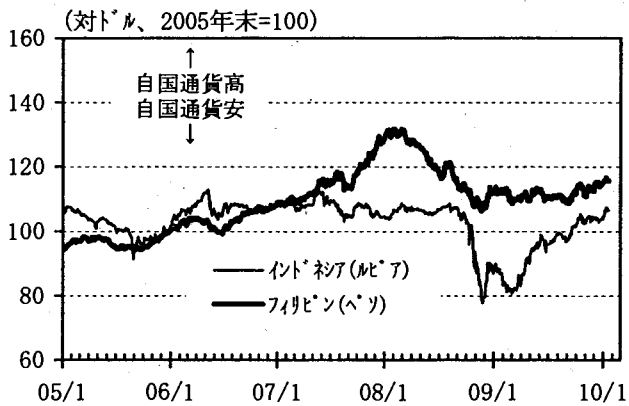
(1) 韓国、台湾、タイ



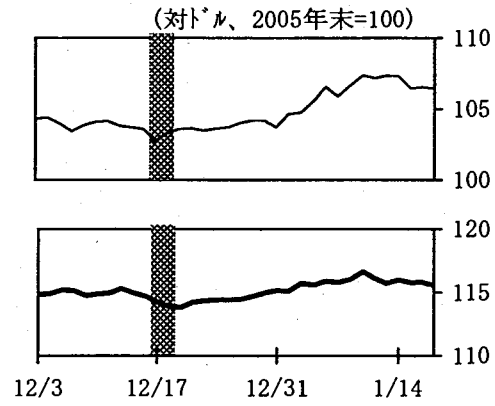
<最近の動き>



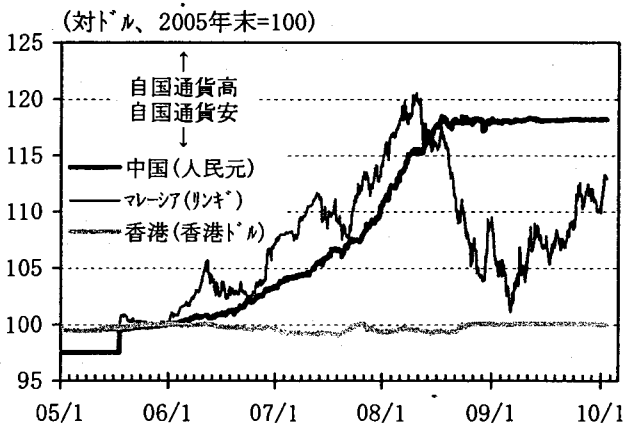
(2) インドネシア、フィリピン



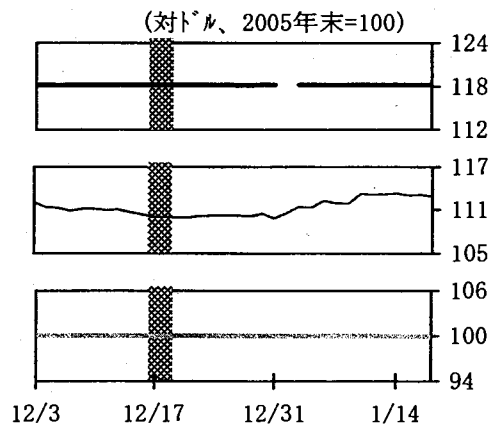
<最近の動き>



(3) 中国、香港、マレーシア



<最近の動き>



(休場：中国1/1)
いずれも直近は1月19日

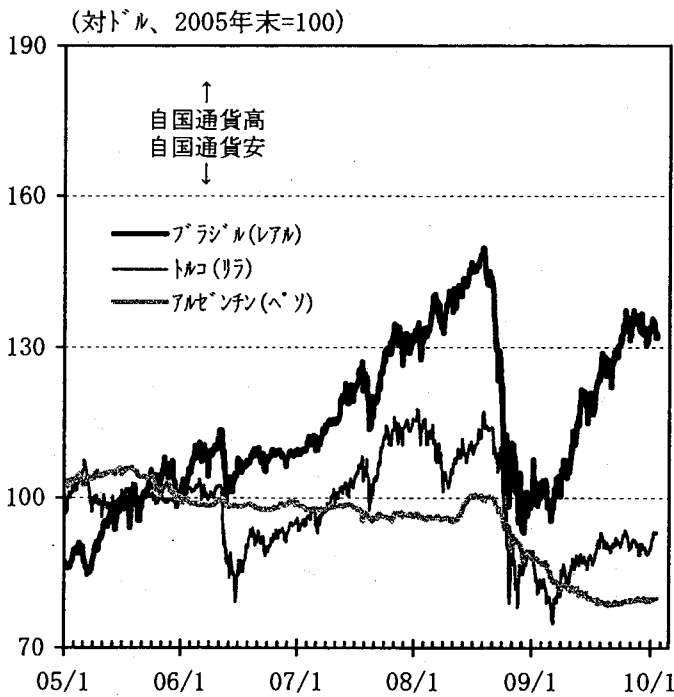
(注1) シャドーは前回会合。

(注2) タイ・バーツは07年1月31日よりオフショア市場でのレートを用いている。

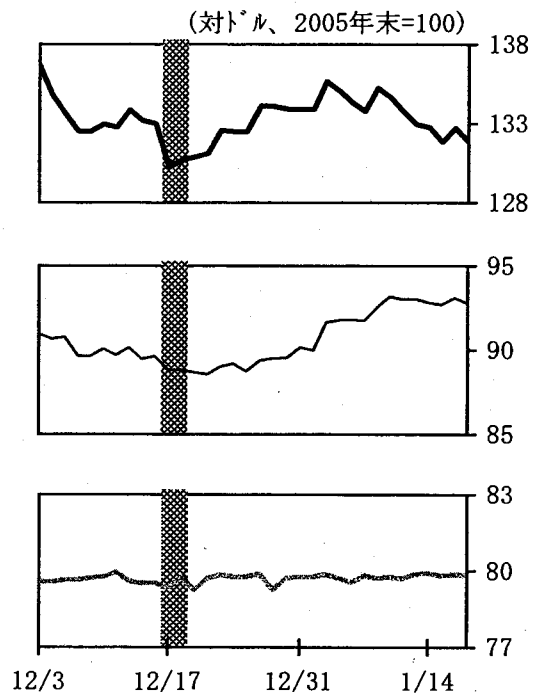
(出所) Bloomberg

通貨(2)

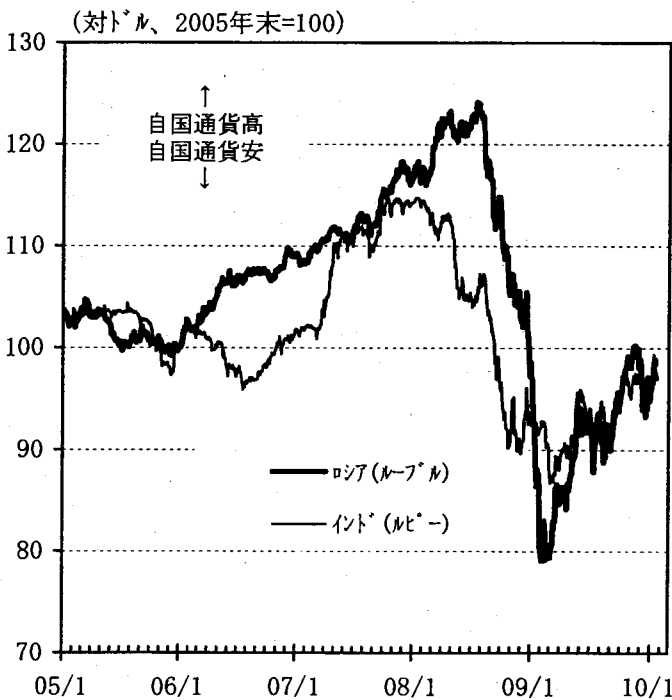
(4) ブラジル、アルゼンチン、トルコ



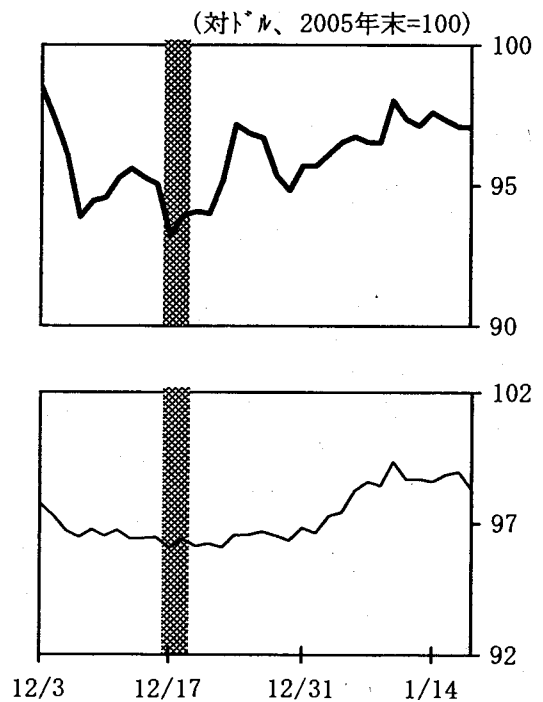
<最近の動き>



(5) ロシア、インド



<最近の動き>

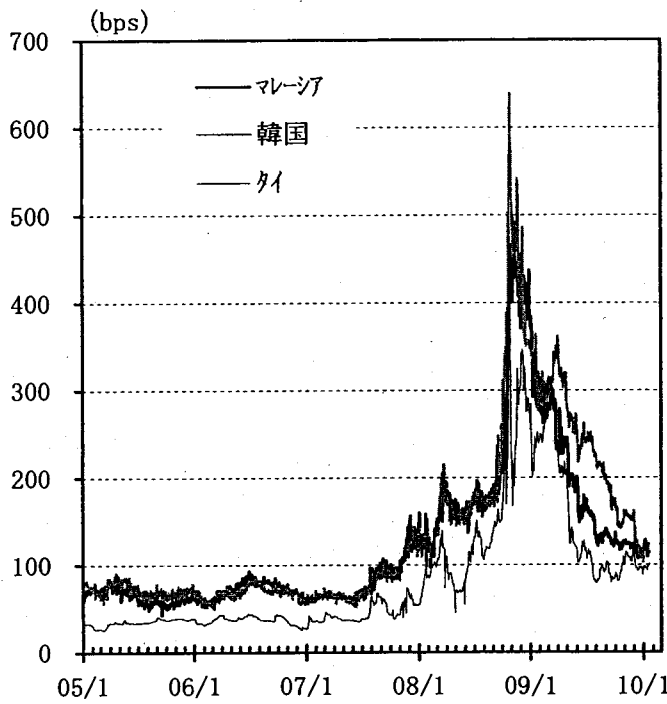


(注) シャドーは前回会合。
(出所) Bloomberg

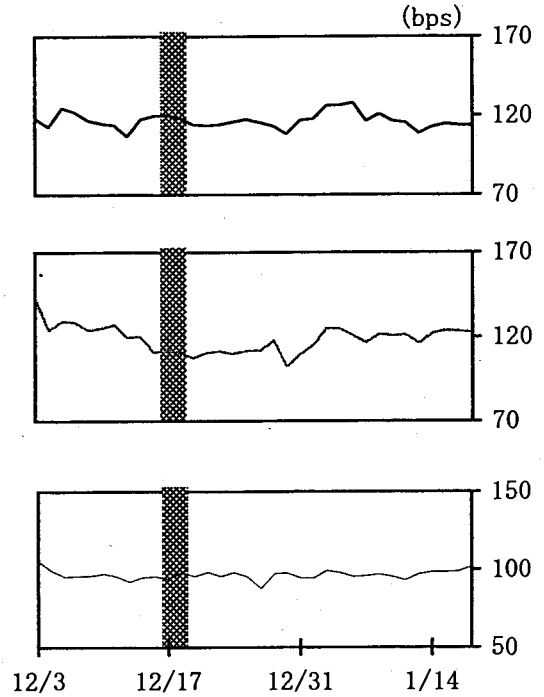
いずれも直近は1月19日

対米国債スプレッド (1)

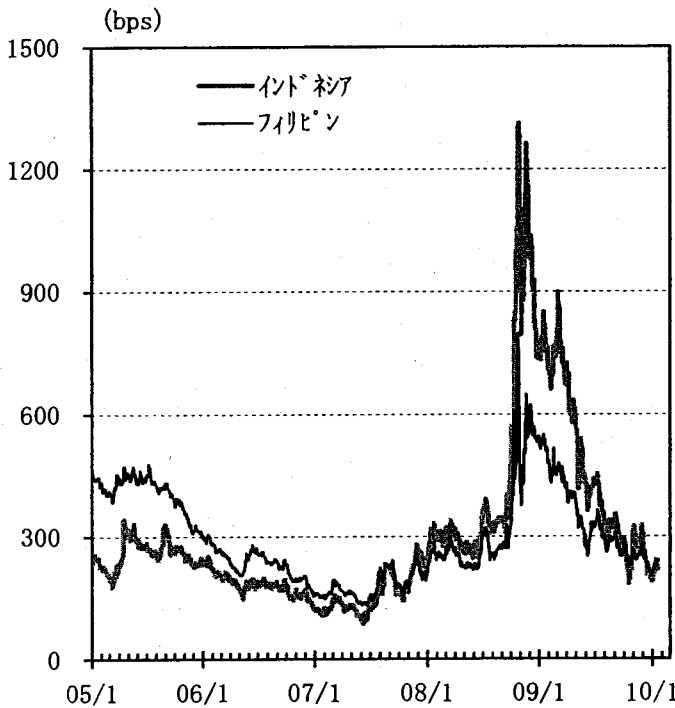
(1) 韓国、タイ、マレーシア



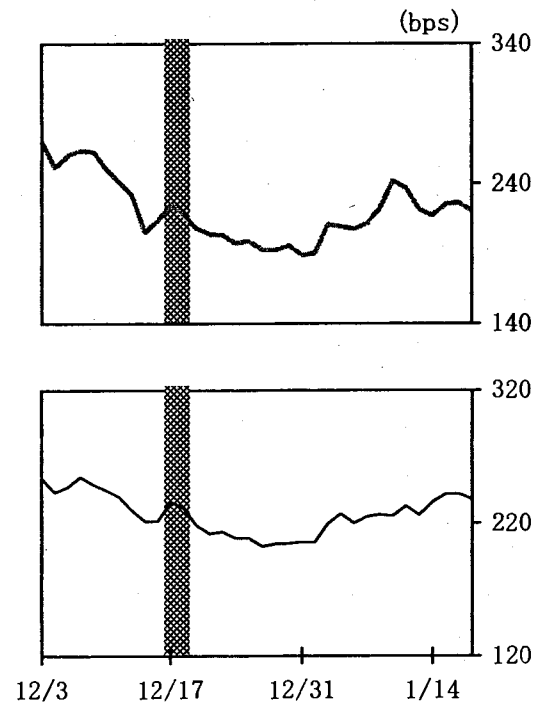
<最近の動き>



(2) インドネシア、フィリピン



<最近の動き>

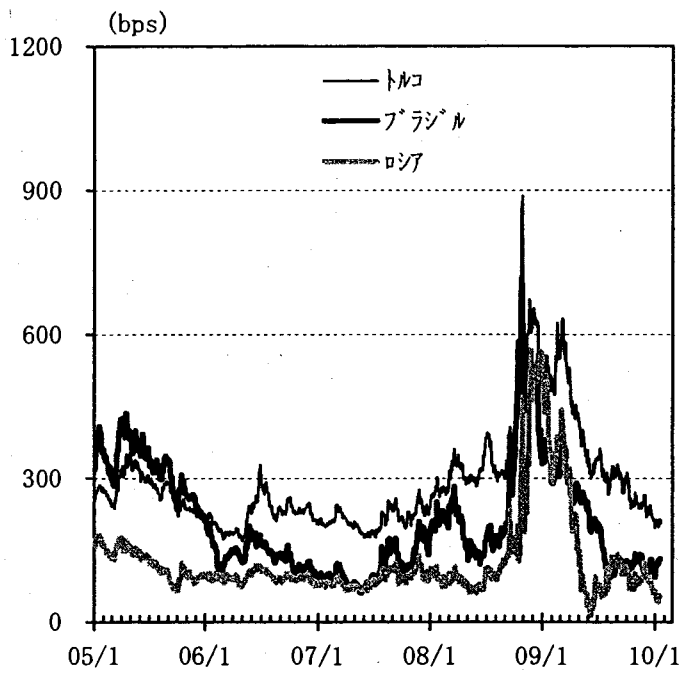


いずれも直近は1月19日

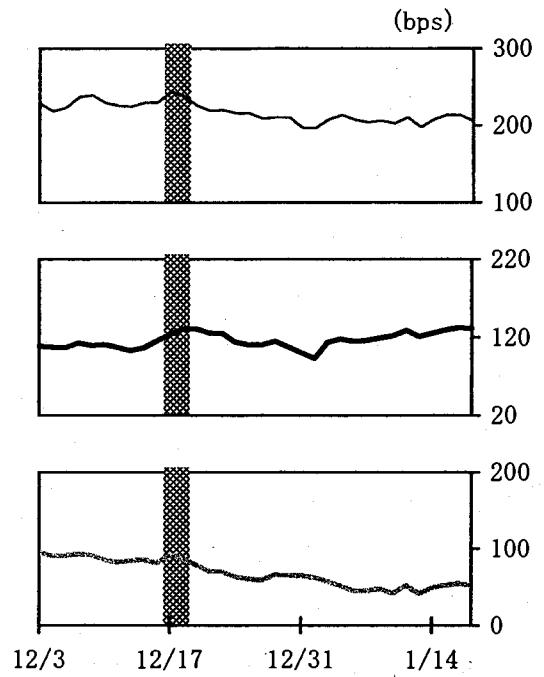
(注1) シャドーは前回会合。
(注2) タイは5年物CDSで代用。フィリピンはEMBI Global。
(出所) Bloomberg、Thomson Reuters Datastream

対米国債スプレッド (2)

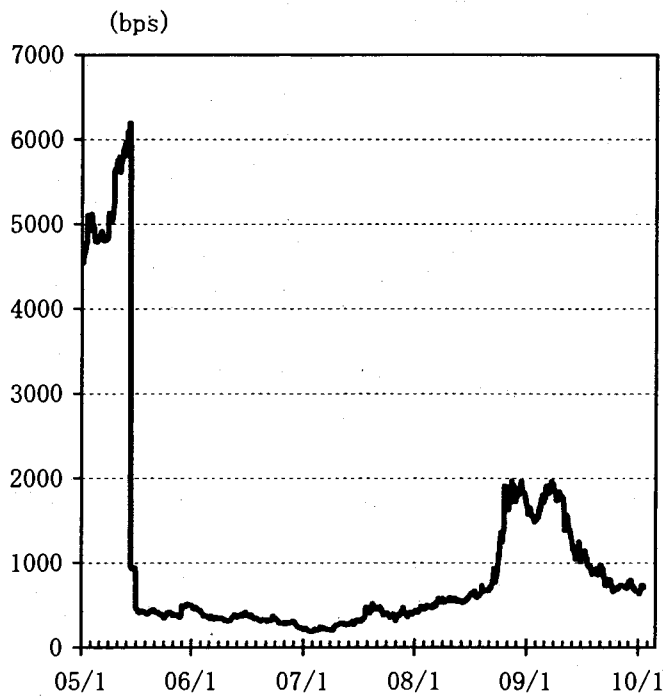
(3) ブラジル、ロシア、トルコ



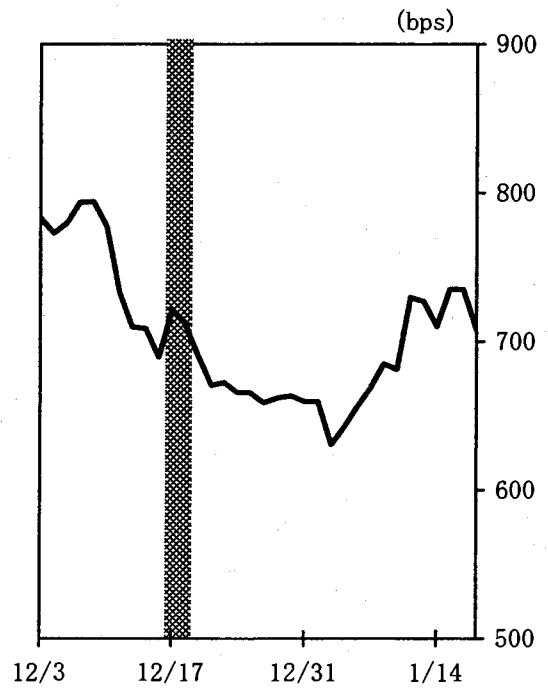
<最近の動き>



(4) アルゼンチン



<最近の動き>



いずれも直近は1月19日

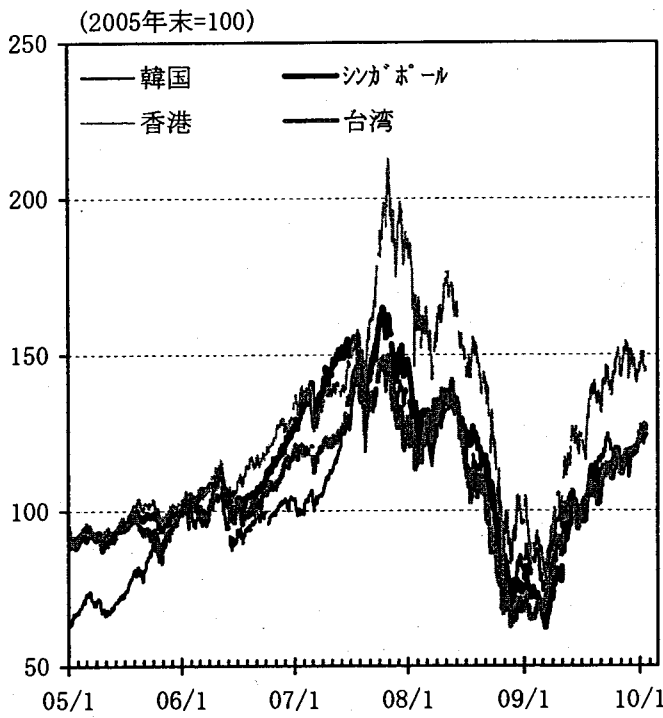
(注1) シャドーは前回会合。

(注2) トルコ、アルゼンチンはEMBI Global。

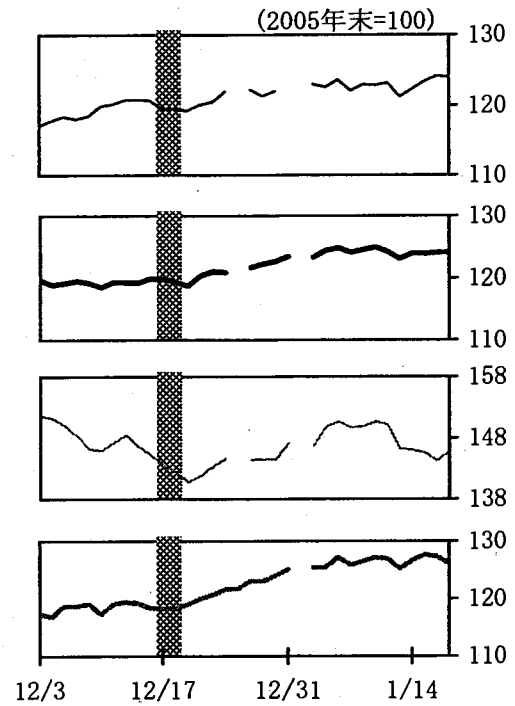
(出所) Bloomberg、Thomson Reuters Datastream

株価(1)

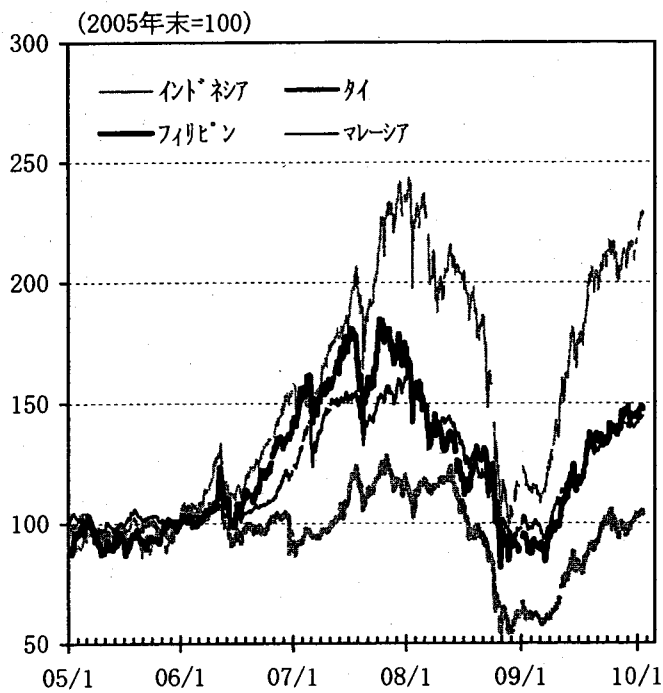
(1) NIEs



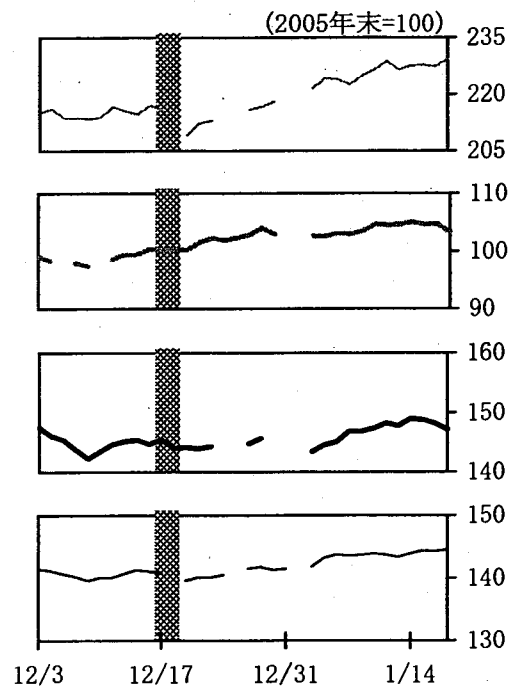
<最近の動き>



(2) ASEAN



<最近の動き>



(休場: タイ12/7, 10, 31, 1/1、インドネシア12/18, 24-25, 31, 1/1、マレーシア12/18, 25, 1/1、
フィリピン12/24-25, 30-31, 1/1、韓国12/25, 31, 1/1、香港、シンガポール12/25, 1/1、台湾1/1)
いずれも直近は1月19日

(注) シャドーは前回会合。

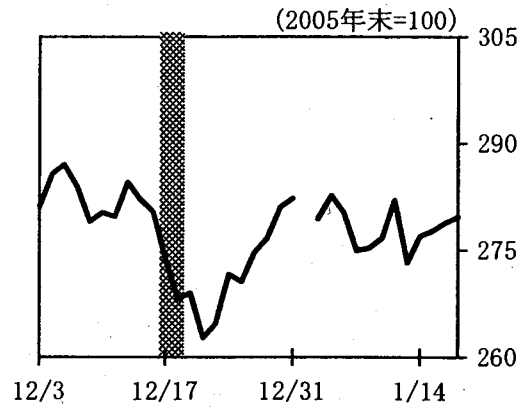
(出所) Thomson Reuters Datastream

株価(2)

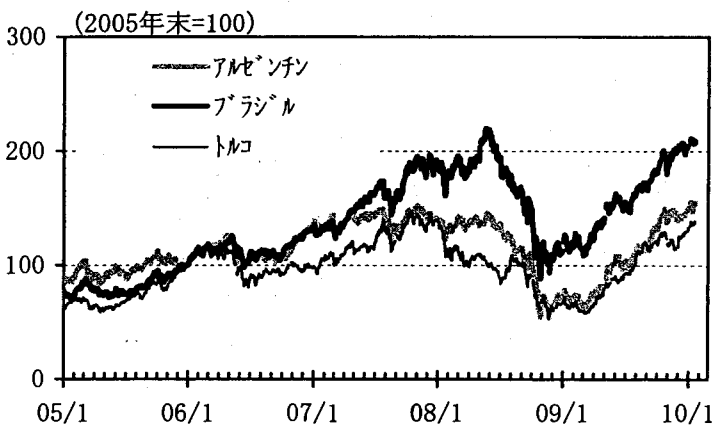
(3) 中国(上海総合)



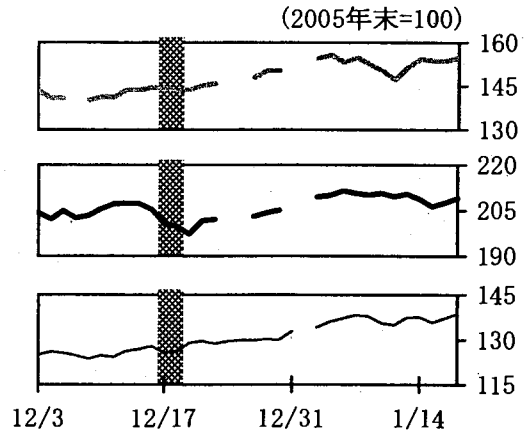
<最近の動き>



(4) ブラジル、アルゼンチン、トルコ



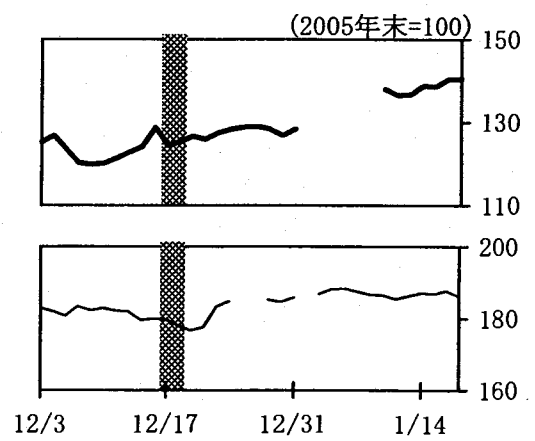
<最近の動き>



(5) ロシア、インド



<最近の動き>

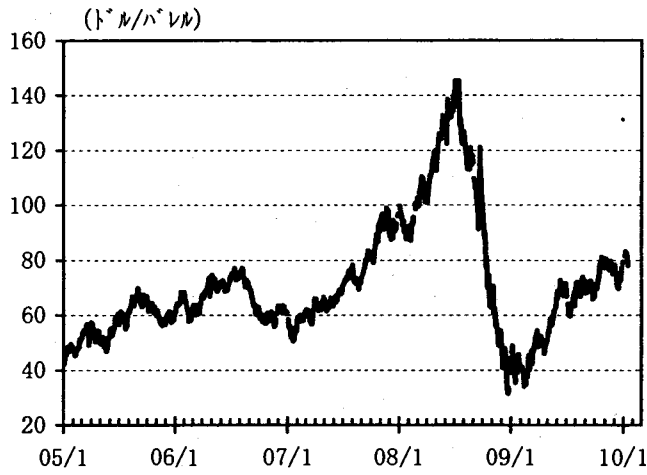


(休場：アルゼンチン12/8, 24-25, 31, 1/1、ブラジル12/24-25, 31, 1/1、インド12/25, 28, 1/1、中国1/1、ロシア1/1, 4-8)
いずれも直近は1月19日

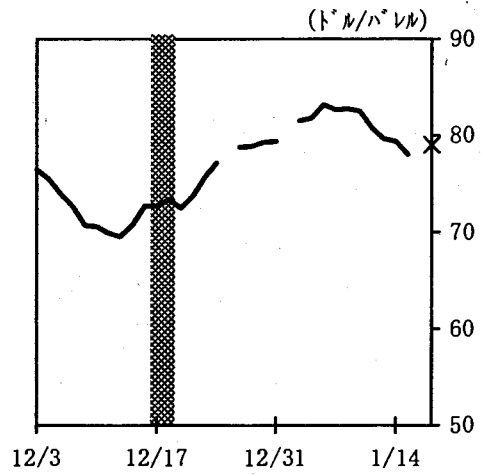
(注) シャドーは前回会合。
(出所) Thomson Reuters Datastream

商品

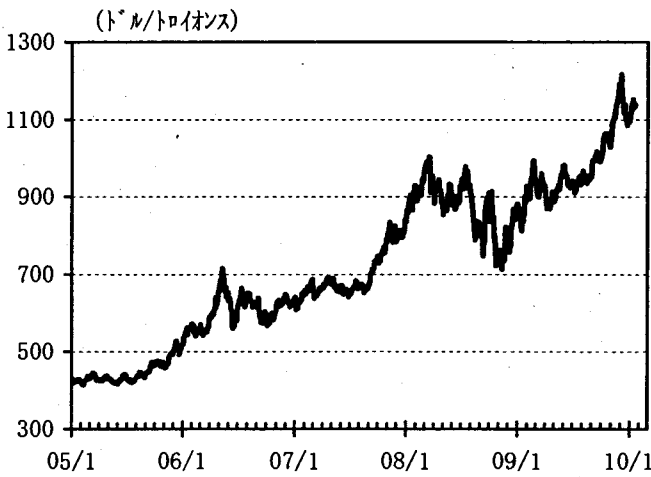
(1) 原油 (WTI)



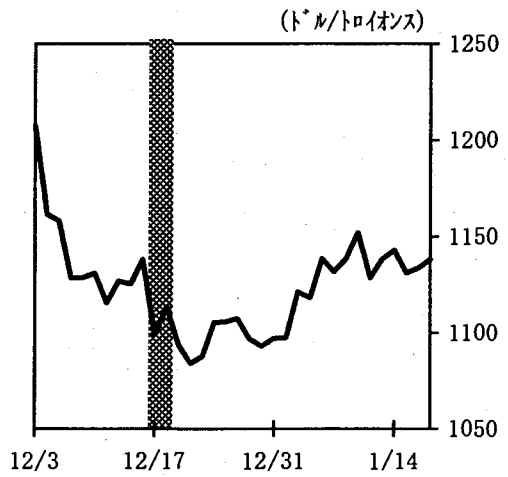
<最近の動き>



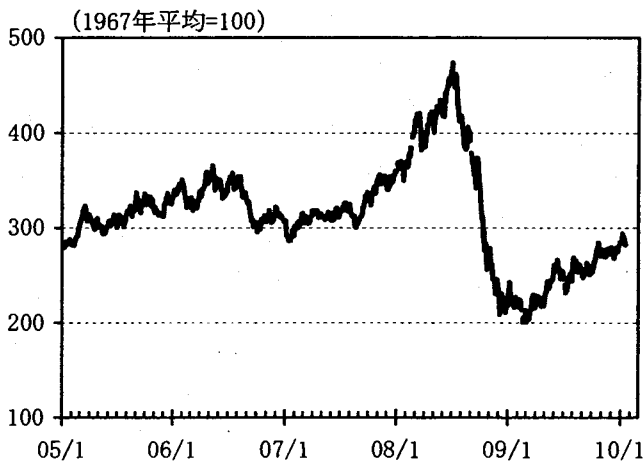
(2) 金



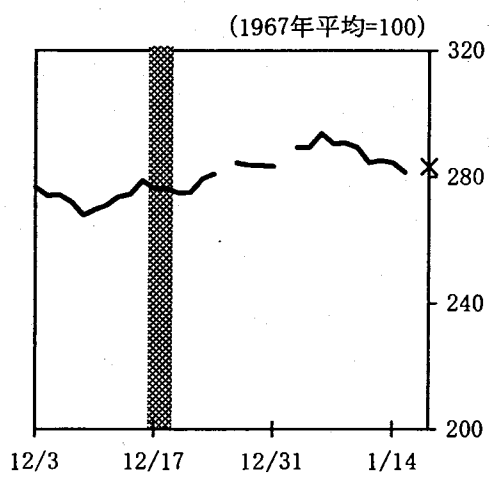
<最近の動き>



(3) CRB商品先物指数



<最近の動き>



(注) シャドーは前回会合。
(出所) Bloomberg

いずれも直近は1月19日
(休場：原油, CRB商品先物指数12/25, 1/1, 18)

ブルーチップ、コンセンサス・フォーキャストの計数は転載不可

国際機関及び民間の海外経済・物価見通し

(1) 実質GDP

(前年比、%)

	2009年* 実績	2010年			2011年		
		IMF 見通し (2009/10月)	民間 見通し		IMF 見通し (2009/10月)	民間 見通し	
			10月時点	1月時点		10月時点**	1月時点
米 国	▲2.5	1.5	2.5	2.8	2.8	3.1	3.1
E U	▲4.0	0.5	0.9	1.2	1.8	n.a.	n.a.
ユーロエリア	▲3.9	0.3	1.1	1.3	1.3	1.5	1.6
ドイツ	▲5.0	0.3	1.4	1.8	1.5	1.7	1.6
フランス	▲2.2	0.9	1.2	1.4	1.8	1.5	1.6
英国	▲4.7	0.9	1.3	1.5	2.5	1.8	2.2
NIEs	▲1.3	3.6	4.2	4.9	4.7	4.4	4.4
ASEAN	0.9	4.0	4.6	4.9	4.7	5.1	5.2
中 国	8.5	9.0	9.5	9.7	9.7	9.1	9.1
日 本	▲5.4	1.7	1.5	1.3	2.4	1.4	1.5

(2) 消費者物価指数

(前年比、%)

	2009年* 実績	2010年			2011年		
		IMF 見通し (2009/10月)	民間 見通し		IMF 見通し (2009/10月)	民間 見通し	
			10月時点	1月時点		10月時点**	1月時点
米 国	▲0.4	1.7	1.9	2.1	1.8	2.0	2.0
E U	1.0	1.1	1.4	1.5	1.1	n.a.	n.a.
ユーロエリア	0.3	0.8	1.2	1.2	0.8	1.5	1.5
ドイツ	0.2	0.2	0.9	1.0	0.1	1.6	1.3
フランス	0.1	1.1	1.2	1.2	1.4	1.6	1.5
英国	2.2	1.5	2.0	2.4	1.4	1.8	1.7
NIEs	1.2	1.9	2.1	2.3	2.3	2.4	2.6
ASEAN	2.4	4.6	4.0	4.2	4.2	4.2	4.3
中 国	▲0.7	0.6	2.4	2.8	1.5	2.9	3.2
日 本	▲1.3	▲0.8	▲0.8	▲1.0	▲0.4	▲0.2	▲0.3

*米国は、ブルーチップ(2009/12月号)、米国以外はコンセンサス・フォーキャスト(2010/1月号)による実績見込み。
ただし、実質GDPのドイツ、シンガポール、消費者物価指数の米国、EU、ユーロエリア、ドイツ、フランス、英国、韓国、台湾、タイ、インドネシア、フィリピンは実績値。

**米国の値はブルーチップ(2009/10月号)、その他はコンセンサス・フォーキャスト(2009/10月号)の長期見通しの値。

(注1) IMF見通しは、WEO(World Economic Outlook)による。

(注2) 民間見通しは、米国はブルーチップ、その他はコンセンサス・フォーキャストによる。

(注3) ASEANのIMF見通しはタイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、ベトナムの5か国ベース。その他はベトナムを除く4か国ベース。

(注4) NIEsは韓国、台湾、香港、シンガポール。

(注5) NIEs、ASEANの計数は、購買力平価換算(IMF算出)によるGDPウェイトを使用。

<不開示情報：有（種類：審議・検討）>
<配付先：金融政策決定会合関係者限り>
<作成局における保管期間満了時期：2040年12月>

2010.1.25

国際局

「海外経済・国際金融の現状評価」参考計表【追加】

(図表1)	米国の主要経済指標	1
(図表2)	欧州の主要経済指標	2
(図表3)	アジア諸国・地域の主要経済指標	4
(図表4)	米国金融市場	7
(図表5)	欧州金融市場	8
(図表6)	中国関連指標	9
(図表7)	ギリシャ問題	10

米国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(12月17日)以降に判明したもの。

	2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
1. 実質GDP ＜前期比年率、％＞	0.4		▲ 0.7	<12/22改訂> 2.2				
2. 実質可処分所得 ＜前期比、％＞	0.5		1.5	▲ 0.3	0.5	0.2	<12/23公表> 0.2	
3. 実質個人消費 ＜前期比、％＞	▲ 0.2		▲ 0.2	0.7	0.3	0.4	<12/23公表> 0.2	
4. 家計貯蓄率 ＜対可処分所得比、％＞	2.7		5.4	4.5	4.7	4.7	<12/23公表> 4.7	
5. 小売売上高 (除く自動車、ガソリン、建築資材) ＜前期比、％＞	2.3	▲ 0.8	▲ 0.7	0.4	1.4	0.2	0.9	<1/14公表> ▲ 0.3
6. 自動車販売 (年率、万台) ＜前期比、％＞	1,349 ▲ 18.0	1,060 ▲ 21.4	975 0.8	1,168 19.8	1,106 ▲ 5.3	1,064 13.4	1,112 4.5	<1/6公表> 1,144 2.9
7. 消費者コンフィデンス指数	57.9	45.2	48.3	51.8	50.7	48.7	50.6	<12/29公表> 52.9
8. 住宅着工 (年率、千戸) ＜前期比、％＞	906 ▲ 33.2	554 ▲ 38.8	540 2.3	587 8.6	554 ▲ 5.6	524 ▲ 10.6	580 10.7	<1/20公表> 557 ▲ 4.0
9. ケース・シー住宅価格指数(10大都市) ＜前期比、％＞ (前年比、％)			▲ 2.7 ▲ 16.6	2.6 ▲ 10.6	1.0 ▲ 6.4	<12/29公表> 0.4 ▲ 6.4		
10. 非国防資本財受注(除く航空機) ＜前期比、％＞ (前年比、％)			0.9 ▲ 23.5	2.9 ▲ 18.5	1.3 ▲ 9.9	▲ 2.1 ▲ 11.5	<1/5改訂> 3.6 ▲ 8.1	
11. 財・サービス貿易収支 (億ドル)	▲ 579.9		▲ 270.8	▲ 324.6	▲ 348.0	▲ 331.9	<1/12公表> ▲ 364.0	
12. ISM 製造業指数	45.5	46.3	42.6	51.5	55.1	55.7	53.6	<1/4公表> 55.9
非製造業指数	47.4	46.3	44.9	48.6	49.8	50.6	48.7	<1/6公表> 50.1
13. 鉱工業生産 ＜前期比、％＞ (前年比、％)			▲ 2.7 ▲ 13.5	1.7 ▲ 9.1	1.7 ▲ 4.6	0.2 ▲ 6.6	0.6 ▲ 4.7	<1/15公表> 0.6 ▲ 2.4
14. 失業率 (除く軍人、％)	5.8	9.3	9.3	9.7	10.0	10.1	10.0	<1/8公表> 10.0
15. 非農業部門雇用者数 (増減数、千人/月) うち民間部門	▲ 257 ▲ 270	▲ 347 ▲ 342	▲ 428 ▲ 425	▲ 199 ▲ 171	▲ 69 ▲ 76	▲ 127 ▲ 163	4 0	<1/8公表> ▲ 85 ▲ 64
16. CPI ＜前期比、％＞ (前年比、％)			0.3 ▲ 1.2	0.9 ▲ 1.6	0.8 1.4	0.3 ▲ 0.2	0.4 1.8	<1/15公表> 0.1 2.7
コア＜前期比、％＞ (前年比、％)			0.6 1.8	0.4 1.5	0.4 1.7	0.2 1.7	0.0 1.7	<1/15公表> 0.1 1.8
17. 非農業部門労働生産性 ＜前期比年率、％＞ (前年比、％)			6.9 1.9	8.1 4.0				
18. ユニット・レーバー・コスト ＜前期比年率、％＞ (前年比、％)			▲ 0.0 0.3	▲ 2.5 ▲ 1.4				

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均を用いて算出。

- (注) ・前期(月)比は季調済みベース。
 ・財・サービス貿易収支の年計数および四半期計数は月平均に換算。
 ・雇用者増減数(期末差)の年計数および四半期計数は月平均に換算。
 ・CPIコアは食料品、エネルギーを除いたベース。

ユーロエリアの主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(12月17日)以降に判明したもの。

※

		2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月	2010/1月
1. 実質GDP	<前期比年率、%>	0.6		▲0.5	▲1.7					
独 実質GDP	<前期比年率、%>	1.3	▲5.0	1.8	2.9					
仏 実質GDP	<前期比年率、%>	0.3		1.3	1.0					
2. 輸出	<前期比、%>			▲0.3	3.4	1.2	▲0.1	▲0.4		
	(前年比、%)	3.6		▲23.2	▲19.4	▲11.9	▲17.1	▲5.8		
3. 独 海外受注(域外)	<前期比、%>			9.6	8.2	5.3	▲1.5	5.0		
	(前年比、%)	▲5.5		▲30.8	▲19.5	▲3.9	▲8.4	0.8		
4. 独 国内投資財受注	<前期比、%>			▲0.6	9.0	▲5.7	▲0.4	3.0		
	(前年比、%)	▲6.9		▲26.3	▲15.9	▲9.2	▲14.1	▲3.9		
5. 輸入	<前期比、%>			▲4.6	0.9	0.7	▲1.0	0.3		
	(前年比、%)	8.1		▲27.2	▲25.8	▲18.8	▲22.4	▲14.7		
6. 小売売上数量	<前期比、%>			▲0.4	▲0.5	▲0.8	0.2	▲1.2		
	(前年比、%)	▲0.7		▲2.5	▲2.1	▲2.6	▲1.3	▲4.0		
7. 新車登録台数	(年率、万台)	1,076	1,107	1,119	1,150	1,165	1,176	1,170	1,151	
	<前期比、%>	▲7.0	2.8	12.6	2.8	1.3	1.1	▲0.5	▲1.6	
8. 消費者コンフィデンス	(DI、%)	▲18	▲25	▲28	▲21	▲17	▲18	▲17	▲16	
9. 鉱工業生産	<前期比、%>			▲1.2	2.3	0.8	▲0.3	1.0		
	(前年比、%)	▲1.7		▲18.6	▲14.5	▲9.1	▲10.9	▲7.1		
10. 製造業PMI(購買担当者指数)(DI、%)		46.5	43.3	40.0	47.9	51.2	50.7	51.2	51.6	52.0
サービス業PMI 事業活動指数 (DI、%)		48.5	46.8	44.4	48.8	53.1	52.6	53.0	53.6	52.3
11. 失業率	(%)	7.5		9.3	9.6	10.0	9.9	10.0		
12. 消費者物価	(前年比、%)	3.3	0.3	0.2	▲0.4	0.4	▲0.1	0.5	0.9	
コア	(前年比、%)	2.4	1.3	1.5	1.2	1.0	1.0	1.0	1.0	

※ 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) 欧州委員会 (Eurostat)、ECB、Deutsche Bundesbank、Statistisches Bundesamt、INSEE、Thomson Reuters Datastream、Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

- (注) ・ユーロエリアに関する計数・図表のうち、消費者物価・M3・貸出は各時期のユーロ構成国ベース。
 ・実質GDPの年率換算値は、当局計算による。なお、ユーロエリアとドイツの暦年の計数は、未季調ベース。
 ・前期(月)比は季調済みベース。
 ・消費者物価コアは、エネルギー、非加工食料品を除いたベース。
 ・ドイツの2009年の実質GDPは、通年の成長率のみが公表されており、4Qの成長率は未公表。
 ・製造業PMIとサービス業PMI事業活動指数の直近1月は、速報値。

英国の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(12月17日)以降に判明したもの。

		※								
		2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/9月	10月	11月	12月
1. 実質GDP	<前期比年率、%>	0.5		▲2.7	▲0.6					
2. 小売売上数量	<前期比、%>			0.9	1.0	0.7	0.4	0.6	▲0.3	0.3
	(前年比、%)	2.6	1.7	1.0	2.6	2.7	2.8	3.5	2.7	2.1
3. 消費者コンフィデンス	(DI、%)	▲29	▲25	▲27	▲22	▲16	▲15	▲12	▲17	▲18
4. 鉱工業生産	<前期比、%>			▲0.6	▲0.9	0.2	1.3	▲0.1	0.4	
	(前年比、%)	▲3.1		▲11.9	▲10.8	▲7.2	▲10.8	▲8.4	▲6.0	
5. 製造業PMI (購買担当者指数)	(DI、%)	44.9	46.5	45.4	50.4	53.0	50.0	53.0	51.8	54.1
サービス業PMI 事業活動指数	(DI、%)	47.6	51.3	50.7	54.2	56.8	55.3	56.9	56.6	56.8
6. 失業率 (失業保険ベース)	(%)	2.8	4.7	4.7	4.9	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
7. CPI	(前年比、%)	3.6	2.2	2.1	1.5	2.1	1.1	1.5	1.9	2.9
8. 住宅価格 (Nationwide指数)	(前年比、%)	▲6.7	▲7.4	▲11.9	▲3.0	3.5	0.0	2.0	2.7	5.9

※直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(出所) ONS, Thomson Reuters Datastream, Bloomberg, Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(注) 実質GDPの年率換算値と、消費者コンフィデンスの季調値は、当局計算による。

アジア諸国・地域の主要経済指標

シャドーを付した計数は、前回会合(12月17日)以降に判明したもの。

1. 中国

(前年比、%)

	2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
1. 実質GDP	9.6	8.7	7.9	9.1	10.7			
2. 工業生産 <>内は前期比	12.9	11.0	< 6.3 >	< 4.4 >	< 4.5 >	< 1.5 >	< 1.0 >	< 18.5 > < 1.8 >
3. 製造業PMI*	50.2	52.9	53.3	53.9	55.7	55.2	55.2	56.6
4. 消費財小売上総額	21.6	15.5	15.0	15.4	16.5	16.2	15.8	17.5
5. 固定資産投資	26.1	30.5	35.9	32.8	25.6	31.6	24.3	20.8
6. 輸出 <>内は前期比	17.4	▲ 16.0	▲ 23.5 < ▲ 2.7 >	▲ 20.5 < 6.7 >	0.1 < 16.8 >	▲ 13.9 < ▲ 0.0 >	▲ 1.2 < 6.5 >	17.7 < 14.4 >
7. 輸入 <>内は前期比	18.5	▲ 11.2	▲ 20.2 < 18.3 >	▲ 11.7 < 14.5 >	22.7 < 10.2 >	▲ 6.4 < ▲ 5.1 >	26.7 < ▲ 5.3 >	55.9 < 24.6 >
8. CPI	5.9	▲ 0.7	▲ 1.5	▲ 1.3	0.7	▲ 0.5	0.6	1.9
9. M2	17.8	27.7	28.5	29.3	27.7	29.5	29.7	27.7
10. 人民元貸出	18.7	31.7	34.4	34.2	31.7	34.2	33.8	31.7

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M2、人民元貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 工業生産、輸出入の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。中国物流購買連合会が公表するデータを使用。

(注4) 固定資産投資は、都市部、当期の値。中国国家統計局が公表する年初来累計値と同前年比伸び率を用いて当局で試算。

2. インド

(前年比、%)

	2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
1. 実質GDP <>内は季調済前期比年率	7.5		6.1 < 6.8 >	7.9 < 14.6 >				
個人消費	4.4		< ▲ 4.7 >	5.6 < 17.6 >				
総固定資本形成	8.8		< 1.5 >	7.3 < 39.6 >				
2. 鉱工業生産 <>内は前期比	4.4		3.8 < 3.6 >	9.1 < 5.3 >	11.0 < 0.9 >	10.3 < ▲ 2.1 >	11.7 < 3.1 >	
3. 製造業PMI*	55.5	52.8	54.8	54.5	54.3	54.5	53.0	55.6
雇用*	50.9	49.7	50.1	49.8	50.3	50.8	50.3	49.9
4. 卸売物価	9.1	2.0	0.5	▲ 0.1	4.4	1.3	4.8	7.3
5. M3	19.7	17.4	20.1	19.0	17.4	18.3	18.4	17.4
6. 貸出	23.2		15.1	12.7	10.0	9.0	10.0	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。M3、貸出の年、四半期計数は期末月の前年比。

(注2) 実質GDPの季調値は、X-11による当局算出値。鉱工業生産の季調値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注3) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(注4) 貸出は指定商業銀行ベース。

(出所) CEIC, Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

3. NIEs、ASEAN諸国・地域

(1) 実質GDP

(季調済前期比年率、()内は前年比、%)

	2007年	2008年	2009年	2008/4Q	2009/1Q	2Q	3Q	4Q
韓国	5.1	2.2		▲ 18.8 (▲ 3.4)	0.5 (▲ 4.2)	11.0 (▲ 2.2)	13.6 (0.9)	
台湾	6.0	0.7		▲ 13.7 (▲ 7.1)	▲ 11.3 (▲ 9.1)	18.8 (▲ 6.9)	8.3 (▲ 1.3)	
香港	6.4	2.4		▲ 7.4 (▲ 2.6)	▲ 16.1 (▲ 7.8)	14.8 (▲ 3.6)	1.6 (▲ 2.4)	
シンガポール	7.8	1.1	▲ 2.1	▲ 16.4 (▲ 4.2)	▲ 12.2 (▲ 9.5)	21.7 (▲ 3.3)	14.2 (0.6)	▲ 6.8 (▲ 3.5)
タイ	4.9	2.5		▲ 18.0 (▲ 4.2)	▲ 6.0 (▲ 7.1)	9.0 (▲ 4.9)	5.5 (▲ 2.8)	
インドネシア	6.3	6.1		1.4 (5.2)	4.1 (4.4)	5.3 (4.0)	5.8 (4.2)	
マレーシア	6.2	4.6		▲ 7.3 (0.1)	▲ 17.2 (▲ 6.2)	12.2 (▲ 3.9)	10.0 (▲ 1.2)	
フィリピン	7.1	3.8		1.1 (2.9)	▲ 8.3 (0.6)	7.0 (0.8)	4.1 (0.8)	

(注1) 季節調整値は、韓国、台湾、香港、シンガポール、タイ、フィリピンが現地統計。その他はX-11による当局算出値。

(注2) 実質GDPの年率換算値は、当局計算による。

(2) 輸出

(名目米ドルベース、季調済前期比、()内は前年比、%)

	2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
輸出合成指数	11.3		8.1	9.2	8.0			
うちIT関連寄与度			4.0	0.8	2.6			
韓国 <29.5>	13.6	▲ 13.9	12.7 (▲ 21.1)	8.6 (▲ 17.6)	6.4 (11.7)	▲ 3.1 (▲ 8.5)	▲ 0.2 (17.9)	9.4 (32.8)
台湾 <17.9>	3.6	▲ 20.3	8.9 (▲ 32.0)	13.2 (▲ 20.9)	10.1 (17.0)	4.8 (▲ 4.6)	▲ 2.4 (19.4)	6.7 (46.9)
タイ <12.5>	15.5	▲ 14.2	▲ 0.0 (▲ 26.2)	13.9 (▲ 17.7)	7.6 (11.9)	▲ 1.1 (▲ 3.0)	▲ 0.7 (17.2)	5.5 (26.1)
インドネシア <9.6>	20.1		10.1 (▲ 26.2)	8.3 (▲ 19.3)	19.4 (12.4)	22.3 (13.5)	▲ 3.1 (11.3)	

(参考) 新規輸出受注PMI*

	2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
韓国	48.3	50.8	50.9	53.9	51.4	51.2	52.4	50.7
台湾	43.1	53.9	53.3	59.4	61.7	62.6	60.1	62.4

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10~11月の値。直近月まで公表されていないデータは、前月の前年比で横置きしている。

(注3) 輸出の季節調整値は、X-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 輸出の< >内は、合成指数に占めるシェア(%)、2008年)。

(注5) 輸出、輸出合成指数はともに金額ベース。

(注6) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注7) *印は、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(出所) CEIC, Markit (© and database right Markit Economics Ltd 2010. All rights reserved.)

(図表3-3)

(3) 生産関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
生産合成指数		1.7		11.3	6.6	1.7			
	うちIT関連寄与度			6.0	2.3	0.4			
韓国	鉱工業生産指数	3.0		11.4 (▲6.2)	7.1 (4.2)	▲0.0 (8.4)	▲3.8 (0.2)	1.4 (17.8)	
	企業景気実査指数 [†] (季調済)	82.0	93.5	91.7	104.0	107.7	107.8	105.3	110.0
台湾	鉱工業生産指数	▲1.8		17.3 (▲16.6)	7.0 (▲5.4)	7.8 (17.9)	▲0.1 (7.1)	6.5 (31.4)	
タイ	製造業生産指数	5.3		9.7 (▲9.2)	4.0 (▲5.0)	4.7 (4.5)	▲0.1 (0.5)	▲0.4 (8.9)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 合成指数は、直近は10~11月の値。直近月まで公表されていないデータは、前月の値で横置きしている。

(注3) 生産指数の季節調整値は、現地統計またはX-12-ARIMAによる当局算出値。

(注4) 生産、生産合成指数はともに数量ベース。

(注5) 合成指数のIT関連は、標準国際貿易分類における、事務機器、データ処理機械、通信機器、音響機器、電気機械、家電製品、光学機器などの項目、また他分類ではこれらに該当する項目で定義。

(注6) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(4) 内需関連

(季調済前期比、()内は前年比、%)

		2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
韓国	小売数量指数	1.0		5.0 (1.6)	1.5 (3.4)	3.4 (9.9)	2.9 (9.8)	▲0.9 (10.0)	
	消費者信頼感指数 [†]	90.8	103.5	103.0	112.3	114.3	117.0	113.0	113.0
	機械投資推計指数	▲4.3		6.6 (▲13.4)	4.2 (▲10.1)	10.1 (5.3)	▲5.6 (0.5)	7.0 (10.3)	
台湾	小売指数	▲4.3		(▲1.4)	(4.8)	(9.2)	(7.4)	(11.0)	
	消費者コンフィデンス [†]	58.7	54.5	51.1	55.2	62.8	60.6	62.5	65.4
タイ	民間消費指数(PCI)	3.6		1.1 (▲4.3)	4.2 (▲2.4)	1.3 (1.5)	▲1.1 (▲0.9)	1.3 (4.0)	
	民間投資指数(PII)	3.7		▲4.1 (▲16.0)	4.9 (▲12.8)	4.7 (▲8.5)	1.4 (▲10.1)	1.7 (▲6.9)	

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) †印は、100を上回れば「改善」、下回れば「悪化」。

(5) 消費者物価指数(CPI)

(前年比、%)

		2008年	2009年	2009/2Q	3Q	4Q	2009/10月	11月	12月
韓国	()内はコア	4.7 (4.3)	2.8 (3.6)	2.8 (3.9)	2.0 (3.0)	2.4 (2.4)	2.0 (2.6)	2.4 (2.5)	2.8 (2.2)
台湾	()内はコア	3.5 (3.1)	▲0.9 (▲0.1)	▲0.8 (▲0.0)	▲1.3 (▲0.9)	▲1.2 (▲0.8)	▲1.9 (▲0.9)	▲1.6 (▲0.9)	▲0.2 (▲0.7)
タイ	()内はコア	5.5 (2.3)	▲0.8 (0.3)	▲2.8 (▲0.1)	▲2.2 (▲0.5)	1.9 (0.1)	0.4 (▲0.1)	1.9 (0.1)	3.5 (0.2)
インドネシア	()内はコア	9.8 (N/A)	4.8 (4.4)	5.6 (6.4)	2.8 (4.9)	2.6 (4.4)	2.6 (4.5)	2.4 (4.3)	2.8 (4.3)

(注1) 直近四半期の計数については、公表済月までの平均をベースに算出。

(注2) 韓国のCPIコアは、CPI総合から穀物以外の農産物、石油関連製品を控除。台湾のCPIコアは、CPI総合から生鮮食料品およびエネルギーを控除。タイのCPIコアは、CPI総合から非加工食品、エネルギーを控除。インドネシアのCPIコアは、CPI総合から、政府の規制価格の影響がある項目および生鮮食料品を控除。

(注3) インドネシアは、2008年以降の計数は2007年基準、その他は2002年基準。2007年基準のCPIコアは、一部未公表。

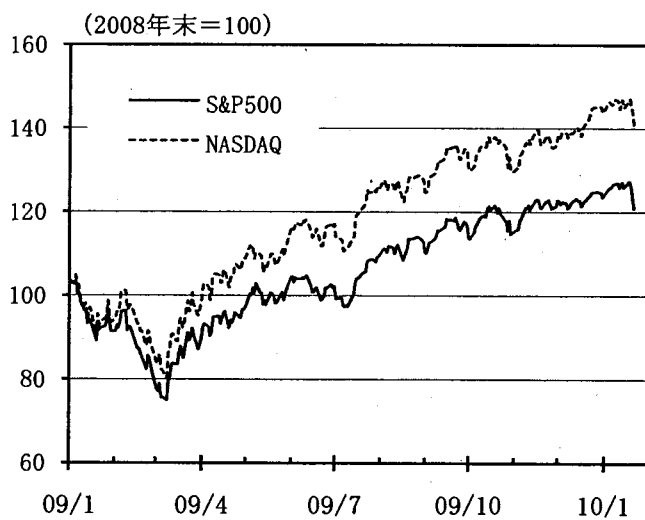
(出所) CEIC

米国金融市場

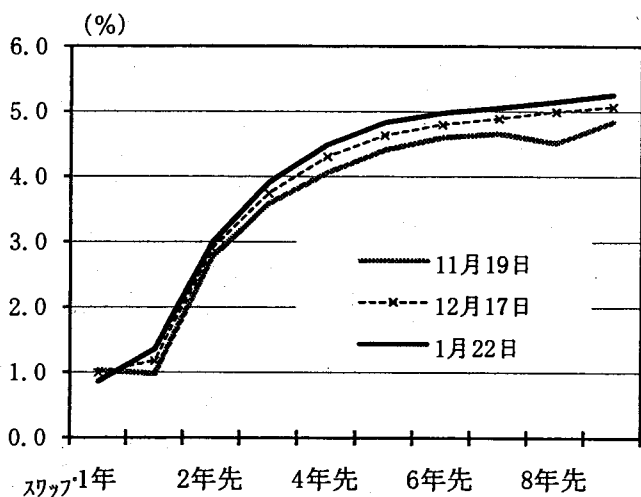
(1) 長期金利 (国債10年物利回り)



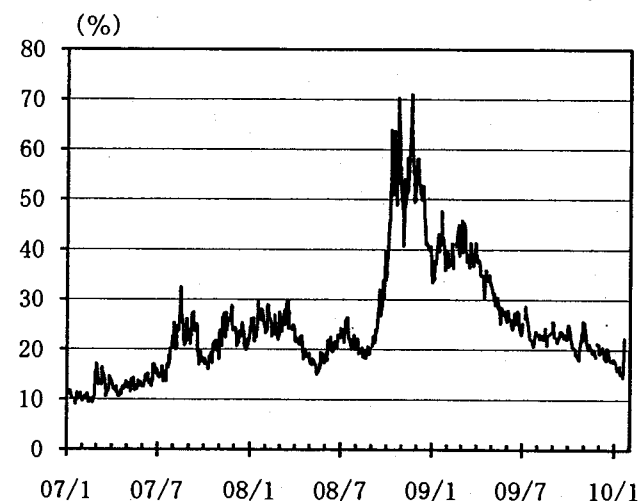
(2) 株価 (S&P500・NASDAQ)



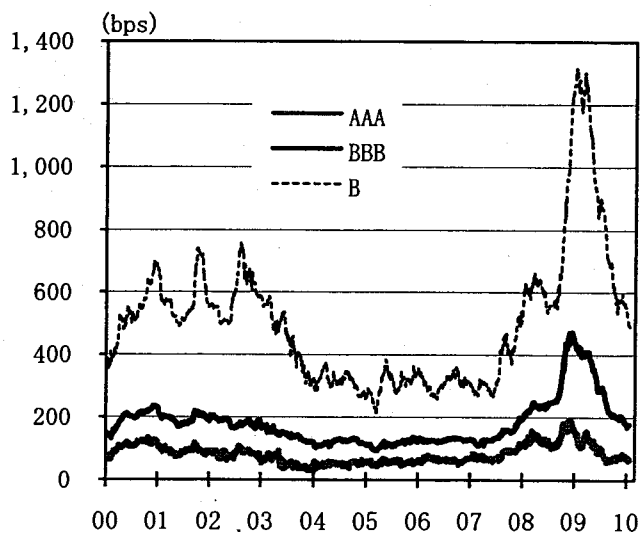
(3) インプライド・フォワード・レート



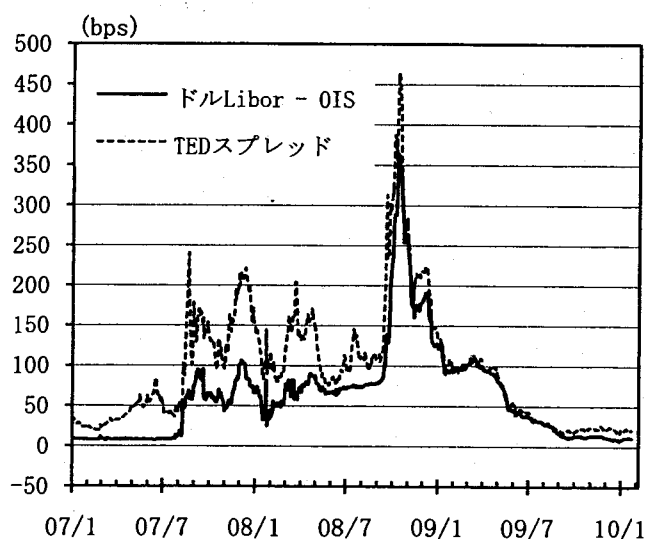
(4) 株価のインプライド・ボラティリティ (S&P500)



(5) 社債の対国債スプレッド (10年物)



(6) 短期金利スプレッド (3か月物)

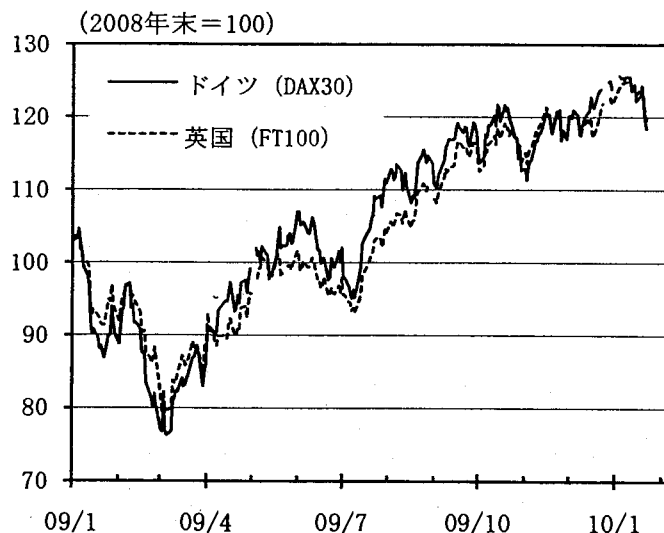
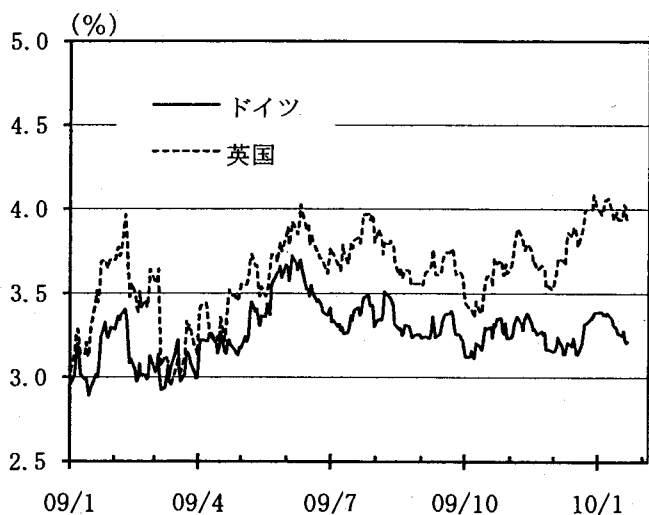


(出所) Bloomberg

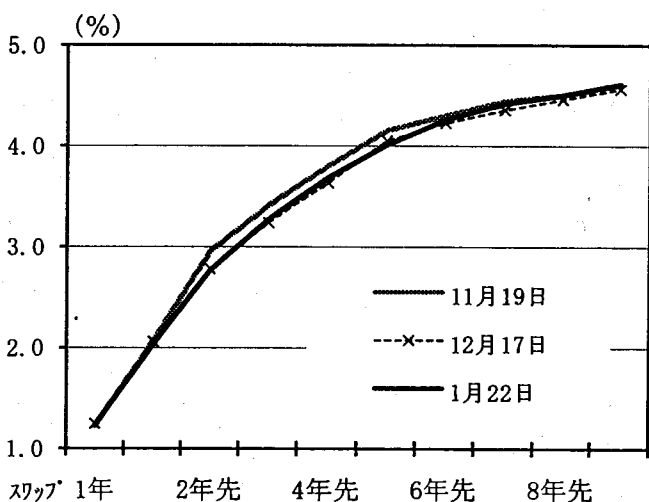
いずれも直近は1月22日

欧州金融市場

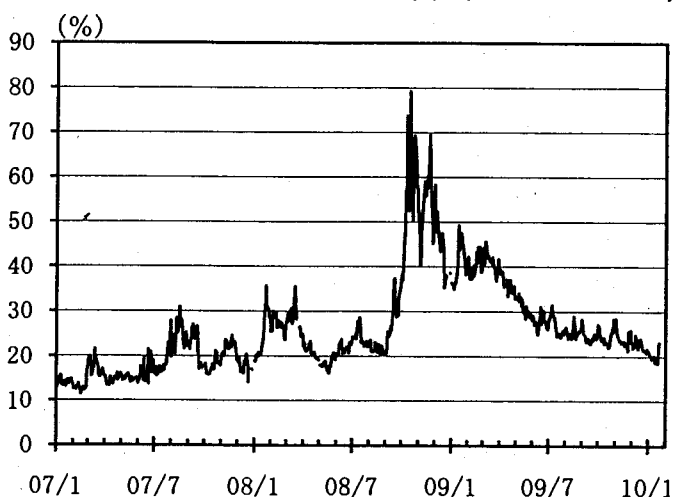
(1) 長期金利 (国債10年物利回り、独・英) (2) 株価 (独DAX30・英FT100)



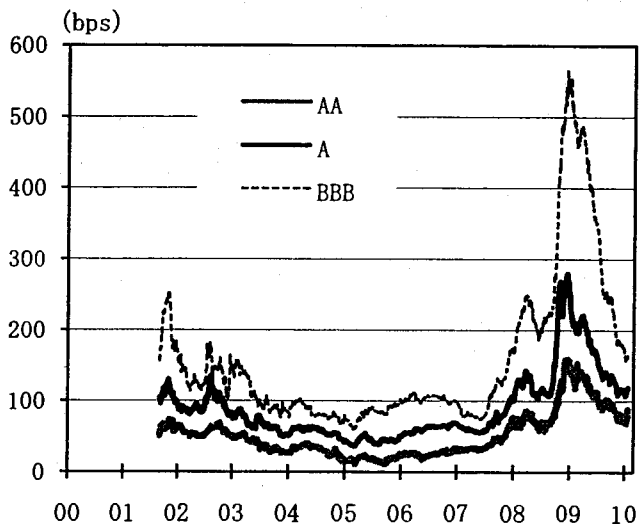
(3) インプライド・フォワード・レート



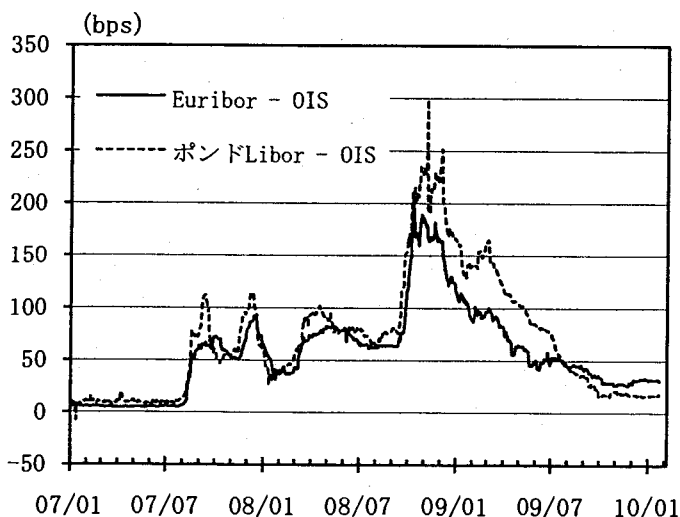
(4) 株価のインプライド・ボラティリティ (Euro Stoxx50)



(5) 社債の対独国債スプレッド (10年物)



(6) 短期金利スプレッド (3か月物)

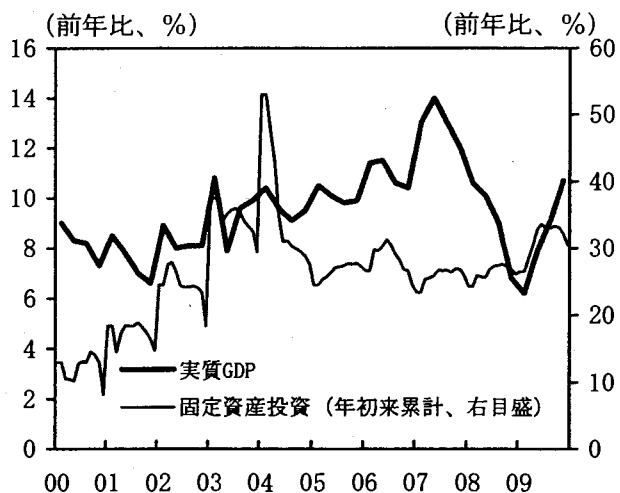


(出所) Bloomberg

いずれも直近は1月22日

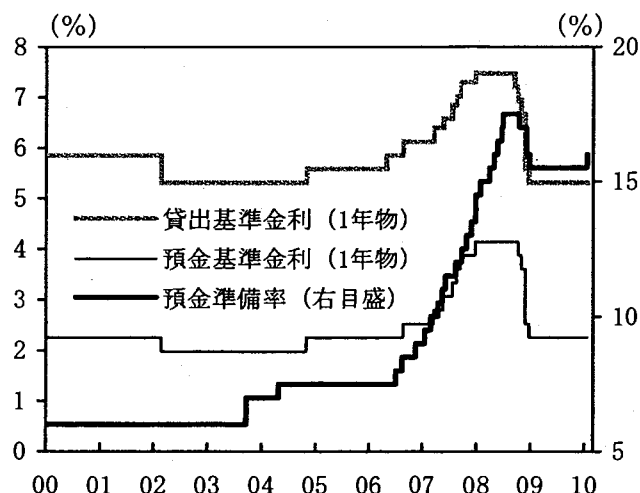
中国関連指標

(1) 実質GDP・固定資産投資

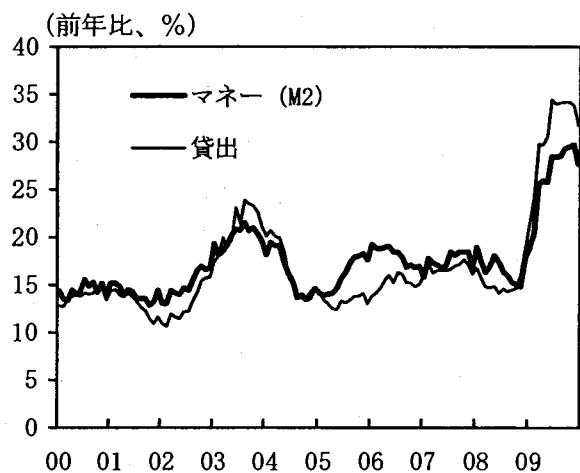


(注) 直近はGDPが09年4Q、固定資産投資は12月。

(2) 政策金利・預金準備率

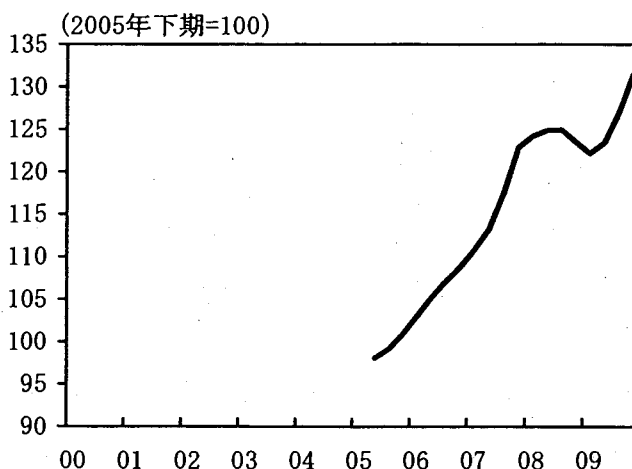


(3) マネー・貸出



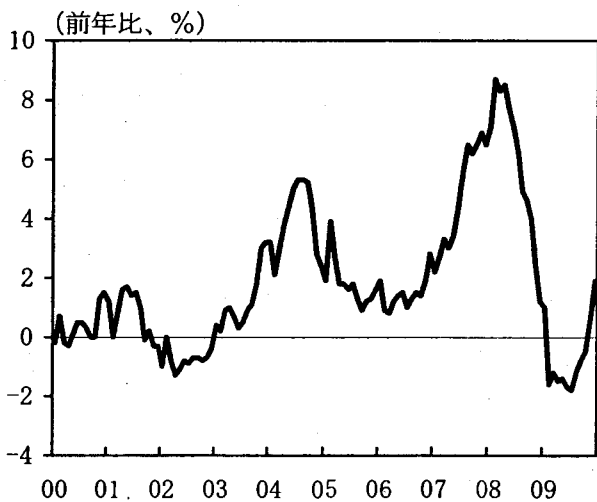
(注) 直近は12月。

(4) 住宅価格



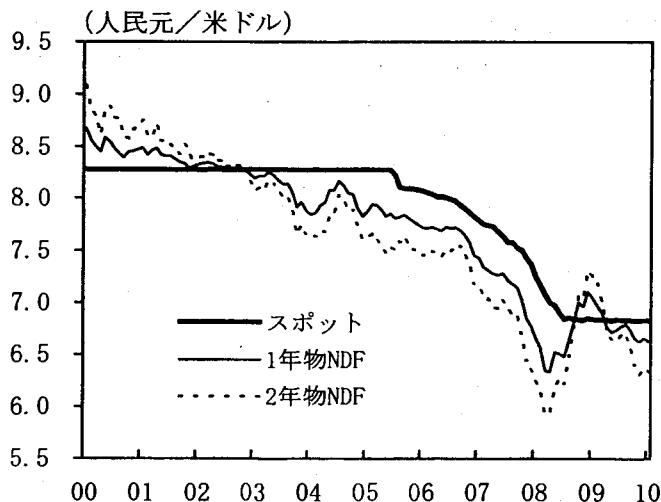
(注) 直近4Qは、10~12月の値。

(5) 消費者物価



(注) 直近は12月。

(6) 為替

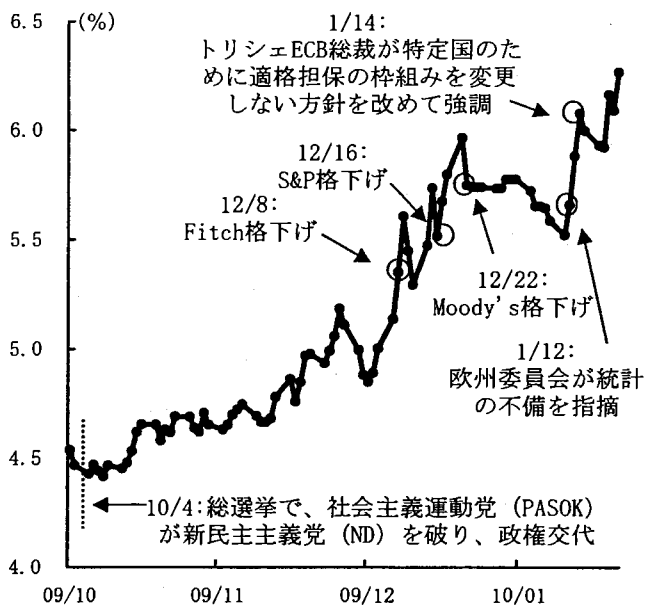


(出所) CEIC、Bloomberg

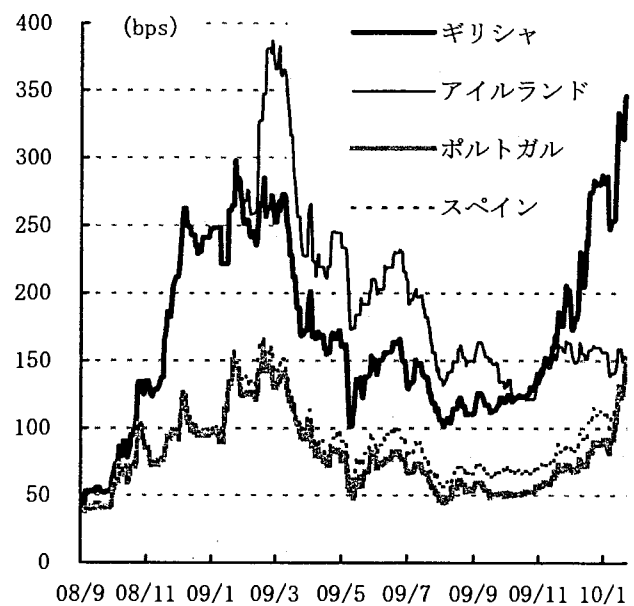
(図表7)

ギリシャ問題

(1) ギリシャ国債 (10年物利回り)



(2) PIGSのCDSスプレッド



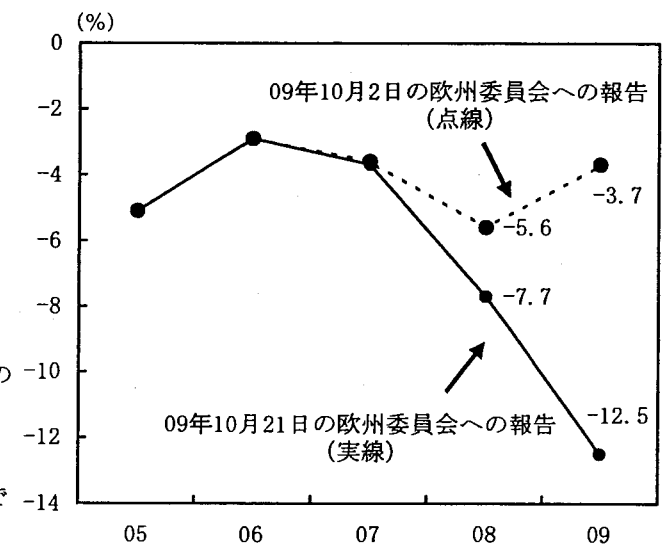
(3) ギリシャの格付けとECBの適格担保基準

Moody's	S&P	Fitch
Aaa	AAA	AAA
Aa1	AA+	AA+
Aa2	AA	AA
Aa3	AA-	AA-
A1	A+	A+
A2	A	A
A3	A-	A-
Baa1	BBB	BBB
Baa2	BBB	BBB
Baa3	BBB-	BBB-

2011年以降の基準

2010年末までの基準

(4) ギリシャの財政赤字の改定状況



(5) ギリシャの財政健全化計画 (Stability and Growth Programme) における目標値

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
財政赤字(対GDP比、%)	12.7	8.7	5.6	2.8	2.0
歳入(対GDP比、%)	39.3	41.9	43.5	45.0	45.3
歳出(対GDP比、%)	52.0	50.6	49.1	47.8	47.3
公的債務(対GDP比、%)	113.4	120.4	120.6	117.7	113.4
実質GDP見通し	▲1.2	▲0.3	1.5	1.9	2.5